

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	コクリツガクイフクホシシツ コウヘダクイフク 国立大学法人 神戸大学									
フリガナ大学の名称	コウヘダクイフクイフクイン 神戸大学大学院 (Graduate School of Kobe University)									
大学の本部の位置	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1									
大学の目的	開放的で国際性に富む固有の文化の下、「真摯・自由・協同」の精神を発揮し、人類社会に貢献するため、普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材を育成する。									
新設研究科等の目的	<p>VUCAの時代においては、課題の複雑化やステークホルダーの多様化で意思決定の困難さが増大し、情報の増大と知識の細分化・専門化により、単独あるいは少数の専門分野の知による課題解決がますます困難となっている。一方、大学の重要な使命である研究や科学技術開発の評価の尺度が、その進歩の度合いよりも持続可能性やWell-beingの達成に移行しつつある。このような大きな変革の時代に我が国の科学技術やイノベーションが、VUCAの時代の社会課題を解決し、世界と伍していくためには、大学が専門知の深化・発展の場であると共ににとどまることなく、あらゆる分野の知見を総合的に活用し、社会の諸課題への的確な対応を図ること、すなわち、「総合知」を生み出す場となり、強力に推進することが不可欠となっている。</p> <p>医学系研究科は、複雑、予測困難で急速に変化するVUCAの時代の課題に総合知で応え、持続可能性と強靭性を備え、Well-beingを達成できる社会を実現するため、生命医学系の医学研究科及び保健学研究科を統合し、設置する。医学系研究科の設置は、総合知を推進するために必要な、アジャイル（agile：敏捷・機敏）な研究・教育体制を構築するために実施し、VUCAの時代の社会要求に応えるものである。</p>									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	医学系研究科 [Graduate School of Medicine]	年	人	年次人	人			年月第年次		
	医科学専攻（博士課程） [Department of Medicine]	4	120	—	480	博士（医学）	医学関係	令和8年4月第1年次	兵庫県神戸市中央区楠町7丁目5-1	【基礎となる学部等】 医学部医学科 14条特例の実施
	計		120	—	480					
	先進生命医科学系専攻（博士課程前期課程） [Department of Frontier Life Science and Medicine]	2	119	—	238	修士（バイオメディカルサイエンス） 修士（医工学） 修士（保健学）	医学関係 工学関係 医学関係 保健衛生学関係（看護学関係） 保健衛生学関係（リハビリテーション関係） 保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）	令和8年4月第1年次	兵庫県神戸市中央区楠町7丁目5-1 兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-1 兵庫県神戸市須磨区友が丘7丁目10-2	【基礎となる学部等】 大学院医学研究科バイオメディカルサイエンス専攻・医療創成工学専攻 大学院保健学研究科保健学専攻 医学部医療創成工学科・保健学科
計		119	—	238					14条特例の実施	

医療創成工学専攻（博士課程後期課程） [Department of Medical Device Engineering]	3	8	—	24	博士（医工学）	工学関係 医学関係	令和8年4月 第1年次	兵庫県神戸市中央区楠町7丁目5-1	【基礎となる学部等】 大学院医学研究科医療創成工学専攻 医学部医療創成工学科
健康科学専攻（博士課程後期課程） [Department of Health Sciences]	3	17	—	51	博士（保健学）	保健衛生学関係（看護学関係） 保健衛生学関係（リハビリテーション関係） 保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）	令和8年4月 第1年次	兵庫県神戸市須磨区友が丘7丁目10-2	【基礎となる学部等】 大学院保健学研究科保健学専攻 医学部保健学科
未来社会医学専攻（博士課程後期課程） [Department of Future Social Medicine]	3	5	—	15	博士（公衆衛生学）	保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）	令和8年4月 第1年次	兵庫県神戸市中央区楠町7丁目5-1 兵庫県神戸市須磨区友が丘7丁目10-2	14条特例の実施 【基礎となる学部等】 大学院保健学研究科保健学専攻 医学部保健学科 14条特例の実施
計		30		90					

同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>■学士課程 医学部 医学科 [定員減] (△13)</p> <p>■修士課程, 博士課程, 博士課程前期課程, 博士課程後期課程 医学研究科 (廃止) バイオメディカルサイエンス専攻 (M) (△25) 医科学専攻 (D) (△120) 医療創成工学専攻 (M) (△15) 医療創成工学専攻 (D) (△8) ※令和8年4月学生募集停止</p> <p>保健学研究科 (廃止) 保健学専攻 (M) (△79) 保健学専攻 (D) (△25) ※令和8年4月学生募集停止</p> <p>■博士課程前期課程 農学研究科 食料共生システム学専攻 [定員増] (2) (令和8年4月) 資源生命科学専攻 [定員増] (4) (令和8年4月) 生命機能科学専攻 [定員増] (6) (令和8年4月)</p>
------------------------------	---

教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	医学系研究科医科学専攻（博士課程）	21科目	322科目	3科目	346科目	30単位
	医学系研究科先進生命科学系専攻（博士課程前期課程）	133科目	35科目	14科目	182科目	30単位
	医学系研究科医療創成工学専攻（博士課程後期課程）	7科目	1科目	1科目	9科目	10単位
	医学系研究科健康科学専攻（博士課程後期課程）	31科目	5科目	1科目	37科目	12単位
	医学系研究科未来社会医学専攻（博士課程後期課程）	17科目	1科目	2科目	20科目	12単位

研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)
		教授	准教授	講師	助教	計		
新設分	医学系研究科	人	人	人	人	人	人	人
	医科学専攻 (博士課程)	49 (49)	10 (10)	4 (4)	8 (8)	71 (71)	0 (0)	47 (47)
	先進生命医学系専攻 (博士課程前期課程)	55 (55)	34 (34)	11 (11)	32 (32)	132 (132)	0 (0)	194 (194)
	医療創成工学専攻 (博士課程後期課程)	9 (9)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	21 (21)
	健康科学専攻 (博士課程後期課程)	16 (16)	10 (10)	4 (4)	9 (9)	39 (39)	0 (0)	31 (31)
	未来社会医学専攻 (博士課程後期課程)	13 (13)	10 (10)	2 (2)	1 (1)	26 (26)	0 (0)	33 (33)
	計	142 (142)	68 (68)	22 (22)	50 (50)	282 (282)	0 (0)	- (-)
既設分	人文学研究科							
	文化構造専攻 (博士課程前期課程)	8 (8)	8 (8)	7 (7)	1 (1)	24 (24)	0 (0)	0 (0)
	文化構造専攻 (博士課程後期課程)	8 (8)	7 (7)	7 (7)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	0 (0)
	社会動態専攻 (博士課程前期課程)	16 (16)	7 (7)	5 (5)	1 (1)	29 (29)	0 (0)	0 (0)
	社会動態専攻 (博士課程後期課程)	18 (18)	7 (7)	5 (5)	1 (1)	31 (31)	0 (0)	0 (0)
	研究科共通	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (11)
	国際文化学研究科							
	文化関連専攻 (博士課程前期課程)	16 (16)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	0 (0)
	文化関連専攻 (博士課程後期課程)	16 (16)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	0 (0)
	グローバル文化専攻 (博士課程前期課程)	13 (13)	6 (6)	6 (6)	2 (2)	27 (27)	0 (0)	4 (4)
	グローバル文化専攻 (博士課程後期課程)	13 (13)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	4 (4)
	研究科共通	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (11)
	人間発達環境学研究科							
	人間発達専攻 (博士課程前期課程)	27 (27)	19 (19)	1 (1)	8 (8)	55 (55)	0 (0)	1 (1)
	人間発達専攻 (博士課程後期課程)	27 (27)	19 (19)	1 (1)	8 (8)	55 (55)	0 (0)	1 (1)
	人間環境学専攻 (博士課程前期課程)	16 (16)	12 (12)	1 (1)	5 (5)	34 (34)	0 (0)	0 (0)
	人間環境学専攻 (博士課程後期課程)	16 (16)	12 (12)	1 (1)	5 (5)	34 (34)	0 (0)	0 (0)
	研究科共通	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
	法学研究科							
	法学政治学専攻 (博士課程前期課程)	27 (27)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	34 (34)	6 (6)	0 (0)
	法学政治学専攻 (博士課程後期課程)	37 (37)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	46 (46)	6 (6)	0 (0)
実務法律専攻 (専門職学位課程)	16 (16)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	6 (6)	0 (0)	
研究科共通	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	35 (35)	
経済学研究科								
経済学専攻 (博士課程前期課程)	32 (32)	10 (10)	9 (9)	0 (0)	51 (51)	2 (2)	8 (8)	
経済学専攻 (博士課程後期課程)	32 (32)	10 (10)	9 (9)	0 (0)	51 (51)	2 (2)	8 (8)	
研究科共通	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	

※うち学内教員1名

※うち学内教員1名

経営学研究科							
経営学専攻 (博士課程前期課程)	30 (30)	18 (18)	1 (1)	0 (0)	49 (49)	0 (0)	10 (10)
経営学専攻 (博士課程後期課程)	37 (37)	19 (19)	0 (0)	0 (0)	56 (56)	0 (0)	10 (10)
現代経営学専攻 (専門職学位課程)	23 (23)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	1 (1)
研究科共通	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (17)
理学研究科							
数学専攻 (博士課程前期課程)	12 (12)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	1 (1)	1 (1)
数学専攻 (博士課程後期課程)	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	1 (1)	1 (1)
物理学専攻 (博士課程前期課程)	8 (8)	8 (8)	2 (2)	2 (2)	20 (20)	0 (0)	0 (0)
物理学専攻 (博士課程後期課程)	8 (8)	8 (8)	2 (2)	1 (1)	19 (19)	0 (0)	0 (0)
化学専攻 (博士課程前期課程)	12 (12)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	2 (2)
化学専攻 (博士課程後期課程)	12 (12)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	2 (2)
生物学専攻 (博士課程前期課程)	10 (10)	7 (7)	3 (3)	4 (4)	24 (24)	0 (0)	7 (7)
生物学専攻 (博士課程後期課程)	10 (10)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	7 (7)
惑星学専攻 (博士課程前期課程)	9 (9)	2 (2)	4 (4)	4 (4)	19 (19)	0 (0)	0 (0)
惑星学専攻 (博士課程後期課程)	9 (9)	2 (2)	4 (4)	4 (4)	19 (19)	0 (0)	0 (0)
研究科共通	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	24 (24)
工学研究科							
建築学専攻 (博士課程前期課程)	10 (10)	8 (8)	1 (1)	7 (7)	26 (26)	0 (0)	0 (0)
建築学専攻 (博士課程後期課程)	10 (10)	8 (8)	1 (1)	5 (5)	24 (24)	0 (0)	0 (0)
市民工学専攻 (博士課程前期課程)	11 (11)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	1 (1)	2 (2)
市民工学専攻 (博士課程後期課程)	11 (11)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	1 (1)	2 (2)
電気電子工学専攻 (博士課程前期課程)	12 (12)	8 (8)	0 (0)	6 (6)	26 (26)	2 (2)	6 (6)
電気電子工学専攻 (博士課程後期課程)	12 (12)	8 (8)	0 (0)	6 (6)	26 (26)	2 (2)	6 (6)
機械工学専攻 (博士課程前期課程)	10 (10)	9 (9)	0 (0)	4 (4)	23 (23)	1 (1)	1 (1)
機械工学専攻 (博士課程後期課程)	10 (10)	9 (9)	0 (0)	4 (4)	23 (23)	1 (1)	1 (1)
応用化学専攻 (博士課程前期課程)	11 (11)	7 (7)	3 (3)	5 (5)	26 (26)	1 (1)	2 (2)
応用化学専攻 (博士課程後期課程)	11 (11)	7 (7)	3 (3)	3 (3)	24 (24)	1 (1)	2 (2)
研究科共通	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	36 (36)
システム情報学研究科							
システム情報学専攻 (博士課程前期課程)	21 (21)	17 (17)	0 (0)	10 (10)	48 (48)	0 (0)	1 (1)
システム情報学専攻 (博士課程後期課程)	23 (23)	17 (17)	0 (0)	9 (9)	49 (49)	0 (0)	1 (1)
研究科共通	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (20)

※うち学内教員1名

農学研究科							
食料共生システム学専攻 (博士課程前期課程)	7 (7)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	17 (17)	0 (0)	0 (0)
食料共生システム学専攻 (博士課程後期課程)	7 (7)	6 (6)	0 (0)	4 (4)	17 (17)	0 (0)	0 (0)
資源生命科学専攻 (博士課程前期課程)	11 (11)	13 (13)	0 (0)	10 (10)	34 (34)	0 (0)	0 (0)
資源生命科学専攻 (博士課程後期課程)	11 (11)	13 (13)	0 (0)	10 (10)	34 (34)	0 (0)	0 (0)
生命機能科学専攻 (博士課程前期課程)	14 (14)	9 (9)	0 (0)	8 (8)	31 (31)	0 (0)	2 (2)
生命機能科学専攻 (博士課程後期課程)	14 (14)	9 (9)	0 (0)	8 (8)	31 (31)	0 (0)	2 (2)
研究科共通	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)
海事科学研究科							
海事科学専攻 (博士課程前期課程)	38 (38)	32 (32)	1 (1)	3 (3)	74 (74)	1 (1)	2 (2)
海事科学専攻 (博士課程後期課程)	38 (38)	29 (29)	0 (0)	1 (1)	68 (68)	1 (1)	2 (2)
研究科共通	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (11)
国際協力研究科							
国際開発政策専攻 (博士課程前期課程)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	4 (4)
国際開発政策専攻 (博士課程後期課程)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	4 (4)
国際協力政策専攻 (博士課程前期課程)	5 (5)	4 (4)	1 (1)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	4 (4)
国際協力政策専攻 (博士課程後期課程)	5 (5)	4 (4)	1 (1)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	4 (4)
地域協力政策専攻 (博士課程前期課程)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	12 (12)	0 (0)	3 (3)
地域協力政策専攻 (博士課程後期課程)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	12 (12)	0 (0)	3 (3)
研究科共通	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)
科学技術イノベーション研究科							
科学技術イノベーション専攻 (博士課程前期課程)	11 (11)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	4 (4)	6 (6)
科学技術イノベーション専攻 (博士課程後期課程)	12 (12)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	4 (4)	6 (6)
研究科共通	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	21 (21)
計	880 (880)	503 (503)	94 (94)	165 (165)	1642 (1642)	44 (44)	-
合計	1022 (1022)	571 (571)	116 (116)	215 (215)	1924 (1924)	44 (44)	-
職 種	専 属		そ の 他		計		
事 務 職 員	959 (959)		550 (550)		1509 (1509)		
技 術 職 員	1710 (1710)		958 (958)		2668 (2668)		
図 書 館 職 員	40 (40)		38 (38)		78 (78)		
そ の 他 の 職 員	7 (7)		96 (96)		103 (103)		
指 導 補 助 者	0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計	2716 (2716)		1642 (1642)		4358 (4358)		

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体		
	校 舎 敷 地		632,733㎡	-	㎡	632,733㎡			
	そ の 他		548,236㎡	-	㎡	548,236㎡			
	合 計		1,180,969㎡	-	㎡	1,180,969㎡			
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体		
			369,736㎡ (369,736㎡)	-	㎡ (- ㎡)	369,736㎡ (369,736㎡)			
講義室等・新設研究科等 の専任教員研究室			講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等 の専任教員研究室	大学全体		
			208室	283室	688室	178室			
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能なため、 大学全体の 数（機械・器 具、標本を除 く）	
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
	医学系研究科	3,753,235〔1,574,643〕 (3,753,235〔1,574,643〕)	52,180〔41,543〕 (52,180〔41,543〕)	45,620〔23,642〕 (45,620〔23,642〕)	38,267〔36,675〕 (38,267〔36,675〕)	12,115 (12,115)	— (—)		
	計	3,753,235〔1,574,643〕 (3,753,235〔1,574,643〕)	52,180〔41,543〕 (52,180〔41,543〕)	45,620〔23,642〕 (45,620〔23,642〕)	38,267〔36,675〕 (38,267〔36,675〕)	12,115 (12,115)	— (—)		
経 費 の 見 積 り の 方 法 要 約	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	国費による (運営費交付 金)	
		教員1人当り研究費等		千円	千円	千円	千円		千円
		共同研究費等		千円	千円	千円	千円		千円
		図書購入費	千円	千円	千円	千円	千円		千円
	設備購入費	千円	千円	千円	千円	千円	千円		
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
		千円	千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要									
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称	神戸大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率 倍	開設 年度	所 在 地
	[学部]	年	人	年次 人	人				
	文学部						1.10 《1.05》		
	人文学科	4	100	—	400	学士 (文学)		平成13年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町1-1
	国際人間科学部						1.08 《1.01》		
	グローバル文化学科	4	140	—	560	学士 (学術)	1.11 《1.00》	平成29年度	兵庫県神戸市灘区 鶴甲1-2-1
	発達コミュニティ学科	4	100	3年次 5	410		1.08 《1.03》	平成29年度	兵庫県神戸市灘区 鶴甲3-11
	環境共生学科	4	80	3年次 3	326		1.05 《1.01》	平成29年度	同上
	子ども教育学科	4	50	3年次 2	204		1.02	平成29年度	同上
法学部						1.05			
法律学科	4	180	3年次 20	760	学士 (法学)		昭和24年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町2-1	
経済学部						1.15 《1.06》			
経済学科	4	270	3年次 20	1120	学士 (経済学)		昭和24年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町2-1	

経営学部						1.10 《1.02》			
経営学科	4	260	3年次 20	1080	学士 (経営学又は商学)		昭和24年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町2-1	
理学部						1.09 《1.05》			
数学科	4	28	—	112	学士 (理学)	1.26 《1.22》	昭和29年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町1-1	
物理学科	4	35	—	140		1.22 《1.15》	昭和29年度	同上	
化学科	4	30	—	120		1.13 《1.08》	昭和29年度	同上	
生物学科	4	25	—	100		1.16 《1.14》	昭和29年度	同上	
惑星学科	4	35	—	140		1.13 《1.10》	平成5年度	同上	
学科共通			3年次 25	50					
医学部							1.01	昭和39年度	兵庫県神戸市中央 区楠町7-5-1
医学科	6	113	2年次 5	698	学士 (医学)	1.16	令和7年度	同上	
医療創成工学科	4	25	—	25	学士 (医工学)	1.03	平成6年度	兵庫県神戸市須磨 区友が丘7-10-2	
保健学科	4	150	—	—	学士 (看護学)	1.02	平成6年度	同上	
看護学専攻	4	70	—	310		1.06	平成6年度	同上	
検査技術科学専攻	4	40	—	160		1.02	平成6年度	同上	
理学療法学専攻	4	20	—	80		1.05	平成6年度	同上	
作業療法学専攻	4	20	—	80		学士 (保健学)			
工学部						1.07 《0.98》			
建築学科	4	90	—	369	学士 (工学)	1.08 《0.97》	平成19年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町1-1	
市民工学科	4	60	—	249		1.08 《1.02》	平成19年度	同上	
電気電子工学科	4	90	—	369		1.12 《1.02》	平成4年度	同上	
機械工学科	4	100	—	409		1.12 《0.99》	平成4年度	同上	
応用化学科	4	103	—	421		1.05 《0.99》	平成4年度	同上	
情報知能工学科	4	—	—	—		—	平成4年度	同上	
学科共通			3年次 20	40					
システム情報学部						1.06			
システム情報学科	4	150	—	150	学士 (システム情報学)		令和7年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町1-1	

令和7年度入学定員減(△10人)

令和7年度入学定員減(△3人)

令和7年度入学定員減(△3人)

令和7年度入学定員減(△3人)

令和7年度入学定員減(△3人)

令和7年度入学定員減(△3人)

令和7年度より募集停止

農学部						1.04 《0.99》			
食料環境システム学科	4	36	—	144	学士 (農学)	1.14 《1.06》	平成20年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町1-1	
資源生命科学科	4	55	—	220		1.07	平成20年度	同上	
生命機能科学科	4	69	—	276		1.05	平成20年度	同上	
学科共通			3年次 10	20					
海洋政策科学部						1.04			
海洋政策科学科	4	200	3年次 10	820	学士 (海洋政策科学又は 商船学)		令和3年度	兵庫県神戸市東灘区 深江南町5-1-1	
海事科学部						—			
グローバル輸送科学科	4	—	—	—	学士 (海事科学)	—	平成25年度	兵庫県神戸市東灘区 深江南町5-1-1	令和3年度より募集停止 令和3年度より募集停止 令和3年度より募集停止
海洋安全システム科学科	4	—	—	—		—	平成25年度	同上	
マリンエンジニアリング学科	4	—	—	—		—	平成25年度	同上	
学科共通			3年次 —	—					
[大学院]									
人文学研究科									
文化構造専攻(M)	2	17	—	34	修士 (文学)	0.94	平成19年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町1-1	
社会動態専攻(M)	2	27	—	54		1.11	平成19年度	同上	
文化構造専攻(D)	3	8	—	24	博士 (文学又は 学術)	1.79	平成19年度	同上	
社会動態専攻(D)	3	12	—	36		1.44	平成19年度	同上	
国際文化学研究科									
文化相関専攻(M)	2	18	—	36	修士 (学術)	1.25	平成19年度	兵庫県神戸市灘区 鶴甲1-2-1	
グローバル文化専攻(M)	2	29	—	58		1.03	平成19年度	同上	
文化相関専攻(D)	3	6	—	18	博士 (学術)	1.22	平成19年度	同上	
グローバル文化専攻(D)	3	9	—	27		1.29	平成19年度	同上	

人間発達環境学研究所											
人間発達専攻 (M)	2	51	—	102	修士 (学術又は 教育学)	0.99	平成25年度	兵庫県神戸市灘区 鶴甲3-11			
1年履修コース	1	4	—	4		1.50			同上		
人間環境学専攻 (M)	2	36	—	72	修士 (学術又は理学)	1.04	平成19年度	同上			
人間発達専攻 (D)	3	11	—	33	博士 (学術又は教育学)	1.90	平成25年度	同上			
人間環境学専攻 (D)	3	6	—	18	博士 (学術又は理学)	1.72	平成19年度	同上			
法学研究科											
法学政治学専攻 (M)	2	37	—	74	修士 (法学又は政治学)	0.82	平成30年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町2-1			
法学政治学専攻 (D)	3	18	—	54	博士 (法学又は政治学)	0.98	平成30年度		同上		
実務法律専攻 (P)	3	80	—	240	法務博士 (専門職)	0.72	平成16年度		同上		
経済学研究科											
経済学専攻 (M)	2	83	—	166	修士 (経済学)	1.05	平成20年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町2-1			
経済学専攻 (D)	3	20	—	60	博士 (経済学)	1.25	平成20年度		同上		
経営学研究科											
経営学専攻 (M)	2	51	—	102	修士 (経営学又は商学)	1.03	平成24年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町2-1			
経営学専攻 (D)	3	32	—	96	博士 (経営学又は商学)	1.10	平成24年度		同上		
現代経営学専攻 (P)	2	69	—	138	経営学修士 (専門職)	1.02	平成14年度		同上		
理学研究科											
数学専攻 (M)	2	22	—	44	修士 (理学)	1.18	平成19年度	兵庫県神戸市灘区 六甲台町1-1			
物理学専攻 (M)	2	24	—	48		1.14	平成19年度		同上		
化学専攻 (M)	2	28	—	56		1.08	平成19年度		同上		
生物学専攻 (M)	2	24	—	48		1.06	平成19年度		同上		
惑星学専攻 (M)	2	24	—	48		1.08	平成27年度		同上		
数学専攻 (D)	3	4	—	12		0.83	平成19年度		同上		
物理学専攻 (D)	3	5	—	15	博士 (理学又は 学術)	0.80	平成19年度	同上			
化学専攻 (D)	3	6	—	18		1.16	平成19年度				
生物学専攻 (D)	3	6	—	18		0.77	平成19年度				
惑星学専攻 (D)	3	6	—	18		0.77	平成27年度				

医学研究科													
バイオメディカルサイエンス専攻(M)	2	25	—	50	修士 (バイオメディカルサイエンス)	0.74	平成13年度	兵庫県神戸市中央区楠町7-5-1					
医療創成工学専攻(M)	2	15	—	30	修士 (医工学)	1.33	令和5年度	同上					
医科学専攻(D)	4	120	—	440	博士 (医学)	1.20	平成13年度	同上					
医療創成工学専攻(D)	3	8	—	24	博士 (医工学)	1.20	令和5年度	同上					
保健学研究科													
保健学専攻(M)	2	79	—	158	修士 (保健学)	0.99	平成20年度	兵庫県神戸市須磨区友が丘7-10-2					
保健学専攻(D)	3	25	—	75	博士 (保健学)	1.70	平成20年度	同上					
工学研究科													
建築学専攻(M)	2	64	—	128	修士 (工学)	1.05	平成19年度	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1					
市民工学専攻(M)	2	42	—	84		1.00	平成19年度	同上					
電気電子工学専攻(M)	2	64	—	128		1.10	平成19年度	同上					
機械工学専攻(M)	2	76	—	152		0.99	平成19年度	同上					
応用化学専攻(M)	2	70	—	140		1.05	平成19年度	同上					
建築学専攻(D)	3	8	—	24	博士 (工学又は学術)	0.83	平成19年度	同上					
市民工学専攻(D)	3	6	—	18		1.00	平成19年度	同上					
電気電子工学専攻(D)	3	8	—	24		0.79	平成19年度	同上					
機械工学専攻(D)	3	10	—	30		0.63	平成19年度	同上					
応用化学専攻(D)	3	10	—	30		1.23	平成19年度	同上					
システム情報学研究科													
情報科学専攻(M)	2	—	—	—	修士 (システム情報学又は工学)	—	平成22年度	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1	令和5年度より募集停止				
システム情報学専攻(M)	2	103	—	198	修士 (システム情報学又は工学)	1.01	令和5年度	同上	令和7年度入学定員増(8人)				
システム科学専攻(D)	3	—	—	—	博士 (システム情報学、情報学、工学又は学術)	—	平成22年度	同上	令和5年度より募集停止				
情報科学専攻(D)	3	—	—	—		—	平成22年度	同上	令和5年度より募集停止				
計算科学専攻(D)	3	—	—	—		—	平成22年度	同上	令和5年度より募集停止				
システム情報学専攻(D)	3	12	—	24	博士 (システム情報学、工学、計算科学又は学術)	1.08	令和5年度	同上					

令和6年度入学定員増(20人)

令和5年度より募集停止

令和7年度入学定員増(8人)

令和5年度より募集停止

令和5年度より募集停止

令和5年度より募集停止

農学研究科									
食料共生システム学専攻(M)	2	26	—	52	修士 (農学)	1.19	平成19年度	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1	
資源生命科学専攻(M)	2	42	—	84		1.08	平成19年度	同上	
生命機能科学専攻(M)	2	52	—	104		1.06	平成19年度	同上	
食料共生システム学専攻(D)	3	5	—	15	博士 (農学又は 学術)	1.20	平成19年度	同上	
資源生命科学専攻(D)	3	8	—	24		1.00	平成19年度	同上	
生命機能科学専攻(D)	3	10	—	30		0.70	平成19年度	同上	
海事科学研究科									
海事科学専攻(M)	2	75	—	150	修士 (海事科学)	1.13	平成19年度	兵庫県神戸市東灘区深江南町5-1-1	
海事科学専攻(D)	3	11	—	33	博士 (海事科学、工学又は 学術)	1.24	平成19年度	同上	
国際協力研究科									
国際開発政策専攻(M)	2	26	—	52	修士 (国際学又は経済学)	0.94	平成4年度	兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1	
国際協力政策専攻(M)	2	22	—	44	修士 (国際学、法学又は 政治学)	1.27	平成5年度	同上	
地域協力政策専攻(M)	2	22	—	44	修士 (国際学、法学又は 経済学)	0.75	平成6年度	同上	
国際開発政策専攻(D)	3	8	—	24	博士 (学術又は経済学)	0.29	平成7年度	同上	
国際協力政策専攻(D)	3	7	—	21	博士 (学術、法学又は政治学)	1.14	平成7年度	同上	
地域協力政策専攻(D)	3	8	—	24	博士 (学術、法学又は経済学)	1.70	平成8年度	同上	
科学技術イノベーション研究科									
科学技術イノベーション専攻(M)	2	40	—	80	修士 (科学技術イノベーション)	1.03	平成28年度	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1	
科学技術イノベーション専攻(D)	3	10	—	30	博士 (科学技術イノベーション)	1.36	平成30年度	同上	
附属施設の概要	<p>名称：経済経営研究所</p> <p>目的：経済及び経営に関する総合研究</p> <p>所在地：兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1</p> <p>設置年月：昭和24年5月</p> <p>規模等：土地 103,097 m²、建物 4,984 m²</p> <p>名称：経済経営研究所附属企業資料総合センター</p> <p>目的：企業及び産業に関する文献等の総合的収集、整備</p> <p>所在地：兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1</p> <p>設置年月：平成22年4月</p> <p>規模等：土地 103,097 m²、建物 4,984 m²</p> <p>名称：附属図書館</p> <p>目的：学術発展への寄与</p> <p>所在地：兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1</p> <p>設置年月：昭和24年5月</p> <p>規模等：土地 — m²、建物 27,263 m²</p>							<p>※同一敷地・建物内にあるため土地・建物面積は合計を示す。</p> <p>※各キャンパス毎に設置されているため、土地の面積は集計不可。</p>	

<p>名称: 医学部附属病院 目的: 医学の教育研究及び診療 所在地: 兵庫県神戸市中央区楠町7丁目5-2 設置年月: 昭和 42 年 6 月 規模等: 土地 41,181 m², 建物 107,739 m²</p>	
<p>名称: 医学部附属病院国際がん医療・研究センター 目的: 医学の教育研究及び診療 所在地: 兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目5-1 設置年月: 平成 31 年 3 月 規模等: 土地 6,395 m², 建物 16,426 m²</p>	※土地は借上を示す。
<p>名称: 医学研究科附属動物実験施設 (医学研究科・医学部内) 目的: 動物実験の実施による教育研究 所在地: 兵庫県神戸市中央区楠町7丁目5-1 設置年月: 平成 21 年 4 月 規模等: 土地 8,665 m², 建物 34,926 m² (医学研究科・医学部を含む)</p>	※同一敷地・建物内にあるため土地・建物面積は合計を示す。
<p>名称: 医学研究科附属感染症センター (医学研究科・医学部内) 目的: 感染症に関する研究及び臨床教育 所在地: 兵庫県神戸市中央区楠町7丁目5-1 設置年月: 平成 21 年 4 月 規模等: 土地 8,665 m², 建物 34,926 m² (医学研究科・医学部を含む)</p>	
<p>名称: 海事科学研究科附属国際海事研究センター (海事科学研究科・海洋政策科学部内) 目的: 海事に関する総合的かつ先端的な研究 所在地: 兵庫県神戸市東灘区深江南町5丁目1-1 設置年月: 平成 21 年 10 月 規模等: 土地 94,547 m², 建物 41,681 m² (海事科学研究科・海洋政策科学部を含む)</p>	
<p>名称: 海事科学研究科附属練習船海神丸 目的: 船舶による実験, 実習及び学術研究並びに共同利用 所在地: 兵庫県神戸市東灘区深江南町5丁目1-1 設置年月: 令和 4 年 3 月 規模等: 総トン数 889 トン</p>	
<p>名称: 農学研究科附属食資源教育研究センター 目的: 動植物資源開発から生産までに関わる実学の教育研究及び実習 所在地: 兵庫県加西市鶴野町1348 設置年月: 平成 19 年 4 月 規模等: 土地 403,787 m², 建物 7,063 m²</p>	
<p>名称: 内海域環境教育研究センターマリンサイト 目的: 内海域における自然環境及び環境保全に関する教育, 研究 所在地: 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 設置年月: 平成 15 年 10 月 規模等: 土地 3,122 m², 建物 1,183 m²</p>	
<p>名称: 附属幼稚園 目的: 幼稚園における教育及び研究 所在地: 兵庫県明石市山下町3-4 設置年月: 平成 21 年 4 月 規模等: 土地 27,945 m², 建物 1,236 m²</p>	※同一敷地内にあるため土地面積は合計を示す。
<p>名称: 附属小学校 目的: 小学校における教育及び研究 所在地: 兵庫県明石市山下町3-4 設置年月: 平成 21 年 4 月 規模等: 土地 27,945 m², 建物 4,219 m²</p>	
<p>名称: 附属中等教育学校 目的: 中等教育学校における教育及び研究 所在地: 兵庫県神戸市東灘区住吉山手5丁目11-1 設置年月: 平成 21 年 4 月 規模等: 土地 29,185 m², 建物 11,843 m²</p>	
<p>名称: 附属特別支援学校 目的: 特別支援学校における教育及び研究 所在地: 兵庫県明石市大久保町大窪2752-4 設置年月: 平成 21 年 4 月 規模等: 土地 16,652 m², 建物 3,642 m²</p>	

国立大学法人神戸大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神戸大学				神戸大学				
文学部				文学部				
人文学科	100		400	人文学科	100		400	
国際人間科学部		3年次		国際人間科学部		3年次		
グローバル文化学科	140		560	グローバル文化学科	140		560	
発達コミュニケーション学科	100	2	404	発達コミュニケーション学科	100	2	404	
環境共生学科	80	3	326	環境共生学科	80	3	326	
子ども教育学科	50	0	200	子ども教育学科	50	0	200	
法学部		3年次		法学部		3年次		
法律学科	180	20	760	法律学科	180	20	760	
経済学部		3年次		経済学部		3年次		
経済学科	270	20	1,120	経済学科	270	20	1,120	
経営学部		3年次		経営学部		3年次		
経営学科	260	20	1,080	経営学科	260	20	1,080	
理学部		3年次		理学部		3年次		
数学科	28		112	数学科	28		112	
物理学科	35		140	物理学科	35		140	
化学科	30		120	化学科	30		120	
生物学科	25		100	生物学科	25		100	
惑星学科	35		140	惑星学科	35		140	
学科共通		25	50	学科共通		25	50	
医学部		2年次		医学部		2年次		
医学科	113	5	698	医学科	100	5	625	※R7年度まで臨時定員13名増（R8年度以降については調整中）
医療創成工学科	25	5	110	医療創成工学科	25	5	110	
保健学科	150		600	保健学科	150		600	
工学部		3年次		工学部		3年次		
建築学科	90	3	366	建築学科	90	3	366	
市民工学科	60	3	246	市民工学科	60	3	246	
電気電子工学科	90	4	368	電気電子工学科	90	4	368	
機械工学科	100	4	408	機械工学科	100	4	408	
応用化学科	103	3	418	応用化学科	103	3	418	
情報知能工学科	-	-	-	情報知能工学科	0	-	0	
学科共通	-	-	-	学科共通	-	-	-	
システム情報学部		3年次		システム情報学部		3年次		
システム情報学科	150	3	606	システム情報学科	150	3	606	
農学部		3年次		農学部		3年次		
食料環境システム学科	36		144	食料環境システム学科	36		144	
資源生命科学科	55		220	資源生命科学科	55		220	
生命機能科学科	69		276	生命機能科学科	69		276	
学科共通		10	20	学科共通		10	20	
海事科学部				海事科学部				
グローバル輸送科学科	-	-	-	グローバル輸送科学科	-	-	-	
海洋安全システム科学科	-	-	-	海洋安全システム科学科	-	-	-	
マリエン지니어リング学科	-	-	-	マリエン지니어リング学科	-	-	-	
学科共通	-	-	-	学科共通	-	-	-	
海洋政策科学部		3年次		海洋政策科学部		3年次		
海洋政策科学科	200	10	820	海洋政策科学科	200	10	820	
		2年次				2年次		
		5				5		
計	2,574	3年次	10,812	計	2,561	3年次	10,739	
		135				135		

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神戸大学大学院				神戸大学大学院				
人文学研究科				人文学研究科				
文化構造専攻(M)	17	-	34	文化構造専攻(M)	17	-	34	
文化構造専攻(D)	8	-	24	文化構造専攻(D)	8	-	24	
社会動態専攻(M)	27	-	54	社会動態専攻(M)	27	-	54	
社会動態専攻(D)	12	-	36	社会動態専攻(D)	12	-	36	
国際文化学研究科				国際文化学研究科				
文化相関専攻(M)	18	-	36	文化相関専攻(M)	18	-	36	
文化相関専攻(D)	6	-	18	文化相関専攻(D)	6	-	18	
グローバル文化専攻(M)	29	-	58	グローバル文化専攻(M)	29	-	58	
グローバル文化専攻(D)	9	-	27	グローバル文化専攻(D)	9	-	27	
人間発達環境学研究科				人間発達環境学研究科				
人間発達専攻(M)	55	-	106	人間発達専攻(M)	55	-	106	
(1年履修コースを含む)				(1年履修コースを含む)				
人間発達専攻(D)	11	-	33	人間発達専攻(D)	11	-	33	
人間環境学専攻(M)	36	-	72	人間環境学専攻(M)	36	-	72	
人間環境学専攻(D)	6	-	18	人間環境学専攻(D)	6	-	18	
法学研究科				法学研究科				
法学政治学専攻(M)	37	-	74	法学政治学専攻(M)	37	-	74	
法学政治学専攻(D)	18	-	54	法学政治学専攻(D)	18	-	54	
実務法律専攻(P)	80	-	240	実務法律専攻(P)	80	-	240	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻(M)	83	-	166	経済学専攻(M)	83	-	166	
経済学専攻(D)	20	-	60	経済学専攻(D)	20	-	60	
経営学研究科				経営学研究科				
経営学専攻(M)	51	-	102	経営学専攻(M)	51	-	102	
経営学専攻(D)	32	-	96	経営学専攻(D)	32	-	96	
現代経営学専攻(P)	69	-	138	現代経営学専攻(P)	69	-	138	
理学研究科				理学研究科				
数学専攻(M)	22	-	44	数学専攻(M)	22	-	44	
数学専攻(D)	4	-	12	数学専攻(D)	4	-	12	
物理学専攻(M)	24	-	48	物理学専攻(M)	24	-	48	
物理学専攻(D)	5	-	15	物理学専攻(D)	5	-	15	
化学専攻(M)	28	-	56	化学専攻(M)	28	-	56	
化学専攻(D)	6	-	18	化学専攻(D)	6	-	18	
生物学専攻(M)	24	-	48	生物学専攻(M)	24	-	48	
生物学専攻(D)	6	-	18	生物学専攻(D)	6	-	18	
惑星学専攻(M)	24	-	48	惑星学専攻(M)	24	-	48	
惑星学専攻(D)	6	-	18	惑星学専攻(D)	6	-	18	
医学研究科				医学研究科				
バイオテクノロジー専攻(M)	25	-	50		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
医科学専攻(D)	120	-	480		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
医療創成工学専攻(M)	15	-	30		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
医療創成工学専攻(D)	8	-	24		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
				医学系研究科				研究科の設置(届出)
				医科学専攻(D)	120	-	480	
				先進生命医科学系専攻(M)	119	-	238	
				医療創成工学専攻(D)	8	-	24	
				健康科学専攻(D)	17	-	51	
				未来社会医学専攻(D)	5	-	15	
保健学研究科				保健学研究科				
保健学専攻(M)	79	-	158		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
保健学専攻(D)	25	-	75		0	-	0	令和8年4月学生募集停止
工学研究科				工学研究科				
建築学専攻(M)	64	-	128	建築学専攻(M)	64	-	128	
建築学専攻(D)	8	-	24	建築学専攻(D)	8	-	24	
市民工学専攻(M)	42	-	84	市民工学専攻(M)	42	-	84	
市民工学専攻(D)	6	-	18	市民工学専攻(D)	6	-	18	
電気電子工学専攻(M)	64	-	128	電気電子工学専攻(M)	64	-	128	
電気電子工学専攻(D)	8	-	24	電気電子工学専攻(D)	8	-	24	
機械工学専攻(M)	76	-	152	機械工学専攻(M)	76	-	152	
機械工学専攻(D)	10	-	30	機械工学専攻(D)	10	-	30	
応用化学専攻(M)	70	-	140	応用化学専攻(M)	70	-	140	
応用化学専攻(D)	10	-	30	応用化学専攻(D)	10	-	30	
システム情報学研究科				システム情報学研究科				
システム科学専攻(M)	-	-	-	システム科学専攻(M)	-	-	-	
システム科学専攻(D)	-	-	-	システム科学専攻(D)	-	-	-	
情報科学専攻(M)	-	-	-	情報科学専攻(M)	-	-	-	
情報科学専攻(D)	-	-	-	情報科学専攻(D)	-	-	-	
計算科学専攻(D)	-	-	-	計算科学専攻(D)	-	-	-	
システム情報学専攻(M)	103	-	206	システム情報学専攻(M)	103	-	206	
システム情報学専攻(D)	12	-	36	システム情報学専攻(D)	12	-	36	
農学研究科				農学研究科				
食料共生システム専攻(M)	26	-	52	食料共生システム専攻(M)	28	-	56	定員変更(2)
食料共生システム専攻(D)	5	-	15	食料共生システム専攻(D)	5	-	15	
資源生命科学専攻(M)	42	-	84	資源生命科学専攻(M)	46	-	92	定員変更(4)
資源生命科学専攻(D)	8	-	24	資源生命科学専攻(D)	8	-	24	
生命機能科学専攻(M)	52	-	104	生命機能科学専攻(M)	58	-	116	定員変更(6)
生命機能科学専攻(D)	10	-	30	生命機能科学専攻(D)	10	-	30	
海事科学研究科				海事科学研究科				
海事科学専攻(M)	75	-	150	海事科学専攻(M)	75	-	150	
海事科学専攻(D)	11	-	33	海事科学専攻(D)	11	-	33	
国際協力研究科				国際協力研究科				
国際開発政策専攻(M)	26	-	52	国際開発政策専攻(M)	26	-	52	
国際開発政策専攻(D)	8	-	24	国際開発政策専攻(D)	8	-	24	
国際協力政策専攻(M)	22	-	44	国際協力政策専攻(M)	22	-	44	
国際協力政策専攻(D)	7	-	21	国際協力政策専攻(D)	7	-	21	
地域協力政策専攻(M)	22	-	44	地域協力政策専攻(M)	22	-	44	
地域協力政策専攻(D)	8	-	24	地域協力政策専攻(D)	8	-	24	
科学技術イノベーション研究科				科学技術イノベーション研究科				
科学技術イノベーション専攻(M)	40	-	80	科学技術イノベーション専攻(M)	40	-	80	
科学技術イノベーション専攻(D)	10	-	30	科学技術イノベーション専攻(D)	10	-	30	
計	1,890		4,399	計	1,899		4,414	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(医学系研究科博士課程医科学専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数		授業形態					基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択必修	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く		
基礎科目	コア講義	1前	/		1			○			2	1		4		1	オムニバス
	コア実習	1後			1					○	1						
	小計(2科目)	-		-	0	2	0		-			3	1	0	4	0	
講義先端研	先端医学シリーズ	1後	/		1			○								1	
	先端医学トピックス	1通			1			○			1						
	小計(2科目)	-		-	0	2	0		-			1	0	0	0	0	1
大学院特別講義	大学院特別英語	1通	/		1			○								1	
	リサーチ・プロポーザル	1後			1			○			1						
	生命科学論文・申請書作成特論	1通			1			○			1						
	発生・再生医学特論	1通			1			○			1						
	産学連携特論	1前			1			○			1						
	生命倫理特論	1前			1			○			1						
	グローバルメディカルサイエンス特別講義	1後			1			○			2						
	次世代がんプロフェッショナル養成特論	1後			1			○			2	1	1	4			共同
	腫瘍学Ⅰ 基盤講義 (医療現場・学際領域)	1前			2			○			2						共同
	腫瘍学Ⅱ 横断講義 (予防・研究開発)	1後			2			○			2						共同
	医療機器コンセプト創造学特論	1前/2Q			1			○									6
	医療機器レギュラトリーサイエンス学特論	1前/1Q			1			○									10
	医療機器ビジネス学特論	1前/1Q			1			○									8
	医療機器コンセプト創造演習	1前/2Q			1				○								6
	医用材料工学	1前/2Q			1				○								2
	医用有機化学	1前/2Q			1				○								1
	AI・深層学習	1後/3Q			1				○								1
	医療機器・システム英語特別講義	1後/3Q			1				○								4
	医療機器・システム設計概論	1前/2Q			1				○								4
	医療機器・システム設計演習	1前/2Q			1					○							7
	データサイエンス演習	1後/4Q			1					○							2
	ジョブ型研究インターンシップ	1前-4後			2						○	1					
	ラボ・ローテーション	1後			1						○	1					
小計(23科目)	-	-	0	26	0		-			8	1	1	4	0	31		
生理学・細胞生物学	膜動態学特別研究Ⅰ	1前	/		6				○		1						
	膜動態学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1						
	膜動態学演習	1後			3				○		1						
	細胞生理学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○				1				
	細胞生理学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○				1				
	細胞生理学演習	1後			3				○				1				
	生理学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○			1					
	生理学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○			1					
	生理学演習	1前-4後			3				○			1					
	神経情報伝達学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○		1						
	神経情報伝達学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1						
	神経情報伝達学演習	1前-4後			3				○		1						
	生体構造解剖学特別研究Ⅰ	1前			6				○		1						
	生体構造解剖学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1						
	生体構造解剖学演習	1後			3				○		1						
	神経分化・再生特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○			1					
	神経分化・再生特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○			1					
	神経分化・再生演習	1前-4後			3				○			1					
	発生・再生医学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○								1
	発生・再生医学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○								1
	発生・再生医学演習	1前-4後			3				○								1
小計(21科目)	-	-	0	91	0		-			3	2	1	0	0	1		
生化学・分子生物学	分子細胞生物学特別研究Ⅰ	1前-4後	/		6				○		1						
	分子細胞生物学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1						
	分子細胞生物学演習	1前-4後			3				○		1						
	細胞医科学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○		1						
	細胞医科学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1						
	細胞医科学演習	1前-4後			3				○		1						
	膜生物学特別研究Ⅰ	1前			6				○		1						
	膜生物学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1						
	膜生物学演習	1後			3				○		1						
	超微構造生物学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○								1
	超微構造生物学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○								1
	超微構造生物学演習	1前-4後			3				○								1
	薬理学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○		1						
	薬理学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1						

学生・生物分	薬理学演習	1前-4後		3			○	1							
	小計 (15科目)	-	-	0	65	0	-	3	0	0	0	0	0	1	
病理学	分子病理学特別研究 I	1前-4後		6			○	1							
	分子病理学特別研究 II	1前-4後		4			○	1							
	分子病理学演習	1前-4後		3			○	1							
	分子病理学臨床実習	1前-4後		2			○	1							
	病理診断学特別研究 I	1前		6			○	1							
	病理診断学特別研究 II	1前-4後		4			○	1							
	病理診断学演習	1後		3			○	1							
	病理診断学臨床実習	1後		2			○	1							
	小計 (8科目)	-	-	0	30	0	-	2	0	0	0	0	0	0	
微生物感染症学	臨床ウイルス学特別研究 I	1前-4後		6			○	1							
	臨床ウイルス学特別研究 II	1前-4後		4			○	1							
	臨床ウイルス学演習	1前-4後		3			○	1							
	感染制御学特別研究 I	1前		6			○	1							
	感染制御学特別研究 II	1前-4後		4			○	1							
	感染制御学演習	1後		3			○	1							
	感染治療学特別研究 I	1前-4後		6			○	1							
	感染治療学特別研究 II	1前-4後		4			○	1							
	感染治療学演習	1前-4後		3			○	1							
	感染治療学臨床実習	1前-4後		2			○	1							
	感染症フィールド学特別研究 I	1前		6			○	1							
	感染症フィールド学特別研究 II	1前-4後		4			○	1							
	感染症フィールド学演習	1後		3			○	1							
	ウイルス感染学特別研究 I	1前		6			○							1	
	ウイルス感染学特別研究 II	1前-4後		4			○							1	
	ウイルス感染学演習	1後		3			○							1	
	免疫制御学特別研究 I	1前		6			○							1	
	免疫制御学特別研究 II	1後		4			○							1	
	免疫制御学演習	1前-4後		3			○							1	
	遺伝子医薬学特別研究 I	1前		6			○							1	
	遺伝子医薬学特別研究 II	1前-4後		4			○							1	
	遺伝子医薬学演習	1後		3			○							1	
小計 (22科目)	-	-	0	93	0	-	3	0	0	0	0	0	3		
地域社会医学・健康科学	医療法・倫理学特別研究 I	1前-4後		6			○	1							
	医療法・倫理学特別研究 II	1前-4後		4			○	1							
	医療法・倫理学演習	1前-4後		3			○	1							
	医薬食品評価科学特別研究 I	1前-4後		6			○	1							
	医薬食品評価科学特別研究 II	1前-4後		4			○	1							
	医薬食品評価科学演習	1後		3			○	1							
	法医学特別研究 I	1前-4後		6			○	1							
	法医学特別研究 II	1前-4後		4			○	1							
	法医学演習	1後		3			○	1							
	地域連携病理学特別研究 I	1前		6			○	1		1				共同	
	地域連携病理学特別研究 II	1前-4後		4			○	1		1				共同	
	地域連携病理学演習	1後		3			○	1		1				共同	
	地域連携病理学臨床実習	1前-4後		2			○	1		1				共同	
小計 (13科目)	-	-	0	54	0	-	4	0	1	0	0	0	0		
未来医学	幹細胞医学特別研究 I	1前-4後		6			○	1							
	幹細胞医学特別研究 II	1前-4後		4			○	1							
	幹細胞医学演習	1後		3			○	1							
	免疫学特別研究 I	1前-4後		6			○	1							
	免疫学特別研究 II	1前-4後		4			○	1							
	免疫学演習	1前-4後		3			○	1							
	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学特別研究 I	1前-4後		6			○	2						共同	
	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学特別研究 II	1前-4後		4			○	2						共同	
	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学演習	1後		3			○	2						共同	
小計 (9科目)	-	-	0	39	0	-	4	0	0	0	0	0	0		
内科学	循環器内科学特別研究 I	1前-4後		6			○	1							
	循環器内科学特別研究 II	1前-4後		4			○	1							
	循環器内科学演習	1前		3			○	1							
	循環器内科学臨床実習	1後		2			○	1							
	不整脈先端治療学特別研究 I	1前-4後		6			○	1							
	不整脈先端治療学特別研究 II	1前-4後		4			○	1							
	不整脈先端治療学演習	1後		3			○	1							
	不整脈先端治療学臨床実習	1後		2			○	1							
	循環器高度医療探索学特別研究 I	1前		6			○							1	
	循環器高度医療探索学特別研究 II	1前-4後		4			○							1	
	循環器高度医療探索学演習	1後		3			○							1	
	循環器高度医療探索学臨床実習	1前-4後		2			○							1	
	消化器内科学特別研究 I	1前-4後		6			○	2						共同	
	消化器内科学特別研究 II	1前-4後		4			○	2						共同	
	消化器内科学演習	1前-4後		3			○	2						共同	
	消化器内科学臨床実習	1前-4後		2			○	2						共同	
	新規治療探索学特別研究 I	1前		6			○	1							
	新規治療探索学特別研究 II	1前-4後		4			○	1							
	新規治療探索学演習	1後		3			○	1							
新規治療探索学臨床実習	1前-4後		2			○	1								

内科系	臨床検査医学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	臨床検査医学演習	1前-4後		3			○		1									
	臨床検査医学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	医療情報学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1									
	医療情報学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	医療情報学演習	1後		3			○		1									
	医療情報学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	先端緩和と医療学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1									
	先端緩和と医療学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	先端緩和と医療学演習	1前-4後		3			○		1									
	先端緩和と医療学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	病態情報学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1									
	病態情報学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	病態情報学演習	1後		3			○		1									
	病態情報学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	薬剤学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1									
	薬剤学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	薬剤学演習	1前-4後		3			○		1									
	薬剤学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	システム病態生物学特別研究Ⅰ	1前		6			○											1
	システム病態生物学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○											1
	システム病態生物学演習	1後		3			○											1
	小児先端医療学特別研究Ⅰ	1前		6			○											1
	小児先端医療学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○											1
小児先端医療学演習	1後		3			○											1	
小児先端医療学臨床実習	1前-4後		2			○											1	
ゲノム医療学特別研究Ⅰ	1前		6			○												
ゲノム医療学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○			1									
ゲノム医療学演習	1後		3			○			1									
ゲノム医療学臨床実習	1前-4後		2			○			1									
小計 (79科目)	-	-	0	298	0		-		11	1	0	0	0	0	4			
外科学	食道胃腸外科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1									
	食道胃腸外科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	食道胃腸外科学演習	1前-4後		3			○		1									
	食道胃腸外科学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	肝胆膵外科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1	1								共同
	肝胆膵外科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1	1								共同
	肝胆膵外科学演習	1前		3			○		1	1								共同
	肝胆膵外科学臨床実習	1後		2			○		1	1								共同
	乳腺内分泌外科学特別研究Ⅰ	1前		6			○			1								
	乳腺内分泌外科学特別研究Ⅱ	1後		4			○			1								
	乳腺内分泌外科学演習	1前-4後		3			○			1								
	乳腺内分泌外科学臨床実習	1前-4後		2			○			1								
	心臓血管外科学特別研究Ⅰ	1前		6			○			1								
	心臓血管外科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○			1								
	心臓血管外科学演習	1後		3			○			1								
	心臓血管外科学臨床実習	1後		2			○			1								
	心臓血管外科先端医療学特別研究Ⅰ	1前		6			○											1
	心臓血管外科先端医療学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○											1
	心臓血管外科先端医療学演習	1後		3			○											1
	心臓血管外科先端医療学臨床実習	1前-4後		2			○											
	呼吸器外科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○			1								
	呼吸器外科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○			1								
	呼吸器外科学演習	1前-4後		3			○			1								
	呼吸器外科学臨床実習	1前-4後		2			○			1								
	小児外科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○			1								
	小児外科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○			1								
	小児外科学演習	1前-4後		3			○			1								
	小児外科学臨床実習	1前-4後		2			○			1								
	低侵襲外科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○			1								
低侵襲外科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○			1									
低侵襲外科学演習	1前-4後		3			○			1									
低侵襲外科学臨床実習	1前-4後		2			○			1									
国際医療連携推進学特別研究Ⅰ	1前		6			○			2								共同	
国際医療連携推進学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○			2								共同	
国際医療連携推進学演習	1後		3			○			2								共同	
国際医療連携推進学臨床実習	1前-4後		2			○			2								共同	
小計 (36科目)	-	-	0	135	0		-		8	1	0	0	0	1				
外科系	整形外科特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1									
	整形外科特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	整形外科演習	1前-4後		3			○		1									
	整形外科臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	リハビリテーション運動機能学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○											1
	リハビリテーション運動機能学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○											1
	リハビリテーション運動機能学演習	1前-4後		3			○											1
	リハビリテーション運動機能学臨床実習	1前-4後		2			○											1
	リハビリテーション機能回復学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○			1								
	リハビリテーション機能回復学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○			1								

外科系	リハビリテーション機能回復学演習	1前-4後		3				○		1										
	リハビリテーション機能回復学臨床実習	1前-4後		2				○		1										
	脳神経外科学特別研究 I	1前-4後		6				○		1										
	脳神経外科学特別研究 II	1前-4後		4				○		1										
	脳神経外科学演習	1前-4後		3				○		1										
	脳神経外科学臨床実習	1前-4後		2				○		1										
	眼科学特別研究 I	1前-4後		6				○		1										
	眼科学特別研究 II	1前-4後		4				○		1										
	眼科学演習	1前-4後		3				○		1										
	眼科学臨床実習	1前-4後		2				○		1										
	難治性網膜視神経変性治療学特別研究 I	1前-4後		6				○												1
	難治性網膜視神経変性治療学特別研究 II	1前-4後		4				○												1
	難治性網膜視神経変性治療学演習	1前-4後		3				○												1
	難治性網膜視神経変性治療学臨床実習	1前-4後		2				○												1
	耳鼻咽喉科頭頸部外科学特別研究 I	1前-4後		6				○			1									
	耳鼻咽喉科頭頸部外科学特別研究 II	1前-4後		4				○			1									
	耳鼻咽喉科頭頸部外科学演習	1前		3				○			1									
	耳鼻咽喉科頭頸部外科学臨床実習	1前-4後		2				○			1									
	腎泌尿器科学特別研究 I	1前		6				○			1									
	腎泌尿器科学特別研究 II	1前-4後		4				○			1									
	腎泌尿器科学演習	1後		3				○			1									
	腎泌尿器科学臨床実習	1後		2				○			1									
	泌尿器先端医療開発学特別研究 I	1前		6				○			1									
	泌尿器先端医療開発学特別研究 II	1前-4後		4				○			1									
	泌尿器先端医療開発学演習	1後		3				○			1									
	泌尿器先端医療開発学臨床実習	1前-4後		2				○			1									
	産科生殖医学特別研究 I	1前-4後		6				○			2									共同
	産科生殖医学特別研究 II	1前-4後		4				○			2									共同
	産科生殖医学演習	1前		3				○			2									共同
	産科生殖医学臨床実習	1前-4後		2				○			2									共同
	婦人科先端医療学特別研究 I	1前-4後		6				○			1									
	婦人科先端医療学特別研究 II	1前-4後		4				○			1									
	婦人科先端医療学演習	1後		3				○			1									
	婦人科先端医療学臨床実習	1後		2				○			1									
	形成外科学特別研究 I	1前-4後		6				○				1								
	形成外科学特別研究 II	1前-4後		4				○				1								
	形成外科学演習	1前-4後		3				○				1								
	形成外科学臨床実習	1前-4後		2				○				1								
	麻酔科学特別研究 I	1前		6				○					1							
	麻酔科学特別研究 II	1前		4				○					1							
	麻酔科学演習	1前		3				○					1							
	麻酔科学臨床実習	1前		2				○					1							
口腔外科学特別研究 I	1前		6				○			1										
口腔外科学特別研究 II	1前		4				○			1										
口腔外科学演習	1後		3				○			1										
口腔外科学臨床実習	1後		2				○			1										
災害・救急医学特別研究 I	1前-4後		6				○			2									共同	
災害・救急医学特別研究 II	1前-4後		4				○			2									共同	
災害・救急医学演習	1前		3				○			2									共同	
災害・救急医学臨床実習	1前-4後		2				○			2									共同	
先進救命救急医学特別研究 I	1前-4後		6				○			1										
先進救命救急医学特別研究 II	1前-4後		4				○			1										
先進救命救急医学演習	1前-4後		3				○			1										
先進救命救急医学臨床実習	1前-4後		2				○			1										
小児高度専門外科学特別研究 I	1前		6				○												1	
小児高度専門外科学特別研究 II	1前-4後		4				○												1	
小児高度専門外科学演習	1後		3				○												1	
小児高度専門外科学臨床実習	1前-4後		2				○			1									1	
小計 (68科目)		-	-	0	255	0	-			10	2	1	0	0	3					
合計 (346科目)		-	-	0	1270	0	-			49	10	4	8	0	47					
学位又は称号	博士 (医学)		学位又は学科の分野				医学関係													
卒業・修了要件及び履修方法	4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者と認められた場合は、3年以上在学すれば足りるものとする。										授業期間等									
	1学年の学期区分										2学期									
	1学期の授業期間										15週									
	1時限の授業の標準時間										90分									

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(医学系研究科博士課程前期課程先進生命医学系専攻)																			
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員			
総合 知 科 目	先進生命医学概論	1前/1Q	/	1			○			3					1	オムニバス			
	総合知概論	1前/1Q		1			○			1									
	学びのデザイン	1通		2				○		49	19					0			
	小計（3科目）	—		—	4	0	0	—	—	49	19	0	0	0	0	1			
バイ オ メ デ ィ カ ル サイ エ ン ス 領 域 専 門 科 目	盤 サイ エ ン ス 基 礎	生命科学特論	/		2		○			3	5	1	4		3	オムニバス			
	疾患学特論	1前		2		○			4	2	1	1			9	オムニバス			
	社会医学・生命倫理・安全	1前		2		○			2			2			5	オムニバス			
	薬物治療・創薬学特論	1前		2		○			3	1					11	オムニバス			
	微生物感染症・免疫学特論	1前		2		○			4	2		2			7	オムニバス			
	小計（5科目）	—		—	0	10	0	—	—	14	10	2	9	0	35				
	がん ブ ロ グ ラ ム 科 目	腫瘍学 I 基盤講義（医療現場・学際領域）		1後	/		2		○			2						共同	
		腫瘍学 II 横断講義（予防・研究開発）		1後		2		○			2							共同	
		放射線治療計画基本演習		1前		3				○		1	1	1	2			共同	
		リハビリテーション医学		1前		2				○		1							
		がんリハビリテーション学		1後		2				○		1							
		がんリハビリテーション演習		1～2		4				○		1							
		基礎解剖学		1前		2				○		1	2		2		2		共同
		原子核物理学		2前		2				○					1				
		放射線物理学		1後		2				○					1				
		統計学		1通		1				○		1			1				共同
		保健物理学		2通		2				○					1		1		オムニバス
		放射線診断物理学		1後		2				○					1				
		放射線治療物理学		1後		2				○					2				共同
		放射線計測学		1通		2				○					2				オムニバス
		情報処理学		2前		1				○							1		
		医療情報学		2前		1				○							1		
		放射線診断学		2前		1				○							1		
		放射線生物学		2前		2				○		1	1	1	2				共同
		放射線関連法規及び勧告		1後		1				○					1				
		核医学物理学		2前		1				○					1				
		核医学		2前		1				○			1		1				オムニバス
		放射線腫瘍学		2前		2				○		1	1	1	2				オムニバス
		医療・画像情報学演習		2前		1				○	○				1		1		オムニバス
核医学物理学演習		2前	1					○	○				1						
放射線診断物理学演習		2後	1					○	○				1						
保健物理学演習		2前	1					○	○				1						
放射線計測学演習		1前	1					○	○				1						
科学英語		1後	1					○								1			
放射線治療計画臨床研究		2後	3					○	○		1	1	1	2			共同		
小計（29科目）	—	—	0	49	0	—	—	—	4	3	1	6	0	6					
究 他 科 領 域 専 門 ・ 他 目 研																4単位を上限として修了要件に算入することができる。			
	小計（一科目）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—					
科 学 医 療 領 域 創 成 専 門 工	シ ン ホ ン ペ ー 科 目	医療機器コンセプト創造学特論	/		1		○			4	1				1	共同			
		医療機器コンセプト創造演習		1前/1Q	1			○		4	1				1	共同			
		医療機器社会実装学特論		2前/1Q	1			○		2	1				7	オムニバス			
		小計（3科目）		—	0	3	0	—	—	6	2	0	0	0	8				
医 療 創 成 工 学 領 域 専 門 科 目	シ ン ホ ン ペ ー シ ョ	医療機器レギュラトリーサイエンス学特論	/		1		○			3					7	オムニバス			
		医療機器ビジネス学特論		1後/3Q	1			○		2	1				5	オムニバス			
		医療機器品質マネジメント学特論		2前/1Q	1			○		1	1				3	オムニバス			
		小計（3科目）		—	0	3	0	—	—	5	1	0	0	0	15				
	造 実 践 実 習 創			ニーズ探索臨床現場実習	/		2			○		4	3	1	3			オムニバス	
				医療機器コンセプト創造実習		1前/2Q	2			○		4	3	1	3			オムニバス	
				小計（2科目）		—	0	4	0	—	—	4	3	1	3	0	0		
	科 工 学 系			医療機器・システム設計概論	/		1		○			2	1				1	オムニバス	
				医療機器・システム設計演習		1後/3Q	1			○		3	1		1		2	オムニバス	
				小計（2科目）		—	0	2	0	—	—	3	1	0	1	0	2		

医療創成工学領域専門科目	専門科目	インターンシップ	1通			1			○	3						1	共同	
		医用材料工学	1前/2Q			1			○	1								オムニバス
		医用有機化学	1前/2Q			1			○	1								
		医用センシング	1後/3Q			1			○	1								
		計測技術概論	1前/1Q			1			○	3	1							オムニバス
		プログラミング演習	1前/1Q			1			○	1	1			1				オムニバス
		AI・深層学習	1後/3Q			1			○						1			
		データサイエンス演習	1後/4Q			1			○		1	1						オムニバス
		医療機器・システム英語特別講義	1後/3Q			1			○	2	1			1				オムニバス
	小計 (9科目)	—	—	0	9	0	—	—	4	1	1	3	0	1				
他領域・他研究科専門科目																	2単位を上限として修了要件に算入することができる。 ただし、バイオメディカルサイエンス基盤科目は、6単位以上を修了要件に算入することができる。	
	小計 (一科目)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
健康科学領域専門科目	健康科学領域共通科目	健康科学研究共通特講 I	1前			2			○	2							6	オムニバス
		健康科学研究共通特講 II	1後			2			○	6	1	2	2				2	オムニバス
		IPW特講 I	1後			2			○		1						1	共同
		サイエンティフィック・イングリッシュ特講 I	1後			2			○	1							1	オムニバス、共同
		メディカルデータサイエンス特講 I	1前			2			○								3	オムニバス
	小計 (5科目)	—	—	0	10	0	—	—	8	2	2	2	0	13				
	看護学分野専門科目	看護教育特講 I	1前			2			○		1		2				2	共同
		看護研究特講 I	1前			2			○	3							3	オムニバス
		がん看護学特講 I	1前			2			○	1	1	1	1				3	共同
		がん看護学演習 I	1後			2			○	1	1	1						共同
		腫瘍学 I	1前			2			○		1							
		腫瘍学 II	1後			2			○		1							
		療養支援看護学特講 I	1前			2			○	1		1	3				2	共同
		実践看護学特講 I	1前			2			○	1		1	2					共同
		老年看護学特講 I	1前			2			○	1								
		精神看護学特講 I	1前			2			○	1			2					共同
		上級病態生理学	1前			2			○	6							1	オムニバス
		上級臨床薬理学	1前			2			○	6							1	オムニバス
		上級フィジカルアセスメント学	1後			2			○	2	1							オムニバス
		家族看護学特講 I	1前			2			○	1							3	オムニバス
母性看護学特講 I		1前			2			○	2	1		2				1	オムニバス	
地域・公衆衛生看護学特講 I	1通			2			○	1	2		2					共同		
看護学演習 I	1通			2			○	5	4									
看護倫理特講 I	1後			2			○	2	1		2				1	共同		
看護管理特講 I	1後			2			○	1			1				4	共同		
看護コンサルテーション特講 I	1後			2			○	1			1				4	オムニバス		
家族環境学	1前			2			○	2							2	オムニバス		
理論家族看護学	1前			2			○	2							2	オムニバス		
家族症候学	1前			2			○	2			1				2	オムニバス		
家族インターベンション学	1後			2			○	1							2	オムニバス		
健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	実践家族看護学	1後			2			○	1							3	オムニバス
		実践家族看護学演習	1後			2			○	1							1	オムニバス
		トランス文化家族看護学	1前			2			○	1							3	オムニバス
		こども保育期・教育期家族看護学	2前			2			○	1								
		家族看護学基盤実習	1通			2			○	1	1							共同
		家族看護学展開実習	2通			4			○	1	1							共同
		家族看護学統合実習	2通			4			○	1	1							共同
		家族看護学演習 I	1後			2			○	1								
		ハイリスク母性ケア論特講	1通			2			○	1	1		2				11	オムニバス ※演習
		創造助産学概論	1前			2			○	2	1						1	オムニバス
		生涯女性健康科学特講	1前			2			○	1	1						5	オムニバス
		生涯女性健康科学演習	1後			2			○	2							1	オムニバス
		高度実践助産技術学特講	1前			2			○		1						5	オムニバス
		高度実践助産技術学演習	1後			2			○	1	1		2				1	オムニバス
		高度周産期技術学特講	1前			2			○	1	1						1	オムニバス
高度周産期技術学演習	1後			2			○	1	1		2					共同		
助産管理学特講	2通			2			○								2	オムニバス		
地域母子保健特講 I	2前			1			○	2			1				1	オムニバス		
地域母子保健特講 II	2前			1			○	1							3	オムニバス		

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	助産学実習Ⅰ	1後		9			○	1	1	2			共同	
		助産学実習Ⅱ	1後		2			○	1	1	2			共同	
		助産学実習Ⅲ	2前		2			○	1	1	2			共同	
		助産学実習Ⅳ	2通		2			○	1	1	2			共同	
		疫学特講	1前		1			○	1	1			1	オムニバス	
		公衆衛生学特講	1前		2			○	3	1	2		6	オムニバス	
		保健統計学特講	1前		2			○	2	2	2			オムニバス	
		保健医療福祉論特講	1前		1			○	2				4	オムニバス	
		地域公共政策論特講	1前		1			○		1			2	オムニバス	
		医療経済論特講	1前		1			○		1			3	オムニバス	
		保健医療福祉論演習	1後		1					1	2			共同	
		公衆衛生看護学特講	1前		2			○	1	2	2			オムニバス	
		社会健康論特講	1前		1			○		1			1	オムニバス	
		個別支援論特講	1前		1			○		1		2		オムニバス	
		組織活動論特講	1前		1			○		1	2			オムニバス	
		地域看護診断論特講	1前		1			○		1	1	1		オムニバス	
		健康教育論特講	1前		1			○		1		1		オムニバス	
		産業保健特講	1後		1			○			1			3	オムニバス
		学校保健特講	1後		1			○			1	1		1	オムニバス
		公衆衛生看護管理特講	1後		1			○		1				3	オムニバス
		健康危機管理特講	1後		1			○			1			4	オムニバス
		公衆衛生看護展開演習Ⅰ	1後		1					1	1	2		1	共同
		公衆衛生看護展開演習Ⅱ	1通		2			○		1	2	2			共同
		公衆衛生看護展開演習Ⅲ	1通		2			○		1	2	2			共同
		公衆衛生看護展開演習Ⅳ	1後～2前		1			○		1	2	2			共同
		国際公衆衛生看護活動演習	2通		1			○		1		1			共同
		公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政）	2前		4					1	2	2			共同
		公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業）	2通		1					1	2	2			共同
		公衆衛生看護管理実習	2後		1					1	2	2			共同
		小計（72科目）	—	—	0	136	0	—	—	16	6	2	13	0	89
専門態解析分野	分析医科学特講Ⅰ	1前		2			○	1		1			2	オムニバス	
	細胞機能構造科学特講Ⅰ	1前		2			○	1	1					オムニバス	
	臨床免疫学特講Ⅰ	1前		2			○	1							
	ヒューマンヘルス特講Ⅰ	1前		2			○	4		2	1		1	オムニバス	
	病態解析学演習Ⅰ	1後		2				4	1	2					
	小計（5科目）	—	—	0	10	0	—	7	1	3	1	0	3		
専門リハビリテーション科学分野	リハビリテーション管理学Ⅰ	1前		2			○	1	1				6	オムニバス	
	リハビリテーション科学研究法Ⅰ	1前		2			○	1							
	基礎リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2			○	1	2					オムニバス	
	運動器リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2			○	3	2					オムニバス	
	神経リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2			○	1	2					オムニバス	
	内部リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2			○		1	1				オムニバス	
	脳機能リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2			○	1	1					オムニバス	
	精神科リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2			○	1	1		1			オムニバス	
	作業生活リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2			○	1	1		1			オムニバス	
	小計（16科目）	—	—	0	31	0	—	9	8	1	2	0	9		
健康科学領域専門科目	分野専門科目	デジタル重層支援特論	1前		2			3	2					オムニバス	
	デジタル重層支援演習	1後		1				1	2						
行動神経リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2			○	1	1					オムニバス		
生命情報融合論Ⅰ	1前		2			○						1			
医用画像情報科学Ⅰ	1前		2			○						1			
人間情報科学Ⅰ	1前		2			○						2	共同		
リハビリテーション科学演習Ⅰ	1後		2				7	8				2			
小計（16科目）	—	—	0	31	0	—	9	8	1	2	0	9			
科他領域・他研究														6単位を上限として修了要件に算入することができる。	
小計（一科目）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
未来社会医学領域専門科目	1 コア科目群	公衆衛生学・疫学Ⅰ	1前		1			○	1			1		4	オムニバス
		予防医学と保健の実践と評価Ⅰ	1後		1			○	2				2	オムニバス	
		臨床疫学Ⅰ	2前		1			○	1		1		2	オムニバス	
		小計（3科目）	—	—	0	3	0	—	2	0	0	1	0	8	
	2 コア科目群	臨床研究開発の実際	1前		1			○	2	2	1			1	オムニバス
		生物統計学Ⅰ	1後		1			○		1					
		生物統計学Ⅰ演習	1後～2前		1					1					
	小計（3科目）	—	—	0	3	0	—	2	3	1	0	0	1		
	3 コア科目群	環境保健学Ⅰ	1前		1			○	2	1				1	オムニバス
		産業環境保健学Ⅰ	1後		1			○	1						
人類生態学Ⅰ		2前		1			○	1	1					オムニバス	
小計（3科目）	—	—	0	3	0	—	3	2	0	0	0	1			

未来社会医学領域専門科目	4 コア科目群	保健医療政策学 I	1前		1		○		4	2			2	オムニバス	
		保健医療経済学 I	1後		1		○		1	3			1	オムニバス	
		グローバルヘルス I	2前		1		○		3	1				オムニバス	
		小計 (3科目)	—	—	0	3	0	—	8	5	0	0	0	3	
	5 目群	社会行動科学 I	1前		1		○					1		3	オムニバス
		健康教育・健康心理学 I	1後		1		○		1	1		1		1	オムニバス
		小計 (2科目)	—	—	0	2	0	—	1	1	0	1	0	3	
	発展科目	医療情報システム	1前		1		○		1	1				3	オムニバス
		医療情報解析学	2前		1		○			1				2	オムニバス
		健康危機管理	1前		1		○			1				6	オムニバス
災害保健学特講		1後		1		○		1					1	オムニバス	
感染症モデリング		2前		1		○		2					1	オムニバス	
EBPM		1後		1		○		3		1			1	オムニバス	
社会疫学・行動経済学		1後		1		○		2						オムニバス	
ヘルスサービスの評価		2前		1		○		2					1	オムニバス	
地域医療システム特講		2前		1		○		3					4	オムニバス	
小計 (9科目)	—	—	0	9	0	—	8	2	0	1	0	17			
他領域専門・他研究														6単位を上限として修了要件に算入することができる。	
	小計 (一科目)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
総合科目・専門知	先進生命医科学プロジェクト研究A	1~2		14			○	15	0	0	0	0	0		
	先進生命医科学プロジェクト研究B	1~2		6			○	9	4	0	0	0	0		
	先進生命医科学プロジェクト研究C	1~2		8			○	16	11	0	0	0	0		
	先進生命医科学プロジェクト研究D	1~2		6			○	11	4	0	0	0	0		
	プレゼンテーション演習	2通		2			○	51	19	0	0	0	0		
	小計 (5科目)	—	—	2	34	0	—	51	19	0	0	0	0		
合計 (182科目)				—	—	6	324	0	—	55	34	11	32	0	194
学位又は称号	修士 (バイオメディカルサイエンス)													医学関係	
	修士 (医工学)													工学関係, 医学関係	
	修士 (保健学)													保健衛生学関係 (看護学関係), 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。), 保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)	
	修士 (公衆衛生学)													保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	
学位又は学科の分野															

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
<p>当該課程に2年以上在学し、各領域の定める履修要件に従って30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会において、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。</p>	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15 週
	1 時限の授業の標準時間	90 分
<p>1. バイオメディカルサイエンス領域</p> <p>(1) 総合知科目から4単位、総合知・専門知結合科目から16単位 (2) バイオメディカルサイエンス基盤科目から6単位以上 (3) 他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、4単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>ただし、次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース及び次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コースに所属する学生は、以下のとおりとする。</p> <p>次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース履修要件 (1) 総合知・専門知結合科目から16単位 (2) がんプログラム科目のうち次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目（必修科目）の計7単位 (3) バイオメディカルサイエンス基盤科目の生命科学特論、疾患学特論、あるいは、がんプログラム科目のうち次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目（選択科目）、あるいは、他領域・他研究科専門科目のうち、計7単位以上 ただし、他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、4単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>【次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目（必修科目）】 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）、放射線治療計画基本演習 【次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目の（選択科目）】 基礎解剖学、原子核物理学、放射線物理学、統計学、保健物理学、放射線診断物理学、放射線治療物理学、放射線計測学、情報処理学、医療情報学、放射線診断学、放射線生物学、放射線関連法規及び勧告、核医学物理学、核医学、放射線腫瘍学、医療・画像情報学演習、核医学物理学演習、放射線診断物理学演習、保健物理学演習、放射線計測学演習、科学英語、放射線治療計画臨床研究</p> <p>次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース履修要件 (1) 総合知・専門知結合科目から16単位 (2) がんプログラム科目のうち次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目（必修科目）の計12単位 (3) バイオメディカルサイエンス基盤科目の生命科学特論、疾患学特論、薬物治療・創薬学特論、あるいは、がんプログラム科目のうち次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目（選択科目）、あるいは、他領域・他研究科専門科目のうち、計2単位以上 ただし、他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、4単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>【次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目（必修科目）】 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）、リハビリテーション医学、がんリハビリテーション学、がんリハビリテーション演習 【次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目（選択科目）】 基礎解剖学、統計学、放射線腫瘍学、科学英語</p>		
<p>2. 医療創成工学領域</p> <p>(1) 総合知科目から4単位、総合知・専門知結合科目から8単位 (2) イノベーション科目から3単位 (3) オペレーション科目から3単位 (4) 実践創造実習から4単位 (5) 工学系科目から2単位 (6) 専門科目及びバイオメディカルサイエンス領域のバイオメディカルサイエンス基盤科目から計6単位以上 (7) 他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、2単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>ただし、他領域・他研究科専門科目とは、バイオメディカルサイエンス領域のバイオメディカルサイエンス基盤科目を除く。</p> <p>修士論文研究では、学生は医療現場にて実践したニーズ探索を起点として、新しい医療創成につながる機器開発やその主要機能改良を可能とする応用研究に取り組み、論文としてまとめ上げる。特定課題研究では、学生は医療機器の初期開発過程を実践し、その実施及び思考過程を特定課題報告としてまとめ上げる。</p>		

3. 健康科学領域

- (1) 総合知科目 4 単位，総合知・専門知結合科目 10 単位の計 14 単位
- (2) 健康科学領域共通科目から 2 単位以上
- (3) 指導教員の指定する専門科目 4 単位以上（特講又は CNS 専門科目から 2 単位以上，演習 2 単位以上）
- (4) 他領域・他研究科専門科目を履修し，単位修得した場合は，6 単位を上限として修了要件に算入することができる。

助産師コースの履修要件

指導教員の指導を受けて，総合知科目 4 単位，総合知・専門知結合科目 10 単位，健康科学領域共通科目 2 単位以上及び専門科目 4 単位以上（特講 2 単位以上，演習 2 単位以上）を含めて 30 単位以上（助産師専門科目を除く。）並びに助産師専門科目 35 単位を修得しなければならない。

【助産師専門科目】

創造助産学概論，生涯女性健康科学特講，生涯女性健康科学演習，高度実践助産技術学特講，高度実践助産技術学演習，高度周産期技術学特講，高度周産期技術学演習，ハイリスク母性ケア論特講，地域母子保健特講Ⅰ，地域母子保健特講Ⅱ，助産管理学特講，助産学実習Ⅰ，助産学実習Ⅱ，助産学実習Ⅲ，助産学実習Ⅳ

保健師コースの履修要件

指導教員の指導を受けて，総合知科目 4 単位，総合知・専門知結合科目 10 単位，健康科学領域共通科目 2 単位以上及び専門科目 4 単位以上（特講 2 単位以上，演習 2 単位以上）を含めて 30 単位以上（保健師専門科目を除く。）並びに保健師専門科目 33 単位を修得しなければならない。

【保健師専門科目】

疫学特講，公衆衛生学特講，保健統計学特講，保健医療福祉論特講，地域公共政策論特講，医療経済論特講，保健医療福祉論演習，公衆衛生看護学特講，社会健康論特講，個別支援論特講，組織活動論特講，健康教育論特講，産業保健特講，学校保健特講，地域看護診断論特講，公衆衛生看護展開演習Ⅰ，公衆衛生看護展開演習Ⅱ，公衆衛生看護展開演習Ⅲ，公衆衛生看護展開演習Ⅳ

国際公衆衛生看護活動演習，公衆衛生看護管理特講，健康危機管理特講，公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政），公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業），公衆衛生看護管理実習

4. 未来社会医学領域

- (1) 総合知科目 4 単位，総合知・専門知結合科目 8 単位の計 12 単位
- (2) コア科目群 1 からコア科目群 5 で計 14 単位
- (3) 指導教員の指定する発展科目 2 単位以上
- (4) 他領域・他研究科専門科目を履修し，単位修得した場合は，6 単位を上限として修了要件に算入することができる。

教育課程等の概要																
(医学研究科博士課程後期課程医療創成工学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外(助手を除く)の教員	
マネジメント科目	プロジェクトマネジメント学特論	1後/3Q	/	1			○			2		1			2	オムニバス
	ビジネスプランニング学特論	1後/4Q	/	1			○			1	1				2	オムニバス
	アントレプレナー・リーダーシップ学特論	2前/1Q	/	1			○			2					7	オムニバス
	医療機器国際開発特論	2前/2Q	/	1			○			1	1				8	オムニバス
	小計(4科目)	—	—	4	0	0	—	—	—	5	2	1	0	0	18	
先端医学研究先	先端医学シリーズ	1後	/			1	○								1	
	先端医学トピックス	1通	/			1	○								1	
	小計(2科目)	—	—	0	0	2	—	—	0	0	0	0	0	0	2	
特別大学院講義	大学院特別英語	1通	/			1	○								1	
	小計(1科目)	—	—	0	0	1	—	—	0	0	0	0	0	0	1	
シタインテンション	ジョブ型研究インターンシップ	1前~3後	/			2			○	9	4					共同
	小計(1科目)	—	—	0	0	2	—	—	9	4	0	0	0	0	0	
特別研究	特別研究	1前~3後	/	6				○		9	4					
	小計(1科目)	—	—	6	0	0	—	—	9	4	0	0	0	0	0	
合計(9科目)		—	—	10	0	5	—	—	9	4	1	0	0	0	21	
学位又は称号		博士(医工学)				学位又は学科の分野				工学関係, 医学関係						
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等							
原則として課程に3年以上在学し, 以下に示す履修基準に従って合計10単位を修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 博士学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。 履修基準として, 「マネジメント科目」4単位, 特別研究6単位の合計10単位を履修する。 なお, 選択科目群の履修は修了要件には含まない。									1学年の学期区分			4期				
									1学期の授業期間			8週				
									1時限の授業の標準時間			90分				

教育課程等の概要																
(医学系研究科博士課程後期課程健康科学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員	
共通科学専攻	健康科学研究共通特講Ⅲ	1前	/		2		○			1					7	オムニバス
	健康科学研究共通特講Ⅳ	1後			2		○			4	1	2	2		4	オムニバス
	サイエンティフィック・イングリッシュ特講Ⅱ	1後			2		○			1					1	オムニバス、共同
	メディカルデータサイエンス特講Ⅱ	1前			2		○								3	オムニバス
	小計(4科目)	—		—	0	8	0	—	—	—	6	1	2	2	0	14
看護学分野専門科目	がん看護学特講Ⅱ	1前	/		2		○			1		1	1		4	共同
	がん看護学演習Ⅱ	1後			2			○		1		1			1	共同
	腫瘍学Ⅲ	1前			2		○								1	
	腫瘍学Ⅳ	1後			2		○								1	
	療養支援看護学特講Ⅱ	1前			2		○			1		1	1		2	共同
	実践看護学特講Ⅱ	1前			2		○						2		1	共同
	老年看護学特講Ⅱ	1前			2		○			1						
	精神看護学特講Ⅱ	1前			2		○			1			2			共同
	家族看護学特講Ⅱ	1前			2		○			1						
	母性看護学特講Ⅱ	1前			2		○			1					1	オムニバス
	地域・公衆衛生看護学特講Ⅱ	1通			2		○			1	2					共同
	看護学演習Ⅱ	1通			2			○		5	2				1	
	小計(12科目)	—		—	0	24	0	—	—	—	5	2	1	5	0	8
専門科解析分野	分析医科学特講Ⅱ	1前	/		2		○			1		1			2	オムニバス
	細胞機能構造科学特講Ⅱ	1前			2		○			1	1					オムニバス
	臨床免疫学特講Ⅱ	1前			2		○			1						
	ヒューマンヘルスト講Ⅱ	1前			2		○			2		2	1		3	オムニバス
	病態解析学演習Ⅱ	1後			2			○		4	1	2				
	小計(5科目)	—		—	0	10	0	—	—	—	5	1	3	1	0	5
リハビリテーション科学分野専門科目	リハビリテーション管理学Ⅱ	1前	/		2		○			1	1				6	オムニバス
	リハビリテーション科学研究法Ⅱ	1前			2		○			1						
	基礎リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2		○			1	2					オムニバス
	運動器リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2		○			3	2		1			オムニバス
	神経リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2		○			1	2					オムニバス
	内部リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2		○				1	1				オムニバス
	脳機能リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2		○			1					1	オムニバス
	精神科リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2		○			1	1		1			オムニバス
	作業生活リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2		○			1	1		1			オムニバス
	行動神経リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2		○			1	1					オムニバス
	生命情報融合論Ⅱ	1前			2		○								1	
医用画像情報科学Ⅱ	1前		2		○								1			
人間情報科学Ⅱ	1前		2		○								2	共同		
リハビリテーション科学演習Ⅱ	1後		2			○		7	7				3			
小計(14科目)	0	—	0	28	0	—	—	—	7	7	1	3	0	10		
研特	特別研究	1～3	/		4			○		13	9					
	小計(1科目)	—		—	4	0	0	—	—	13	9	0	0	0	0	
目とその他	ジョブ型研究インターンシップ	1通	/			2			○	1						
	小計(1科目)	—		—	0	0	2	—	—	1	0	0	0	0	0	
合計(37科目)		—	—	4	70	2	—	—	—	16	10	4	9	0	31	
学位又は称号	博士(保健学)			学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係) 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。) 保健衛生学関係(リハビリテーション関係)								

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
後期課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、次の各号に定める科目区分の単位を含めて12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会が別に定めるところにより、優れた業績を上げた者と認めた場合は、1年（2年未満の在学期間をもって修士課程、前期課程又は専門職学位課程を修了した者にあつては、当該在学期間を含めて3年）以上在学すれば足りるものとする。 (1) 特別研究4単位 (2) 健康科学専攻共通科目から2単位以上 (3) 指導教員の指定する専門科目から4単位以上（特講2単位以上、演習2単位以上） ただし、ジョブ型研究インターンシップの単位は修了要件に含まない。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業の標準時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要																
(医学系研究科博士課程後期課程未来社会医学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)
総合 知基盤 科目	アントレプレナー・リーダーシップ学特論	2前/1Q	/		1			○							9	オムニバス
	プロジェクトマネジメント学特論	1後/3Q	/		1			○							5	オムニバス
	サイエンティフィック・イングリッシュ特講Ⅱ	1後	/		2			○							2	オムニバス、共同
	小計(3科目)	—	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	15	
1 コア 科目 群	公衆衛生学・疫学Ⅱ	1前	/		1			○			1				4	オムニバス
	予防医学と保健の実践と評価Ⅱ	1後	/		1			○			3				2	オムニバス
	臨床疫学Ⅱ	1前	/		1			○			1				2	オムニバス
	小計(3科目)	—	—	0	3	0		—		3	0	0	1	0	8	
2 コア 科目 群	臨床研究開発の実践	1前	/		1			○			1	4	1			オムニバス
	生物統計学Ⅱ	1前	/		1			○			1					
	生物統計学Ⅱ演習	1後～2前	/		1				○		1					
	小計(3科目)	—	—	0	3	0		—		1	4	1	0	0	0	
3 コア 科目 群	環境保健学Ⅱ	1前	/		1			○			1	1	1			オムニバス
	産業環境保健学Ⅱ	1通	/		1			○			1					
	人類生態学Ⅱ	1後	/		1			○			1	1				オムニバス
	小計(3科目)	—	—	0	3	0		—		2	2	1	0	0	1	
コア 科目 群 4	保健医療政策学Ⅱ	1前	/		1			○			4	2				オムニバス
	保健医療経済学Ⅱ	1前	/		1			○			3	2				オムニバス
	医療経営学	1後	/		1			○			1	3				オムニバス
	グローバルヘルスⅡ	2通	—		1			○			3	1				オムニバス
	小計(4科目)	—	—	0	4	0		—		8	5	0	0	0	3	
発 展 科 目	基礎医学・臨床医学特論	1前	/		1			○			4					オムニバス
	社会行動科学Ⅱ	1前	/		1			○					1		3	オムニバス
	ジョブ型研究インターンシップ	1通	/			2			○		1					
	小計(3科目)	—	—	0	2	2		—		5	0	0	1	0	7	
研 究 別	特別研究	1～3	/		4				○		11	4				
	小計(1科目)	—	—	4	0	0		—		11	4	0	0	0	0	
合計(20科目)		—	—	4	19	2		—		13	10	2	1	0	33	
学位又は称号	博士(公衆衛生学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)									
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等						
当該課程に3年以上在学し、次の各号に定める科目区分の単位を含めて12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会が別に定めるところにより、優れた業績を上げた者と認めた場合は、1年(2年未満の在学期間をもって修士課程、前期課程又は専門職学位課程を修了した者)にあっては、当該在学期間を含めて3年以上在学すれば足りるものとする。 (1) 特別研究4単位 (2) コア科目群1からコア科目群4の各科目区分においてそれぞれ1単位以上 (3) 総合知基盤科目または発展科目から2単位以上 ただし、ジョブ型研究インターンシップの単位は修了要件に含まない。										1学年の学期区分			2期			
										1学期の授業期間			15週			
										1時限の授業の標準時間			90分			

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(医学系研究科博士課程医科学専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択必修	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)	
基礎共通科目	コア講義	1前	/		1			○			2	1		4		1	オムニバス
	コア実習	1後			1					○	1						
	小計(2科目)	-		-	0	2	0		-			3	1	0	4	0	
講義先端研	先端医学シリーズ	1後	/		1			○								1	
	先端医学トピックス	1通			1			○			1						
	小計(2科目)	-		-	0	2	0		-			1	0	0	0	0	1
大学院特別講義	大学院特別英語	1通	/		1			○								1	共同 オムニバス 共同 共同 共同 オムニバス オムニバス 共同 オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	リサーチ・プロポーザル	1後			1			○			1						
	生命科学論文・申請書作成特論	1通			1			○			1						
	発生・再生医学特論	1通			1			○			1						
	産学連携特論	1前			1			○			1						
	生命倫理特論	1前			1			○			1						
	グローバルメディカルサイエンス特別講義	1後			1			○			2						
	次世代がんプロフェッショナル養成特論	1後			1			○			2	1	1	4			
	腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)	1前			2			○			2						
	腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)	1後			2			○			2						
	医療機器コンセプト創造学特論	1前/2Q			1			○								6	
	医療機器レギュラトリーサイエンス学特論	1前/1Q			1			○								10	
	医療機器ビジネス学特論	1前/1Q			1			○								8	
	医療機器コンセプト創造演習	1前/2Q			1				○							6	
	医用材料工学	1前/2Q			1				○							2	
	医用有機化学	1前/2Q			1				○							1	
	AI・深層学習	1後/3Q			1				○							1	
	医療機器・システム英語特別講義	1後/3Q			1				○							4	
	医療機器・システム設計概論	1前/2Q			1				○							4	
	医療機器・システム設計演習	1前/2Q			1					○						7	
	データサイエンス演習	1後/4Q			1					○						2	
	ジョブ型研究インターンシップ	1前-4後			2						○	1					
	ラボ・ローテーション	1後			1						○	1					
小計(23科目)	-	-	0	26	0		-			8	1	1	4	0	31		
生理学・細胞生物学	膜動態学特別研究Ⅰ	1前	/		6				○		1						
	膜動態学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1						
	膜動態学演習	1後			3				○		1						
	細胞生理学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○			1					
	細胞生理学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○			1					
	細胞生理学演習	1後			3				○			1					
	生理学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○			1					
	生理学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○			1					
	生理学演習	1前-4後			3				○			1					
	神経情報伝達学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○			1					
	神経情報伝達学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○			1					
	神経情報伝達学演習	1前-4後			3				○			1					
	生体構造解剖学特別研究Ⅰ	1前			6				○			1					
	生体構造解剖学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○			1					
	生体構造解剖学演習	1後			3				○			1					
	神経分化・再生特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○				1				
	神経分化・再生特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○			1					
	神経分化・再生演習	1前-4後			3				○			1					
	発生・再生医学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○						1		
	発生・再生医学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○						1		
	発生・再生医学演習	1前-4後			3				○						1		
小計(21科目)	-	-	0	91	0		-			3	2	1	0	0	1		
生化学・分子生物学	分子細胞生物学特別研究Ⅰ	1前-4後	/		6				○		1						
	分子細胞生物学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1						
	分子細胞生物学演習	1前-4後			3				○		1						
	細胞医学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○		1						
	細胞医学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1						
	細胞医学演習	1前-4後			3				○		1						
膜生物学特別研究Ⅰ	1前		6				○		1								

生化学・分子生物学	膜生物学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	膜生物学演習	1後		3			○		1									
	超微構造生物学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○								1			
	超微構造生物学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○								1			
	超微構造生物学演習	1前-4後		3			○								1			
	薬理学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1									
	薬理学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	薬理学演習	1前-4後		3			○		1									
小計 (15科目)	-	-	0	65	0		-		3	0	0	0	0	0	1			
病理学	分子病理学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1									
	分子病理学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	分子病理学演習	1前-4後		3			○		1									
	分子病理学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	病理診断学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1									
	病理診断学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	病理診断学演習	1後		3			○		1									
	病理診断学臨床実習	1後		2			○		1									
小計 (8科目)	-	-	0	30	0		-		2	0	0	0	0	0	0			
微生物感染症学	臨床ウイルス学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1									
	臨床ウイルス学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	臨床ウイルス学演習	1前-4後		3			○		1									
	感染制御学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1									
	感染制御学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	感染制御学演習	1後		3			○		1									
	感染治療学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1									
	感染治療学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	感染治療学演習	1前-4後		3			○		1									
	感染治療学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	感染症フィールド学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1									
	感染症フィールド学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	感染症フィールド学演習	1後		3			○		1									
	ウイルス感染学特別研究Ⅰ	1前		6			○								1			
	ウイルス感染学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○								1			
	ウイルス感染学演習	1後		3			○								1			
	免疫制御学特別研究Ⅰ	1前		6			○								1			
	免疫制御学特別研究Ⅱ	1後		4			○								1			
	免疫制御学演習	1前-4後		3			○								1			
	遺伝子医薬学特別研究Ⅰ	1前		6			○								1			
	遺伝子医薬学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○								1			
	遺伝子医薬学演習	1後		3			○								1			
小計 (22科目)	-	-	0	93	0		-		3	0	0	0	0	0	3			
地域社会医学・健康科学	医療法・倫理学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1									
	医療法・倫理学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	医療法・倫理学演習	1前-4後		3			○		1									
	医薬食品評価科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1									
	医薬食品評価科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	医薬食品評価科学演習	1後		3			○		1									
	法医学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1									
	法医学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	法医学演習	1後		3			○		1									
	地域連携病理学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1		1						共同	
	地域連携病理学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1		1							共同
	地域連携病理学演習	1後		3			○		1		1							共同
	地域連携病理学臨床実習	1前-4後		2			○		1		1							共同
小計 (13科目)	-	-	0	54	0		-		4	0	1	0	0	0	0			
未来医学	幹細胞医学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1									
	幹細胞医学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	幹細胞医学演習	1後		3			○		1									
	免疫学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1									
	免疫学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	免疫学演習	1前-4後		3			○		1									
	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		2								共同	
	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		2								共同	
小計 (9科目)	-	-	0	39	0		-		4	0	0	0	0	0	0			
内科学	循環器内科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1									
	循環器内科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	循環器内科学演習	1前		3			○		1									
	循環器内科学臨床実習	1後		2			○		1									
	不整脈先端治療学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1									
	不整脈先端治療学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1									
	不整脈先端治療学演習	1後		3			○		1									
	不整脈先端治療学臨床実習	1後		2			○		1									

内科系	小児神経学・発達行動小児科学特別研究 I	1前-4後		6		○	1								
	小児神経学・発達行動小児科学特別研究 II	1前-4後		4		○	1								
	小児神経学・発達行動小児科学演習	1前-4後		3		○	1								
	小児神経学・発達行動小児科学臨床実習	1前-4後		2		○	1								
	皮膚科学特別研究 I	1前-4後		6		○	1								
	皮膚科学特別研究 II	1前-4後		4		○	1								
	皮膚科学演習	1前-4後		3		○	1								
	皮膚科学臨床実習	1前-4後		2		○	1								
	精神医学特別研究 I	1前		6		○	1								
	精神医学特別研究 II	1前-4後		4		○	1								
	精神医学演習	1後		3		○	1								
	精神医学臨床実習	1前-4後		2		○	1								
	精神疾患高度医療探索学特別研究 I	1前		6		○								1	
	精神疾患高度医療探索学特別研究 II	1前-4後		4		○								1	
	精神疾患高度医療探索学演習	1後		3		○								1	
	精神疾患高度医療探索学臨床実習	1前-4後		2		○								1	
	臨床検査医学特別研究 I	1前-4後		6		○	1								
	臨床検査医学特別研究 II	1前-4後		4		○	1								
	臨床検査医学演習	1前-4後		3		○	1								
	臨床検査医学臨床実習	1前-4後		2		○	1								
	医療情報学特別研究 I	1前		6		○	1								
	医療情報学特別研究 II	1前-4後		4		○	1								
	医療情報学演習	1後		3		○	1								
	医療情報学臨床実習	1前-4後		2		○	1								
	先端緩和医療学特別研究 I	1前-4後		6		○	1								
先端緩和医療学特別研究 II	1前-4後		4		○	1									
先端緩和医療学演習	1前-4後		3		○	1									
先端緩和医療学臨床実習	1前-4後		2		○	1									
病態情報学特別研究 I	1前		6		○	1									
病態情報学特別研究 II	1前-4後		4		○	1									
病態情報学演習	1後		3		○	1									
病態情報学臨床実習	1前-4後		2		○	1									
薬剤学特別研究 I	1前-4後		6		○	1									
薬剤学特別研究 II	1前-4後		4		○	1									
薬剤学演習	1前-4後		3		○	1									
薬剤学臨床実習	1前-4後		2		○	1									
システム病態生物学特別研究 I	1前		6		○									1	
システム病態生物学特別研究 II	1前-4後		4		○									1	
システム病態生物学演習	1後		3		○									1	
小児先端医療学特別研究 I	1前		6		○									1	
小児先端医療学特別研究 II	1前-4後		4		○									1	
小児先端医療学演習	1後		3		○									1	
小児先端医療学臨床実習	1前-4後		2		○									1	
ゲノム医療学特別研究 I	1前		6		○	1									
ゲノム医療学特別研究 II	1前-4後		4		○	1									
ゲノム医療学演習	1後		3		○	1									
ゲノム医療学臨床実習	1前-4後		2		○	1									
小計 (79科目)	-	-	0	298	0	-	11	1	0	0	0	0	4		
外科学	食道胃腸外科学特別研究 I	1前-4後		6		○	1								
	食道胃腸外科学特別研究 II	1前-4後		4		○	1								
	食道胃腸外科学演習	1前-4後		3		○	1								
	食道胃腸外科学臨床実習	1前-4後		2		○	1								
	肝胆膵外科学特別研究 I	1前-4後		6		○	1	1							
	肝胆膵外科学特別研究 II	1前-4後		4		○	1	1							
	肝胆膵外科学演習	1前		3		○	1	1							
	肝胆膵外科学臨床実習	1後		2		○	1	1							
	乳腺内分泌外科学特別研究 I	1前		6		○		1							
	乳腺内分泌外科学特別研究 II	1後		4		○		1							
	乳腺内分泌外科学演習	1前-4後		3		○		1							
	乳腺内分泌外科学臨床実習	1前-4後		2		○		1							
	心臓血管外科学特別研究 I	1前		6		○	1								
	心臓血管外科学特別研究 II	1前-4後		4		○	1								
	心臓血管外科学演習	1後		3		○	1								
	心臓血管外科学臨床実習	1後		2		○	1								
	心臓血管外科先端医療学特別研究 I	1前		6		○									1
	心臓血管外科先端医療学特別研究 II	1前-4後		4		○									1
	心臓血管外科先端医療学演習	1後		3		○									1
	心臓血管外科先端医療学臨床実習	1前-4後		2		○									1
	呼吸器外科学特別研究 I	1前-4後		6		○	1								
	呼吸器外科学特別研究 II	1前-4後		4		○	1								
	呼吸器外科学演習	1前-4後		3		○	1								
	呼吸器外科学臨床実習	1前-4後		2		○	1								
	小児外科学特別研究 I	1前-4後		6		○	1								

外科学	小児外科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1												
	小児外科学演習	1前-4後		3			○		1												
	小児外科学臨床実習	1前-4後		2			○		1												
	低侵襲外科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1												
	低侵襲外科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1												
	低侵襲外科学演習	1前-4後		3			○		1												
	低侵襲外科学臨床実習	1前-4後		2			○		1												
	国際医療連携推進学特別研究Ⅰ	1前		6			○		2											共同	
	国際医療連携推進学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		2												共同
	国際医療連携推進学演習	1後		3			○		2												共同
	国際医療連携推進学臨床実習	1前-4後		2			○		2												共同
小計(36科目)	-	-	0	135	0		-		8	1	0	0	0	0	1						
外科系	整形外科特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1												
	整形外科特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1												
	整形外科演習	1前-4後		3			○		1												
	整形外科臨床実習	1前-4後		2			○		1												
	リハビリテーション運動機能学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○													1	
	リハビリテーション運動機能学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○														1
	リハビリテーション運動機能学演習	1前-4後		3			○														1
	リハビリテーション運動機能学臨床実習	1前-4後		2			○														1
	リハビリテーション機能回復学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1												
	リハビリテーション機能回復学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1												
	リハビリテーション機能回復学演習	1前-4後		3			○		1												
	リハビリテーション機能回復学臨床実習	1前-4後		2			○		1												
	脳神経外科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1												
	脳神経外科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1												
	脳神経外科学演習	1前-4後		3			○		1												
	脳神経外科学臨床実習	1前-4後		2			○		1												
	眼科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1												
	眼科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1												
	眼科学演習	1前-4後		3			○		1												
	眼科学臨床実習	1前-4後		2			○		1												
	難治性網膜視神経変性治療学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○														1
	難治性網膜視神経変性治療学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○														1
	難治性網膜視神経変性治療学演習	1前-4後		3			○														1
	難治性網膜視神経変性治療学臨床実習	1前-4後		2			○														1
	耳鼻咽喉科頭頸部外科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○			1											
	耳鼻咽喉科頭頸部外科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○			1											
	耳鼻咽喉科頭頸部外科学演習	1前		3			○			1											
	耳鼻咽喉科頭頸部外科学臨床実習	1前-4後		2			○			1											
	腎泌尿器科学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1												
	腎泌尿器科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1												
	腎泌尿器科学演習	1後		3			○		1												
	腎泌尿器科学臨床実習	1後		2			○		1												
	泌尿器先端医療開発学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1												
	泌尿器先端医療開発学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1												
	泌尿器先端医療開発学演習	1後		3			○		1												
	泌尿器先端医療開発学臨床実習	1前-4後		2			○		1												
	産科生殖医学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		2												
	産科生殖医学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		2												
	産科生殖医学演習	1前		3			○		2												
	産科生殖医学臨床実習	1前-4後		2			○		2												
	婦人科先端医療学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1												
	婦人科先端医療学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1												
	婦人科先端医療学演習	1後		3			○		1												
	婦人科先端医療学臨床実習	1後		2			○		1												
	形成外科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○			1											
	形成外科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○			1											
	形成外科学演習	1前-4後		3			○			1											
形成外科学臨床実習	1前-4後		2			○			1												
麻酔科学特別研究Ⅰ	1前		6			○															
麻酔科学特別研究Ⅱ	1前		4			○															
麻酔科学演習	1前		3			○															
麻酔科学臨床実習	1前		2			○															
口腔外科学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1													
口腔外科学特別研究Ⅱ	1前		4			○		1													
口腔外科学演習	1後		3			○		1													
口腔外科学臨床実習	1後		2			○		1													
災害・救急医学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		2													
災害・救急医学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		2													
災害・救急医学演習	1前		3			○		2													
災害・救急医学臨床実習	1前-4後		2			○		2													
先進救命救急医学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1													

外科系	先進救命救急医学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1						
	先進救命救急医学演習	1前-4後		3			○		1						
	先進救命救急医学臨床実習	1前-4後		2			○		1						
	小児高度専門外科学特別研究Ⅰ	1前		6			○						1		
	小児高度専門外科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○						1		
	小児高度専門外科学医学演習	1後		3			○						1		
	小児高度専門外科学臨床実習	1前-4後		2			○						1		
小計 (68科目)		-	-	0	255	0	-		10	2	1	0	0	3	
合計 (346科目)		-	-	0	1270	0	-		49	10	4	8	0	47	
学位又は称号		博士 (医学)		学位又は学科の分野		医学関係									
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等							
4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者と認めた場合は、3年以上在学すれば足りるものとする。								1 学年の学期区分				2学期			
								1 学期の授業期間				15週			
								1 時限の授業の標準時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(医学系研究科博士課程前期課程先進生命医学系専攻)																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)		
総合 知 科 目	先進生命医学概論	1前/1Q	/	1							3					1	オムニバス	
	総合知概論	1前/1Q	/	1							1							
	学びのデザイン	1通	/	2							22	4						
	小計(3科目)	—	—	4	0	0					22	4	0	0	0	1		
バイ オ メ デ ィ カ ル サ イ エ ン ス 領 域 専 門 科 目	生命科学特論	1前	/		2						3	5	1	4		3	オムニバス	
	疾患学特論	1前	/		2						4	2	1	1		3	オムニバス	
	社会医学・生命倫理・安全	1前	/		2						2			2		5	オムニバス	
	薬物治療・創薬学特論	1前	/		2						3	1				11	オムニバス	
	微生物感染症・免疫学特論	1前	/		2						4	2		2		7	オムニバス	
	小計(5科目)	—	—	0	10	0					14	10	2	9	0	35		
	がん プ ロ グ ラ ム 科 目	腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)	1後	/		2						2						共同
		腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)	1後	/		2						2						共同
		放射線治療計画基本演習	1前	/		3						1	1	1	2			共同
		リハビリテーション医学	1前	/		2						1						共同
		がんリハビリテーション学	1後	/		2						1						共同
		がんリハビリテーション演習	1~2	/		4						1						共同
		基礎解剖学	1前	/		2						1	2		2		2	共同
		原子核物理学	2前	/		2									1			共同
		放射線物理学	1後	/		2									1			共同
		統計学	1通	/		1						1			1			共同
		保健物理学	2通	/		2									1		1	オムニバス
		放射線診断物理学	1後	/		2									1			共同
		放射線治療物理学	1後	/		2									2			共同
		放射線計測学	1通	/		2									2			オムニバス
		情報処理学	2前	/		1											1	
		医療情報学	2前	/		1											1	
		放射線診断学	2前	/		1											1	
		放射線生物学	2前	/		2						1	1	1	2			共同
		放射線関連法規及び勧告	1後	/		1									1			
		核医学物理学	2前	/		1									1			
		核医学	2前	/		1							1		1			オムニバス
		放射線腫瘍学	2前	/		2						1	1	1	2			オムニバス
		医療・画像情報学演習	2前	/		1									1		1	オムニバス
核医学物理学演習	2前	/		1									1					
放射線診断物理学演習	2後	/		1									1					
保健物理学演習	2前	/		1									1					
放射線計測学演習	1前	/		1									1					
科学英語	1後	/		1											1			
放射線治療計画臨床研究	2後	/		3							1	1	1	2			共同	
小計(29科目)	—	—	—	0	49	0					4	3	1	6	0	6		
究 他 科 領 域 専 門 ・ 科 他 目 研																	4単位を上限として修了要件に算入することができる。	
	小計(1科目)	—	—	—	—	—					—	—	—	—	—	—		
科 学 領 域 創 造 専 門 工 程	医療機器コンセプト創造学特論	1前/1Q	/		1						4	1				1	共同	
	医療機器コンセプト創造演習	1前/1Q	/		1						4	1				1	共同	
	医療機器社会実装学特論	2前/1Q	/		1						2	1				7	オムニバス	
	小計(3科目)	—	—	0	3	0					6	2	0	0	0	8		
医 療 創 成 工 学 領 域 専 門 科 目	医療機器レギュラトリーサイエンス学特論	1後/3Q	/		1						3					7	オムニバス	
	医療機器ビジネス学特論	1後/3Q	/		1						2	1				5	オムニバス	
	医療機器品質マネジメント学特論	2前/1Q	/		1						1	1				3	オムニバス	
	小計(3科目)	—	—	0	3	0					5	1	0	0	0	15		
	ニース探索臨床現場実習	1前/2Q	/		2						4	3	1	3				オムニバス
	医療機器コンセプト創造実習	1前/2Q	/		2						4	3	1	3				オムニバス
	小計(2科目)	—	—	0	4	0					4	3	1	3	0	0		
目 系 工 学 科 学	医療機器・システム設計概論	1前/2Q	/		1						2	1				1	オムニバス	
	小計(1科目)	—	—	0	1	0					2	1	0	0	0	1		

医療創成工学領域専門科目	専門科目	インターンシップ	1通			1			○		3								1	共同		
		医用材料工学	1前/2Q			1			○		1										オムニバス	
		医用有機化学	1前/2Q			1			○		1											
		医用センシング	1後/3Q			1			○		1											
		計測技術概論	1前/1Q			1			○		3	1									オムニバス	
		プログラミング演習	1前/1Q			1				○		1			1							オムニバス
		AI・深層学習	1後/3Q			1			○													
		データサイエンス演習	1後/4Q			1				○		1	1									オムニバス
		医療機器・システム英語特別講義	1後/3Q			1				○		2	1		1							オムニバス
	小計 (9科目)		—	—	0	9	0		—		4	1	1	3	0	1						
他領域・他研究科専門科目																				2単位を上限として修了要件に算入することができる。 ただし、バイオメディカルサイエンス基盤科目は、6単位以上を修了要件に算入することができる。		
	小計 (—科目)		—	—	—	—		—		—	—	—	—	—	—	—						
目門総合知合・科専		先進生命医科学プロジェクト研究A	1～2			14			○		15											
		先進生命医科学プロジェクト研究B	1～2			6			○		9	4										
		プレゼンテーション演習	2通		2				○		24	4										
		小計 (3科目)		—	—	2	20	0		—	24	4	0	0	0	0						
合計 (58科目)			—	—	6	99	0		—	32	17	5	18	0	64							
学位又は称号	修士 (バイオメディカルサイエンス)		学位又は学科の分野							医学関係												
	修士 (医工学)		学位又は学科の分野							工学関係, 医学関係												
	修士 (保健学)		学位又は学科の分野							保健衛生学関係 (看護学関係), 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。), 保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)												
	修士 (公衆衛生学)		学位又は学科の分野							保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)												

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等			
<p>当該課程に2年以上在学し、各領域の定める履修要件に従って30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会において、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。</p>	1 学年の学期区分	2 期		
	1 学期の授業期間	15 週		
	1 時限の授業の標準時間	90 分		
<p>1. バイオメディカルサイエンス領域</p> <p>(1)総合知科目から4単位、総合知・専門知結合科目から16単位 (2)バイオメディカルサイエンス基盤科目から6単位以上 (3)他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、4単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>ただし、次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース及び次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コースに所属する学生は、以下のとおりとする。</p> <p>次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース履修要件 (1)総合知・専門知結合科目から16単位 (2)がんプログラム科目のうち次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目（必修科目）の計7単位 (3)バイオメディカルサイエンス基盤科目の生命科学特論、疾患学特論、あるいは、がんプログラム科目のうち次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目（選択科目）、あるいは、他領域・他研究科専門科目のうち、計7単位以上 ただし、他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、4単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>【次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目（必修科目）】 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）、放射線治療計画基本演習 【次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目の（選択科目）】 基礎解剖学、原子核物理学、放射線物理学、統計学、保健物理学、放射線診断物理学、放射線治療物理学、放射線計測学、情報処理学、医療情報学、放射線診断学、放射線生物学、放射線関連法規及び勧告、核医学物理学、核医学、放射線腫瘍学、医療・画像情報学演習、核医学物理学演習、放射線診断物理学演習、保健物理学演習、放射線計測学演習、科学英語、放射線治療計画臨床研究</p> <p>次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース履修要件 (1)総合知・専門知結合科目から16単位 (2)がんプログラム科目のうち次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目（必修科目）の計12単位 (3)バイオメディカルサイエンス基盤科目の生命科学特論、疾患学特論、薬物治療・創薬学特論、あるいは、がんプログラム科目のうち次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目（選択科目）、あるいは、他領域・他研究科専門科目のうち、計2単位以上 ただし、他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、4単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>【次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目（必修科目）】 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）、リハビリテーション医学、がんリハビリテーション学、がんリハビリテーション演習 【次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目（選択科目）】 基礎解剖学、統計学、放射線腫瘍学、科学英語</p>				
<p>2. 医療創成工学領域</p> <p>(1) 総合知科目から4単位、総合知・専門知結合科目から8単位 (2) イノベーション科目から3単位 (3) オペレーション科目から3単位 (4) 実践創造実習から4単位 (5) 工学系科目から2単位 (6) 専門科目及びバイオメディカルサイエンス領域のバイオメディカルサイエンス基盤科目から計6単位以上 (7) 他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、2単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>ただし、他領域・他研究科専門科目とは、バイオメディカルサイエンス領域のバイオメディカルサイエンス基盤科目を除く。</p> <p>修士論文研究では、学生は医療現場にて実践したニーズ探索を起点として、新しい医療創成につながる機器開発やその主要機能改良を可能とする応用研究に取り組み、論文としてまとめ上げる。特定課題研究では、学生は医療機器の初期開発過程を実践し、その実施及び思考過程を特定課題報告としてまとめ上げる。</p>				

3. 健康科学領域

- (1) 総合知科目 4 単位, 総合知・専門知結合科目 10 単位の計 14 単位
- (2) 健康科学領域共通科目から 2 単位以上
- (3) 指導教員の指定する専門科目 4 単位以上 (特講又は CNS 専門科目から 2 単位以上, 演習 2 単位以上)
- (4) 他領域・他研究科専門科目を履修し, 単位修得した場合は, 6 単位を上限として修了要件に算入することができる。

助産師コースの履修要件

指導教員の指導を受けて, 総合知科目 4 単位, 総合知・専門知結合科目 10 単位, 健康科学領域共通科目 2 単位以上及び専門科目 4 単位以上 (特講 2 単位以上, 演習 2 単位以上) を含めて 30 単位以上 (助産師専門科目を除く。) 並びに助産師専門科目 35 単位を修得しなければならない。

【助産師専門科目】

創造助産学概論, 生涯女性健康科学特講, 生涯女性健康科学演習, 高度実践助産技術学特講, 高度実践助産技術学演習, 高度周産期技術学特講, 高度周産期技術学演習, ハイリスク母性ケア論特講, 地域母子保健特講 I, 地域母子保健特講 II, 助産管理学特講, 助産学実習 I, 助産学実習 II, 助産学実習 III, 助産学実習 IV

保健師コースの履修要件

指導教員の指導を受けて, 総合知科目 4 単位, 総合知・専門知結合科目 10 単位, 健康科学領域共通科目 2 単位以上及び専門科目 4 単位以上 (特講 2 単位以上, 演習 2 単位以上) を含めて 30 単位以上 (保健師専門科目を除く。) 並びに保健師専門科目 33 単位を修得しなければならない。

【保健師専門科目】

疫学特講, 公衆衛生学特講, 保健統計学特講, 保健医療福祉論特講, 地域公共政策論特講, 医療経済論特講, 保健医療福祉論演習, 公衆衛生看護学特講, 社会健康論特講, 個別支援論特講, 組織活動論特講, 健康教育論特講, 産業保健特講, 学校保健特講, 地域看護診断論特講, 公衆衛生看護展開演習 I, 公衆衛生看護展開演習 II, 公衆衛生看護展開演習 III, 公衆衛生看護展開演習 IV

国際公衆衛生看護活動演習, 公衆衛生看護管理特講, 健康危機管理特講, 公衆衛生看護学実習 I (行政), 公衆衛生看護学実習 II (産業), 公衆衛生看護管理実習

4. 未来社会医学領域

- (1) 総合知科目 4 単位, 総合知・専門知結合科目 8 単位の計 12 単位
- (2) コア科目群 1 からコア科目群 5 で計 14 単位
- (3) 指導教員の指定する発展科目 2 単位以上
- (4) 他領域・他研究科専門科目を履修し, 単位修得した場合は, 6 単位を上限として修了要件に算入することができる。

教 育 課 程 等 の 概 要

(医学研究科博士課程後期課程医療創成工学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員
マ ネ ジ メ ン ト 科 目	プロジェクトマネジメント学特論	1後/3Q	/	1			○			2		1			2	オムニバス
	ビジネスプランニング学特論	1後/4Q	/	1			○			1	1				2	オムニバス
	アントレプレナー・リーダーシップ学	2前/1Q	/	1			○			2					7	オムニバス
	医療機器国際開発特論	2前/2Q	/	1			○			1	1				8	オムニバス
	小計(4科目)	—	—	4	0	0	—	—	—	5	2	1	0	0	18	
端 医 学 義 研 究 先	先端医学シリーズ	1後	/			1	○								1	
	先端医学トピックス	1通	/			1	○								1	
	小計(2科目)	—	—	0	0	2	—	—	0	0	0	0	0	0	2	
義 特 大 学 講 院	大学院特別英語	1通	/			1	○								1	
	小計(1科目)	—	—	0	0	1	—	—	0	0	0	0	0	0	1	
シ タ イ ツ ト ン ブ ン	ジョブ型研究インターンシップ	1前~3後	/			2			○	9	4					共同
	小計(1科目)	—	—	0	0	2	—	—	9	4	0	0	0	0		
究 特 別 研	特別研究	1前~3後	/	6				○		9	4					
	小計(1科目)	—	—	6	0	0	—	—	9	4	0	0	0	0		
合計(9科目)		—	—	10	0	5	—	—	9	4	1	0	0	21		
学位又は称号		博士(医工学)			学位又は学科の分野			医学関係, 工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
原則として課程に3年以上在学し、以下に示す履修基準に従って合計10単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。 履修基準として、「マネジメント科目」4単位、特別研究6単位の合計10単位を履修する。 なお、選択科目群の履修は修了要件には含まない。							1学年の学期区分			4期						
							1学期の授業期間			8週						
							1時限の授業の標準時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要															
(医学系研究科博士課程後期課程未来社会医学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
科総目合知基盤	アントレプレナー・リーダーシップ学特論	2前/1Q	/		1		○							9	オムニバス
	プロジェクトマネジメント学特論	1後/3Q			1		○							5	オムニバス
	小計 (2科目)	—	—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	13
合計 (2科目)		—	—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	13
学位又は称号		博士 (公衆衛生学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)							
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等							
当該課程に3年以上在学し、次の各号に定める科目区分の単位を含めて12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会が別に定めるところにより、優れた業績を上げた者と認めた場合は、1年(2年未満の在学期間をもって修士課程、前期課程又は専門職学位課程を修了した者にあつては、当該在学期間を含めて3年)以上在学すれば足りるものとする。 (1) 特別研究4単位 (2) コア科目群1からコア科目群4の各科目区分においてそれぞれ1単位以上 (3) 総合知基盤科目または発展科目から2単位以上 ただし、ジョブ型研究インターンシップの単位は修了要件に含まない。								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業の標準時間			90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(医学系研究科 博士課程前期課程 先進生命医学系専攻)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員	
目知総 科合	学びのデザイン	1通	/	2				○		27	15						
	小計(1科目)	—	—	2	0	0		—		27	15	0	0	0	0		
健康科学 領域 専攻 科目	健康科学研究共通特講Ⅰ	1前	/		2			○		2					6	オムニバス	
	健康科学研究共通特講Ⅱ	1後	/		2			○		6	1	2	2		2	オムニバス	
	IPW特講Ⅰ	1後	/		2			○			1				1	共同	
	サイエンティフィック・イングリッシュ特講Ⅰ	1後	/		2			○		1					1	オムニバス、共同	
	メディカルデータサイエンス特講Ⅰ	1前	/		2			○							3	オムニバス	
	小計(5科目)	—	—	—	0	10	0		—	8	2	2	2	0	13		
	看護学 分野 専攻 科目	看護教育特講Ⅰ	1前	/		2			○			1		2		2	共同
		看護研究特講Ⅰ	1前	/		2			○		3					3	オムニバス
		がん看護学特講Ⅰ	1前	/		2			○		1	1	1	1		3	共同
		がん看護学演習Ⅰ	1後	/		2			○		1	1	1				共同
		腫瘍学Ⅰ	1前	/		2			○			1					
		腫瘍学Ⅱ	1後	/		2			○			1					
		療養支援看護学特講Ⅰ	1前	/		2			○		1		1	3		2	共同
		実践看護学特講Ⅰ	1前	/		2			○		1		1	2			共同
		老年看護学特講Ⅰ	1前	/		2			○		1						
		精神看護学特講Ⅰ	1前	/		2			○		1			2			共同
		上級病態生理学	1前	/		2			○		6					1	オムニバス
		上級臨床薬理学	1前	/		2			○		6					1	オムニバス
		上級フィジカルアセスメント学	1後	/		2			○		2	1					オムニバス
		家族看護学特講Ⅰ	1前	/		2			○		1					3	オムニバス
		母性看護学特講Ⅰ	1前	/		2			○		2	1		2		1	オムニバス
		地域・公衆衛生看護学特講Ⅰ	1通	/		2			○		1	2		2			共同
		看護学演習Ⅰ	1通	/		2				○	5	4					
		看護倫理特講Ⅰ	1後	/		2			○		2	1				1	共同
		看護管理特講Ⅰ	1後	/		2			○		1		1			4	共同
		看護コンサルテーション特講Ⅰ	1後	/		2			○		1			1		4	オムニバス
		家族環境学	1前	/		2			○		2					2	オムニバス
		理論家族看護学	1前	/		2			○		2					2	オムニバス
		家族症候学	1前	/		2			○		2		1			2	オムニバス
		家族インターベンション学	1後	/		2			○		1					2	オムニバス
		実践家族看護学	1後	/		2			○		1					3	オムニバス
		実践家族看護学演習	1後	/		2				○	1					1	オムニバス
		トランス文化家族看護学	1前	/		2				○	1					3	オムニバス
		こども保育期・教育期家族看護学	2前	/		2				○	1						
		家族看護学基盤実習	1通	/		2					1	1					共同
		家族看護学展開実習	2通	/		4					1	1					共同
		家族看護学統合実習	2通	/		4					1	1					共同
		家族看護学演習Ⅰ	1後	/		2				○	1						
		ハイリスク母性ケア論特講	1通	/		2				○	1	1		2		11	オムニバス ※演習
		創造助産学概論	1前	/		2				○	2	1				1	オムニバス
生涯女性健康科学特講		1前	/		2				○	1	1				5	オムニバス	
生涯女性健康科学演習		1後	/		2				○	1	2				1	オムニバス	
高度実践助産技術学特講		1前	/		2				○		1				5	オムニバス	
高度実践助産技術学演習		1後	/		2				○	1	1		2		1	オムニバス	
高度周産期技術学特講	1前	/		2				○	1	1				1	オムニバス		
高度周産期技術学演習	1後	/		2				○	1	1		2			共同		
助産管理学特講	2通	/		2				○	1					2	オムニバス		
地域母子保健特講Ⅰ	2前	/		1				○	2			1		1	オムニバス		
地域母子保健特講Ⅱ	2前	/		1				○	1					3	オムニバス		
助産学実習Ⅰ	1後	/		9					1	1		2			共同		
助産学実習Ⅱ	1後	/		2					1	1		2			共同		
助産学実習Ⅲ	2前	/		2					1	1		2			共同		
助産学実習Ⅳ	2通	/		2					1	1		2			共同		
疫学特講	1前	/		1				○	1	1				1	オムニバス		
公衆衛生学特講	1前	/		2				○	3	1		2		6	オムニバス		
保健統計学特講	1前	/		2				○	2	2		2			オムニバス		

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	保健医療福祉論特講	1前		1	○			2					4	オムニバス
		地域公共政策論特講	1前		1	○			1					2	オムニバス
		医療経済論特講	1前		1	○			1					3	オムニバス
		保健医療福祉論演習	1後		1		○		1	2					共同
		公衆衛生看護学特講	1前		2	○			1	2		2			オムニバス
		社会健康論特講	1前		1	○			1					1	オムニバス
		個別支援論特講	1前		1	○			1			2			オムニバス
		組織活動論特講	1前		1	○			1	2					オムニバス
		地域看護診断論特講	1前		1	○			1	1		1			オムニバス
		健康教育論特講	1前		1	○			1			1			オムニバス
		産業保健特講	1後		1	○			1					3	オムニバス
		学校保健特講	1後		1	○			1	1		1		1	オムニバス
		公衆衛生看護管理特講	1後		1	○			1					3	オムニバス
		健康危機管理特講	1後		1	○			1					4	オムニバス
		公衆衛生看護展開演習Ⅰ	1後		1		○		1			2		1	共同
		公衆衛生看護展開演習Ⅱ	1通		2		○		1	2		2			共同
		公衆衛生看護展開演習Ⅲ	1通		2		○		1	2		2			共同
		公衆衛生看護展開演習Ⅳ	1後～2前		1		○		1			2			共同
		国際公衆衛生看護活動演習	2通		1		○		1			1			共同
		公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政）	2前		4			○	1	2		2			共同
		公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業）	2通		1			○	1	2		2			共同
公衆衛生看護学実習Ⅲ	2後		1			○	1	2		2			共同		
小計（72科目）	—	—	0	136	0	—	16	6	2	13	0	89			
専門科目解析分野	分析医科学特講Ⅰ	1前		2		○		1		1			2	オムニバス	
	細胞機能構造科学特講Ⅰ	1前		2		○		1	1					オムニバス	
	臨床免疫学特講Ⅰ	1前		2		○		1						オムニバス	
	ヒューマンヘルス特講Ⅰ	1前		2		○		4		2	1		1	オムニバス	
	病態解析学演習Ⅰ	1後		2			○	4	1	2					
小計（5科目）	—	—	0	10	0	—	7	1	3	1	0	3			
リハビリテーション科学分野専門科目	リハビリテーション管理学Ⅰ	1前		2		○		1	1					6	オムニバス
	リハビリテーション科学研究法Ⅰ	1前		2		○		1							
	基礎リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2		○		1	2					オムニバス	
	運動器リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2		○		3	2					オムニバス	
	神経リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2		○		1	2					オムニバス	
	内部リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2		○		1	1	1				オムニバス	
	脳機能リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2		○		1	1					オムニバス	
	精神科リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2		○		1	1		1			オムニバス	
	作業生活リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2		○		1	1		1			オムニバス	
	デジタル重層支援特論	1前		2		○		3	2					オムニバス	
	デジタル重層支援演習	1後		1			○	1	2						
	行動神経リハビリテーション科学特講Ⅰ	1前		2		○		1	1					オムニバス	
	生命情報融合論Ⅰ	1前		2									1		
	医用画像情報科学Ⅰ	1前		2									1		
人間情報科学Ⅰ	1前		2									2	共同		
リハビリテーション科学演習Ⅰ	1後		2			○	7	8				2			
小計（16科目）	—	—	0	31	0	—	9	8	1	2	0	9			
他領域・他研究														6単位を上限として修了要件に算入することができる。	
	小計（一科目）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
未来社会医学領域専門科目	1 コア科目群	公衆衛生学・疫学Ⅰ	1前		1		○		1			1		4	オムニバス
		予防医学と保健の実践と評価Ⅰ	1後		1		○		2					2	オムニバス
		臨床疫学Ⅰ	2前		1		○		1			1		2	オムニバス
		小計（3科目）	—	—	0	3	0	—	2	0	0	1	0	8	
	2 コア科目群	臨床研究開発の実践	1前		1		○		2	2	1			1	オムニバス
		生物統計学Ⅰ	1後		1		○		1						
		生物統計学Ⅰ演習	1後～2前		1			○	1						
	小計（3科目）	—	—	0	3	0	—	2	3	1	0	0	1		
	3 コア科目群	環境保健学Ⅰ	1前		1		○		2	1				1	オムニバス
		産業環境保健学Ⅰ	1後		1		○		1						
		人類生態学Ⅰ	2前		1		○		1	1					オムニバス
	小計（3科目）	—	—	0	3	0	—	3	2	0	0	0	1		
	4 コア科目群	保健医療政策学Ⅰ	1前		1		○		4	2				2	オムニバス
		保健医療経済学Ⅰ	1後		1		○		1	3				1	オムニバス
		グローバルヘルスⅠ	2前		1		○		3	1					オムニバス
		小計（3科目）	—	—	0	3	0	—	8	5	0	0	0	3	
	目コ 群ア 5科	社会行動科学Ⅰ	1前		1		○					1		3	オムニバス
健康教育・健康心理学Ⅰ		1後		1		○		1	1		1			オムニバス	
小計（2科目）		—	—	0	2	0	—	1	1	0	1	0	3		

未来社会医学領域専門科目	発展科目	医療情報システム	1前		1	○		1	1				3	オムニバス
		医療情報解析学	2前		1	○		1	1				2	オムニバス
		健康危機管理	1前		1	○		1	1				6	オムニバス
		災害保健学特講	1後		1	○		1	1				1	オムニバス
		感染症モデリング	2前		1	○		2	2				1	オムニバス
		EBPM	1後		1	○		3	3	1				オムニバス
		社会疫学・行動経済学	1後		1	○		2	2					オムニバス
		ヘルスサービスの評価	2前		1	○		2	2				1	オムニバス
		地域医療システム特講	2前		1	○		3	3				4	オムニバス
		小計 (9科目)	—	—	0	9	0	—	8	2	0	1	0	17
究他領域専門・科目研														6単位を上限として修了要件に算入することができる。
	小計 (一科目)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
目門総合知知合・科専	先進生命医科学プロジェクト研究C	1~2		8		○	16	11						
	先進生命医科学プロジェクト研究D	1~2		6		○	11	4						
	プレゼンテーション演習	2通	2		0	○	27	15						
	小計 (3科目)	—	—	2	14	0	—	27	15	0	0	0	0	
合計 (125科目)		—	—	4	224	0	—	31	20	6	16	0	134	
学位又は称号	修士 (バイオメディカルサイエンス)					医学関係								
	修士 (医工学)					工学関係, 医学関係								
	修士 (保健学)					保健衛生学関係 (看護学関係), 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。), 保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)								
	修士 (公衆衛生学)					保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)								
学位又は学科の分野														

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等			
<p>当該課程に2年以上在学し、各領域の定める履修要件に従って30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会において、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。</p>	1 学年の学期区分	2 期		
	1 学期の授業期間	15 週		
	1 時限の授業の標準時間	90 分		
<p>1. バイオメディカルサイエンス領域</p> <p>(1)総合知科目から4単位、総合知・専門知結合科目から16単位 (2)バイオメディカルサイエンス基盤科目から6単位以上 (3)他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、4単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>ただし、次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース及び次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コースに所属する学生は、以下のとおりとする。</p> <p>次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース履修要件 (1)総合知・専門知結合科目から16単位 (2)がんプログラム科目のうち次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目（必修科目）の計7単位 (3)バイオメディカルサイエンス基盤科目の生命科学特論、疾患学特論、あるいは、がんプログラム科目のうち次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目（選択科目）、あるいは、他領域・他研究科専門科目のうち、計7単位以上 ただし、他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、4単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>【次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目（必修科目）】 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）、放射線治療計画基本演習 【次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目の（選択科目）】 基礎解剖学、原子核物理学、放射線物理学、統計学、保健物理学、放射線診断物理学、放射線治療物理学、放射線計測学、情報処理学、医療情報学、放射線診断学、放射線生物学、放射線関連法規及び勧告、核医学物理学、核医学、放射線腫瘍学、医療・画像情報学演習、核医学物理学演習、放射線診断物理学演習、保健物理学演習、放射線計測学演習、科学英語、放射線治療計画臨床研究</p> <p>次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース履修要件 (1)総合知・専門知結合科目から16単位 (2)がんプログラム科目のうち次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目（必修科目）の計12単位 (3)バイオメディカルサイエンス基盤科目の生命科学特論、疾患学特論、薬物治療・創薬学特論、あるいは、がんプログラム科目のうち次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目（選択科目）、あるいは、他領域・他研究科専門科目のうち、計2単位以上 ただし、他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、4単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>【次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目（必修科目）】 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）、リハビリテーション医学、がんリハビリテーション学、がんリハビリテーション演習 【次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目（選択科目）】 基礎解剖学、統計学、放射線腫瘍学、科学英語</p>				
<p>2. 医療創成工学領域</p> <p>(1)総合知科目から4単位、総合知・専門知結合科目から8単位 (2)イノベーション科目から3単位 (3)オペレーション科目から3単位 (4)実践創造実習から4単位 (5)工学系科目から2単位 (6)専門科目及びバイオメディカルサイエンス領域のバイオメディカルサイエンス基盤科目から計6単位以上 (7)他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、2単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>ただし、他領域・他研究科専門科目とは、バイオメディカルサイエンス領域のバイオメディカルサイエンス基盤科目を除く。</p> <p>修士論文研究では、学生は医療現場にて実践したニーズ探索を起点として、新しい医療創成につながる機器開発やその主要機能改良を可能とする応用研究に取り組み、論文としてまとめ上げる。特定課題研究では、学生は医療機器の初期開発過程を実践し、その実施及び思考過程を特定課題報告としてまとめ上げる。</p>				

3. 健康科学領域

- (1) 総合知科目 4 単位，総合知・専門知結合科目 10 単位の計 14 単位
- (2) 健康科学領域共通科目から 2 単位以上
- (3) 指導教員の指定する専門科目 4 単位以上（特講又は CNS 専門科目から 2 単位以上，演習 2 単位以上）
- (4) 他領域・他研究科専門科目を履修し，単位修得した場合は，6 単位を上限として修了要件に算入することができる。

助産師コースの履修要件

指導教員の指導を受けて，総合知科目 4 単位，総合知・専門知結合科目 10 単位，健康科学領域共通科目 2 単位以上及び専門科目 4 単位以上（特講 2 単位以上，演習 2 単位以上）を含めて 30 単位以上（助産師専門科目を除く。）並びに助産師専門科目 35 単位を修得しなければならない。

【助産師専門科目】

創造助産学概論，生涯女性健康科学特講，生涯女性健康科学演習，高度実践助産技術学特講，高度実践助産技術学演習，高度周産期技術学特講，高度周産期技術学演習，ハイリスク母性ケア論特講，地域母子保健特講Ⅰ，地域母子保健特講Ⅱ，助産管理学特講，助産学実習Ⅰ，助産学実習Ⅱ，助産学実習Ⅲ，助産学実習Ⅳ

保健師コースの履修要件

指導教員の指導を受けて，総合知科目 4 単位，総合知・専門知結合科目 10 単位，健康科学領域共通科目 2 単位以上及び専門科目 4 単位以上（特講 2 単位以上，演習 2 単位以上）を含めて 30 単位以上（保健師専門科目を除く。）並びに保健師専門科目 33 単位を修得しなければならない。

【保健師専門科目】

疫学特講，公衆衛生学特講，保健統計学特講，保健医療福祉論特講，地域公共政策論特講，医療経済論特講，保健医療福祉論演習，公衆衛生看護学特講，社会健康論特講，個別支援論特講，組織活動論特講，健康教育論特講，産業保健特講，学校保健特講，地域看護診断論特講，公衆衛生看護展開演習Ⅰ，公衆衛生看護展開演習Ⅱ，公衆衛生看護展開演習Ⅲ，公衆衛生看護展開演習Ⅳ

国際公衆衛生看護活動演習，公衆衛生看護管理特講，健康危機管理特講，公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政），公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業），公衆衛生看護管理実習

4. 未来社会医学領域

- (1) 総合知科目 4 単位，総合知・専門知結合科目 8 単位の計 12 単位
- (2) コア科目群 1 からコア科目群 5 で計 14 単位
- (3) 指導教員の指定する発展科目 2 単位以上
- (4) 他領域・他研究科専門科目を履修し，単位修得した場合は，6 単位を上限として修了要件に算入することができる。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(医学系研究科博士課程後期課程健康科学専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く	
共通健康科学専攻	健康科学研究共通特講Ⅲ	1前	/		2			○			1				7	オムニバス	
	健康科学研究共通特講Ⅳ	1後			2			○			4	1	2	2	4	オムニバス	
	サイエンティフィック・イングリッシュ特講Ⅱ	1後			2			○			1				1	オムニバス、共同	
	メディカルデータサイエンス特講Ⅱ	1前			2			○							3	オムニバス	
	小計（4科目）	—		—	0	8	0	—	—	—	6	1	2	2	0	14	
看護学分野専門科目	がん看護学特講Ⅱ	1前	/		2			○			1		1	1	4	共同	
	がん看護学演習Ⅱ	1後			2				○		1		1		1	共同	
	腫瘍学Ⅲ	1前			2				○						1		
	腫瘍学Ⅳ	1後			2				○						1		
	療養支援看護学特講Ⅱ	1前			2				○		1		1	1	2	共同	
	実践看護学特講Ⅱ	1前			2				○				2		1	共同	
	老年看護学特講Ⅱ	1前			2				○		1						
	精神看護学特講Ⅱ	1前			2				○		1		2			共同	
	家族看護学特講Ⅱ	1前			2				○		1						
	母性看護学特講Ⅱ	1前			2				○		1				1	オムニバス	
	地域・公衆衛生看護学特講Ⅱ	1通			2				○		1	2				共同	
	看護学演習Ⅱ	1通			2					○	5	2				1	
小計（12科目）	—	—	0	24	0	—	—	—	5	2	1	5	0	8			
専病態解析分野	分析医科学特講Ⅱ	1前	/		2			○			1		1		—	オムニバス	
	細胞機能構造科学特講Ⅱ	1前			2			○			1	1			—	オムニバス	
	臨床免疫学特講Ⅱ	1前			2				○		1						
	ヒューマンヘルステクニク特講Ⅱ	1前			2				○		2	2	1		3	オムニバス	
	病態解析学演習Ⅱ	1後			2					○	4	1	2				
小計（5科目）	—	—	0	10	0	—	—	—	5	1	3	1	0	5			
リハビリテーション科学分野専門科目	リハビリテーション管理学Ⅱ	1前	/		2			○			1	1			6	オムニバス	
	リハビリテーション科学研究法Ⅱ	1前			2			○			1						
	基礎リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2				○		1	2				オムニバス	
	運動器リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2				○		3	2		1		オムニバス	
	神経リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2				○		1	2				オムニバス	
	内部リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2				○			1	1			オムニバス	
	脳機能リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2				○		1				1	オムニバス	
	精神科リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2				○		1	1		1		オムニバス	
	作業生活リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2				○		1	1		1		オムニバス	
	行動神経リハビリテーション科学特講Ⅱ	1前			2				○		1	1				オムニバス	
	生体情報学Ⅱ	1前			2				○							1	
	医用画像情報科学Ⅱ	1前			2				○							1	
	人間情報科学Ⅱ	1前			2				○							2	共同
	リハビリテーション科学演習Ⅱ	1後			2					○	7	7				3	
小計（14科目）	0	—	0	28	0	—	—	—	7	7	1	3	0	10			
研特別	特別研究	1～3	/		4				○		13	9					
	小計（1科目）	—		—	4	0	0	—	—	13	9	0	0	0	0		
目とその他を認める必要	ジョブ型研究インターンシップ	1通	/			2				○	1						
	小計（1科目）	—		—	0	0	2	—	—	—	1	0	0	0	0	0	
合計（37科目）		—	—	4	70	2	—	—	—	16	10	4	9	0	31		
学位又は称号	博士（保健学）			学位又は学科の分野					保健衛生学関係（看護学関係） 保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。） 保健衛生学関係（リハビリテーション関係）								

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
後期課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、次の各号に定める科目区分の単位を含めて12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会が別に定めるところにより、優れた業績を上げた者と認めた場合は、1年（2年未満の在学期間をもって修士課程、前期課程又は専門職学位課程を修了した者）にあっては、当該在学期間を含めて3年以上在学すれば足りるものとする。 (1) 特別研究4単位 (2) 健康科学専攻共通科目から2単位以上 (3) 指導教員の指定する専門科目から4単位以上（特講2単位以上、演習2単位以上） ただし、ジョブ型研究インターンシップの単位は修了要件に含まない。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業の標準時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要															
(医学系研究科博士課程後期課程未来社会医学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
盤総 科合 目知 基	サイエンティフィック・イングリッシュ特講Ⅱ	1後	△		2		○							2	オムニバス、共同
	小計(3科目)	—	—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	2	
1 コア 科目 群	公衆衛生学・疫学Ⅱ	1前	△		1		○			1				4	オムニバス
	予防医学と保健の実践と評価Ⅱ	1後	△		1		○			3				2	オムニバス
	臨床疫学Ⅱ	1前	△		1		○			1		1		2	オムニバス
	小計(3科目)	—	—	0	3	0	—		3	0	0	1	0	8	
2 コア 科目 群	臨床研究開発の実践	1前	△		1		○			1	4	1			オムニバス
	生物統計学Ⅱ	1前	△		1		○			1					
	生物統計学Ⅱ演習	1後～2前	△		1			○		1					
	小計(3科目)	—	—	0	3	0	—		1	4	1	0	0	0	
3 コア 科目 群	環境保健学Ⅱ	1前	△		1		○			1	1	1		1	オムニバス
	産業環境保健学Ⅱ	1通	△		1		○			1					
	人類生態学Ⅱ	1後	△		1		○			1	1				オムニバス
	小計(3科目)	—	—	0	3	0	—		2	2	1	0	0	1	
コア 科目 群 4	保健医療政策学Ⅱ	1前	△		1		○			4	2			2	オムニバス
	保健医療経済学Ⅱ	1前	△		1		○			3	2			1	オムニバス
	医療経営学	1後	△		1		○			1	3			2	オムニバス
	グローバルヘルスⅡ	2通	—		1		○			3	1				オムニバス
	小計(4科目)	—	—	0	4	0	—		8	5	0	0	0	3	
発 展 科 目	基礎医学・臨床医学特論	1前	△		1		○			4				4	オムニバス
	社会行動科学Ⅱ	1前	△		1		○					1		3	オムニバス
	ジョブ型研究インターンシップ	1通	—			2		○		1					
	小計(3科目)	—	—	0	2	2	—		5	0	0	1	0	7	
研 特 究 別	特別研究	1～3	△		4			○		11	4				
	小計(1科目)	—	—	4	0	0	—		11	4	0	0	0	0	
合計(18科目)		—	—	4	17	2	—		13	10	2	1	0	20	
学位又は称号		博士(公衆衛生学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)							
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等								
当該課程に3年以上在学し、次の各号に定める科目区分の単位を含めて12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会が別に定めるところにより、優れた業績を上げた者と認めた場合は、1年(2年未満の在学期間をもって修士課程、前期課程又は専門職学位課程を修了した者)にあっては、当該在学期間を含めて3年以上在学すれば足りるものとする。 (1) 特別研究4単位 (2) コア科目群1からコア科目群4の各科目区分においてそれぞれ1単位以上 (3) 総合知基盤科目または発展科目から2単位以上 ただし、ジョブ型研究インターンシップの単位は修了要件に含まない。							1学年の学期区分					2期			
							1学期の授業期間					15週			
							1時限の授業の標準時間					90分			

教 育 課 程 等 の 概 要																
(医学系研究科博士課程前期課程先進生命医科学系専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員
科学医 目領療 域創 専成 門工	医療機器・システム設計演習	1後/3Q			1			○		3	1		1		2	オムニバス
	小計（1科目）	—	—	0	1	0	—		3	1	0	1	0	2		
合計（1科目）		—	—	0	1	0	—		3	1	0	1	0	2		
学位又は称号		修士（バイオメディカルサイエンス） 修士（医工学） 修士（保健学） 修士（公衆衛生学）		学位又は学科の分野				医学関係 工学関係、医学関係 保健衛生学関係（看護学関係）、 保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）、 保健衛生学関係（リハビリテーション関係） 保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）								

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等			
<p>当該課程に2年以上在学し、各領域の定める履修要件に従って30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会において、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。</p>	1学年の学期区分	2期		
	1学期の授業期間	15週		
	1時限の授業の標準時間	90分		
<p>1. バイオメディカルサイエンス領域</p> <p>(1)総合知科目から4単位、総合知・専門知結合科目から16単位 (2)バイオメディカルサイエンス基盤科目から6単位以上 (3)他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、4単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>ただし、次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース及び次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コースに所属する学生は、以下のとおりとする。</p> <p>次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース履修要件 (1)総合知・専門知結合科目から16単位 (2)がんプログラム科目のうち次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目(必修科目)の計7単位 (3)バイオメディカルサイエンス基盤科目の生命科学特論、疾患学特論、あるいは、がんプログラム科目のうち次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目(選択科目)、あるいは、他領域・他研究科専門科目のうち、計7単位以上 ただし、他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、4単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>【次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目(必修科目)】 腫瘍学Ⅰ基盤講義(医療現場・学際領域)、腫瘍学Ⅱ横断講義(予防・研究開発)、放射線治療計画基本演習</p> <p>【次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース科目(選択科目)】 基礎解剖学、原子核物理学、放射線物理学、統計学、保健物理学、放射線診断物理学、放射線治療物理学、放射線計測学、情報処理学、医療情報学、放射線診断学、放射線生物学、放射線関連法規及び勧告、核医学物理学、核医学、放射線腫瘍学、医療・画像情報学演習、核医学物理学演習、放射線診断物理学演習、保健物理学演習、放射線計測学演習、科学英語、放射線治療計画臨床研究</p> <p>次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース履修要件 (1)総合知・専門知結合科目から16単位 (2)がんプログラム科目のうち次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目(必修科目)の計12単位 (3)バイオメディカルサイエンス基盤科目の生命科学特論、疾患学特論、薬物治療・創薬学特論、あるいは、がんプログラム科目のうち次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目(選択科目)、あるいは、他領域・他研究科専門科目のうち、計2単位以上 ただし、他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、4単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>【次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目(必修科目)】 腫瘍学Ⅰ基盤講義(医療現場・学際領域)、腫瘍学Ⅱ横断講義(予防・研究開発)、リハビリテーション医学、がんリハビリテーション学、がんリハビリテーション演習</p> <p>【次世代のがんリハビリテーションのための人材養成コース科目(選択科目)】 基礎解剖学、統計学、放射線腫瘍学、科学英語</p>				
<p>2. 医療創成工学領域</p> <p>(1)総合知科目から4単位、総合知・専門知結合科目から8単位 (2)イノベーション科目から3単位 (3)オペレーション科目から3単位 (4)実践創造実習から4単位 (5)工学系科目から2単位 (6)専門科目及びバイオメディカルサイエンス領域のバイオメディカルサイエンス基盤科目から計6単位以上 (7)他領域・他研究科専門科目を履修し、単位修得した場合は、2単位を上限として修了要件に算入することができる。</p> <p>ただし、他領域・他研究科専門科目とは、バイオメディカルサイエンス領域のバイオメディカルサイエンス基盤科目を除く。</p> <p>修士論文研究では、学生は医療現場にて実践したニーズ探索を起点として、新しい医療創成につながる機器開発やその主要機能改良を可能とする応用研究に取り組み、論文としてまとめ上げる。特定課題研究では、学生は医療機器の初期開発過程を実践し、その実施及び思考過程を特定課題報告としてまとめ上げる。</p>				

3. 健康科学領域

- (1) 総合知科目 4 単位，総合知・専門知結合科目 10 単位の計 14 単位
- (2) 健康科学領域共通科目から 2 単位以上
- (3) 指導教員の指定する専門科目 4 単位以上（特講又は CNS 専門科目から 2 単位以上，演習 2 単位以上）
- (4) 他領域・他研究科専門科目を履修し，単位修得した場合は，6 単位を上限として修了要件に算入することができる。

助産師コースの履修要件

指導教員の指導を受けて，総合知科目 4 単位，総合知・専門知結合科目 10 単位，健康科学領域共通科目 2 単位以上及び専門科目 4 単位以上（特講 2 単位以上，演習 2 単位以上）を含めて 30 単位以上（助産師専門科目を除く。）並びに助産師専門科目 35 単位を修得しなければならない。

【助産師専門科目】

創造助産学概論，生涯女性健康科学特講，生涯女性健康科学演習，高度実践助産技術学特講，高度実践助産技術学演習，高度周産期技術学特講，高度周産期技術学演習，ハイリスク母性ケア論特講，地域母子保健特講Ⅰ，地域母子保健特講Ⅱ，助産管理学特講，助産学実習Ⅰ，助産学実習Ⅱ，助産学実習Ⅲ，助産学実習Ⅳ

保健師コースの履修要件

指導教員の指導を受けて，総合知科目 4 単位，総合知・専門知結合科目 10 単位，健康科学領域共通科目 2 単位以上及び専門科目 4 単位以上（特講 2 単位以上，演習 2 単位以上）を含めて 30 単位以上（保健師専門科目を除く。）並びに保健師専門科目 33 単位を修得しなければならない。

【保健師専門科目】

疫学特講，公衆衛生学特講，保健統計学特講，保健医療福祉論特講，地域公共政策論特講，医療経済論特講，保健医療福祉論演習，公衆衛生看護学特講，社会健康論特講，個別支援論特講，組織活動論特講，健康教育論特講，産業保健特講，学校保健特講，地域看護診断論特講，公衆衛生看護展開演習Ⅰ，公衆衛生看護展開演習Ⅱ，公衆衛生看護展開演習Ⅲ，公衆衛生看護展開演習Ⅳ
国際公衆衛生看護活動演習，公衆衛生看護管理特講，健康危機管理特講，公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政），公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業），公衆衛生看護管理実習

4. 未来社会医学領域

- (1) 総合知科目 4 単位，総合知・専門知結合科目 8 単位の計 12 単位
- (2) コア科目群 1 からコア科目群 5 で計 14 単位
- (3) 指導教員の指定する発展科目 2 単位以上
- (4) 他領域・他研究科専門科目を履修し，単位修得した場合は，6 単位を上限として修了要件に算入することができる。

教育課程等の概要																
〔【既設学部等】医学研究科修士課程バイオメディカルサイエンス専攻〕																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択必修	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除外の教員)
本科コース	バイオメディカルサイエンスA	1前	/	2			○			1	2		2	2	オムニバス	
	バイオメディカルサイエンスB	1前	/	2			○			1	2	1	3	2	オムニバス	
	社会医学・生命倫理・安全	1前	/	2			○			2				3	オムニバス	
	バイオサイエンス基本実習	1通	/	4					○					1		
	文献解析・プレゼンテーション演習	1通	/	4					○					1		
	バイオメディカルサイエンス特別研究	1年	/	10						10						
	シグナル伝達特論	1前	/		2			○			2	3	2	2	2	オムニバス
	細胞分子医学特論	1前	/		2			○			2	2	2	1	2	オムニバス
	薬物治療学特論	1前	/		2			○			2				5	オムニバス
	基礎解剖学	1前	/		2			○			1		2		2	オムニバス
	微生物感染症学特論	1後	/		2			○					1		7	オムニバス
	統計学	1前	/		1			○			1				3	オムニバス
	科学英語	1後	/		1			○			1				2	オムニバス
	小計(13科目)	-	-	-	24	12	0	-	-	-	10	9	4	10	0	22
次世代のがん放射線治療医学物理学修士養成コース	腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)	1前	/	2			○			2						共同
	腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)	1後	/	2			○			2						共同
	放射線治療計画基本演習	1前	/	3					○	1					4	共同
	バイオメディカルサイエンス特別研究	1年	/	10						1						
	バイオメディカルサイエンスA	1前	/		2			○		1	2		2		2	オムニバス
	バイオメディカルサイエンスB	1前	/		2			○		1	2	1	3		2	オムニバス
	基礎解剖学	1前	/		2			○			1		2		2	共同
	原子核物理学	2前	/		2			○					1			
	放射線物理学	2後	/		2			○					1			
	統計学	1前	/		1			○		1					3	共同
	保健物理学	1通	/		2			○		1					2	オムニバス
	放射線診断物理学	1後	/		2			○					1			
	放射線治療物理学	1後	/		2			○		1					1	共同
	放射線計測学	1前	/		2			○		1					2	オムニバス
	情報処理学	2前	/		1			○		1						
	医療情報学	2前	/		1			○		1						
	放射線診断学	2前	/		1			○							1	
	放射線生物学	2前	/		2			○		1	1	1	2			共同
	放射線関連法規及び勧告	1後	/		1			○					1			
	核医学物理学	1前	/		1			○		1					1	オムニバス
	核医学	2前	/		1			○			1		1			オムニバス
	放射線腫瘍学	2前	/		2			○		1	1	1	2			オムニバス
	医療・画像情報学演習	2前	/		1					1			1			オムニバス
核医学物理学演習	2前	/		1					1			1				
放射線診断物理学演習	1後	/		1					1					1	共同	
保健物理学演習	2前	/		1								1				
放射線計測学演習	1前	/		1					1					1	共同	
科学英語	1後	/		1			○		1					2	オムニバス	
放射線治療計画臨床研究	1後	/		3			○		1					4	共同	
小計(29科目)	-	-	-	17	38	0	-	-	-	3	6	2	9	0	26	-
の次世代人材育成が成るコリハピリテーションのため	腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)	1前	/	2			○			2						共同
	腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)	1後	/	2			○			2						共同
	リハビリテーション医学	1前	/	2			○			1						
	がんリハビリテーション学	1後	/	2			○			1						
	がんリハビリテーション演習	1~2	/	6					○	1						
	バイオメディカルサイエンス特別研究	1年	/	10						1						
	バイオメディカルサイエンスA	1前	/		2			○		1	2		2		2	オムニバス
	バイオメディカルサイエンスB	1前	/		2			○		1	2	1	3		2	オムニバス
	薬物治療学特論	1前	/		2			○		2					5	オムニバス
	基礎解剖学	1前	/		2			○			1		2		2	共同
	統計学	1通	/		1			○		1					3	オムニバス
放射線腫瘍学	2前	/		2			○		1	1	1	2			オムニバス	
科学英語	1後	/		1			○		1					2	オムニバス	
小計(13科目)	-	-	-	24	12	0	-	-	-	2	5	1	7	0	16	-

合計 (55科目)		-	-	65	62	0	-	12	20	7	34	0	71	-
学位又は 称号	修士 (バイオメディカルサイエンス)	学位又は学科の分野				医学関係								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等						
当該課程に2年以上在学し、各コースの定める履修要件に従って30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会において、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。								1 学年の学期区分			2学期			
								1 学期の授業期間			15週			
								1 時限の授業の標準時間			90分			
								/						

教 育 課 程 等 の 概 要																
（【既設学部等】医学研究科博士課程医科学専攻）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択 必 修	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員
礎共 科通 目基	コア講義	1前	/		1		○			3	1				オムニバス	
	コア実習	1後			1				○	1						
	小計（2科目）	-		-	0	2	0	-	-	4	1	0	4	0		0
講究医 義先学 端研	先端医学シリーズ	1後	/		1		○			1						
	先端医学トピックス	1通			1		○			1						
	小計（2科目）	-		-	0	2	0	-	-	1	0	0	0	0		0
大 学 院 特 別 講 義	大学院特別英語	1通	/		1		○								1	共同 オムニバス 共同 共同 オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	リサーチ・プロポーザル	1後			1		○			1						
	生命科学論文・申請書作成特論	1通			1		○			1						
	発生・再生医学特論	1通			1		○			1						
	産学連携特論	1前			1		○			1						
	生命倫理特論	1前			1		○			1						
	グローバルメディカルサイエンス特別講義	1後			1		○			2						
	次世代がんプロフェッショナル養成特論	1後			1		○			3	1	1	4			
	腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）	1前			2		○			2						
	腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）	1後			2		○			2						
	医療機器コンセプト創造学特論	1前/1Q					○								6	
	医療機器レギュラトリーサイエンス学特論	1前/3Q					○								10	
	医療機器ビジネス学特論	1前/3Q					○								8	
	医療機器コンセプト創造演習	1前/1Q						○							6	
	医用材料工学	1前/2Q						○							2	
	医用有機化学	1前/2Q						○							1	
	AI・深層学習	1後/3Q						○							2	
	医療機器・システム英語特別講義Ⅰ	1後/3Q						○							2	
	医療機器・システム英語特別講義Ⅱ	1後/4Q						○							1	
	医療機器・システム設計概論	1前/2Q						○							5	
	医療機器・システム設計演習	1後/3Q							○						6	
	データサイエンス演習	1後/4Q							○						2	
	ジョブ型研究インターンシップ	1前-4後								○		1				
	ラボ・ローテーション	1後								○		1				
小計（24科目）	-	-	-	0	12	0	-	-	9	1	1	4	0	31		
生 理 学 ・ 細 胞 生 物 学	膜動態学特別研究Ⅰ	1前	/		6				○		1					
	膜動態学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1					
	膜動態学演習	1後			3				○		1					
	細胞生理学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○		1					
	細胞生理学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1					
	細胞生理学演習	1後			3				○		1					
	病態シグナル学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○		1					
	病態シグナル学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1					
	病態シグナル学演習	1前			3				○		1					
	生理学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○		1					
	生理学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1					
	生理学演習	1前-4後			3				○		1					
	神経情報伝達学特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○		1					
	神経情報伝達学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1					
	神経情報伝達学演習	1前-4後			3				○		1					
	生体構造解剖学特別研究Ⅰ	1前			6				○		1					
	生体構造解剖学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1					
	生体構造解剖学演習	1後			3				○		1					
	神経分化・再生特別研究Ⅰ	1前-4後			6				○		1					
	神経分化・再生特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1					
	神経分化・再生演習	1前-4後			3				○		1					
	分子脳科学特別研究Ⅰ	1前			6				○		1					
	分子脳科学特別研究Ⅱ	1前-4後			4				○		1					
	分子脳科学演習	1後			3				○		1					
発生・再生医学特別研究Ⅰ	1前-4後		6				○					1				
発生・再生医学特別研究Ⅱ	1前-4後		4				○					1				

学 胞 学 生 生 理 生 生 ・ 理 物 細	発生・再生医学演習	1前-4後	/	3			○									1
	小計 (27科目)	-	-	0	117	0	-			7	0	0	0	0	0	1
生 化 学 ・ 分 子 生 物 学	生化学・シグナル統合学特別研究 I	1前	/	6			○		1							
	生化学・シグナル統合学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	生化学・シグナル統合学演習	1後	/	3			○		1							
	分子細胞生物学特別研究 I	1前-4後	/	6			○		1							
	分子細胞生物学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	分子細胞生物学演習	1前-4後	/	3			○		1							
	膜生物学特別研究 I	1前	/	6			○		1							
	膜生物学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	膜生物学演習	1後	/	3			○		1							
	超微構造生物学特別研究 I	1前-4後	/	6			○								1	
	超微構造生物学特別研究 II	1前-4後	/	4			○								1	
	超微構造生物学演習	1前-4後	/	3			○								1	
	薬理学特別研究 I	1前-4後	/	6			○		1							
	薬理学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	薬理学演習	1前-4後	/	3			○		1							
小計 (15科目)	-	-	0	65	0	-		3	0	0	0	0	0	0	1	
病 理 学	病理学特別研究 I	1前-4後	/	6			○		1							
	病理学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	病理学演習	1前-4後	/	3			○		1							
	病理学臨床実習	1前-4後	/	2			○		1							
	病理診断学特別研究 I	1前	/	6			○		1							
	病理診断学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	病理診断学演習	1後	/	3			○		1							
	病理診断学臨床実習	1後	/	2			○		1							
	小計 (8科目)	-	-	0	30	0	-		2	0	0	0	0	0	0	
微 生 物 感 染 症 学	微生物学特別研究 I	1前	/	6			○		1							
	微生物学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	微生物学演習	1後	/	3			○		1							
	臨床ウイルス学特別研究 I	1前-4後	/	6			○		1							
	臨床ウイルス学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	臨床ウイルス学演習	1前-4後	/	3			○		1							
	感染制御学特別研究 I	1前	/	6			○		1							
	感染制御学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	感染制御学演習	1後	/	3			○		1							
	感染治療学特別研究 I	1前-4後	/	6			○		1							
	感染治療学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	感染治療学演習	1前-4後	/	3			○		1							
	感染治療学臨床実習	1前-4後	/	2			○		1							
	感染症フィールド学特別研究 I	1前	/	6			○		1							
	感染症フィールド学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	感染症フィールド学演習	1後	/	3			○		1							
	ウイルス感染学特別研究 I	1前	/	6			○								1	
	ウイルス感染学特別研究 II	1前-4後	/	4			○								1	
	ウイルス感染学演習	1後	/	3			○								1	
	免疫制御学特別研究 I	1前	/	6			○								1	
	免疫制御学特別研究 II	1後	/	4			○								1	
	免疫制御学演習	1前-4後	/	3			○								1	
遺伝子医薬学特別研究 I	1前	/	6			○								1		
遺伝子医薬学特別研究 II	1前-4後	/	4			○								1		
遺伝子医薬学演習	1後	/	3			○								1		
小計 (25科目)	-	-	0	106	0	-		3	0	0	0	0	0	3		
地 域 社 会 医 学 ・ 健 康 科 学	医学教育学特別研究 I	1前-4後	/	6			○		1							
	医学教育学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	医学教育学演習	1前-4後	/	3			○		1							
	地域医療教育学特別研究 I	1前-4後	/	6			○		1							
	地域医療教育学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	地域医療教育学演習	1前-4後	/	3			○		1							
	地域医療支援学特別研究 I	1前-4後	/	6			○		1							
	地域医療支援学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	地域医療支援学演習	1前-4後	/	3			○		1							
	地域医療支援学臨床実習	1前-4後	/	2			○		1							
	地域医療ネットワーク学特別研究 I	1前	/	6			○		1							
	地域医療ネットワーク学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	地域医療ネットワーク学演習	1後	/	3			○		1							
	AI・デジタルヘルス科学特別研究 I	1前-4後	/	6			○		1							
	AI・デジタルヘルス科学特別研究 II	1前-4後	/	4			○		1							
	AI・デジタルヘルス科学演習	1前-4後	/	3			○		1							
	医療行政学特別研究 I	1前	/	6			○		1							

地域社会医学・健康科学	医療行政学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	医療行政学演習	1後		3			○		1								
	医療経済・病院経営学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1								
	医療経済・病院経営学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	医療経済・病院経営学演習	1後		3			○		1								
	医療法・倫理学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1								
	医療法・倫理学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	医療法・倫理学演習	1前-4後		3			○		1								
	規制科学特別研究Ⅰ	1前		6			○									1	
	規制科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○									1	
	規制科学演習	1後		3			○									1	
	規制科学臨床実習	1前-4後		2			○									1	
	生物統計学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1								
	生物統計学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	生物統計学演習	1後		3			○		1								
	橋渡し科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1								
	橋渡し科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	橋渡し科学演習	1前-4後		3			○		1								
	医薬食品評価科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1								
	医薬食品評価科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	医薬食品評価科学演習	1後		3			○		1								
	法医学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1								
	法医学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	法医学演習	1後		3			○		1								
	地域連携病理学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1								
	地域連携病理学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	地域連携病理学演習	1後		3			○		1								
	地域連携病理学臨床実習	1前-4後		2			○		1								
	医工探索創成学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1								
	医工探索創成学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	医工探索創成学演習	1後		3			○		1								
医工探索創成学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
小計(49科目)	-	-	0	203	0		-	9	0	0	0	0	0	0	1		
未来医学	幹細胞医学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1								
	幹細胞医学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	幹細胞医学演習	1後		3			○		1								
	分子疫学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1								
	分子疫学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	分子疫学演習	1前-4後		3			○		1								
	免疫学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1								
	免疫学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	免疫学演習	1前-4後		3			○		1								
	高分解能生体構造イメージング特別研究Ⅰ	1前		6			○		1								
	高分解能生体構造イメージング特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	高分解能生体構造イメージング演習	1後		3			○		1								
	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1								
	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学演習	1後		3			○		1								
小計(15科目)	-	-	0	65	0		-	4	0	0	0	0	0	0			
内科学	循環器内科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1								
	循環器内科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	循環器内科学演習	1前		3			○		1								
	循環器内科学臨床実習	1後		2			○		1								
	不整脈先端治療学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1								
	不整脈先端治療学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	不整脈先端治療学演習	1後		3			○		1								
	不整脈先端治療学臨床実習	1後		2			○		1								
	循環器高度医療探索学特別研究Ⅰ	1前		6			○									1	
	循環器高度医療探索学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○									1	
	循環器高度医療探索学演習	1後		3			○									1	
	循環器高度医療探索学臨床実習	1前-4後		2			○									1	
	消化器内科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1								
	消化器内科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	消化器内科学演習	1前-4後		3			○		1								
	消化器内科学臨床実習	1前-4後		2			○		1								
	新規治療探索医学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1								
	新規治療探索医学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1								
	新規治療探索医学演習	1後		3			○		1								
	新規治療探索医学臨床実習	1前-4後		2			○		1								
	呼吸器内科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1								

内科学	呼吸器内科学特別研究Ⅱ	1後			4			○		1							
	呼吸器内科学演習	1前			3			○		1							
	呼吸器内科学臨床実習	1前-4後			2			○		1							
	呼吸器先端医療開発学特別研究Ⅰ	1前			6			○		1							
	呼吸器先端医療開発学特別研究Ⅱ	1前-4後			4			○		1							
	呼吸器先端医療開発学演習	1後			3			○		1							
	呼吸器先端医療開発学臨床実習	1前-4後			2			○		1							
	糖尿病・内分泌内科学特別研究Ⅰ	1前			6			○		1							
	糖尿病・内分泌内科学特別研究Ⅱ	1後			4			○		1							
	糖尿病・内分泌内科学演習	1後			3			○		1							
	糖尿病・内分泌内科学臨床実習	1前-4後			2			○		1							
	総合内科学特別研究Ⅰ	1前			6			○		1							
	総合内科学特別研究Ⅱ	1前			4			○		1							
	総合内科学演習	1前			3			○		1							
	総合内科学臨床実習	1前			2			○		1							
	先進代謝疾患治療開発学特別研究Ⅰ	1前			6			○		1							
	先進代謝疾患治療開発学特別研究Ⅱ	1前-4後			4			○		1							
	先進代謝疾患治療開発学演習	1後			3			○		1							
	先進代謝疾患治療開発学臨床実習	1前-4後			2			○		1							
	腎臓内科学特別研究Ⅰ	1前-4後			6			○		1							
	腎臓内科学特別研究Ⅱ	1前-4後			4			○		1							
	腎臓内科学演習	1前-4後			3			○		1							
	腎臓内科学臨床実習	1前-4後			2			○		1							
	免疫内科学特別研究Ⅰ	1前-4後			6			○		1							
	免疫内科学特別研究Ⅱ	1前-4後			4			○		1							
	免疫内科学演習	1後			3			○		1							
	免疫内科学臨床実習	1前-4後			2			○		1							
	脳神経内科学特別研究Ⅰ	1前			6			○		1							
	脳神経内科学特別研究Ⅱ	1前-4後			4			○		1							
	脳神経内科学演習	1後			3			○		1							
	脳神経内科学臨床実習	1前-4後			2			○		1							
	腫瘍・血液内科学特別研究Ⅰ	1前-4後			6			○		1							
	腫瘍・血液内科学特別研究Ⅱ	1前-4後			4			○		1							
腫瘍・血液内科学演習	1前-4後			3			○		1								
腫瘍・血液内科学臨床実習	1前-4後			2			○		1								
血液内科学特別研究Ⅰ	1前-4後			6			○		1								
血液内科学特別研究Ⅱ	1前-4後			4			○		1								
血液内科学演習	1前-4後			3			○		1								
血液内科学臨床実習	1前-4後			2			○		1								
小計 (60科目)	-	-	0	225	0	-	-	-	8	0	0	0	0	0	1		
内科系	放射線診断学特別研究Ⅰ	1前			6			○		1							
	放射線診断学特別研究Ⅱ	1前-4後			4			○		1							
	放射線診断学演習	1後			3			○		1							
	放射線診断学臨床実習	1後			2			○		1							
	IVR学特別研究Ⅰ	1前			6			○		1							
	IVR学特別研究Ⅱ	1前-4後			4			○		1							
	IVR学演習	1前			3			○		1							
	IVR学臨床実習	1後			2			○		1							
	先進医用画像診断学特別研究Ⅰ	1前			6			○		1							
	先進医用画像診断学特別研究Ⅱ	1前-4後			4			○		1							
	先進医用画像診断学演習	1後			3			○		1							
	先進医用画像診断学臨床実習	1前-4後			2			○		1							
	放射線医学特別研究Ⅰ	1前-4後			6			○		1							
	放射線医学特別研究Ⅱ	1前-4後			4			○		1							
	放射線医学演習	1前-4後			3			○		1							
	放射線医学臨床実習	1前-4後			2			○		1							
	先進循環器画像診断学特別研究Ⅰ	1前-4後			6			○		1							1
	先進循環器画像診断学特別研究Ⅱ	1前-4後			4			○		1							1
	先進循環器画像診断学演習	1前-4後			3			○		1							1
	先進循環器画像診断学臨床実習	1前-4後			2			○		1							1
	放射線腫瘍学特別研究Ⅰ	1前-4後			6			○		1							
	放射線腫瘍学特別研究Ⅱ	1前-4後			4			○		1							
	放射線腫瘍学演習	1前			3			○		1							
	放射線腫瘍学臨床実習	1前-4後			2			○		1							
	粒子線医学特別研究Ⅰ	1前			6			○									1
	粒子線医学特別研究Ⅱ	1前-4後			4			○									1
	粒子線医学演習	1後			3			○									1
小児科学特別研究Ⅰ	1前-4後			6			○		1								
小児科学特別研究Ⅱ	1前-4後			4			○		1								
小児科学演習	1前-4後			3			○		1								
小児科学臨床実習	1前-4後			2			○		1								

内科系	こども急性疾患学特別研究 I	1前-4後		6			○		1									
	こども急性疾患学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	こども急性疾患学演習	1前-4後		3			○		1									
	こども急性疾患学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	小児神経学・発達行動小児科学特別研究 I	1前-4後		6			○		1									
	小児神経学・発達行動小児科学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	小児神経学・発達行動小児科学演習	1前-4後		3			○		1									
	小児神経学・発達行動小児科学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	造血幹細胞医療創成学特別研究 I	1前-4後		6			○		1									
	造血幹細胞医療創成学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	造血幹細胞医療創成学演習	1前-4後		3			○		1									
	造血幹細胞医療創成学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	皮膚科学特別研究 I	1前-4後		6			○		1									
	皮膚科学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	皮膚科学演習	1前-4後		3			○		1									
	皮膚科学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	精神医学特別研究 I	1前		6			○		1									
	精神医学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	精神医学演習	1後		3			○		1									
	精神医学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	精神疾患高度医療探索学特別研究 I	1前		6			○											1
	精神疾患高度医療探索学特別研究 II	1前-4後		4			○											1
	精神疾患高度医療探索学演習	1後		3			○											1
	精神疾患高度医療探索学臨床実習	1前-4後		2			○											1
	臨床検査医学特別研究 I	1前-4後		6			○		1									
	臨床検査医学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	臨床検査医学演習	1前-4後		3			○		1									
	臨床検査医学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	立証検査医学特別研究 I	1前		6			○		1									
	立証検査医学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	立証検査医学演習	1後		3			○		1									
	立証検査医学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	医療情報学特別研究 I	1前		6			○		1									
	医療情報学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	医療情報学演習	1後		3			○		1									
	医療情報学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	先端緩和医療学特別研究 I	1前-4後		6			○		1									
	先端緩和医療学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	先端緩和医療学演習	1前-4後		3			○		1									
	先端緩和医療学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	病態情報学特別研究 I	1前		6			○		1									
	病態情報学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	病態情報学演習	1後		3			○		1									
	病態情報学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	薬剤学特別研究 I	1前-4後		6			○		1									
	薬剤学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	薬剤学演習	1前-4後		3			○		1									
薬剤学臨床実習	1前-4後		2			○		1										
システム病態生物学特別研究 I	1前		6			○											1	
システム病態生物学特別研究 II	1前-4後		4			○											1	
システム病態生物学演習	1後		3			○											1	
小児先端医療学特別研究 I	1前		6			○											1	
小児先端医療学特別研究 II	1前-4後		4			○											1	
小児先端医療学演習	1後		3			○											1	
小児先端医療学臨床実習	1前-4後		2			○											1	
ゲノム医療学特別研究 I	1前		6			○		1										
ゲノム医療学特別研究 II	1前-4後		4			○		1										
ゲノム医療学演習	1後		3			○		1										
ゲノム医療学臨床実習	1前-4後		2			○		1										
小計 (90科目)	-	-	0	341	0		-	13	0	0	0	0	0	0	5			
外科学	食道胃腸外科学特別研究 I	1前-4後		6			○		1									
	食道胃腸外科学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	食道胃腸外科学演習	1前-4後		3			○		1									
	食道胃腸外科学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	肝胆膵外科学特別研究 I	1前-4後		6			○		1									
	肝胆膵外科学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	肝胆膵外科学演習	1前		3			○		1									
	肝胆膵外科学臨床実習	1後		2			○		1									
	乳腺内分泌外科学特別研究 I	1前		6			○		1									
	乳腺内分泌外科学特別研究 II	1後		4			○		1									
	乳腺内分泌外科学演習	1前-4後		3			○		1									

外科学	乳腺内分泌外科学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	心臓血管外科学特別研究 I	1前		6			○		1									
	心臓血管外科学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	心臓血管外科学演習	1後		3			○		1									
	心臓血管外科学臨床実習	1後		2			○		1									
	心臓血管外科先端医療学特別研究 I	1前		6			○										1	
	心臓血管外科先端医療学特別研究 II	1前-4後		4			○										1	
	心臓血管外科先端医療学演習	1後		3			○										1	
	心臓血管外科先端医療学臨床実習	1前-4後		2			○										1	
	呼吸器外科学特別研究 I	1前-4後		6			○		1									
	呼吸器外科学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	呼吸器外科学演習	1前-4後		3			○		1									
	呼吸器外科学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	小児外科学特別研究 I	1前-4後		6			○		1									
	小児外科学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	小児外科学演習	1前-4後		3			○		1									
	小児外科学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	低侵襲外科学特別研究 I	1前-4後		6			○		1									
	低侵襲外科学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	低侵襲外科学演習	1前-4後		3			○		1									
	低侵襲外科学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	先端医学テクノロジー開発・応用学特別研究 I	1前		6			○		1									
	先端医学テクノロジー開発・応用学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	先端医学テクノロジー開発・応用学演習	1後		3			○		1									
	先端医学テクノロジー開発・応用学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	先進のがん医療・研究推進学特別研究 I	1前		6			○		1									
	先進のがん医療・研究推進学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	先進のがん医療・研究推進学演習	1後		3			○		1									
	先進のがん医療・研究推進学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	国際医療連携推進学特別研究 I	1前		6			○		1									
	国際医療連携推進学特別研究 II	1前-4後		4			○		1									
	国際医療連携推進学演習	1後		3			○		1									
	国際医療連携推進学臨床実習	1前-4後		2			○		1									
	小計 (44科目)	-	-	0	165	0	-	-	5	0	0	0	0	0	0	1		
	外科系	整形外科特別研究 I	1前-4後		6			○		1								
		整形外科特別研究 II	1前-4後		4			○		1								
		整形外科演習	1前-4後		3			○		1								
		整形外科臨床実習	1前-4後		2			○		1								
		脊椎外科学特別研究 I	1前		6			○		1								
		脊椎外科学特別研究 II	1前-4後		4			○		1								
		脊椎外科学演習	1後		3			○		1								
		脊椎外科学臨床実習	1前-4後		2			○		1								
		関節温存・再建外科学特別研究 I	1前		6			○		1								
		関節温存・再建外科学特別研究 II	1前-4後		4			○		1								
関節温存・再建外科学演習		1後		3			○		1									
関節温存・再建外科学臨床実習		1前-4後		2			○		1									
リハビリテーション運動機能学特別研究 I		1前-4後		6			○										1	
リハビリテーション運動機能学特別研究 II		1前-4後		4			○										1	
リハビリテーション運動機能学演習		1前-4後		3			○										1	
リハビリテーション運動機能学臨床実習		1前-4後		2			○										1	
リハビリテーション機能回復学特別研究 I		1前-4後		6			○		1									
リハビリテーション機能回復学特別研究 II		1前-4後		4			○		1									
リハビリテーション機能回復学演習		1前-4後		3			○		1									
リハビリテーション機能回復学臨床実習		1前-4後		2			○		1									
脳神経外科学特別研究 I		1前-4後		6			○		1									
脳神経外科学特別研究 II		1前-4後		4			○		1									
脳神経外科学演習		1前-4後		3			○		1									
脳神経外科学臨床実習		1前-4後		2			○		1									
眼科学特別研究 I		1前-4後		6			○		1									
眼科学特別研究 II		1前-4後		4			○		1									
眼科学演習		1前-4後		3			○		1									
眼科学臨床実習		1前-4後		2			○		1									
難治性網膜視神経変性治療学特別研究 I		1前-4後		6			○										1	
難治性網膜視神経変性治療学特別研究 II		1前-4後		4			○										1	
難治性網膜視神経変性治療学演習		1前-4後		3			○										1	
難治性網膜視神経変性治療学臨床実習		1前-4後		2			○										1	
耳鼻咽喉科頭頸部外科学特別研究 I		1前-4後		6			○		1									
耳鼻咽喉科頭頸部外科学特別研究 II		1前-4後		4			○		1									
耳鼻咽喉科頭頸部外科学演習		1前		3			○		1									
耳鼻咽喉科頭頸部外科学臨床実習		1前-4後		2			○		1									
腎泌尿器科学特別研究 I		1前		6			○		1									

外科系	腎泌尿器科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1										
	腎泌尿器科学演習	1後		3			○		1										
	腎泌尿器科学臨床実習	1後		2			○		1										
	泌尿器先端医療開発学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1										
	泌尿器先端医療開発学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1										
	泌尿器先端医療開発学演習	1後		3			○		1										
	泌尿器先端医療開発学臨床実習	1前-4後		2			○		1										
	産科生殖医学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1										
	産科生殖医学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1										
	産科生殖医学演習	1前		3			○		1										
	産科生殖医学臨床実習	1前-4後		2			○		1										
	婦人科先端医療学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1										
	婦人科先端医療学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1										
	婦人科先端医療学演習	1後		3			○		1										
	婦人科先端医療学臨床実習	1後		2			○		1										
	形成外科学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1										
	形成外科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1										
	形成外科学演習	1前-4後		3			○		1										
	形成外科学臨床実習	1前-4後		2			○		1										
	足病医学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1										
	足病医学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1										
	足病医学演習	1前-4後		3			○		1										
	足病医学臨床実習	1前-4後		2			○		1										
	麻酔科学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1										
	麻酔科学特別研究Ⅱ	1前		4			○		1										
	麻酔科学演習	1前		3			○		1										
	麻酔科学臨床実習	1前		2			○		1										
	口腔外科学特別研究Ⅰ	1前		6			○		1										
	口腔外科学特別研究Ⅱ	1前		4			○		1										
	口腔外科学演習	1後		3			○		1										
	口腔外科学臨床実習	1後		2			○		1										
	災害・救急医学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1										
	災害・救急医学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1										
	災害・救急医学演習	1前		3			○		1										
	災害・救急医学臨床実習	1前-4後		2			○		1										
	先進救命救急医学特別研究Ⅰ	1前-4後		6			○		1										
	先進救命救急医学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○		1										
	先進救命救急医学演習	1前-4後		3			○		1										
	先進救命救急医学臨床実習	1前-4後		2			○		1										
	小児高度専門外科学特別研究Ⅰ	1前		6			○												1
小児高度専門外科学特別研究Ⅱ	1前-4後		4			○												1	
小児高度専門外科学医学演習	1後		3			○												1	
小児高度専門外科学臨床実習	1前-4後		2			○												1	
小計(80科目)	-	-	0	300	0	-		12	0	0	0	0	0	3					
合計(432科目)	-	-	0	1633	0	-		64	2	1	8	0	47						
学位又は称号	博士(医学)		学位又は学科の分野		医学関係														
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等											
4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者と認めた場合は、3年以上在学すれば足りるものとする。								1学年の学期区分				2学期							
								1学期の授業期間				15週							
								1時限の授業の標準時間				90分							

教 育 課 程 等 の 概 要

(【既設学部等】医学研究科博士課程前期課程医療創成工学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
イノベーション	問題解決基礎演習	1前/1Q	/		1			○		2					1	
	医療機器コンセプト創造学特論	1前/1Q	/	1			○		4	1					1	
	医療機器コンセプト創造演習	1前/1Q	/	1				○	4	1					1	
	医療機器社会実装学特論	2前/1Q	/	1				○	2	1					7	
	小計 (4科目)	-	-	3	1	0			7	2	0	0	0	0	9	
オペレーション	医療機器レギュラトリーサイエンス学特論	1前/3Q	/	1			○		2						8	
	医療機器ビジネス学特論	1前/3Q	/	1			○		2	1					5	
	医療機器品質マネジメント学特論	2前/1Q	/	1			○		1	1					3	
	小計 (3科目)	-	-	3	0	0			4	1	0	0	0	0	16	
実践創造実習	ニーズ探索臨床現場実習	1前/2Q	/	2				○	4	3	1	2			15	
	医療機器コンセプト創造実習	1前/2Q	/	2				○	4	3		2			15	
	ものづくり実習	1後/3Q	/	2				○	3	1		1			1	
	小計 (3科目)	-	-	6	0	0			6	3	1	2	0	0	16	
工学系	医療機器・システム設計概論	1前/2Q	/	1			○		2	1					2	
	医療機器・システム設計演習	1後/3Q	/	1				○	2	1		1			2	
	小計 (2科目)	-	-	2	0	0			2	1	0	1	0	0	3	
インターンシップ	インターンシップ	1後/3Q・4Q	/	1				○	3							
	小計 (1科目)	-	-	1	0	0			3	0	0	0	0	0		
専門科目	医用材料工学	1前/2Q	/	1			○		1						1	
	医用有機化学	1前/2Q	/	1			○		1							
	医用センシング	1後/3Q	/	1			○		1							
	計測技術概論	1前/1Q	/	1			○		3	1						
	プログラミング演習	1前/1Q	/	1				○		1		1				
	AI・深層学習	1後/3Q	/	1			○				1				1	
	データサイエンス演習	1後/4Q	/	1				○		1		1				
	医療機器・システム英語特別講義	1後/3Q	/	1			○		2	1						
	バイオメディカルサイエンスA	1前	/	2			○								1	
	バイオメディカルサイエンスB	1前	/	2			○								1	
	社会医学・生命倫理・安全	1前	/	2			○								1	
	シグナル伝達特論	1前	/	2			○								1	
	細胞分子医学特論	1前	/	2			○								1	
	薬物治療学特論	1前	/	2			○								1	
	微生物感染症学特論	1後	/	2			○								1	
	統計学	1通	/	1			○								1	
	科学英語	1前・1後	/	1			○								1	
小計 (17科目)	-	-	0	24	0				3	1	2	1	0	10		
研特別	特別研究	1~2	/	10				○	9	4						
	小計 (1科目)	-	-	10	0	0			9	4	0	0	0	0		
合計 (31科目)				-	-	25	25	0		9	4	2	2	0	50	
学位又は称号		修士 (医工学)		学位又は学科の分野			医学関係、工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
原則として課程に2年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計30単位以上を修得し、かつ特別研究を修士論文研究または特定課題研究として遂行し、修士論文または特定課題報告書の審査及び最終試験に合格することとする。 修士論文研究では、学生は医療現場にて実践したニーズ探索を起点として、新しい医療創成につながる機器開発やその主要機能改良を可能とする応用研究に取り組み、論文としてまとめ上げる。特定課題研究では、学生は医療機器の初期開発過程を実践し、その実施及び思考過程を特定課題報告としてまとめ上げる。 履修基準として、学生は「イノベーション科目」3単位以上、「オペレーション科目」3単位、「工学系科目」2単位、「実践創造実習」6単位、「インターンシップ」1単位、「専門科目」4単位以上、特別研究10単位の合計30単位以上を履修する。							1学年の学期区分		4期							
							1学期の授業期間		8週							
							1時限の授業の標準時間		90分							

教 育 課 程 等 の 概 要																
(【既設学部等】医学研究科博士課程後期課程医療創成工学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)
科 目 マ ネ ジ メ ン ト	プロジェクトマネジメント学特論	1後/3Q	////	1			○			2		1		2	オムニバス	
	ビジネスプランニング学特論	1後/4Q	////	1			○			1		1		2	オムニバス	
	アントレプレナー・リーダーシップ学特論	2前/1Q	////	1			○			2				7	オムニバス	
	医療機器国際開発特論	2前/2Q	////	1			○			1	1			8	オムニバス	
	小計 (4科目)	—	—	4	0	0	—	—	—	6	1	1	0	0	17	
講 究 医 学 端 研	先端医学シリーズ	1後	////		1		○							1		
	先端医学トピックス	1通	////		1		○							1		
小計 (2科目)	—	—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	2		
講 究 工 学 端 研	先端工学トピックス	1前/2Q	////		1		○			3	1				オムニバス	
	小計 (1科目)	—	—	0	1	0	—	—	3	1	0	0	0	0		
義 特 大 別 学 講 院	大学院特別英語	1前・1後	////		1		○							1		
	小計 (1科目)	—	—	0	1	0	—	—	0	0	0	0	0	1		
シ タ イ ン ブ ン	ジョブ型研究インターンシップ	1前・3後	////		2				○	9	4					
	小計 (1科目)	—	—	0	2	0	—	—	9	4	0	0	0	0		
研 特 究 別	特別研究	1前・3後	////	6					○	9	4					
	小計 (1科目)	—	—	6	0	0	—	—	9	4	0	0	0	0		
合計 (10科目)				—	—	10	6	0	—	9	4	0	0	0	20	
学位又は称号		博士 (医工学)			学位又は学科の分野			医学関係、工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
原則として課程に3年以上在籍し、以下に示す履修基準に従って合計10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。 履修基準として、「マネジメント科目」4単位、特別研究6単位の合計10単位以上を履修する。なお、選択科目群の履修は修了要件には含めない。							1学年の学期区分			4期						
							1学期の授業期間			8週						
							1時限の授業の標準時間			90分						

教育課程等の概要																	
(【既設学部等】保健学研究科博士課程前期課程保健学専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択必修	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(の教員を除く)	
共通科目	保健学研究共通特講Ⅰ	1前	/		2		○			2					5	オムニバス	
	保健学研究共通特講Ⅱ	1後		2		○			6	2	1	1				オムニバス	
	保健学研究共通特講Ⅲ	1後		2		○			8	2	1	2				オムニバス	
	保健学研究共通特講Ⅳ	1前		2		○			1						2	オムニバス	
	I PW特講Ⅰ	1後		2		○				1					1		
	国際実践特講Ⅰ	1①		2		○			2	1					1	オムニバス	
	国際実践フィールドワークⅠ	1②		2		○			1								
	サイエンティフィック・イングリッシュ特講Ⅰ	1③		2		○									1		
	メディカルデータサイエンス特講Ⅰ	1④		2		○									8	オムニバス	
	小計(9科目)	-		-	-	0	18	0	-	-	13	5	2	2	0	18	
看護学領域専門科目	看護教育特講Ⅰ	1前	/		2		○			1				1	2	オムニバス	
	看護研究特講Ⅰ	1前		2		○			3	1					3	オムニバス	
	看護倫理特講Ⅰ	1後		2		○			1	1			2			オムニバス	
	看護管理特講Ⅰ	1後		2		○			1				1		2	オムニバス	
	看護コンサルテーション特講Ⅰ	1後		2		○							1		6	オムニバス	
	実践看護学特講Ⅰ	1前		2		○			2		1	2				オムニバス	
	実践看護学演習Ⅰ	1後		2				○	1	1	2					共同	
	実践看護学特別研究Ⅰ	1年		10				○	2		1	2					
	療養支援看護学特講Ⅰ	1前		2				○	1		1	3			2	オムニバス	
	療養支援看護学演習Ⅰ	1後		2				○	1		1	3				オムニバス	
	療養支援看護学特別研究Ⅰ	1年		10				○	1		1					オムニバス	
	老年看護学特講Ⅰ	1前		2					1	1					1	共同	
	老年看護学演習Ⅰ	1後		2				○	1	1					1	オムニバス	
	老年看護学特別研究Ⅰ	1年		10					1	1					1		
	精神看護学特講Ⅰ	1前		2				○					2		1	オムニバス	
	精神看護学演習Ⅰ	1後		2					○				2		1	オムニバス	
	精神看護学特別研究Ⅰ	1前-2後		10					○	1			2				
	上級病態生理学	1前		2				○		5							オムニバス
	上級臨床薬理学	1前		2				○		5							オムニバス
	上級フィジカルアセスメント学	1後		2				○		3	1						オムニバス
	家族環境学	1前		2				○		2	1						オムニバス
	理論家族看護学	1前		2				○		2	1					2	オムニバス
	家族症候学	1前		2				○		2	1	1				2	オムニバス
	実践家族看護学	1後		2				○		1	1					2	オムニバス
	家族インターベンション学	1後		2				○		1	1					2	オムニバス
	実践家族看護学演習	1後		2					○	1	1					2	共同
	トランス文化家族看護学	1前		2				○		1	1					3	オムニバス
	こども保育期・教育期家族看護学	2前		2				○		1	1						オムニバス
	家族看護学基盤実習	1後		2					○	1	1						共同
	家族看護学展開実習	2通		4					○	1	1						共同
	家族看護学統合実習	2通		4					○	1	1						共同
	家族看護学特講Ⅰ	1前		2				○		1	1					2	オムニバス
	家族看護学演習Ⅰ	1後		2					○	1	1						共同
	家族看護学特別研究Ⅰ	1年		10						1	1						共同
	実践家族看護学研究	1年		10						1							
	母性看護学特講Ⅰ	1前		2				○		1	1		3		1	オムニバス	
	母性看護学演習Ⅰ	1後		2					○	1	1				1	共同	
	母性看護学特別研究Ⅰ	1年		10						1							
	助産学特別研究	1年		10					○	2	1						
	がん看護学特講Ⅰ	1前		2				○		1	1	1	1				
	がん看護学演習Ⅰ	1後		2					○	1	1						
	腫瘍学Ⅰ	1前		2				○				1					
	腫瘍学Ⅱ	1後		2				○				1					
小計(43科目)	-	-	-	0	154	0	-	-	12	4	2	10	0	31			

病態解析学 領域専門科目	分析医科学特講 I	1前		2		○			1	1			4	
	分析医科学演習 I	1後		2					1					
	細胞機能構造科学特講 I	1前		2		○			2	1			1	
	細胞機能構造科学演習 I	1後		2					2	1				
	病態代謝学特講 I	1前		2		○				1			2	
	病態代謝学演習 I	1後		2						1			3	
	臨床免疫学特講 I	1前		2		○			1					
	臨床免疫学演習 I	1後		2					1					
	病態解析学特別研究 I	1年		10				○	4	3				1
	Advanced lectures in lifestyle related diseases I	1前		2		○			3					4
	Advanced practice in lifestyle related diseases I	1後		2		○			1					3
	病態解析学専門領域実習 I	1通		2				○	1					2
	小計(12科目)	-	-	0	32	0	-	-	7	3	1	0	0	13
リハビリテーション 科学領域専門科目	生体構造・機能解析学特講 I	1集		2		○			1					
	生体構造・機能解析学演習 I	1後		2										
	生体構造・機能解析学特別研究 I	1年		10					1					
	運動機能障害リハビリテーション学特講 I	1前		2		○			3	2				
	運動機能障害リハビリテーション学演習 I	1後		2					3	2				
	運動機能障害リハビリテーション学特別研究 I	1年		10					3	2				
	作業障害解析・補完学特講 I	1前		2		○			1	2		1		
	作業障害解析・補完学演習 I	1後		2					1	2		1		
	作業障害解析・補完学特別研究 I	1年		10						2				
	脳機能障害リハビリテーション学特講 I	1前		2		○			1	1				
	脳機能障害リハビリテーション学演習 I	1後		2					1	1				
	脳機能障害リハビリテーション学特別研究 I	1年		10					1	1				
	精神障害リハビリテーション学特講 I	1前		2		○				1				
	精神障害リハビリテーション学演習 I	1後		2						1				
	精神障害リハビリテーション学特別研究 I	1年		10					1	1				
	生命情報融合論 I	1後		2										1
	医用画像情報科学特論 I	1後		2		○								1
	人間情報科学特論 I	1後		2		○								1
	健康情報科学特別研究 I	1年		10										1
	リハビリテーション科学総合実習(1) I	1前		2					4	4				1
	リハビリテーション科学総合実習(2) I	1後		2					3	5				1
	リハビリテーション科学専門領域実習 I	1通		2					3	5				3
リハビリテーション管理学特講 I	1前		2		○			1	1				5	
リハビリテーション科学研究法特講 I	1前		2		○			4	2					
リハビリテーション科学研究法演習 I	1後		2					4	2					
小計(25科目)	-	-	0	98	0	-	-	6	7	0	1	0	11	
パブリックヘルス 領域専門科目	ヘルスプロモーション学特講 I	1前		2		○			4	1	1	1		3
	生活習慣病・予防治療学特講 I	1前		2		○			5		1	1		2
	地域保健実践学特講 I	1前		2		○			3	1	1			
	地域実践活動特別演習 I	1後		2					3	1				2
	地域保健学実習 I	1後		2					4	1	1	2		
	地域保健・健康科学特別研究 I	1前-2後		10					4	1				
	公衆衛生看護学特別研究	1年		10					1	2				1
	感染症学特講 I	1前		2		○			3	1				4
	細菌学演習 I	1後		2										2
	寄生虫学演習 I	1後		2						1				
	ウイルス学演習 I	1後		2					1					
	国際感染症対策特別研究 I	1年		10					1	1				
	国際保健・災害医療学特講 I	1前		2		○				1				1
	国際保健支援論特講 I	1前		2		○			1	2				1
	国際保健支援論演習 I	1後		2					1	2				1
	災害マネジメント論特講 I	1前		2		○				1				1
	災害マネジメント論演習 I	1後		2						1				1
	病理病態学特講 I	1前		2		○								1
	病理病態学演習 I	1後		2										1
	公衆衛生学特講 I	1前		2		○			1					
	公衆衛生学演習 I	1後		2					1					
	疫学特講 I	1後		2		○			1					
	環境保健学特講 I	1後		2		○			1					
	医療人類学特講 I	1前		2		○			1					
	保健医療論特講 I	1後		2		○			1					
	人口学特講 I	1前		2		○			1					1
	国際保健研究方法論特講 I	1前		2		○			2	1				1
	国際保健フィールドワーク I	1通		2					2	2				1

専ハバ 門ル 科スリ 目 域ク	国際保健学特別研究 I	1年			10				○	2	2					
	健康疫学特講 I	1前			2											3
	健康生理学特論 I	1前			2			○								3
	運動栄養学特論 I	1前			2			○								3
	小計(32科目)	-	-	0	96	0		-		9	4	1	3	0	18	
保 健 師 専 門 科 目	疫学特講	1前			1			○		1	1					1
	公衆衛生学特講	1前			2			○								1
	保健統計学特講	1前			2			○		2	2		2			1
	保健医療福祉論特講	1前			1			○		1						4
	地域公共政策論特講	1前			1			○			1					
	医療経済論特講	1前			1			○				1				3
	保健医療福祉論演習	1後			1				○	1	2					
	公衆衛生看護学特講	1前			2			○		1	2		2			
	社会健康論特講	1前			1			○			1					1
	個別支援論特講	1前			1			○			1		2			1
	組織活動論特講	1前			1			○		1	2					
	健康教育論特講	1通			1			○		1			1			
	産業保健特講	1後			1			○								2
	学校保健特講	1後			1			○				1	1			1
	地域看護診断論特講	1前			1			○		1	1		1			
	公衆衛生看護展開演習 I	1後			1				○		1	1		2		1
	公衆衛生看護展開演習 II	1通			2				○	1	2		2			
	公衆衛生看護展開演習 III	1通			2				○	1	2		2			
	公衆衛生看護展開演習 IV	1年			1				○	1	2		2			
	国際公衆衛生看護活動演習	2年			1			○			1		1			
	公衆衛生看護管理特講	1後			1			○		1						3
	健康危機管理特講	1後			1			○			1					3
	公衆衛生看護学実習 I (行政)	2前			4					1	2		2			
	公衆衛生看護学実習 II (産業)	2前			1					1	2		2			
公衆衛生看護管理実習	2後			1					1	2		2				
小計(25科目)	-	-	0	33	0		-		2	2	0	2	0	18		
助 産 師 専 門 科 目	創造助産学概論	1前			2			○		2	1					3
	生涯女性健康科学特講	1前			2			○		1	1					2
	生涯女性健康科学演習	1後			2				○		2					1
	高度実践助産技術学特講	1前			2			○		1	1					5
	高度実践助産技術学演習	1後			2				○	1	1		2			
	高度周産期技術学特講	1前			2			○		1	1					1
	高度周産期技術学演習	1後			2				○	1	1		2			1
	ハイリスク母性ケア論特講	1前			2			○		1	1		3			10
	地域母子保健特講 I	2前			1			○		2			1			1
	地域母子保健特講 II	2前			1			○		1						1
	助産管理学特講	2前			2			○		1						3
	助産学実習 I	1後			9				○	1	1		3			1
	助産学実習 II	1後			2				○	1	1		3			
	助産学実習 III	2前			2				○	1	1		3			
	助産学実習 IV	2前			2				○	1	1		3			
小計(15科目)	-	-	0	35	0		-		3	2	0	3	0	25		
合計(161科目)		-	-	0	844	0		-	23	13	5	14	0	123		
学位又は称号		修士(保健学)		学位又は学科の分野		保健衛生学関係(看護学関係) 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。) 保健衛生学関係(リハビリテーション関係)										
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等						
<p>学生は、指導教員の指導を受けて、次の各号に定める履修区分の単位を含めて30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会において、優れた業績を上げた者と認めた場合は、1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>(1) 共通科目から4単位以上 (2) 指導教員の指定する専門科目 14単位以上</p> <p>保健師コースの履修要件 指導教員の指導を受けて、共通科目4単位以上及び専門科目14単位以上(特講2単位以上、演習2単位以上及び特別研究10単位)を含めて30単位以上並びに保健師専門科目33単位を修得しなければならない。</p> <p>助産師コースの履修要件 指導教員の指導を受けて、共通科目4単位以上及び専門科目14単位以上(特講2単位以上、演習2単位以上及び特別研究10単位)を含めて30単位以上並びに助産師専門科目35単位を修得しなければならない。</p>										1学年の学期区分			2学期			
										1学期の授業期間			15週			
										1時限の授業の標準時間			90分			

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(【基礎となる専攻】保健学研究科博士課程後期課程保健学専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択必修	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(の教員を除く)	
共通科目	医療保健統計学・疫学特講Ⅱ	1前	/		2		○			1	1				1	オムニバス	
	保健学研究共通特講Ⅴ	1前			2		○			2					5	オムニバス	
	保健学研究共通特講Ⅵ	1後			2		○			6	2	1	1			オムニバス	
	保健学研究共通特講Ⅶ	1後			2		○			8	2	1	2			オムニバス	
	保健学研究共通特講Ⅷ	1前			2		○			1					2	オムニバス	
	国際実践特講Ⅱ	1前			2		○			2	1					オムニバス	
	国際実践フィールドワークⅡ	1通			2			○		1							
	サイエンティフィック・イングリッシュ特講Ⅱ	1後			2			○			1					1	オムニバス
	メディカルデータサイエンス特講Ⅱ	1前			2			○								8	オムニバス
小計(9科目)	-	-	-	0	18	0	-	-	13	5	2	2	0	17	-		
看護学領域専門科目	療養支援看護学特講Ⅱ	1前	/		2		○			1		1			2	オムニバス	
	療養支援看護学演習Ⅱ	1後			2			○		1		1				共同	
	実践看護学特講Ⅱ	1前			2			○		1			1			オムニバス	
	実践看護学演習Ⅱ	1後			2			○		1			1			共同	
	老年看護学特講Ⅱ	1前			2			○		1							
	老年看護学演習Ⅱ	1後			2			○		1							
	精神看護学特講Ⅱ	1前			2			○		1			2		4	オムニバス	
	精神看護学演習Ⅱ	1後			2			○					2		1	共同	
	家族看護学特講Ⅱ	1前			2			○		1	1					オムニバス	
	家族看護学演習Ⅱ	1後			2			○		1	1					共同	
	母性看護学特講Ⅱ	1前			2			○		1							
	母性看護学演習Ⅱ	1後			2			○		1							
	看護学特別研究Ⅱ	1年			4				○		6	1					
	がん看護学特講Ⅱ	1前			2			○		1	1	1	1			オムニバス	
がん看護学演習Ⅱ	1後		2				○		1	1				共同			
腫瘍学Ⅲ	1前		2				○			1							
腫瘍学Ⅳ	1後		2				○			1							
小計(17科目)	-	-	-	0	36	0	-	-	6	1	1	4	0	3	-		
病態解析学領域専門科目	分析医科学特講Ⅱ	1前	/		2		○				1	1			3	オムニバス	
	分析医科学演習Ⅱ	1後			2			○			1				1	共同	
	細胞機能構造科学特講Ⅱ	1前			2			○		2	1				1	オムニバス	
	細胞機能構造科学演習Ⅱ	1後			2			○		2	1					共同	
	病態代謝学特講Ⅱ	1前			2			○			1				2	オムニバス	
	病態代謝学演習Ⅱ	1後			2			○			1				3	共同	
	臨床免疫学特講Ⅱ	1前			2			○		1							
	臨床免疫学演習Ⅱ	1後			2			○		1							
	病態解析学特別研究Ⅱ	1年			4				○		4	3				1	
	Advanced lectures in lifestyle related diseases II	1前			2				○		3					4	オムニバス
Advanced practice in lifestyle related diseases II	1後		2				○		1					2	オムニバス		
小計(11科目)	-	-	-	0	24	0	-	-	7	3	1	0	0	12	-		

リハビリテーション科学領域専門科目	生体構造・機能解析学特講Ⅱ	1前		2		○			1									
	生体構造・機能解析学演習Ⅱ	1後		2			○		1									
	運動機能障害リハビリテーション学特講Ⅱ	1前		2		○			4	4							オムニバス	
	運動機能障害リハビリテーション学演習Ⅱ	1後		2			○		3	2							共同	
	脳機能障害リハビリテーション学特講Ⅱ	1前		2		○			1	1							オムニバス	
	脳機能障害リハビリテーション学演習Ⅱ	1後		2			○		1	1							共同	
	精神障害リハビリテーション学特講Ⅱ	1前		2			○			1								
	精神障害リハビリテーション学演習Ⅱ	1後		2				○		1								
	生命情報融合論Ⅱ	1後		2			○										1	
	医用画像情報科学特論Ⅱ	1後		2			○										1	
	人間情報科学特論Ⅱ	1後		2			○										1	
	リハビリテーション科学研究法特講Ⅱ	1前		2			○			4	2						1	オムニバス
	リハビリテーション科学研究法演習Ⅱ	1後		2				○		4	2						1	共同
	リハビリテーション科学特別研究Ⅱ	1年		4					○	6	7						2	
小計(14科目)	-	-	0	30	0	-	-	-	6	7	0	0	0	0	3	-	-	
バブリックヘルス領域専門科目	ヘルスプロモーション学特講Ⅱ	1前		2		○			4	1	1	1				2	オムニバス	
	生活習慣病・予防治療学特講Ⅱ	1前		2		○			5		1	1				1	オムニバス	
	地域保健実践学特講Ⅱ	1前		2		○			3	1	1					1	オムニバス	
	地域実践活動特別演習Ⅱ	1後		2			○		3	1						2	共同	
	地域保健・健康科学特別研究Ⅱ	1前		4				○	4	1								
	感染症学特講Ⅱ	1前		2		○			2	1						4	オムニバス	
	細菌学演習Ⅱ	1後		2			○									2	共同	
	寄生虫学演習Ⅱ	1後		2			○			1								
	ウイルス学演習Ⅱ	1後		2			○		1									
	国際保健支援論特講Ⅱ	1前		2			○		1	2						1	オムニバス	
	国際保健支援論演習Ⅱ	1後		2				○	1	2						1	共同	
	災害マネジメント論特講Ⅱ	1前		2			○			1						1	オムニバス	
	災害マネジメント論演習Ⅱ	1後		2				○	1	1						1	共同	
	公衆衛生学特講Ⅱ	1前		2			○		1									
	公衆衛生学演習Ⅱ	1後		2				○	1									
	疫学特講Ⅱ	1後		2			○		1									
	環境保健学特講Ⅱ	1後		2			○		1									
	医療人類学特講Ⅱ	1前		2			○		1									
	保健医療論演習Ⅱ	1後		2				○	1									
	人口学特講Ⅱ	1前		2			○		1							1	オムニバス	
	国際保健研究方法論演習Ⅱ	1後		2				○	2	3						1	共同	
	国際保健フィールドワーク特別研究Ⅱ	1後		2				○	2	3						1	オムニバス	
フィールドワーク演習Ⅱ	1後		2				○	2	3						1	共同		
国際保健学特別研究Ⅱ	1年		4					3	3									
健康疫学特講Ⅱ	1前		2			○									3	オムニバス		
健康生理学特論Ⅱ	1前		2			○									3	オムニバス		
運動栄養学特論Ⅱ	1前		2			○									3	オムニバス		
小計(27科目)	-	-	0	58	0	-	-	-	9	4	1	2	0	16	-	-		
その他の科目 目録必 め	ジョブ型研究インターンシップ	1前		2				○							4	共同		
	小計(1科目)	-	-	0	2	0	-	-	0	0	0	0	0	4	-	-		
合計(79科目)		-	-	0	168	0	-	-	23	15	4	7	0	48	-	-		
学位又は称号		博士(保健学)			学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係) 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。) 保健衛生学関係(リハビリテーション関係)									
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等										
<p>学生は、当該課程に3年以上在学し、指導教員の指導を受けて、次の各号に定める履修区分の単位を含めて12単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、教授会が別に定めるところにより、優れた業績を上げた者と認めた場合は、1年(2年未満の在学期間をもって修士課程、前期課程又は専門職学位課程を修了した者)にあっては、当該在学期間を含めて3年)以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>(1) 共通科目から2単位以上 (2) 指導教員の指定する専門科目8単位以上</p>								1学年の学期区分			2学期							
								1学期の授業期間			15週							
								1時限の授業の標準時間			90分							

教育課程等の概要																		
（【既設学部等】医学部医学科）																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員		
基礎教養科目	人文系	哲学	哲学	1②-1④		1	○								1			
		心理学	心理学A	1②-1④		1	○								1			
			心理学B	1②-1④		1	○								1			
		論理学	論理学	1②-1④		1	○								1			
		教育学	教育学A	1②-1④		1	○								1			
			教育学B	1②-1④		1	○								1			
		倫理学	倫理学	1②-1④		1	○								1			
		小計(7科目)			-		0	7	0	-		0	0	0	0	0	7	-
	社会科学系	法学	法学A	1②-1④				○								1		
			法学B	1②-1④		1		○								1		
		政治学	政治学A	1②-1④		1		○								1		
			政治学B	1②-1④		1		○								1		
		経済学	経済学A	1②-1④		1		○								1		
			経済学B	1②-1④		1		○								1		
		経営学	経営学	1②-1④		1		○								1		
		社会学	社会学	1②-1④		1		○								1		
		教育社会学	教育社会学	1②-1④		1		○								1		
			地理学	地理学	1②-1④		1		○							1		
		小計(10科目)			-		0	10	0	-		0	0	0	0	0	9	-
	自然科学系	数学	数学A	1②-1④		1		○								1		
			数学B	1②-1④		1		○								1		
			数学C	1②-1④		1		○								1		
			数学D	1②-1④		1		○								1		
		惑星学	惑星学A	1②-1④		1		○								1		
			惑星学B	1②-1④		1		○								1		
		情報科学	情報学A	1②-1④		1		○								1		
			情報学B	1②-1④		1		○								1		
			データサイエンス基礎学	1②-1④		1		○								1		
			小計(9科目)			-		0	9	0	-		0	0	0	0	0	8
	総合教養科目	教育と人間形成	文学	文学A	1②-1④		1		○							1		
			文学B	1②-1④		1		○							1			
言語科学		言語科学A	1②-1④		1		○								1			
			言語科学B	1②-1④		1		○							1			
芸術と文化		芸術と文化A	1②-1④		1		○								1			
			芸術と文化B	1②-1④		1		○							1			
日本史		日本史A	1②-1④		1		○								1			
			日本史B	1②-1④		1		○							1			
東洋史		東洋史A	1②-1④		1		○								1			
			東洋史B	1②-1④		1		○							1			
アジア史		アジア史A	1②-1④		1		○								1			
			アジア史B	1②-1④		1		○							1			
西洋史		西洋史A	1②-1④		1		○								1			
			西洋史B	1②-1④		1		○							1			
考古学		考古学A	1②-1④		1		○								1			
			考古学B	1②-1④		1		○							1			
芸術史		芸術史A	1②-1④		1		○								1			
			芸術史B	1②-1④		1		○							1			
美術史		美術史A	1②-1④		1		○								1			
			美術史B	1②-1④		1		○							1			
科学史		科学史A	1②-1④		1		○								1			
			科学史B	1②-1④		1		○							1			
社会思想史		文化人類学	文化人類学	1②-1④		1		○							1			
		現代社会論	現代社会論A	1②-1④		1		○							1			
			現代社会論B	1②-1④		1		○							1			
越境する文化		越境する文化	越境する文化	1②-1④		1		○							1			
		生活環境と技術	生活環境と技術	1②-1④		1		○							1			
	カタチの文化学	カタチの文化学	1②-1④		1		○							1				
	小計(30科目)			-		0	30	0	-		0	0	0	0	0	25	-	

総合教養科目	(2) 自然界の成り立ち	科学技術と倫理	科学技術と倫理	1②-1④		1	○										1		
		現代物理学が描く世界	現代物理学が描く世界	1②-1④		1	○											1	
		身近な物理法則	身近な物理法則	1②-1④		1	○											1	
		カタチの自然学	カタチの自然学A	1②-1④		1	○											1	
			カタチの自然学B	1②-1④		1	○											1	
		ものづくりと科学技術	ものづくりと科学技術A	1②-1④		1	○											1	
			ものづくりと科学技術B	1②-1④		1	○											1	
		生物資源と農業	生物資源と農業A	1②-1④		1	○											1	
			生物資源と農業B	1②-1④		1	○											1	
			生物資源と農業C	1②-1④		1	○											1	
			生物資源と農業D	1②-1④		1	○											1	
		小計(11科目)			-	-	0	11	0	-			0	0	0	0	0	8	-
	(3) グローバルリーダーシップ	環境学入門	環境学入門A	1②-1④		1	○											1	
			環境学入門B	1②-1④		1	○											1	
		社会と人権	社会と人権A	1②-1④		1	○											1	
			社会と人権B	1②-1④		1	○											1	
		男女共同参画とジェンダー	男女共同参画とジェンダーA	1②-1④		1	○											1	
			男女共同参画とジェンダーB	1②-1④		1	○											1	
		グローバルリーダーシップ育成基礎演習	グローバルリーダーシップ育成基礎演習	1②-1④		2	○											1	
		国際協力の現状と課題	国際協力の現状と課題A	1②-1④		1	○											1	
			国際協力の現状と課題B	1②-1④		1	○											1	
		政治と社会	政治と社会	1②-1④		1	○											1	
社会生活と法		社会生活と法	1②-1④		1	○											1		
国家と法		国家と法	1②-1④		1	○											1		
現代の経済		現代の経済A	1②-1④		1	○											1		
		現代の経済B	1②-1④		1	○											1		
経済社会の発展		経済社会の発展	1②-1④		1	○											1		
地球史における生物の変遷		地球史における生物の変遷	1②-1④		1	○											1		
生物の環境適応		生物の環境適応	1②-1④		1	○											1		
人間活動と地球生態系		人間活動と地球生態系	1②-1④		1	○											1		
食と健康		食と健康A	1②-1④		1	○											1		
		食と健康B	1②-1④		1	○											1		
資源・材料とエネルギー		資源・材料とエネルギーA	1②-1④		1	○											1		
		資源・材料とエネルギーB	1②-1④		1	○											1		
	小計(22科目)			-	-	0	23	0	-			0	0	0	0	0	19	-	
(4) ESD	ESD基礎	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	1②-1④		1	○											1		
	ESD論	ESD論(持続可能な社会づくり2)A	1②-1④		1	○											1		
		ESD論(持続可能な社会づくり2)B	1②-1④		1	○											1		
	ESD生涯学習論	ESD生涯学習論A	1②-1④		1	○											1		
		ESD生涯学習論B	1②-1④		1	○											1		
	ESDボランティア論	ESDボランティア論	1②-1④		1	○											1		
	小計(6科目)			-	-	0	6	0	-			0	0	0	0	0	2	-	
(5) キャリア科目	企業社会論	企業社会論A	1②-1④		1	○											1		
		企業社会論B	1②-1④		1	○											1		
	職業と学び	職業と学び-キャリアデザインを考えるA	1②-1④		1	○											1		
		職業と学び-キャリアデザインを考えるB	1②-1④		1	○											1		
	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	1②-1④		2	○											1		
	ボランティアと社会貢献活動	ボランティアと社会貢献活動A	1②-1④		1	○											1		
		ボランティアと社会貢献活動B	1②-1④		1	○											1		
グローバルチャレンジ実習	グローバルチャレンジ実習	1②-1④		1又は2												1			
	小計(8科目)			-	-	0	9又は10	0	-			0	0	0	0	0	4	-	
(6) 神戸学	神戸大学史	神戸大学史A	1②-1④		1	○											1		
		神戸大学史B	1②-1④		1	○											1		
	阪神・淡路大震災	阪神・淡路大震災と都市の安全	1②-1④		1	○											1		
	地域連携	ひょうご神戸学	1②-1④		1	○											1		
		地域社会形成基礎論	1②-1④		1	○											1		
		日本酒学入門	1②-1④		1	○											1		
	海への誘い	海への誘い	1②-1④		2	○											1		
	瀬戸内海学入門	瀬戸内海学入門	1②-1④		2	○											1		
	小計(8科目)			-	-	0	10	0	-			0	0	0	0	0	6	-	
(7) エンタメ	データサイエンス概論	データサイエンス概論A	1②-1④		1	○											1		
		データサイエンス概論B	1②-1④		1	○											1		
	データサイエンス基礎演習	データサイエンス基礎演習	1②-1④		1												1		
		小計(3科目)			-	-	0	3	0	-			0	0	0	0	0	3	-

外国語科目	外国語第Ⅰ	Academic English Communication A1	1①		0.5				○									1		
		Academic English Communication A2	1②		0.5				○										1	
		Academic English Communication B1	1③			0.5			○										1	
		Academic English Communication B2	1④			0.5			○										1	
		Academic English Communication B1 (選抜上級クラス)	1③			0.5			○										1	
		Academic English Communication B2 (選抜上級クラス)	1④			0.5			○										1	
		Academic English Literacy A1	1①		0.5				○										1	
		Academic English Literacy A2	1②		0.5				○										1	
		Academic English Literacy B1	1③			0.5			○										1	
		Academic English Literacy B2	1④			0.5			○										1	
		Academic English Literacy B1 (選抜上級クラス)	1③			0.5			○										1	
		Academic English Literacy B2 (選抜上級クラス)	1④			0.5			○										1	
		小計(12科目)		—	—	2	4	0		—		0	0	0	0	0	0	0	4	—
		外国語第Ⅱ	ドイツ語初級A 1	1①			0.5			○										1
ドイツ語初級A 2	1②				0.5			○										1		
ドイツ語初級B 1	1①				0.5			○										1		
ドイツ語初級B 2	1②				0.5			○										1		
ドイツ語初級A 3	1③				0.5			○										1		
ドイツ語初級A 4	1④				0.5			○										1		
ドイツ語初級B 3	1③				0.5			○										1		
ドイツ語初級B 4	1④				0.5			○										1		
フランス語初級A 1	1①				0.5			○										1		
フランス語初級A 2	1②				0.5			○										1		
フランス語初級B 1	1①				0.5			○										1		
フランス語初級B 2	1②				0.5			○										1		
フランス語初級A 3	1③				0.5			○										1		
フランス語初級A 4	1④				0.5			○										1		
フランス語初級B 3	1③				0.5			○										1		
フランス語初級B 4	1④				0.5			○										1		
中国語初級A 1	1①				0.5			○										1		
中国語初級A 2	1②				0.5			○										1		
中国語初級B 1	1①				0.5			○										1		
中国語初級B 2	1②				0.5			○										1		
中国語初級A 3	1③				0.5			○										1		
中国語初級A 4	1④				0.5			○										1		
中国語初級B 3	1③				0.5			○										1		
中国語初級B 4	1④				0.5			○										1		
ロシア語初級A 1	1①				0.5			○										1		
ロシア語初級A 2	1②				0.5			○										1		
ロシア語初級B 1	1①				0.5			○										1		
ロシア語初級B 2	1②				0.5			○										1		
ロシア語初級A 3	1③				0.5			○										1		
ロシア語初級A 4	1④				0.5			○										1		
ロシア語初級B 3	1③				0.5			○										1		
ロシア語初級B 4	1④				0.5			○										1		
小計(32科目)		—	—	0	16	0		—		0	0	0	0	0	0	0	8	—		
情報科目	情報基礎	1①			1			○										1		
	情報科学1	1③			1			○										1		
	情報科学2	1④			1			○										1		
	小計(3科目)		—	—	0	3	0		—		0	0	0	0	0	0	3	—		
健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学実習基礎	1前			1				○									1		
	小計(1科目)		—	—	0	1	0		—		0	0	0	0	0	0	1	—		
高度教養科目	地域医療システム学	3前			1			○			7	1		2			3	オムニバス		
	行動科学	3前			1			○			1	1		2				オムニバス		
	医学史と医学概論	2後			2			○									1			
	臨床研究システム論	3前			1			○			1	1	1	1			4	オムニバス		
	英語アドバンスド・コース(1)	2前			1			○									1			
	英語アドバンスド・コース(2)	2後			1			○									1			
	英語アドバンスド・コース(3)	3前			1			○			1									
	英語アドバンスド・コース(4)	3後			1			○			1									
	データサイエンスPBL演習	2後			1			○									1			
小計(9科目)		—	—	0	10	0		—		9	2	1	3	0	0	10	—			
専門科目	初年次セミナー	1前	○		1			○			1							2	共同	
	初期体験臨床実習	1前	○		1				○		6							13	オムニバス	
	現代医療と生命倫理	1前	○		2			○			1	1						5	オムニバス	
	医学序説	1前	○		2			○			12							2	オムニバス	
	細胞生物学1	1前	○		2			○			2	3						3	オムニバス	
	細胞生物学2	1前	○		2			○			1	2	1					3	オムニバス	
	コミュニケーション学	1後-2前	○		1			○			1	1						3	共同	
	医学英語1	2前	○		1			○										2	オムニバス	
	医学英語2	2後	○		1			○										2	オムニバス	
小計(9科目)		—	—	13	0	0		—		24	7	1	0	0	0	32	—			

専門科目	共通専門基礎科目	心と行動	1前		2			○										1		
		微分積分1	1前		1			○										1		
		微分積分2	1前		1			○										1		
		微分積分3	1後		1			○										1		
		微分積分4	1後		1			○										1		
		物理学入門	1前			1		○										1		
		力学基礎1	1前			1		○										1		
		力学基礎2	1前			1		○										1		
		基礎物理学1	1前		1			○										1		
		基礎物理学2	1前		1			○										1		
		基礎有機化学1	1後		1			○										1		
		基礎有機化学2	1後		1			○										1		
		生物学各論E1	1前		1			○										1		
		生物学各論E2	1前		1			○										1		
		小計(14科目)	—	—	12	3	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	—
	基礎医学	解剖学	2前	○	6						○		1	1					5	※講義・オムニバス
		組織学	2前	○	3				○				1	1	1				4	※実験・オムニバス
		生化学	1後	○	4								1	3	1				9	※実験・オムニバス
		生理学	2後	○	5								1	2	2				11	※実験・オムニバス
		情報科学	2後	○	2								1						1	
		生物統計学	2後	○	2								1	1					2	オムニバス
微生物学・免疫学		2後	○	4								2	3	4				10	※実験・オムニバス	
病理学		3前	○	5								1	1	1				10	※実験・オムニバス	
公衆衛生学		3前	○	3								1						23	※実験・オムニバス	
法医学		3前	○	2										1				2	※講義・オムニバス	
発生物学		2前	○	1					○			2						6	オムニバス	
小計(11科目)	—	—	37	0	0	—	—	—	—	—	12	12	10	0	0	0	83	—		
基礎・臨床融合科目	イメージング	2前	○	1				○			2		1					12	オムニバス	
	臨床遺伝学・腫瘍学	2後	○	1				○				2	1					5	オムニバス	
	薬理学および臨床薬理学	3後	○	4				○			5	1	2					14	※実験・オムニバス	
小計(3科目)	—	—	6	0	0	—	—	—	—	—	7	3	4	0	0	0	31	—		
臨床医学チュートリアル	臨床医学講義1	3後	○	8				○			1		1					1	オムニバス	
	臨床医学講義2	3後	○	4				○			3							1	オムニバス	
	臨床医学講義3	4前	○	14				○			13	6	2	3				63	オムニバス	
	症候別チュートリアル	4後	○	4					○		11	19	15	17				158	共同・オムニバス	
	IPW	4後	○	1					○		2	2						3	共同	
小計(5科目)	—	—	31	0	0	—	—	—	—	—	30	27	18	20	0	0	224	—		
総合医学	地域医療学	1前・2後・3前	○	1				○			6	1						11	オムニバス	
	臨床医学総論(内科学・外科学)	3前	○	2				○			5	3	2	1				6	オムニバス	
	診断学総論	3前	○	3				○			8	12	6	4				22	オムニバス	
	臨床総括講義	6後	○	1				○			3							3	オムニバス	
小計(4科目)	—	—	7	0	0	—	—	—	—	—	22	16	8	5	0	0	39	—		
総合実習	基礎配属実習1	2後	○	4						○	2									
	早期臨床実習1	2前	○	1						○	3	1						3		
	早期臨床実習2	3後	○	1						○	3	1						3		
	地域社会医学実習	4後	○	1						○	3	1						1		
	臨床医学基本実習	4後	○	2						○	8	10	8	11				113		
	臨床実習1	4後-5	○	36						○	40	33	17	17				196		
	臨床実習2	6通	○	8						○	18	18	10	8				84		
	臨床実習3	6通	○	20						○	38	33	16	15				189		
小計(8科目)	—	—	73	0	0	—	—	—	—	—	55	47	23	17	0	0	316	—		
その他の科目	新医学研究コース	1通				2			○		8	3	4					13	共同	
	小計(1科目)	—	—	0	0	2	—	—	—	—	—	8	3	4	0	0	0	13	—	
選択科目	医学研究(1)	3通				4			○		2								共同	
	医学研究(2)	4通				4			○		2								共同	
	医学研究(3)	5通				4			○		2								共同	
	医学研究(4)	6通				4			○		2								共同	
	基礎配属実習2	2後				1			○		2								共同	
小計(5科目)	—	—	0	0	17	—	—	—	—	—	10	0	0	0	0	0	0	—		
合計(231科目)			—	—	181	155 又は 156	19	—	—	—	—	55	47	23	17	0	0	482	—	
学位又は称号			学士(医学)			学位又は学科の分野			医学関係											
卒業・修了要件及び履修方法			基礎教養科目から4単位、総合教養科目から6単位、外国語第Ⅰから4単位、外国語第Ⅱから4単位、情報科目から1単位、高度教養科目から4単位、専門科目の必修科目から181単位、合計204単位以上を修得すること。 なお、各年次において進級判定を行う。										授業期間等							
			1学年の学期区分							2学期										
			1学期の授業期間							15週										
			1時限の授業の標準時間							60~90分										

教 育 課 程 等 の 概 要

（【既設学部等】医学部医療創成工学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員
教養 科目	人文系	哲学	1①-④		1	0	○								1	
	論理学	1①-④		1	0	○									1	
	倫理学	1①-④		1	0	○									1	
	科学技術と倫理	1①-④		1	0	○									1	
	心理学A	1①-④		1	0	○									1	
	心理学B	1①-④		1	0	○									1	
	教育学A	1①-④		1	0	○									1	
	教育学B	1①-④		1	0	○									1	
	教育と人間形成	1①-④		1	0	○									1	
	言語科学A	1①-④		1	0	○									1	
	言語科学B	1①-④		1	0	○									1	
	文学A	1①-④		1	0	○									1	
	文学B	1①-④		1	0	○									1	
	芸術と文化A	1①-④		1	0	○									1	
	芸術と文化B	1①-④		1	0	○									1	
	芸術史A	1①-④		1	0	○									1	
	芸術史B	1①-④		1	0	○									1	
	美術史A	1①-④		1	0	○									1	
	美術史B	1①-④		1	0	○									1	
	科学史A	1①-④		1	0	○									1	
	科学史B	1①-④		1	0	○									1	
	日本史A	1①-④		1	0	○									1	
	日本史B	1①-④		1	0	○									1	
	東洋史A	1①-④		1	0	○									1	
	東洋史B	1①-④		1	0	○									1	
	アジア史A	1①-④		1	0	○									1	
	アジア史B	1①-④		1	0	○									1	
	西洋史A	1①-④		1	0	○									1	
	西洋史B	1①-④		1	0	○									1	
	考古学A	1①-④		1	0	○									1	
	考古学B	1①-④		1	0	○									1	
小計（31科目）		-	-	0	31	0	-	-	-	0	0	0	0	0	24	
社会系	法学A	1①-④		1	0	○									1	
	法学B	1①-④		1	0	○									1	
	社会生活と法	1①-④		1	0	○									1	
	国家と法	1①-④		1	0	○									1	
	政治学A	1①-④		1	0	○									1	
	政治学B	1①-④		1	0	○									1	
	政治と社会	1①-④		1	0	○									1	
	経済学A	1①-④		1	0	○									1	
	経済学B	1①-④		1	0	○									1	
	現代の経済A	1①-④		1	0	○									1	
	現代の経済B	1①-④		1	0	○									1	
	経済社会の発展	1①-④		1	0	○									1	
	経営学	1①-④		1	0	○									1	
	社会学	1①-④		1	0	○									1	
	教育と社会	1①-④		1	0	○									1	
	地理学	1①-④		1	0	○									1	
	社会思想史	1①-④		1	0	○									1	
	文化人類学	1①-④		1	0	○									1	
	現代社会論A	1①-④		1	0	○									1	
	現代社会論B	1①-④		1	0	○									1	
	生活環境と技術	1①-④		1	0	○									1	
小計（21科目）		-	-	0	21	0	-	-	-	0	0	0	0	0	20	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
教養科目	総合系	E S D 論 (持続可能な社会づくり) 基礎	1①-④		1		○								1	
	E S D 論 (持続可能な社会づくり) A	1①-④		1		○								1		
	E S D 論 (持続可能な社会づくり) B	1①-④		1		○								1		
	環境学入門A	1①-④		1		○								1		
	環境学入門B	1①-④		1		○								1		
	海への誘い	1①-④		2		○								1		
	瀬戸内海学入門	1①-④		2		○								1		
	社会と人権A	1①-④		1		○								1		
	社会と人権B	1①-④		1		○								1		
	社会と人権C	1①-④		1		○								1		
	ジェンダーとセクシュアリティA	1①-④		1		○								1		
	ジェンダーとセクシュアリティB	1①-④		1		○								1		
	阪神・淡路大震災と都市の安全	1①-④		1		○								1		
	ボランティアと社会貢献活動A	1①-④		1		○								1		
	ボランティアと社会貢献活動B	1①-④		1		○								1		
	地域社会形成基礎論	1①-④		1		○								1		
	ひょうご神戸学	1①-④		1		○								1		
	日本酒学入門	1①-④		1		○								1		
	神戸大学史	1①-④		1		○								1		
	社会基礎学	1①-④		2		○								1		
	職業と学び-キャリアデザインを考えるA	1①-④		1		○								1	隔年	
	職業と学び-キャリアデザインを考えるB	1①-④		1		○								1	隔年	
	価値創造論基礎	1①-④		1		○								1		
	価値創造論A	1①-④		1		○								1		
	価値創造論B	1①-④		1		○								1		
	価値創造論C	1①-④		1		○								1		
	食と健康A	1①-④		1		○								1		
	食と健康B	1①-④		1		○								1		
	生物資源と農業A	1①-④		1		○								1		
	生物資源と農業B	1①-④		1		○								1		
	生物資源と農業C	1①-④		1		○								1		
	生物資源と農業D	1①-④		1		○								1		
	ものづくりと科学技術A	1①-④		1		○								1		
	ものづくりと科学技術B	1①-④		1		○								1		
	資源・材料とエネルギーA	1①-④		1		○								1		
	資源・材料とエネルギーB	1①-④		1		○								1		
	カタチの文化学	1①-④		1		○								1		
	カタチの自然学A	1①-④		1		○								1		
	カタチの自然学B	1①-④		1		○								1		
	カタチの科学	1①-④		1		○								1		
	データサイエンス概論A	1①-④		1		○								1		
	データサイエンス概論B	1①-④		1		○								1		
	データサイエンス基礎演習	1①-④		1				○						1		
	データサイエンスPBL演習	1①-④		1				○						1		
	国際協力の現状と課題A	1①-④		1			○							1	隔年	
	国際協力の現状と課題B	1①-④		1			○							1	隔年	
	国際協力アクティブ・ラーニングA	1①-④		2				○						1		
	国際協力アクティブ・ラーニングB	1①-④		2				○						1		
	国際協力アクティブ・ラーニングC	1①-④		2				○						1		
	グローバルリーダーシップ育成基礎演習	1①-④		2				○						1		
多文化共生のための日本語コミュニケーション	1①-④		1				○						1			
海外留学のすすめA	1①-④		1			○							1			
海外留学のすすめB	1①-④		1			○							1			
グローバルラーニングスキルズ	1①-④		1				○						1			
グローバルエキスパートセミナー	1①-④		1				○						1			
グローバルチャレンジ実習	1①-④		1又は2					○					1			
外国語セミナーA (英語)	1①-④		1				○						1			
外国語セミナーB (英語)	1①-④		1				○						1			
外国語セミナーC (英語)	1①-④		1				○						1			
外国語セミナーD (英語)	1①-④		1				○						1			
外国語セミナーA (ドイツ語)	1①-④		1				○						1			
外国語セミナーA (フランス語)	1①-④		1				○						1			

科目区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数		授業形態					基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員			
教養科目	総合系	外国語セミナーA (中国語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーA (ロシア語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーB (ドイツ語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーB (フランス語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーB (中国語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーB (ロシア語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーC (ドイツ語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーC (フランス語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーC (中国語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーC (ロシア語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーD (ドイツ語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーD (フランス語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーD (中国語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーD (ロシア語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーE (ドイツ語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーE (フランス語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーE (中国語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーE (ロシア語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーF (ドイツ語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーF (フランス語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーF (中国語)	1①-④		1				○								1	
		外国語セミナーF (ロシア語)	1①-④		1				○								1	
		多言語セミナー1 (スペイン語)	1①-④		1				○								1	
		多言語セミナー2 (スペイン語)	1①-④		1				○								1	
		多言語セミナー3 (スペイン語)	1①-④		1				○								1	
		多言語セミナー4 (スペイン語)	1①-④		1				○								1	
		多言語セミナー1 (イタリア語)	1①-④		1				○								1	
		多言語セミナー2 (イタリア語)	1①-④		1				○								1	
		多言語セミナー3 (イタリア語)	1①-④		1				○								1	
		多言語セミナー4 (イタリア語)	1①-④		1				○								1	
		多言語セミナー1 (韓国語)	1①-④		1				○								1	
		多言語セミナー2 (韓国語)	1①-④		1				○								1	
		多言語セミナー3 (韓国語)	1①-④		1				○								1	
多言語セミナー4 (韓国語)	1①-④		1				○								1			
多言語セミナー1 (ラテン語)	1①-④		1				○								1			
多言語セミナー2 (ラテン語)	1①-④		1				○								1			
多言語セミナー3 (ラテン語)	1①-④		1				○								1			
多言語セミナー4 (ラテン語)	1①-④		1				○								1			
複言語共修セミナー (タンデム)	1①-④		1				○								1			
複言語共修セミナー (外国語としての日本語)	1①-④		1				○								1			
小計 (102科目)		-	-	0	109 又は 110	0		-			0	0	0	0	0	53		
基盤系	教養とは何か	1①-④		1				○								1		
	なぜ外国語を学ぶのか	1①-④		1				○								1		
	情報基礎	1①-④		1				○								1		
	データサイエンス基礎学	1①-④		1				○								1		
小計 (4科目)		-	-	4	0	0		-			0	0	0	0	0	4		
外国語系	外国語第I	Academic English Communication A1	1①-④		0.5				○							1		
		Academic English Communication A2	1①-④		0.5				○							1		
		Academic English Communication B1	1①-④			0.5				○						1		
		Academic English Communication B2	1①-④			0.5				○						1		
		Academic English Communication B1 (ACE)	1①-④			0.5				○						1		
		Academic English Communication B2 (ACE)	1①-④			0.5				○						1		
		Academic English Literacy A1	1①-④		0.5					○						1		
		Academic English Literacy A2	1①-④		0.5					○						1		
		Academic English Literacy B1	1①-④			0.5					○					1		
		Academic English Literacy B2	1①-④			0.5					○					1		
		Academic English Literacy B1 (ACE)	1①-④			0.5					○					1		
		Academic English Literacy B2 (ACE)	1①-④			0.5					○					1		
		小計 (12科目)		-	-	2	4	0		-			0	0	0	0	0	3

科目区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
教養科目	外国語系 外国語第Ⅱ	ドイツ語初級A 1	1①-④		0.5			○								1	
		ドイツ語初級A 2	1①-④		0.5			○								1	
		ドイツ語初級B 1	1①-④		0.5			○								1	
		ドイツ語初級B 2	1①-④		0.5			○								1	
		ドイツ語初級A 3	1①-④		0.5			○								1	
		ドイツ語初級A 4	1①-④		0.5			○								1	
		ドイツ語初級B 3	1①-④		0.5			○								1	
		ドイツ語初級B 4	1①-④		0.5			○								1	
		フランス語初級A 1	1①-④		0.5			○								1	
		フランス語初級A 2	1①-④		0.5			○								1	
		フランス語初級B 1	1①-④		0.5			○								1	
		フランス語初級B 2	1①-④		0.5			○								1	
		フランス語初級A 3	1①-④		0.5			○								1	
		フランス語初級A 4	1①-④		0.5			○								1	
		フランス語初級B 3	1①-④		0.5			○								1	
		フランス語初級B 4	1①-④		0.5			○								1	
		中国語初級A 1	1①-④		0.5			○								1	
		中国語初級A 2	1①-④		0.5			○								1	
		中国語初級B 1	1①-④		0.5			○								1	
		中国語初級B 2	1①-④		0.5			○								1	
		中国語初級A 3	1①-④		0.5			○								1	
		中国語初級A 4	1①-④		0.5			○								1	
		中国語初級B 3	1①-④		0.5			○								1	
		中国語初級B 4	1①-④		0.5			○								1	
		ロシア語初級A 1	1①-④		0.5			○								1	
		ロシア語初級A 2	1①-④		0.5			○								1	
		ロシア語初級B 1	1①-④		0.5			○								1	
		ロシア語初級B 2	1①-④		0.5			○								1	
		ロシア語初級A 3	1①-④		0.5			○								1	
		ロシア語初級A 4	1①-④		0.5			○								1	
		ロシア語初級B 3	1①-④		0.5			○								1	
		ロシア語初級B 4	1①-④		0.5			○								1	
	小計 (32科目)		-	-	0	16	0				0	0	0	0	0	11	
健康・スポーツ科学系	健康・スポーツ科学実習基礎	1①-④			1				○						1		
	小計 (1科目)		-	0	1	0				0	0	0	0	0	1		
専門科目	医学基礎 医学基礎	臨床実習Ⅰ	1②		1				○		1	2					
		解剖学	2①		2			○				1			1	メディア	
		臨床医学総論Ⅰ	2①		2			○				1			1	メディア	
		生化学	2②		2			○				1			1	メディア	
		公衆衛生学	2②		2			○				1			1	メディア	
		生理学	2③		2			○				1			1	メディア	
		免疫学	2④		1			○				1			1	メディア	
		病理学	2④		1			○				1			1	メディア	
		臨床医学総論 (内科学・外科学)	3①		1			○				1			8	オムニバス	
		臨床医学総論Ⅱ	3①		2			○				1			5	メディア	
		生物統計学	3③		1			○				1			1	オムニバス メディア	
	小計 (11科目)		-	-	13	4	0			1	2	1	0	0	18		
	工学基礎	物理化学A	1①			1.5			○							1	メディア ※演習
		機械基礎数学Ⅰ	1①			2			○							2	オムニバス
		基礎数学Ⅰ	1①			1			○							1	
		電気回路論Ⅰ	1①②			2			○							1	
		物理化学B	1②			1.5			○							1	メディア ※演習
		物理化学C	1②			1.5			○							1	メディア ※演習
		基礎力学Ⅰ	1②			2			○							1	メディア
機械基礎数学Ⅱ		1②			2			○							2	オムニバス	
基礎数学Ⅱ	1②			1			○							1			
基礎力学Ⅱ	1③			2			○							2	メディア		
応用数学Ⅰ	1③			1			○			1					オムニバス		
電気回路論Ⅱ	1③④			2			○							1			

科目区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く教員	
専門科目 工学基礎	基礎高分子化学	1④			1		○								1	メディア	
	材料力学Ⅰ	1④			2		○								1	メディア	
	応用数学Ⅱ	1④			1		○			1							
	高分子化学Ⅰ	2①			1.5		○								2	メディア ※演習 共同	
	物理化学D	2①			1.5		○								1	メディア ※演習	
	物理化学F	2①			1.5		○								1	メディア ※演習	
	熱力学Ⅰ	2①			2		○								1	メディア	
	流体力学	2①			2		○								1	メディア	
	材料力学Ⅱ	2①			2		○								1	メディア	
	応用数学Ⅲ	2①			1		○			1							
	信号処理Ⅰ	2①②			2		○								1	メディア	
	設計工学	2①②			2		○								1	メディア	
	高分子化学Ⅱ	2②			1.5		○								2	メディア オムニバス ※演習	
	熱力学Ⅱ	2②			2		○								2	メディア オムニバス	
	電気工学概論	2②			2		○			1					1	メディア オムニバス	
	機構学	2②			2		○								1	メディア	
	応用数学Ⅳ	2②			1		○			1							
	高分子化学Ⅲ	2③			1.5		○								2	メディア ※演習 共同	
	物理化学E	2③			1.5		○								1	メディア ※演習	
	機械力学	2③			2		○			1					1	メディア オムニバス	
	製造プロセス工学	2③			2		○								1	メディア	
	信号処理Ⅱ	2③④			2		○								1	メディア	
	化学実験安全指導	2④		1			○								1	メディア	
	物理化学G	2④			1.5		○			1						メディア ※演習	
流体力学	2④			2		○								1			
制御工学	2④			2		○								1	メディア		
機械材料学	3①			2		○			1						メディア		
計測工学（システム情報学）	3①②			2		○								1	メディア		
高分子化学Ⅳ	3②			1.5		○			1					1	メディア ※演習 共同		
計測工学（機械工学）	3②			2		○			2					2	メディア オムニバス		
小計（42科目）		—	—	1	69.5	0	—	—	—	3	0	0	0	0	31		
医療機器学	医用機器学概論	1①	○	1			○				2	1				オムニバス	
	医用生物学概論	1①	○	1			○			1							
	医療機器学概論	1③		1			○			1		1			2	オムニバス 共同	
	生体機能代行技術学Ⅰ	1③④		2			○				1	1				メディア 共同	
	医用工学総論	2①②		2			○				1					共同	
	生体機能代行技術学Ⅱ	2①②		4			○				1	1				共同	
	医療機器モデリング実験	2②	○	1				○		1	1		1			共同 ※演習	
	医療機器プログラム概論	2③	○	1				○			1						
	ロボット工学Ⅰ	2③	○	1				○			1						
	画像診断解析学	2③		1				○			1					3	メディア オムニバス 共同
	生体機能代行技術学Ⅲ	2③④		4			○				1	1	1				
	生体物性工学	2③④		2				○			1						
	医療機器用プログラミング実習	2④	○	1					○			1					
	ロボット工学Ⅱ	2④	○	1				○				1					
	バイオメカニクス	3①	○	2				○			1						
	生体計測工学	3①	○	2				○			1						
	生体機能代行技術学実習Ⅰ	3①②		1					○			1	1			共同	
バイオマテリアル	3②	○	2				○			2					オムニバス		
機械学習・深層学習	3②	○	1				○					1					
再生医療工学	3③	○	1				○			1							
各種医療機器の人体適用（臓器系/血管系/管腔系）	3③	○	1				○				2	1			オムニバス		
総合画像診断学	3③		1				○							3	メディア オムニバス		
医療△Ⅰ	3③④	○	2				○					1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員			
専門科目	医療機器学基礎	医用治療機器学Ⅰ	3③④	○	2			○										共同 共同
		医用治療機器学Ⅱ	3③④	○	1						1	1						
		生体機能代行技術学実習Ⅱ	3③④			1						1	1					
		医療リスク学	3④	○	1			○				1						
		小計(27科目)	—	—	10	31	0		—		5	4	2	1	0	5		
	会実装医療機器学社	レギュラトリーサイエンスと臨床研究の倫理	3①		1			○			1		1			2	オムニバス	
		医療機器の社会実装・ビジネス論	3②		1			○			1	1				2	オムニバス	
		品質管理と設計開発プロセス	3③		1			○			1		1			1	オムニバス	
		アントレプレナーシップと医療イノベーションデザイン	3④		1			○			1					1	オムニバス	
		小計(4科目)	—	—	4	0	0		—		1	1	1	0	0	6		
	創造性科目	初年次セミナー(学習法ガイダンス)	1①	○	1			○			2			1				共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同
		創造的思考1:未来洞察	1③	○	1			○			1		1					
		問題探索思考(批判的思考)	1④	○	1			○			1							
		問題解決アプローチ 演習	2①	○	1				○		1							
創造的思考2:システム思考		2①	○	1			○			1								
問題解決フィールドワーク 実習		2②	○	1				○		2								
創造的思考3:デザイン思考		2②	○	1			○			1								
創造的ものづくり実習Ⅰ		3①	○	1				○		2	1		1					
医療機器コンセプト創造学 基礎編		3①	○	1			○			1								
医療機器コンセプト創造学基礎 演習		3②	○	1				○		1	1							
創造的ものづくり実習Ⅱ		3②	○	1				○		2	1		1					
創造的ものづくり実習Ⅲ		3③	○	1				○		2	1		1					
医療機器コンセプト創造学基礎 実習		3③	○	1				○		1	1							
創造的ものづくり実習Ⅳ	3④	○	1				○		2	1		1						
小計(14科目)	—	—	14	0	0		—		5	2	1	1	0	0				
卒業研究	卒業研究	4通	○	10					○	8	4	2	1					
	小計(1科目)	—	—	10	0	0		—		8	4	2	1	0	0			
その他	資格取得のための科目	チーム医療と関連法規Ⅰ	1③			1	○				2						共同 共同 メディア 3 メディア オムニバス 共同 共同	
		チーム医療と関連法規Ⅱ	1④			1	○				2							
		生体情報計測学	3①			1	○				1							
		臨床支援技術学Ⅰ	3①②			2	○			1								
		臨床支援技術学Ⅱ	3③			1		○		1								
		薬と生体反応	3③			1	○			1								
		医療リスク学実習	3④			1		○			2							
		臨床実習Ⅱ	4①②			7		○		1	1							
小計(8科目)	—	—	0	0	15		—		2	2	0	0	0	3				
合計(310科目)		—	—	58	286.5 又は 287.5	15		—		8	4	2	1	0	164			
学位又は称号		学士(医工学)			学位又は学科の分野			工学関係										
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等										
卒業必要単位数:124単位 教養科目:24~25単位 人文・社会系:8単位 総合系:4単位 基盤系:4単位 外国語系:8単位(外国語第Ⅰ:4単位、外国語第Ⅱ:4単位) 健康・スポーツ科学系 0~1単位 専門科目 99~100単位 専門基礎科目 医学基礎:15単位以上 工学基礎:17単位以上 医療機器学科目 医療機器学基礎:17単位以上 医療機器学社会実装:4単位 創造性科目 創造性教育:14単位 卒業研究:10単位 (履修科目の登録の上限:55単位(年間))								1学年の学期区分				2期						
								1学期の授業期間				15週						
								1時限の授業の標準時間				90分						

教 育 課 程 等 の 概 要																	
（【既設学部等】医学部保健学科看護学専攻）																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く）教員以外の教員	
基礎教養科目	人文系	哲学	1②-1④		1		○								1		
		心理学	1②-1④		1		○								1		
		心理学B	1②-1④		1		○								1		
		論理学	1②-1④		1		○								1		
		教育学	1②-1④		1		○								1		
		教育学B	1②-1④		1		○								1		
		倫理学	1②-1④		1		○								1		
	小計（7科目）		-	-	0	7	0	-	-	-	0	0	0	0	0	7	-
	社会科学系	法学	1②-1④		1		○								1		
		法学B	1②-1④		1		○								1		
		政治学	1②-1④		1		○								1		
		政治学B	1②-1④		1		○								1		
		経済学	1②-1④		1		○								1		
		経済学B	1②-1④		1		○								1		
		経営学	1②-1④		1		○								1		
		社会学	1②-1④		1		○								1		
		教育社会学	1②-1④		1		○								1		
		地理学	1②-1④		1		○								1		
	小計（10科目）		-	-	0	10	0	-	-	-	0	0	0	0	0	9	-
	自然科学系	数学	1②-1④		1		○								1		
数学B		1②-1④		1		○								1			
数学C		1②-1④		1		○								1			
数学D		1②-1④		1		○								1			
統計学A		1②-1④		1		○								1			
統計学B		1②-1④		1		○								1			
惑星学		1②-1④		1		○								1			
惑星学B		1②-1④		1		○								1			
情報科学		1②-1④		1		○								1			
情報学B		1②-1④		1		○								1			
データサイエンス基礎学		1②-1④		1		○								1			
小計（13科目）		-	-	1	10	0	-	-	-	0	0	0	0	0	8	-	
総合教養科目		（1）多文化理解	教育と人間形成	1②-1④		1		○								1	
	文学		1②-1④		1		○								1		
	文学B		1②-1④		1		○								1		
	言語科学		1②-1④		1		○								1		
	言語科学B		1②-1④		1		○								1		
	芸術と文化		1②-1④		1		○								1		
	芸術と文化B		1②-1④		1		○								1		
	日本史		1②-1④		1		○								1		
	日本史B		1②-1④		1		○								1		
	東洋史		1②-1④		1		○								1		
	東洋史B		1②-1④		1		○								1		
	アジア史		1②-1④		1		○								1		
	アジア史B		1②-1④		1		○								1		
	西洋史		1②-1④		1		○								1		
	西洋史B		1②-1④		1		○								1		
	考古学		1②-1④		1		○								1		
	考古学B		1②-1④		1		○								1		
	芸術史		1②-1④		1		○								1		
	芸術史B		1②-1④		1		○								1		
	美術史		1②-1④		1		○								1		
	美術史B		1②-1④		1		○								1		
	科学史		1②-1④		1		○								1		
	科学史B		1②-1④		1		○								1		
	社会思想史		1②-1④		1		○								1		
	文化人類学		1②-1④		1		○								1		
	現代社会論		1②-1④		1		○								1		
	現代社会論B		1②-1④		1		○								1		
	越境する文化		1②-1④		1		○								1		
	生活環境と技術		1②-1④		1		○								1		
	カタチの文化学		1②-1④		1		○								1		
小計（30科目）		-	-	0	30	0	-	-	-	0	0	0	0	0	25	-	

総合 教養 科目	(2) 自然 界の 成り 立ち	科学技術と倫理	科学技術と倫理	1②-1④			1		○									1		
		現代物理学が描く世界	現代物理学が描く世界	1②-1④			1		○										1	
		身近な物理法則	身近な物理法則	1②-1④			1		○										1	
		カタチの自然学	カタチの自然学A	1②-1④			1		○										1	
			カタチの自然学B	1②-1④			1		○										1	
		ものづくりと科学技術	ものづくりと科学技術A	1②-1④			1		○										1	
			ものづくりと科学技術B	1②-1④			1		○										1	
		生物資源と農業	生物資源と農業A	1②-1④			1		○										1	
			生物資源と農業B	1②-1④			1		○										1	
			生物資源と農業C	1②-1④			1		○										1	
			生物資源と農業D	1②-1④			1		○										1	
		小計 (11科目)			-	-	0	11	0				0	0	0	0	0	0	8	-
	(3) グ ロー バル ライ シ ン グ	環境学入門	環境学入門A	1②-1④			1		○										1	
			環境学入門B	1②-1④			1		○										1	
		社会と人権	社会と人権A	1②-1④			1		○										1	
			社会と人権B	1②-1④			1		○										1	
		男女共同参画とジェン ダー	男女共同参画とジェンダーA	1②-1④			1		○					1						
			男女共同参画とジェンダーB	1②-1④			1		○					1						
		グローバルリーダ ー シ ン グ 育 成 基 礎 演 習	グローバルリーダーシップ育成基礎演習	1②-1④			2			○										1
		国際協力の現状と課題	国際協力の現状と課題A	1②-1④			1		○											1
		国際協力の現状と課題B	1②-1④			1		○											1	
政治と社会		政治と社会	1②-1④			1		○											1	
社会生活と法		社会生活と法	1②-1④			1		○											1	
国家と法		国家と法	1②-1④			1		○											1	
現代の経済		現代の経済A	1②-1④			1		○											1	
		現代の経済B	1②-1④			1		○											1	
経済社会の発展		経済社会の発展	1②-1④			1		○											1	
地球史における生物の 変遷		地球史における生物の変遷	1②-1④			1		○											1	
生物の環境適応		生物の環境適応	1②-1④			1		○											1	
人間活動と地球生態系		人間活動と地球生態系	1②-1④			1		○											1	
食と健康		食と健康A	1②-1④			1		○											1	
		食と健康B	1②-1④			1		○											1	
資源・材料とエネル ギー		資源・材料とエネルギーA	1②-1④			1		○											1	
		資源・材料とエネルギーB	1②-1④			1		○											1	
	小計 (22科目)			-	-	0	23	0				0	2	0	0	0	0	19	-	
(4) E S D	E S D基礎	E S D基礎 (持続可能な社会づくり1)	1②-1④			1		○											1	
	E S D論	E S D論 (持続可能な社会づくり2) A	1②-1④			1		○											1	
		E S D論 (持続可能な社会づくり2) B	1②-1④			1		○											1	
	E S D生涯学習論	E S D生涯学習論A	1②-1④			1		○											1	
		E S D生涯学習論B	1②-1④			1		○											1	
	E S Dボランティア論	E S Dボランティア論	1②-1④			1		○											1	
	小計 (6科目)			-	-	0	6	0				0	0	0	0	0	0	2	-	
(5) キ ャ リ ア 科 目	企業社会論	企業社会論A	1②-1④			1		○											1	
		企業社会論B	1②-1④			1		○											1	
	職業と学び	職業と学び-キャリアデザインを考えるA	1②-1④			1		○											1	
		職業と学び-キャリアデザインを考えるB	1②-1④			1		○											1	
	社会基礎学 (グロー バル 人 材 に 不 可 欠 な 教 養)	社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)	1②-1④			2		○											1	
	ボランティアと社会貢 献活動	ボランティアと社会貢献活動A	1②-1④			1		○											1	
		ボランティアと社会貢献活動B	1②-1④			1		○											1	
	グローバルチャレン ジ 実 習	グローバルチャレンジ実習	1②-1④			1		○					1							
	小計 (8科目)			-	-	0	9又は10	0				0	1	0	0	0	0	4	-	
(6) 神 戸 学	神戸大学史	神戸大学史A	1②-1④			1		○											1	
		神戸大学史B	1②-1④			1		○											1	
	阪神・淡路大震災	阪神・淡路大震災と都市の安全	1②-1④			1		○											1	
	地域連携	ひょうご神戸学	1②-1④			1		○											1	
		地域社会形成基礎論	1②-1④			1		○											1	
		日本酒学入門	1②-1④			1		○											1	
	海への誘い	海への誘い	1②-1④			2		○											1	
	瀬戸内海学入門	瀬戸内海学入門	1②-1④			2		○											1	
	小計 (8科目)			-	-	0	10	0				0	0	0	0	0	0	6	-	
スタ ー 7 サ イ エ ン ス	データサイエンス概論	データサイエンス概論A	1②-1④			1		○											1	
		データサイエンス概論B	1②-1④			1		○											1	
	データサイエンス基礎 演習	データサイエンス基礎演習	1②-1④			1			○										1	
		小計 (3科目)			-	-	0	3	0				0	0	0	0	0	0	3	-
外国 語 科 目	外国語第I	Academic English Communication A1	1①		0.5				○										1	
		Academic English Communication A2	1②		0.5				○										1	
		Academic English Communication B1	1③			0.5			○										1	
		Academic English Communication B2	1④			0.5			○										1	
		Academic English Communication B1 (選抜上級クラス)	1③			0.5			○										1	
		Academic English Communication B2 (選抜上級クラス)	1④			0.5			○										1	
		Academic English Literacy A1	1①		0.5				○										1	

外国語科目	外国語第Ⅰ	Academic English Literacy A2	1②		0.5			○							1		
		Academic English Literacy B1	1③					○							1		
		Academic English Literacy B2	1④			0.5			○						1		
		Academic English Literacy B1 (選抜上級クラス)	1③			0.5			○						1		
		Academic English Literacy B2 (選抜上級クラス)	1④			0.5			○						1		
		小計 (12科目)	-	-	2	4	0		-		0	0	0	0	0	4	-
	外国語第Ⅱ	ドイツ語初級A1	1①			0.5			○							1	
		ドイツ語初級A2	1②			0.5			○							1	
		ドイツ語初級B1	1①			0.5			○							1	
		ドイツ語初級B2	1②			0.5			○							1	
		ドイツ語初級A3	1③			0.5			○							1	
		ドイツ語初級A4	1④			0.5			○							1	
		ドイツ語初級B3	1③			0.5			○							1	
		ドイツ語初級B4	1④			0.5			○							1	
		フランス語初級A1	1①			0.5			○							1	
フランス語初級A2		1②			0.5			○							1		
フランス語初級B1		1①			0.5			○							1		
フランス語初級B2		1②			0.5			○							1		
フランス語初級A3		1③			0.5			○							1		
フランス語初級A4		1④			0.5			○							1		
フランス語初級B3		1③			0.5			○							1		
フランス語初級B4		1④			0.5			○							1		
中国語初級A1		1①			0.5			○							1		
中国語初級A2		1②			0.5			○							1		
中国語初級B1		1①			0.5			○							1		
中国語初級B2		1②			0.5			○							1		
中国語初級A3		1③			0.5			○							1		
中国語初級A4		1④			0.5			○							1		
中国語初級B3		1③			0.5			○							1		
中国語初級B4		1④			0.5			○							1		
ロシア語初級A1		1①			0.5			○							1		
ロシア語初級A2		1②			0.5			○							1		
ロシア語初級B1		1①			0.5			○							1		
ロシア語初級B2		1②			0.5			○							1		
ロシア語初級A3	1③			0.5			○							1			
ロシア語初級A4	1④			0.5			○							1			
ロシア語初級B3	1③			0.5			○							1			
ロシア語初級B4	1④			0.5			○							1			
	小計 (32科目)	-	-	0	16	0		-		0	0	0	0	0	8	-	
情報科目	情報基礎	1①			1			○		1							
	情報科学 1	1③			1			○			1						
	情報科学 2	1④			1			○			1						
	小計 (3科目)	-	-	1	2	0		-		1	2	0	0	0	0	-	
健康・スポーツ科学	健康スポーツ科学実習基礎	1前			1				○						1		
	小計 (1科目)	-	-	1	0	0		-		0	0	0	0	0	1	-	
高度教養科目	国際保健	2後	○	1				○		3	3				2	オムニバス	
	災害保健	3前	○	1				○		3					4	オムニバス	
	I P W統合演習	4後	○	1					○	10	1	3	4			共同	
	緩和ケア論	4前	○	1				○				1	3		3	オムニバス	
	データサイエンスPBL演習	2③				1		○							1		
	小計 (5科目)	-	-	4	0	1		-		12	4	4	7	0	10	-	
専門科目	共通専門基礎科目	線形代数入門 1	1①			1		○							1		
		線形代数入門 2	1②			1		○							1		
		微分積分入門 1	1①			1			○						1		
		微分積分入門 2	1②			1			○						1		
		物理学入門	1①			1			○						1		
		力学基礎 1	1①			1			○						1		
		力学基礎 2	1②			1			○						1		
		基礎有機化学 1	1①			1			○						1		
		基礎有機化学 2	1②			1			○						1		
		生物学概論 B 1	1①			1			○			1					
		生物学概論 B 2	1②			1			○			1					
		生物学各論 C 1	1③			1			○						1		
		生物学各論 C 2	1④			1			○						1		
	小計 (13科目)	-	-	0	13	0		-		0	2	0	0	0	8	-	
	共通特論	現代医療と生命倫理	1前	○	1				○		5	2		4		3	オムニバス
		保健学初年次セミナー	1前	○	1				○		3	4				1	オムニバス
		初期体験実習	1前	○	1					○	1	2	3	6			共同
		I P W概論	1前	○	1				○		1	2				3	オムニバス
		小計 (4科目)	-	-	4	0	0		-		9	8	3	10	0	7	-
	専攻科目	生化学	2前	○	1				○		1						
		薬と生体反応	2前	○	1				○			1				3	オムニバス
		身体のしくみと働き I	1後	○	1				○			1					
		身体のしくみと働き II	2前	○	1				○			1					
		身体のしくみと働き III	2後	○	1				○		1						

専門科目	解剖学演習	2後	○	1							3	1	1	2		1	共同
	健康と栄養	2前	○	1									1			1	共同
	感染・免疫学	2前	○	1							2	1				1	オムニバス
	感染看護論	2後	○	1							1		1	2		1	オムニバス
	臨床心理学	2前	○	1								1					
	病理学	2前	○	1							1	1					オムニバス
	症状マネジメント論	3前	○	1							1	1	1	2			オムニバス
	看護学概論	1後	○	2							2			2		2	オムニバス
	ひとと生活	2前	○	1							1		1	2			オムニバス
	看護援助論	2前	○	1							1		1	2			オムニバス
	生活援助技術演習	2前	○	2							1		1	2			共同
	治療援助技術演習	2後	○	2							1		1	2			共同
	看護実践基盤実習(援助関係)	2前	○	1.5							1		1	2			共同
	看護実践基盤実習(生活援助)	2後	○	1.5							1		1	2			共同
	病い論	2前	○	1							1					1	オムニバス
	援助過程論	2後	○	1							1		1	2			オムニバス
	慢性期看護学	3前	○	1							1						
	慢性期看護学演習	3前	○	1							1		1	3			共同
	治療・回復期看護学	3前	○	1									1	2			オムニバス
	治療・回復期看護学演習	3前	○	1									1	3			共同
	老年看護学Ⅰ	2後	○	2							1	1				1	オムニバス
	老年看護学Ⅱ	3前	○	2							1	1				1	オムニバス
	小児看護学	3前	○	2							1	1		1		1	オムニバス
	母性看護学概論	2後	○	1							1	1					オムニバス
	母性看護学	3前	○	2							1	1		3		2	オムニバス
	精神看護論	3前	○	2							1			2		1	オムニバス
	メンタルヘルス論	2前	○	1									1	2		3	オムニバス
	疾病の成り立ちと治療Ⅰ	2後	○	2							6					3	オムニバス
	疾病の成り立ちと治療Ⅱ	2後	○	2							8	1				8	オムニバス
	疾病の成り立ちと治療Ⅲ	2後	○	2							3	1				5	オムニバス
	疾病の成り立ちと治療Ⅳ(こども)	2後	○	2							1						
	疾病の成り立ちと治療Ⅴ(精神)	2後	○	2							1						
	クリティカルケア論	4前			1						1		1	3		2	オムニバス
	セルフヘルプ論	4前			1						1					3	オムニバス
	治療的コミュニケーション論	4前			1						1			2		1	オムニバス
	新生児健康障害論	4前			1						1						
	周産母子健康障害論	3前	○	1							1						
	フィジカルアセスメント演習	3前	○	1							5	1	3	4		1	オムニバス
	看護実践展開実習Ⅰ(成人)	3後	○	4							1		1	3			オムニバス
	看護実践展開実習Ⅱ(成人)	4前	○	2							1		1	3			オムニバス
	看護実践展開実習Ⅰ(老年)	3後	○	2							1	1				1	オムニバス
	看護実践展開実習Ⅰ(小児・家族)	3後	○	2							1	1		1			オムニバス
	看護実践展開実習Ⅰ(母性)	3後	○	2							2	1		3			オムニバス
	看護実践展開実習Ⅰ(精神)	3後	○	2							1			2		1	オムニバス
	保健行政論	2前	○	1							2						オムニバス
	保健医療福祉論	3前	○	1										1		1	オムニバス
	統計学	2前	○	1									1				
	公衆衛生学	2前	○	1							3	2					オムニバス
	看護情報学	4後			1						2					1	オムニバス
	地域看護学概論	2後	○	1							1	2		2			オムニバス
	看護政策論	4前			1							1				2	オムニバス
	在宅看護学概論	3前	○	1							1	2		2			オムニバス
	在宅看護論	4前	○	1							2	4		2			オムニバス
	在宅看護展開論	4前	○	1							2	1		2			オムニバス
	地域看護論	3前	○	2							1	2		2		1	オムニバス
家族看護学	3前	○	2							1	1		1		1	オムニバス	
地域・在宅看護実習Ⅰ	3後	○	1							1	2		2			共同	
地域・在宅看護実習Ⅱ	4通	○	1							2	1		2			共同	
統合看護実習	4通	○	3							5	2		3		1	共同	
看護管理論	4前	○	1							2					4	オムニバス	
研究ゼミナール	2通	○	1								1				2	共同	
看護研究方法論	3通	○	1							3	1				1	共同	
卒業研究	4通	○	2							25	18	6	20				
小計(68科目)	-	-	89	6	0					25	18	6	20	0	38	-	
その他必要と認める科目	保健医療英語	2前			1					1					1	オムニバス	
	グローバルヘルスフィールド演習	2通			2					3	4					共同	
	小計(2科目)	-	-	0	3	0					3	4	0	0	0	1	-
合計(258科目)		-	-	102	154 又は 155	1	-			25	18	6	20	0	168		
学位又は称号	学士(看護学)				学位又は学科の分野				保健衛生学関係								
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
基礎教養科目から6単位、総合教養科目から6単位、外国語第Ⅰから4単位、外国語第Ⅱから4単位、情報科目から1単位以上(上限3単位)、健康・スポーツ科学から1単位、高度教養科目から4単位を修得する。専門科目について、共通専門基礎科目から6単位以上(上限8単位)、共通特論から4単位、その他の専門科目から必修90単位を含めた合計102単位以上(上限104単位)を修得し、合計130単位以上を修得すること。										1学年の学期区分				2学期			
										1学期の授業期間				15週			
										1時限の授業の標準時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要																	
（【既設学部等】医学部保健学科検査技術科学専攻）																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く）教員以外の教員	
基礎教養科目	人文系	哲学	1②-1④		1		○								1		
		心理学	1②-1④		1		○								1		
		心理学B	1②-1④		1		○								1		
		論理学	1②-1④		1		○								1		
		教育学	1②-1④		1		○								1		
		教育学B	1②-1④		1		○								1		
		倫理学	1②-1④		1		○								1		
		小計（7科目）	-	-	0	7	0	-	-	0	0	0	0	0	0	7	-
	社会科学系	法学	1②-1④		1		○								1		
		法学B	1②-1④		1		○								1		
		政治学	1②-1④		1		○								1		
		政治学B	1②-1④		1		○								1		
		経済学	1②-1④		1		○								1		
		経済学B	1②-1④		1		○								1		
		経営学	1②-1④		1		○								1		
		社会学	1②-1④		1		○								1		
		教育社会学	1②-1④		1		○								1		
		地理学	1②-1④		1		○								1		
		小計（10科目）	-	-	0	10	0	-	-	0	0	0	0	0	0	9	-
	自然科学系	数学	1②-1④		1		○								1		
数学B		1②-1④		1		○								1			
数学C		1②-1④		1		○								1			
数学D		1②-1④		1		○								1			
統計学A		1②-1④		1		○								1			
統計学B		1②-1④		1		○								1			
惑星学		1②-1④		1		○								1			
惑星学B		1②-1④		1		○								1			
情報科学		1②-1④		1		○								1			
情報学B		1②-1④		1		○								1			
データサイエンス基礎学		1②-1④		1		○								1			
		小計（13科目）	-	-	0	13	0	-	-	0	0	0	0	0	8	-	
総合教養科目		(1) 多文化理解	教育と人間形成	1②-1④		1		○								1	
	文学		1②-1④		1		○								1		
	文学B		1②-1④		1		○								1		
	言語科学		1②-1④		1		○								1		
	言語科学B		1②-1④		1		○								1		
	芸術と文化		1②-1④		1		○								1		
	芸術と文化B		1②-1④		1		○								1		
	日本史		1②-1④		1		○								1		
	日本史B		1②-1④		1		○								1		
	東洋史		1②-1④		1		○								1		
	東洋史B		1②-1④		1		○								1		
	アジア史		1②-1④		1		○								1		
	アジア史B		1②-1④		1		○								1		
	西洋史		1②-1④		1		○								1		
	西洋史B		1②-1④		1		○								1		
	考古学		1②-1④		1		○								1		
	考古学B		1②-1④		1		○								1		
	芸術史		1②-1④		1		○								1		
	芸術史B		1②-1④		1		○								1		
	美術史		1②-1④		1		○								1		
	美術史B		1②-1④		1		○								1		
	科学史		1②-1④		1		○								1		
	科学史B		1②-1④		1		○								1		
	社会思想史		1②-1④		1		○								1		
	文化人類学		1②-1④		1		○								1		
	現代社会論		1②-1④		1		○								1		
	現代社会論B		1②-1④		1		○								1		
	越境する文化		1②-1④		1		○								1		
	生活環境と技術		1②-1④		1		○								1		
カタチの文化学	1②-1④		1		○								1				
	小計（30科目）	-	-	0	30	0	-	-	0	0	0	0	0	0	25	-	

総合 教養 科目	(2) 自然 界の 成り 立ち	科学技術と倫理	科学技術と倫理	1②-1④			1		○									1			
		現代物理学が描く世界	現代物理学が描く世界	1②-1④			1		○										1		
		身近な物理法則	身近な物理法則	1②-1④			1		○										1		
		カタチの自然学	カタチの自然学A	1②-1④			1		○										1		
			カタチの自然学B	1②-1④			1		○										1		
		ものづくりと科学技術	ものづくりと科学技術A	1②-1④			1		○										1		
			ものづくりと科学技術B	1②-1④			1		○										1		
		生物資源と農業	生物資源と農業A	1②-1④			1		○										1		
			生物資源と農業B	1②-1④			1		○										1		
			生物資源と農業C	1②-1④			1		○										1		
			生物資源と農業D	1②-1④			1		○										1		
		小計 (11科目)			-	-	0	11	0				0	0	0	0	0	0	8	-	
	(3) グ ロー バ ル イ ン シ ュ ー	環境学入門	環境学入門A	1②-1④			1		○										1		
			環境学入門B	1②-1④			1		○										1		
		社会と人権	社会と人権A	1②-1④			1		○										1		
			社会と人権B	1②-1④			1		○											1	
		男女共同参画とジェン ダー	男女共同参画とジェンダーA	1②-1④			1		○					1							
			男女共同参画とジェンダーB	1②-1④			1		○					1							
		グローバルリーダ ー シ ュ ッ 育 成 基 礎 演 習	グローバルリーダーシップ育成基礎演習	1②-1④			2			○										1	
		国際協力の現状と課題	国際協力の現状と課題A	1②-1④			1		○											1	
		国際協力の現状と課題B	1②-1④			1		○											1		
政治と社会		政治と社会	1②-1④			1		○											1		
社会生活と法		社会生活と法	1②-1④			1		○											1		
国家と法		国家と法	1②-1④			1		○											1		
現代の経済		現代の経済A	1②-1④			1		○											1		
		現代の経済B	1②-1④			1		○											1		
経済社会の発展		経済社会の発展	1②-1④			1		○											1		
地球史における生物の 変遷		地球史における生物の変遷	1②-1④			1		○											1		
生物の環境適応		生物の環境適応	1②-1④			1		○											1		
人間活動と地球生態系		人間活動と地球生態系	1②-1④			1		○											1		
食と健康		食と健康A	1②-1④			1		○											1		
	食と健康B	1②-1④			1		○											1			
資源・材料とエネル ギー	資源・材料とエネルギーA	1②-1④			1		○											1			
	資源・材料とエネルギーB	1②-1④			1		○											1			
	小計 (22科目)			-	-	0	23	0				0	2	0	0	0	0	19	-		
(4) E S D	E S D基礎	E S D基礎 (持続可能な社会づくり1)	1②-1④			1		○											1		
	E S D論	E S D論 (持続可能な社会づくり2) A	1②-1④			1		○											1		
		E S D論 (持続可能な社会づくり2) B	1②-1④			1		○											1		
	E S D生涯学習論	E S D生涯学習論A	1②-1④			1		○											1		
		E S D生涯学習論B	1②-1④			1		○											1		
	E S Dボランティア論	E S Dボランティア論	1②-1④			1		○											1		
	小計 (6科目)			-	-	0	6	0				0	0	0	0	0	0	2	-		
(5) キ ャ リ ア 科 目	企業社会論	企業社会論A	1②-1④			1		○											1		
		企業社会論B	1②-1④			1		○											1		
	職業と学び	職業と学び-キャリアデザインを考えるA	1②-1④			1		○											1		
		職業と学び-キャリアデザインを考えるB	1②-1④			1		○											1		
	社会基礎学 (グロー バ ル 人 材 に 不 可 欠 な 教 養)	社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)	1②-1④			2		○											1		
	ボランティアと社会貢 献活動	ボランティアと社会貢献活動A	1②-1④			1		○											1		
		ボランティアと社会貢献活動B	1②-1④			1		○											1		
	グローバルチャレン ジ 実 習	グローバルチャレンジ実習	1②-1④			1		○					1								
	小計 (8科目)			-	-	0	9又は10	0				0	1	0	0	0	0	4	-		
(6) 神 戸 学	神戸大学史	神戸大学史A	1②-1④			1		○											1		
		神戸大学史B	1②-1④			1		○											1		
	阪神・淡路大震災	阪神・淡路大震災と都市の安全	1②-1④			1		○											1		
	地域連携	ひょうご神戸学	1②-1④			1		○											1		
		地域社会形成基礎論	1②-1④			1		○											1		
		日本酒学入門	1②-1④			1		○											1		
	海への誘い	海への誘い	1②-1④			2		○											1		
	瀬戸内海学入門	瀬戸内海学入門	1②-1④			2		○											1		
	小計 (8科目)			-	-	0	10	0				0	0	0	0	0	0	6	-		
スタ タ イ エ ン シ ュ ン	データサイエンス概論	データサイエンス概論A	1②-1④			1		○											1		
		データサイエンス概論B	1②-1④			1		○											1		
	データサイエンス基礎 演習	データサイエンス基礎演習	1②-1④			1			○										1		
		小計 (3科目)			-	-	0	3	0				0	0	0	0	0	0	3	-	
外国 語 科 目	外国語第1	Academic English Communication A1	1①			0.5			○										1		
		Academic English Communication A2	1②			0.5			○										1		
		Academic English Communication B1	1③			0.5			○										1		
		Academic English Communication B2	1④			0.5			○										1		
		Academic English Communication B1 (選抜上級クラス)	1③			0.5			○										1		
		Academic English Communication B2 (選抜上級クラス)	1④			0.5			○										1		
		Academic English Literacy A1	1①			0.5			○										1		

外国語科目	外国語第Ⅰ	Academic English Literacy A2	1②		0.5			○								1		
		Academic English Literacy B1	1③					○								1		
		Academic English Literacy B2	1④			0.5			○							1		
		Academic English Literacy B1 (選抜上級クラス)	1③			0.5			○							1		
		Academic English Literacy B2 (選抜上級クラス)	1④			0.5			○							1		
	小計 (12科目)		-	-	2	4	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	4	-
	外国語第Ⅱ	ドイツ語初級A1	1①			0.5			○								1	
		ドイツ語初級A2	1②			0.5			○								1	
		ドイツ語初級B1	1①			0.5			○								1	
		ドイツ語初級B2	1②			0.5			○								1	
		ドイツ語初級A3	1③			0.5			○								1	
		ドイツ語初級A4	1④			0.5			○								1	
		ドイツ語初級B3	1③			0.5			○								1	
		ドイツ語初級B4	1④			0.5			○								1	
		フランス語初級A1	1①			0.5			○								1	
フランス語初級A2		1②			0.5			○								1		
フランス語初級B1		1①			0.5			○								1		
フランス語初級B2		1②			0.5			○								1		
フランス語初級A3		1③			0.5			○								1		
フランス語初級A4		1④			0.5			○								1		
フランス語初級B3		1③			0.5			○								1		
フランス語初級B4		1④			0.5			○								1		
中国語初級A1		1①			0.5			○								1		
中国語初級A2		1②			0.5			○								1		
中国語初級B1		1①			0.5			○								1		
中国語初級B2		1②			0.5			○								1		
中国語初級A3		1③			0.5			○								1		
中国語初級A4		1④			0.5			○								1		
中国語初級B3		1③			0.5			○								1		
中国語初級B4		1④			0.5			○								1		
ロシア語初級A1		1①			0.5			○								1		
ロシア語初級A2		1②			0.5			○								1		
ロシア語初級B1		1①			0.5			○								1		
ロシア語初級B2	1②			0.5			○								1			
ロシア語初級A3	1③			0.5			○								1			
ロシア語初級A4	1④			0.5			○								1			
ロシア語初級B3	1③			0.5			○								1			
ロシア語初級B4	1④			0.5			○								1			
小計 (32科目)		-	-	0	16	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	8	-	
情報科目	情報基礎	1前		1				○								1		
	情報科学1	1③			1			○				1						
	情報科学2	1④			1			○				1						
	小計 (3科目)		-	-	1	2	0	-	-	-	1	2	0	0	0	0	0	-
健康・スポーツ科学	健康スポーツ科学実習基礎	1①-1②		1												1		
	小計 (1科目)		-	-	1	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	1	-	
高度教養科目	国際保健	2後	○	1				○				3	3			2	オムニバス	
	災害保健	3前	○	1				○				3				4	オムニバス	
	I P W統合演習	4後	○	1					○			10	1	3	4			
	国際感染症論	4前	○	1				○				2	1			3	オムニバス	
	データサイエンスPBL演習	2③				1			○							1		
小計 (5科目)		-	-	4	0	1	-	-	-	12	4	3	5	0	10	-		
専門科目	共通専門基礎科目	線形代数入門 1	1①			1		○								1		
		線形代数入門 2	1②			1		○								1		
		微分積分入門 1	1①			1		○								1		
		微分積分入門 2	1②			1		○								1		
		物理学入門	1①			1		○								1		
		力学基礎 1	1①			1		○								1		
		力学基礎 2	1②			1		○								1		
		電磁気学基礎 1	1③			1		○								1		
		電磁気学基礎 2	1④			1		○								1		
		物理学実験基礎	2①			1				○						1		
		物理学実験	2前			2				○						1		
		基礎物理化学 1	1①			1			○							1		
		基礎物理化学 2	1②			1			○							1		
		基礎有機化学 1	1①			1			○							1		
		基礎有機化学 2	1②			1			○							1		
		生物学概論 B 1	1①			1			○					1				
		生物学概論 B 2	1②			1			○					1				
		生物学各論 C 1	1③			1			○							1		
		生物学各論 C 2	1④			1			○							1		
	小計 (19科目)		-	-	0	20	0	-	-	-	0	2	0	0	0	12		
	共通特論	現代医療と生命倫理	1前	○	1				○				5	2		4	3	オムニバス
		保健学初年次セミナー	1前	○	1				○				3	4			1	オムニバス
		初期体験実習	1前	○	1					○			1	2	3	6		共同
I P W概論		1前	○	1				○				1	2			3	オムニバス	
小計 (4科目)		-	-	4	0	0	-	-	-	9	8	3	10	0	7			

学位又は称号	学士（保健衛生学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
基礎教養科目から6単位、総合教養科目から6単位、外国語第Ⅰから4単位、外国語第Ⅱから4単位、情報科目から1単位以上(上限3単位)、健康・スポーツ科学から1単位、高度教養科目から4単位を修得する。専門科目について、共通専門基礎科目から6単位以上(上限8単位)、共通特論から4単位、その他の専門科目から必修90単位を含めた合計102単位以上(上限104単位)を修得し、合計130単位以上を修得すること。		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業の標準時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要																
（【既設学部等】医学部保健学科理学療法専攻）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く）教員
基礎教養科目	人文系	哲学	哲学	1②-1④		1		○							1	
		心理学	心理学A	1②-1④		1		○								1
			心理学B	1②-1④		1		○								1
		論理学	論理学	1②-1④		1		○								1
		教育学	教育学A	1②-1④		1		○								1
			教育学B	1②-1④		1		○								1
		倫理学	倫理学	1②-1④		1		○								1
	小計（7科目）		-	-	0	7	0	-			0	0	0	0	0	7
	社会科学系	法学	法学A	1②-1④		1		○								1
			法学B	1②-1④		1		○								1
		政治学	政治学A	1②-1④		1		○								1
			政治学B	1②-1④		1		○								1
		経済学	経済学A	1②-1④		1		○								1
			経済学B	1②-1④		1		○								1
経営学		経営学	1②-1④		1		○								1	
社会学		社会学	1②-1④		1		○								1	
教育社会学		教育社会学	1②-1④		1		○								1	
地理学		地理学	1②-1④		1		○								1	
小計（10科目）		-	-	0	10	0	-			0	0	0	0	0	9	
自然科学系	数学	数学A	1②-1④		1		○								1	
		数学B	1②-1④		1		○								1	
		数学C	1②-1④		1		○								1	
		数学D	1②-1④		1		○								1	
		統計学A	1②-1④		1		○								1	
		統計学B	1②-1④		1		○								1	
	化学	化学A	1②-1④		1		○								1	
		化学B	1②-1④		1		○								1	
	惑星学	惑星学A	1②-1④		1		○								1	
		惑星学B	1②-1④		1		○								1	
	情報科学	情報学A	1②-1④		1		○								1	
		情報学B	1②-1④		1		○								1	
		データサイエンス基礎学	1②-1④		1		○								1	
小計（13科目）		-	-	0	13	0	-			0	0	0	0	0	8	
総合教養科目	教育と人間形成	教育と人間形成	1②-1④		1		○								1	
		文学	文学A	1②-1④		1		○							1	
	文学	文学B	1②-1④		1		○								1	
		言語科学	言語科学A	1②-1④		1		○							1	
	言語科学	言語科学B	1②-1④		1		○								1	
		芸術と文化	芸術と文化A	1②-1④		1		○								1
	芸術と文化B		1②-1④		1		○								1	
	日本史	日本史A	1②-1④		1		○								1	
		日本史B	1②-1④		1		○								1	
	東洋史	東洋史A	1②-1④		1		○								1	
		東洋史B	1②-1④		1		○								1	
	アジア史	アジア史A	1②-1④		1		○								1	
		アジア史B	1②-1④		1		○								1	
	西洋史	西洋史A	1②-1④		1		○								1	
		西洋史B	1②-1④		1		○								1	
	考古学	考古学A	1②-1④		1		○								1	
		考古学B	1②-1④		1		○								1	
	芸術史	芸術史A	1②-1④		1		○								1	
		芸術史B	1②-1④		1		○								1	
	美術史	美術史A	1②-1④		1		○								1	
		美術史B	1②-1④		1		○								1	
	科学史	科学史A	1②-1④		1		○								1	
		科学史B	1②-1④		1		○								1	
	社会思想史	社会思想史	1②-1④		1		○								1	
	文化人類学	文化人類学	1②-1④		1		○								1	
	現代社会論	現代社会論A	1②-1④		1		○								1	
		現代社会論B	1②-1④		1		○								1	
越境する文化	越境する文化	1②-1④		1		○								1		
生活環境と技術	生活環境と技術	1②-1④		1		○								1		
カタチの文化学	カタチの文化学	1②-1④		1		○								1		
小計（30科目）		-	-	0	30	0	-			0	0	0	0	0	25	

総合教養科目	(2) 自然界の成り立ち	科学技術と倫理	科学技術と倫理	1②-14			1	○										1	
		現代物理学が描く世界	現代物理学が描く世界	1②-14			1	○											1
		身近な物理法則	身近な物理法則	1②-14			1	○											1
		カタチの自然学	カタチの自然学A	1②-14			1	○											1
			カタチの自然学B	1②-14			1	○											1
		ものづくりと科学技術	ものづくりと科学技術A	1②-14			1	○											1
			ものづくりと科学技術B	1②-14			1	○											1
		生物資源と農業	生物資源と農業A	1②-14			1	○											1
			生物資源と農業B	1②-14			1	○											1
			生物資源と農業C	1②-14			1	○											1
			生物資源と農業D	1②-14			1	○											1
		小計(11科目)			-		0	11	0			0	0	0	0	0	0	8	-
	(3) グローバルサイエンス	環境学入門	環境学入門A	1②-14			1	○											1
			環境学入門B	1②-14			1	○											1
		社会と人権	社会と人権A	1②-14			1	○											1
			社会と人権B	1②-14			1	○											1
		男女共同参画とジェンダー	男女共同参画とジェンダーA	1②-14			1	○				1							1
			男女共同参画とジェンダーB	1②-14			1	○				1							1
		グローバルリーダーシップ育成基礎演習	グローバルリーダーシップ育成基礎演習	1②-14			2	○											1
国際協力の現状と課題		国際協力の現状と課題A	1②-14			1	○											1	
		国際協力の現状と課題B	1②-14			1	○											1	
政治と社会		政治と社会	1②-14			1	○											1	
社会生活と法		社会生活と法	1②-14			1	○											1	
国家と法		国家と法	1②-14			1	○											1	
現代の経済		現代の経済A	1②-14			1	○											1	
		現代の経済B	1②-14			1	○											1	
経済社会の発展		経済社会の発展	1②-14			1	○											1	
地球史における生物の変遷		地球史における生物の変遷	1②-14			1	○											1	
生物の環境適応		生物の環境適応	1②-14			1	○											1	
人間活動と地球生態系		人間活動と地球生態系	1②-14			1	○											1	
食と健康	食と健康A	1②-14			1	○											1		
	食と健康B	1②-14			1	○											1		
資源・材料とエネルギー	資源・材料とエネルギーA	1②-14			1	○											1		
	資源・材料とエネルギーB	1②-14			1	○											1		
	小計(22科目)			-		0	23	0			0	2	0	0	0	0	19	-	
(4) ESD	ESD基礎	ESD基礎(持続可能な社会づくり1)	1②-14			1	○											1	
	ESD論	ESD論(持続可能な社会づくり2)A	1②-14			1	○											1	
		ESD論(持続可能な社会づくり2)B	1②-14			1	○											1	
	ESD生涯学習論	ESD生涯学習論A	1②-14			1	○											1	
		ESD生涯学習論B	1②-14			1	○											1	
	ESDボランティア論	ESDボランティア論	1②-14			1	○											1	
	小計(6科目)			-		0	6	0			0	0	0	0	0	0	2	-	
(5) キャリア科目	企業社会論	企業社会論A	1②-14			1	○											1	
		企業社会論B	1②-14			1	○											1	
	職業と学び	職業と学び-キャリアデザインを考えるA	1②-14			1	○											1	
		職業と学び-キャリアデザインを考えるB	1②-14			1	○											1	
	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)	1②-14			2	○											1	
	ボランティアと社会貢献活動	ボランティアと社会貢献活動A	1②-14			1	○											1	
		ボランティアと社会貢献活動B	1②-14			1	○											1	
グローバルチャレンジ実習	グローバルチャレンジ実習	1②-14			1又は2	○				1							1		
	小計(8科目)			-		0	9又は10	0			0	1	0	0	0	0	4	-	
(6) 神戸学	神戸大学史	神戸大学史A	1②-14			1	○											1	
		神戸大学史B	1②-14			1	○											1	
	阪神・淡路大震災	阪神・淡路大震災と都市の安全	1②-14			1	○											1	
	地域連携	ひょうご神戸学	1②-14			1	○											1	
		地域社会形成基礎論	1②-14			1	○											1	
		日本酒学入門	1②-14			1	○											1	
	海への誘い	海への誘い	1②-14			2	○											1	
	瀬戸内海学入門	瀬戸内海学入門	1②-14			2	○											1	
	小計(8科目)			-		0	10	0			0	0	0	0	0	0	6	-	
スタディエーション	データサイエンス概論	データサイエンス概論A	1②-14			1	○											1	
		データサイエンス概論B	1②-14			1	○											1	
	データサイエンス基礎演習	データサイエンス基礎演習	1②-14			1	○											1	
		小計(3科目)			-		0	3	0			0	0	0	0	0	0	3	-
外国語科目	外国語第I	Academic English Communication A1	1①			0.5		○										1	
		Academic English Communication A2	1②			0.5		○										1	
		Academic English Communication B1	1③			0.5		○										1	
		Academic English Communication B2	1④			0.5		○										1	
		Academic English Communication B1(選抜上級クラス)	1③			0.5		○										1	
		Academic English Communication B2(選抜上級クラス)	1④			0.5		○										1	
		Academic English Literacy A1	1①			0.5		○										1	
		Academic English Literacy A2	1②			0.5		○										1	
		Academic English Literacy B1	1③			0.5		○										1	
		Academic English Literacy B2	1④			0.5		○										1	
		Academic English Literacy B1(選抜上級クラス)	1③			0.5		○										1	

外国語科目	外国語第Ⅰ	Academic English Literacy B2 (選抜上級クラス)	1④			0.5			○									1	
		小計(12科目)	-	-	0	6	0	-			0	0	0	0	0	0	0	4	-
	外国語第Ⅱ	ドイツ語初級A1	1①			0.5			○									1	
		ドイツ語初級A2	1②			0.5			○									1	
		ドイツ語初級B1	1①			0.5			○									1	
		ドイツ語初級B2	1②			0.5			○									1	
		ドイツ語初級A3	1③			0.5			○									1	
		ドイツ語初級A4	1④			0.5			○									1	
		ドイツ語初級B3	1③			0.5			○									1	
		ドイツ語初級B4	1④			0.5			○									1	
		フランス語初級A1	1①			0.5			○									1	
		フランス語初級A2	1②			0.5			○									1	
		フランス語初級B1	1①			0.5			○									1	
		フランス語初級B2	1②			0.5			○									1	
		フランス語初級A3	1③			0.5			○									1	
		フランス語初級A4	1④			0.5			○									1	
		フランス語初級B3	1③			0.5			○									1	
		フランス語初級B4	1④			0.5			○									1	
		中国語初級A1	1①			0.5			○									1	
		中国語初級A2	1②			0.5			○									1	
		中国語初級B1	1①			0.5			○									1	
		中国語初級B2	1②			0.5			○									1	
		中国語初級A3	1③			0.5			○									1	
		中国語初級A4	1④			0.5			○									1	
		中国語初級B3	1③			0.5			○									1	
		中国語初級B4	1④			0.5			○									1	
		ロシア語初級A1	1①			0.5			○									1	
		ロシア語初級A2	1②			0.5			○									1	
		ロシア語初級B1	1①			0.5			○									1	
		ロシア語初級B2	1②			0.5			○									1	
		ロシア語初級A3	1③			0.5			○									1	
		ロシア語初級A4	1④			0.5			○									1	
		ロシア語初級B3	1③			0.5			○									1	
	ロシア語初級B4	1④			0.5			○									1		
	小計(32科目)	-	-	0	16	0	-			0	0	0	0	0	0	0	8	-	
情報科目	情報基礎	1前		1				○		1									
	情報科学1	1③			1			○			1								
	情報科学2	1④			1			○			1								
	小計(7科目)	-	-	1	2	0	-			1	2	0	0	0	0	0	0	-	
健康・スポーツ科学	健康スポーツ科学実習基礎	1①-1②		1				○									1		
	小計(1科目)	-	-	1	0	0	-			0	0	0	0	0	0	0	1	-	
高度教養科目	国際保健	2後	○	1				○		3	3						2	オムニバス	
	災害保健	3前	○	1				○		3			1				4	オムニバス	
	I PW統合演習	4後	○	1				○		10	1	3	4						
	保健福祉工学	3前	○	1				○			1						4	オムニバス	
	データサイエンスPBL演習	2③			1			○									1		
	小計(5科目)	-	-	4	0	1	-			12	5	3	5	0	11		-		
専門科目	共通専門基礎科目	線形代数入門1	1①			1		○									1		
		線形代数入門2	1②			1		○									1		
		微分積分入門1	1①			1		○									1		
		微分積分入門2	1②			1		○									1		
		物理学入門	1①			1		○									1		
		力学基礎1	1①			1		○									1		
		力学基礎2	1②			1		○									1		
		電磁気学基礎1	1③			1		○									1		
		電磁気学基礎2	1④			1		○									1		
		物理学実験	2前			2											1		
		生物学概論B1	1①			1			○			1							
		生物学概論B2	1②			1			○			1							
		生物学各論C1	1③			1			○								1		
		生物学各論C2	1④			1			○								1		
		小計(19科目)	-	-	0	20	0	-			0	2	0	0	0	0	8	-	
		共通特論	現代医療と生命倫理	1前	○	1			○		5	2		4				3	オムニバス
			保健学初年次セミナー	1前	○	1			○		3	4						1	オムニバス
			初期体験実習	1前	○	1					1	2	3	6					共同
			I PW概論	1前	○	1			○		1	2						3	オムニバス
		小計(4科目)	-	-	4	0	0	-			9	8	3	10	0	7		-	
			リハビリテーション概論	1前	○	1			○			1							
		解剖学Ⅱ	1後	○	1			○			1								
		解剖学実習Ⅱ	2前	○	2						1								
		解剖学Ⅲ	1後	○	1			○			1								
		解剖学実習Ⅲ	2後	○	1						1								
		生理学基礎	1前	○	1			○			1								
		生理学Ⅱ	1後	○	1			○			2							オムニバス	
		生理学実習Ⅱ	2前	○	1						1			1				共同	
		人間発達学	1後	○	1			○			1			1				共同	
		運動学	2前	○	1			○		1			1					オムニバス	
		臨床運動学	2後	○	1			○				1							
		運動学実習	2前	○	1						1	1	1					共同	
		動作解析学実習	2後	○	1			○		1	1		2					共同	

専門科目	病理学Ⅰ	2前	○	1					1	1								オムニバス	
	病理学Ⅱ	2後	○	1					1	1								オムニバス	
	内部障害学	2後	○	1					3									オムニバス	
	整形外科学	2前	○	1					1										
	外科学概論	3前	○	1					1	1								オムニバス	
	小児疾病論	2後	○	1					1										
	臨床神経学Ⅰ	2前	○	1					1										
	臨床神経学Ⅱ	2後	○	1					1										
	臨床心理学	2前	○	1						1									
	精神医学Ⅰ	2前	○	1					1										
	薬と生体反応	2前	○	1						1									オムニバス
	健康と栄養	2前	○	1					3		1								オムニバス
	画像診断解析学	3後	○	1					6										オムニバス
	スポーツ医学	4後	○	1						1									
	統計学	2前	○	1						1									
	老年期障害学	3前	○	1					1										
	保健医療福祉論	3前	○	1													1		オムニバス
	保健行政論	2前	○	1					2										オムニバス
	地域看護学概論	2後			1				1	2							2		オムニバス
	生化学	2前			1				1										
	臨床解剖学実習	3後			1						○								
	移植管理学	4前		○	1					1									2
	理学療法概論	1前	○	1						4	3	1	2						オムニバス
	理学療法管理学	4後	○	1						1		1	1						5
	理学療法評価学	2後	○	1						2	2	1	2						オムニバス
	理学療法評価学実習	2後	○	2						○	2	2	2						オムニバス
	理学療法総合評価学	3前	○	1						4	3	1	1						オムニバス
	筋・骨格系障害理学療法学	3前	○	1						1									
	筋・骨格系障害理学療法学実習	3前	○	1						○	1								
	内部障害理学療法学	3前	○	1						2	1	1	1						オムニバス
	内部障害理学療法学実習	3前	○	1						○	1	1	1	3					共同
	神経系障害理学療法学	3前	○	1							2		1						オムニバス
	神経系障害理学療法学実習	3前	○	1						○	1	1	1						共同
	運動治療学	2後	○	1							2								オムニバス
	運動治療学実習	2後	○	2						○	2								共同
	日常生活活動学	2後	○	1						1	1		2						2
	日常生活活動学実習	2後	○	1						○	1	1	2						共同
	物理治療学	2後	○	1							1	1							オムニバス
	物理治療学実習	3前	○	1						○	1	1							共同
	義肢装具学	2後	○	1							1	1							オムニバス
	義肢装具学実習	3前	○	1						○	1	1							共同
	発達障害理学療法学	3前	○	1							1								2
	実践理学療法学	3前	○	1							1								
	生活環境学	3後	○	1							1								1
	地域理学療法学	4前	○	1								1	1						1
	理学療法地域医療実習	3後	○	1									1						
	臨床実習Ⅰ	2前	○	1						○	2	3		5					共同
	臨床実習Ⅱ	3後	○	4						○	4	4	1	4					共同
	臨床実習Ⅲ	3後	○	7						○	5	5	1	3					共同
	臨床実習Ⅳ	4前	○	7						○	4	4	1	4					共同
	臨床実習Ⅴ	4前	○	1						○	1	3		2					共同
	理学療法研究法	3後	○	1							4	3	1	2					オムニバス
	理学療法研究法演習	4前	○	2						○	4	3	1	2					共同
	卒業研究	4通	○	4							25	18	6	20					
	小計(67科目)	-	-	86	3	0	-	-	-	-	25	18	6	20	0	20	-		
	その他必要と認める科目	保健医療英語	2前		1		○				1								1
		グローバルヘルスフィールド演習	2通		2			○			3	4							共同
		小計(2科目)	-	-	0	3	0	-	-	-	3	4	0	0	0	1	-		
	合計(263科目)			-	-	96	又は 164	1	-	-	25	18	6	20	0	151			
	学位又は称号	学士(保健学)					学位又は学科の分野			保健衛生学関係									
	卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等								
	基礎教養科目から6単位、総合教養科目から6単位、外国語第Ⅰから4単位、外国語第Ⅱから4単位、情報科目から1単位以上(上限3単位)、健康・スポーツ科学から1単位、高度教養科目から4単位を修得する。専門科目について、共通専門基礎科目から6単位以上(上限8単位)、共通特論から4単位、その他の専門科目から必修90単位を含めた合計102単位以上(上限104単位)を修得し、合計130単位以上を修得すること。										1学年の学期区分			2学期					
											1学期の授業期間			15週					
											1時限の授業の標準時間			90分					

教育課程等の概要																
（【既設学部等】医学部保健学科作業療法学専攻）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く）教員以外の教員
基礎教養科目	人文系	哲学	1②-1④		1		○								1	
		心理学	1②-1④		1		○								1	
		心理学B	1②-1④		1		○								1	
		論理学	1②-1④		1		○								1	
		教育学	1②-1④		1		○								1	
		教育学B	1②-1④		1		○								1	
		倫理学	1②-1④		1		○								1	
		小計（7科目）	-	-	0	7	0	-	-	0	0	0	0	0	7	-
	社会科学系	法学	1②-1④		1		○								1	
		法学B	1②-1④		1		○								1	
		政治学	1②-1④		1		○								1	
		政治学B	1②-1④		1		○								1	
		経済学	1②-1④		1		○								1	
		経済学B	1②-1④		1		○								1	
		経営学	1②-1④		1		○								1	
		社会学	1②-1④		1		○								1	
		教育社会学	1②-1④		1		○								1	
		地理学	1②-1④		1		○								1	
		小計（10科目）	-	-	0	10	0	-	-	0	0	0	0	0	9	-
	自然科学系	数学	1②-1④		1		○								1	
		数学B	1②-1④		1		○								1	
		数学C	1②-1④		1		○								1	
		数学D	1②-1④		1		○								1	
		統計学A	1②-1④		1		○								1	
		統計学B	1②-1④		1		○								1	
		化学	1②-1④		1		○								1	
		化学B	1②-1④		1		○								1	
惑星学		1②-1④		1		○								1		
惑星学B		1②-1④		1		○								1		
情報科学		1②-1④		1		○								1		
情報学B		1②-1④		1		○								1		
データサイエンス基礎学		1②-1④		1		○								1		
	小計（13科目）	-	-	0	13	0	-	-	0	0	0	0	0	13	-	
総合教養科目	(1) 多文化理解	教育と人間形成	1②-1④		1		○								1	
		文学	1②-1④		1		○								1	
		文学B	1②-1④		1		○								1	
		言語科学	1②-1④		1		○								1	
		言語科学B	1②-1④		1		○								1	
		芸術と文化	1②-1④		1		○								1	
		芸術と文化B	1②-1④		1		○								1	
		日本史	1②-1④		1		○								1	
		日本史B	1②-1④		1		○								1	
		東洋史	1②-1④		1		○								1	
		東洋史B	1②-1④		1		○								1	
		アジア史	1②-1④		1		○								1	
		アジア史B	1②-1④		1		○								1	
		西洋史	1②-1④		1		○								1	
		西洋史B	1②-1④		1		○								1	
		考古学	1②-1④		1		○								1	
		考古学B	1②-1④		1		○								1	
		芸術史	1②-1④		1		○								1	
		芸術史B	1②-1④		1		○								1	
		美術史	1②-1④		1		○								1	
		美術史B	1②-1④		1		○								1	
		科学史	1②-1④		1		○								1	
		科学史B	1②-1④		1		○								1	
		社会思想史	1②-1④		1		○								1	
		文化人類学	1②-1④		1		○								1	
		現代社会論	1②-1④		1		○								1	
		現代社会論B	1②-1④		1		○								1	
越境する文化	1②-1④		1		○								1			
越境する文化	1②-1④		1		○								1			
生活環境と技術	1②-1④		1		○								1			
カタチの文化学	1②-1④		1		○								1			
	小計（30科目）	-	-	0	30	0	-	-	0	0	0	0	0	25	-	

総合教養科目	(2) 自然界の成り立ち	科学技術と倫理	科学技術と倫理	1②-1④			1		○										1		
		現代物理学が描く世界	現代物理学が描く世界	1②-1④			1		○											1	
		身近な物理法則	身近な物理法則	1②-1④			1		○											1	
		カタチの自然学	カタチの自然学A	1②-1④			1		○											1	
			カタチの自然学B	1②-1④			1		○											1	
		ものづくりと科学技術	ものづくりと科学技術A	1②-1④			1		○											1	
			ものづくりと科学技術B	1②-1④			1		○											1	
		生物資源と農業	生物資源と農業A	1②-1④			1		○											1	
			生物資源と農業B	1②-1④			1		○											1	
			生物資源と農業C	1②-1④			1		○											1	
		生物資源と農業D	1②-1④			1		○											1		
		小計 (11科目)			-	-	0	11	0					0	0	0	0	0	0	8	-
	(3) グローバルリーダー	環境学入門	環境学入門A	1②-1④			1		○											1	
			環境学入門B	1②-1④			1		○											1	
		社会と人権	社会と人権A	1②-1④			1		○											1	
			社会と人権B	1②-1④			1		○											1	
		男女共同参画とジェンダー	男女共同参画とジェンダーA	1②-1④			1		○					1							
			男女共同参画とジェンダーB	1②-1④			1		○					1							
		グローバルリーダーシップ育成基礎演習	グローバルリーダーシップ育成基礎演習	1②-1④			2			○										1	
		国際協力の現状と課題	国際協力の現状と課題A	1②-1④			1		○											1	
			国際協力の現状と課題B	1②-1④			1		○											1	
政治と社会		政治と社会	1②-1④			1		○											1		
社会生活と法		社会生活と法	1②-1④			1		○											1		
国家と法		国家と法	1②-1④			1		○											1		
現代の経済		現代の経済A	1②-1④			1		○											1		
		現代の経済B	1②-1④			1		○											1		
経済社会の発展		経済社会の発展	1②-1④			1		○											1		
地球史における生物の変遷		地球史における生物の変遷	1②-1④			1		○											1		
生物の環境適応		生物の環境適応	1②-1④			1		○											1		
人間活動と地球生態系		人間活動と地球生態系	1②-1④			1		○											1		
食と健康		食と健康A	1②-1④			1		○											1		
		食と健康B	1②-1④			1		○											1		
資源・材料とエネルギー		資源・材料とエネルギーA	1②-1④			1		○											1		
	資源・材料とエネルギーB	1②-1④			1		○											1			
	小計 (22科目)			-	-	0	23	0					0	2	0	0	0	0	19	-	
(4) ESD	ESD基礎	ESD基礎 (持続可能な社会づくり1)	1②-1④			1		○											1		
	ESD論	ESD論 (持続可能な社会づくり2) A	1②-1④			1		○											1		
		ESD論 (持続可能な社会づくり2) B	1②-1④			1		○											1		
	ESD生涯学習論	ESD生涯学習論A	1②-1④			1		○											1		
		ESD生涯学習論B	1②-1④			1		○											1		
	ESDボランティア論	ESDボランティア論	1②-1④			1		○											1		
	小計 (6科目)			-	-	0	6	0					0	0	0	0	0	0	2	-	
(5) キャリア科目	企業社会論	企業社会論A	1②-1④			1		○											1		
		企業社会論B	1②-1④			1		○											1		
	職業と学び	職業と学び-キャリアデザインを考えるA	1②-1④			1		○											1		
		職業と学び-キャリアデザインを考えるB	1②-1④			1		○											1		
	社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)	社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)	1②-1④			2		○											1		
	ボランティアと社会貢献活動	ボランティアと社会貢献活動A	1②-1④			1		○											1		
		ボランティアと社会貢献活動B	1②-1④			1		○											1		
	グローバルチャレンジ実習	グローバルチャレンジ実習	1②-1④			1又は2		○					1								
	小計 (8科目)			-	-	0	9又は10	0					0	1	0	0	0	0	4	-	
(6) 神戸学	神戸大学史	神戸大学史A	1②-1④			1		○											1		
		神戸大学史B	1②-1④			1		○											1		
	阪神・淡路大震災	阪神・淡路大震災と都市の安全	1②-1④			1		○											1		
	地域連携	ひょうご神戸学	1②-1④			1		○											1		
		地域社会形成基礎論	1②-1④			1		○											1		
		日本酒学入門	1②-1④			1		○											1		
	海への誘い	海への誘い	1②-1④			2		○											1		
	瀬戸内海学入門	瀬戸内海学入門	1②-1④			2		○											1		
	小計 (8科目)			-	-	0	10	0					0	0	0	0	0	0	6	-	
スタディエーション	データサイエンス概論	データサイエンス概論A	1②-1④			1		○											1		
		データサイエンス概論B	1②-1④			1		○											1		
		データサイエンス基礎演習	1②-1④			1			○										1		
		小計 (3科目)			-	-	0	3	0					0	0	0	0	0	0	3	-
外国語科目	外国語第1	Academic English Communication A1	1①			0.5			○										1		
		Academic English Communication A2	1②			0.5			○										1		
		Academic English Communication B1	1③			0.5			○										1		
		Academic English Communication B2	1④			0.5			○										1		
		Academic English Communication B1	1③			0.5			○										1		
		Academic English Communication B2	1④			0.5			○										1		
		Academic English Literacy A1	1①			0.5			○										1		
		Academic English Literacy A2	1②			0.5			○										1		
		Academic English Literacy B1	1③			0.5			○										1		
		Academic English Literacy B2	1④			0.5			○										1		

外国語科目	外国語第Ⅰ	Academic English Literacy B1	1③			0.5			○							1	
		Academic English Literacy B2	1④			0.5			○							1	
		小計 (12科目)	-	-	0	6	0		-		0	0	0	0	0	4	-
外国語第Ⅱ	ドイツ語初級A1		1①			0.5			○							1	
	ドイツ語初級A2		1②			0.5			○							1	
	ドイツ語初級B1		1①			0.5			○							1	
	ドイツ語初級B2		1②			0.5			○							1	
	ドイツ語初級A3		1③			0.5			○							1	
	ドイツ語初級A4		1④			0.5			○							1	
	ドイツ語初級B3		1③			0.5			○							1	
	ドイツ語初級B4		1④			0.5			○							1	
	フランス語初級A1		1①			0.5			○							1	
	フランス語初級A2		1②			0.5			○							1	
	フランス語初級B1		1①			0.5			○							1	
	フランス語初級B2		1②			0.5			○							1	
	フランス語初級A3		1③			0.5			○							1	
	フランス語初級A4		1④			0.5			○							1	
	フランス語初級B3		1③			0.5			○							1	
	フランス語初級B4		1④			0.5			○							1	
	中国語初級A1		1①			0.5			○							1	
	中国語初級A2		1②			0.5			○							1	
	中国語初級B1		1①			0.5			○							1	
	中国語初級B2		1②			0.5			○							1	
	中国語初級A3		1③			0.5			○							1	
	中国語初級A4		1④			0.5			○							1	
	中国語初級B3		1③			0.5			○							1	
	中国語初級B4		1④			0.5			○							1	
	ロシア語初級A1		1①			0.5			○							1	
	ロシア語初級A2		1②			0.5			○							1	
	ロシア語初級B1		1①			0.5			○							1	
	ロシア語初級B2		1②			0.5			○							1	
ロシア語初級A3		1③			0.5			○							1		
ロシア語初級A4		1④			0.5			○							1		
ロシア語初級B3		1③			0.5			○							1		
ロシア語初級B4		1④			0.5			○							1		
		小計 (32科目)	-	-	0	16	0		-		0	0	0	0	0	8	-
情報科目	情報基礎		1前		1				○								
	情報科学1		1③			1			○			1					
	情報科学2		1④			1			○			1					
		小計 (7科目)	-	-	1	2	0		-		1	2	0	0	0	0	-
健康・スポーツ科学	健康スポーツ科学実習基礎		1①-1②		1											1	
		小計 (1科目)	-	-	1	0	0		-		0	0	0	0	0	1	-
高度教養科目	国際保健		2後	○	1				○			3	3			2	オムニバス
	災害保健		3前	○	1				○			3			1	4	オムニバス
	I P W統合演習		4後	○	1				○			10	1	3	4		
	保健福祉工学		3前	○	1				○				1			4	オムニバス
	データサイエンスPBL演習		2③				1		○							1	
		小計 (5科目)	-	-	4	0	1		-		12	5	3	5	0	11	-
		共通専門基礎科目	線形代数入門 1	1①			1			○							1
	線形代数入門 2	1②			1				○						1		
	微分積分入門 1	1①			1				○						1		
	微分積分入門 2	1②			1				○						1		
	物理学入門	1①			1				○						1		
	力学基礎 1	1①			1				○						1		
	力学基礎 2	1②			1				○						1		
	電磁気学基礎 1	1③			1				○						1		
	電磁気学基礎 2	1④			1				○						1		
	物理学実験基礎	2①			1										1		
	物理学実験	2前			2										1		
	生物学概論 B 1	1①			1				○			1					
	生物学概論 B 2	1②			1				○			1					
	生物学各論 C 1	1③			1				○						1		
	生物学各論 C 2	1④			1				○						1		
		小計 (19科目)	-	-	0	20	0		-		0	2	0	0	0	11	-
共通特論	現代医療と生命倫理		1前	○	1				○			5	2		4	3	オムニバス
	保健学初年次セミナー		1前	○	1				○			3	4			1	オムニバス
	初期体験実習		1前	○	1					○		1	2	3	6		共同
	I P W概論		1前	○	1				○			1	2			3	オムニバス
		小計 (4科目)	-	-	4	0	0		-		9	8	3	10	0	7	-
	リハビリテーション概論		1前	○	1				○			1					
	解剖学Ⅱ		1後	○	1				○			1					
	解剖学実習Ⅱ		2前	○	2							1					
	解剖学Ⅲ		1後	○	1				○			1					
	解剖学実習Ⅲ		2後	○	1							1					
	生理学基礎		1前	○	1				○			1					
	生理学Ⅱ		1後	○	1				○			2					共同
	生理学実習Ⅱ		2前	○	1							1		1			共同

専門科目	人間発達学	1後	○	1						1						共同	
	運動学	2前	○	1						1						共同	
	臨床運動学	2後	○	1							1						
	運動学実習	2前	○	1				○		1	1					共同	
	動作解析学実習	2後	○	1				○		1	1		2			共同	
	病理学Ⅰ	2前	○	1						1	1					共同	
	病理学Ⅱ	2後	○	1						1	1					共同	
	内部障害学	2後	○	1						3				3		オムニバス	
	整形外科	2前	○	1						1							
	外科学概論	3前	○	1						1	1					共同	
	小児疾病論	2後	○	1						1							
	臨床神経学Ⅰ	2前	○	1						1							
	臨床神経学Ⅱ	2後	○	1						1							
	臨床神経学Ⅲ	3前	○	1						1							
	臨床心理学	2前	○	1							1						
	精神医学Ⅰ	2前	○	1						1							
	精神医学Ⅱ	2後	○	1						1							
	薬と生体反応	2前	○	1							1				3	オムニバス	
	健康と栄養	2前	○	1						3		1			1	オムニバス	
	画像診断解析学	3後	○	1						6						オムニバス	
	スポーツ医学	4後	○	1													
	統計学	2前	○	1								1					
	作業療法概論	1前	○	1								1					
	作業療法理論	1後	○	1								1				共同	
	作業学	2前	○	1								1					
	作業学実習Ⅰ	2後	○	1								1					
	作業療法原書講読	3前	○	1					○	2	2					共同	
	作業療法研究法	3前	○	1						2	2					オムニバス	
	身体障害作業療法評価学	2後		1		1					1		1			共同	
	身体障害作業療法評価学実習	3前		1		1					1		1			共同	
	発達障害作業療法学	2後		1		1					1		1			共同	
	精神障害作業療法評価学	2後		1		1					1		1				
	身体障害作業療法学	2後	○	1							1		1			共同	
	身体障害作業療法学実習Ⅰ	3前	○	1							1	1	1			共同	
	身体障害作業療法学実習Ⅱ	3前	○	1							1	1	1			共同	
	精神障害リハビリテーション論	3後	○	1							1						
	精神保健作業療法学Ⅰ	2前	○	1								1					
	精神保健作業療法学Ⅰ実習	3前	○	1								1		1		共同	
	精神保健作業療法学Ⅱ	3前	○	1								1		1		オムニバス	
	精神保健作業療法学Ⅱ実習	3後	○	1								1		1		共同	
	老年期障害学	3前	○	1							1						
	老年期障害作業療法学	3後	○	1								1					
	生活技術論	3前		1		1						1					
	生活技術論実習	3後	○	1								1		2		共同	
	作業療法基礎	1後	○	1								1		1		オムニバス	
	作業療法統合実習	4後	○	1								2		1		共同	
	職業・社会リハビリテーション	3後	○	1								1					
	在宅援助論	4後	○	1							1	3	1	2		オムニバス	
	保健医療福祉論	3前	○	1									1		1	オムニバス	
	保健行政論	2前	○	1							2					オムニバス	
	作業療法フィールド実習	3前	○	1								1					
	臨床実習Ⅰ	2前	○	1							2	3		5		共同	
	臨床実習Ⅱ	3後	○	2							4	4	1	4		共同	
	臨床実習Ⅲ	3後	○	2							5	5	1	3		共同	
	臨床実習Ⅳ	4前	○	9							4	4	1	4		共同	
	臨床実習Ⅴ	4前	○	9							1	3		2		共同	
	作業療法学研究	3年	○	4							2	4		3			
		小計(65科目)	-	-	87	0	5	-			17	13	3	8	0	8	-
	その他必要と認める科目	保健医療英語	2前				1	○			1					1	オムニバス
		グローバルヘルスフィールド演習	2通				2		○		3	4					共同
		小計(2科目)	-	-	0	0	3	-			3	4	0	0	0	1	-
	合計(261科目)		-	-	97	157 又は 158	9	-			25	18	6	20	0	147	
	学位又は称号	学士(保健学)				学位又は学科の分野				保健衛生学関係							
	卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等						
	基礎教養科目から6単位、総合教養科目から6単位、外国語第Ⅰから4単位、外国語第Ⅱから4単位、情報科目から1単位以上(上限3単位)、健康・スポーツ科学から1単位、高度教養科目から4単位を修得する。専門科目について、共通専門基礎科目から6単位以上(上限8単位)、共通特論から4単位、その他の専門科目から必修90単位を含めた合計102単位以上(上限104単位)を修得し、合計130単位以上を修得すること。										1学年の学期区分			2学期			
1学期の授業期間											15週						
1時限の授業の標準時間											90分						

授 業 科 目 の 概 要				
(医学系研究科博士課程医科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通基礎科目	コア講義		研究者及び高度専門職業人に要求される基礎的な知識を学ぶ。 第1回：Introduction to membrane traffic(59 山本 泰憲) 第2回：Introduction to Neurodegenerative Diseases(64 足立 直子) 第3回：Essential Genome Editing - What you can do at Kobe University(65 伊藤 圭祐) 第4回：Basics of Lipid Signaling(4 伊藤 俊樹) 第5回：Introduction of morphological approach for the understanding of human carcinogenesis(67 重岡 学) 第6回：Introduction of human herpesvirus 6 (70 西村 光広) 第7回：Basic Principle of Analytical Chemistry with Mass Spectrometry(82 篠原 正和) 第8回：Dynamic analysis of immune inflammation and bone destruction by intravital imaging techniques(15 菊田 順一)	オムニバス
	コア実習		研究者及び高度専門職業人に要求される基礎的な技能9項目を学ぶ。 ・組換えDNA技術実習 ・生体物質の調製と解析実習 ・薬理学実習 ・ウイルス学実習 ・免疫学実習 ・顕微鏡試料作成法実習 ・ゲノム医学実習 ・共焦点レーザー顕微鏡実習 ・分析化学実習	
医学研究先端講義	先端医学シリーズ		各種疾患領域における腫瘍、自己免疫疾患、炎症性疾患と免疫システムの関与について最新の学術的知識を学び、将来的問題点や新規治療への応用の可能性について考える。	
	先端医学トピックス		専門領域を超えて、医学領域全体の知識を理解することにより、幅広い視野を身につけ、医学領域における様々な先端トピックスを理解する。	
大学院特別講義	大学院特別英語		口頭及び視覚的プレゼンテーションの能力を修得する。 第二言語での人前での会話に自信を持つ。 説得力のある言語を使用する能力を修得する。	
	リサーチ・プロポーザル		研究者やプロの労働者に必要な基本的な知識と技術を修得する。大学院での将来の研究の提案を行うため、基本的な知識を修得する。科学論文の書き方と提案の提示方法を研究する。	
	生命科学論文・申請書作成特論		科学研究のコンプライアンスと、研究提案書、科学論文、特許請求を作成するためのライティングスキルについて学びます。	
	発生・再生医学特論		発生・再生医学領域における最先端の研究を学び、発生・再生医学領域における最先端の研究に触れ、各自の研究へ活用する。	
	産学連携特論		生命医学領域の研究開発の実際、および産学官連携の実例等を学び、イノベーション創出のための基礎的知識を修得する。	
	生命倫理特論		基礎研究から臨床研究へのトランスレーションリサーチ、それに関わる生命倫理を学ぶ。	
	グローバルメディカルサイエンス特別講義		各専門分野に関する先端的知識をグローバルに修得させる。 講師：(12 掛地 吉弘, 45 森 康子)	共同
	次世代がんプロフェッショナル養成特論		次世代のがんプロフェッショナルになるための必要な知識を修得する。 第1回：がん患者の呼吸困難への治療戦略(41 南 博信) 第2回：がん診療におけるコミュニケーション：個性とエビデンス(41 南 博信) 第3回：がんゲノムと病理(68 神保 直江) 第4回：正しい免疫組織学評価(5 伊藤 智雄) 第5回：トータルケアを目指す小児がん治療(仮)(58 山本 暢之) 第6回：特殊放射線治療 ～古の治療から最新の治療まで～(69 妹尾 悟史) 第7回：高精度放射線治療(60 石原 武明) 第8回：がんゲノム個別化医療における臨床薬理(41 南 博信) 第9回：トランスレーショナルリサーチ(71 船越 洋平) 第10回：がんゲノム医療は実地診療に何をもちたか(66 金原 史朗)	オムニバス
	腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）		固形がん及び造血器腫瘍に対するがん個別化薬物治療を推進し、多領域や他部門、多職種と連携し、新規治療薬や診断薬を開発するための個別化医療の臨床試験を立案・企画・遂行する方法を理解する。 講師：(23 佐々木 良平, 20 酒井 良忠)	共同
	腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）		臨床研究中核拠点病院やがんゲノム医療拠点病院と連携し、がん個別化医療を推進し、地域でのがん個別化医療の実践を理解する。トランスレーショナル研究の推進を理解する。 講師：(23 佐々木 良平, 20 酒井 良忠)	共同

<p>大学院特別講義</p>	<p>医療機器コンセプト創造学特論</p>	<p>医療機器のニーズ探索からコンセプト創造、さらには事業化までの基本的な考え方や手法を授ける。 新しく医療機器を創造するには、開発早期から臨床現場ニーズを的確に捉えて設計に落とし込み、バリューチェーンを構築する事業開発が必要である。 学生は、医療現場で価値のあるニーズを探索し、明確化して、コンセプトを創造し、それをビジネスにつなげるための基本的な考え方や手法を学修する。具体的には、ニーズの探索（臨床現場観察とインタビュー）、ニーズの明確化（ニーズの洗練、ニーズ調査方法、ニーズの判断基準）、ニーズの絞り込みとコンセプト創造（初期コンセプト絞り込み、ラビッドプロトタイプング）、ビジネスピッチ（ピッチとは何か、ピッチの作り方）等を学修する。</p> <p>コーディネーター：(98 鷹尾 俊達) 講師：(98 鷹尾 俊達, 96 保多 隆裕, 76 木内 邦彦, 87 富畑 賢司, 95 森田 圭紀, 101 原 陽介) 第1回：総論講義：イノベーションとは、潜在ニーズと顕在ニーズ、ニーズ発と（技術）シーズ発の違い 他 第2回：ニーズの探索：臨床現場観察とインタビュー 他 第3回：ニーズの明確化（1）：ニーズの洗練、ニーズ調査方法 他 第4回：ニーズの明確化（2）：ニーズ調査方法、ニーズの判断基準 他 第5回：ニーズの絞り込みとコンセプト創造1：ニーズ絞り込み方法、コンセプト創造総論 他 第6回：コンセプト創造2：初期コンセプト絞り込み、ラビッドプロトタイプング 他 第7回：ビジネスピッチ：ピッチとは何か、ピッチの作り方 他 第8回：医療機器ビジネスと開発：開発リスク評価、知財、薬事、保険償還、ビジネスモデル 他</p>	<p>共同</p>
	<p>医療機器レギュラトリーサイエンス学特論</p>	<p>医療機器のレギュラトリーサイエンス（評価科学）に関する知識を授ける。レギュラトリーサイエンスとは、「科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づいた確かな予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学」であり、学生は医療機器の有効性及び安全性を科学的知見に基づき評価・判断することの重要性を学修する。本講では規制当局等からも講師を招き、医療機器として薬機法承認・認証を経て上市するために必要な非臨床・臨床評価における、診断系医療機器、治療系医療機器の違いやAIを活用したプログラム医療機器評価の特性を概説する。</p> <p>コーディネーター：(87 富畑 賢司, 93 村垣 善浩) 第1回：医療機器開発におけるカダバーの活用 (105 七戸 俊明) 第2回：医療機器のレギュラトリーサイエンスとPMDAの役割 (106 芝 武志) 第3回：臨床研究の倫理 (81 真田 昌爾) 第4回：医療機器の臨床評価 (115 山本 晴子) 第5回：治療系機器のレギュラトリーサイエンス (114 山根 隆志) 第6回：医療機器の非臨床評価(性能試験、有効性試験) (102 小西 明英) 第7回：医療機器の認証 (107 鈴木 孝司) 第8回：AIの医療機器への活用 (108 多田 智裕)</p>	<p>オムニバス</p>
	<p>医療機器ビジネス学特論</p>	<p>医療機器のビジネス戦略立案に必要な知識を授ける。 新しい医療機器が現場で普及するためには、製品の開発（品質管理や薬事・治験を含む）と並行して、事業の開発（早期から臨床現場ニーズを的確に捉えて設計に落とし込み、バリューチェーンを構築する）が必要であり、本講では後者を扱う。 学生は、医療機器開発のプロセスと全体像をビジネス的側面から理解し、加えて、各専門分野（知的財産、保険適用、ビジネスモデル、マーケティング、セールス・ディストリビューション、ファイナンスとファンディング、Exit戦略）についての基礎知識を学修する。</p> <p>コーディネーター：(98 鷹尾 俊達, 76 木内 邦彦) 第1回：医療機器開発プロセス総論 (112 宮坂 強) 第2回：システムレベルエンジニアリング (101 原 陽介) 第3回：知財戦略 (110 久野 栄造) 第4回：保険償還戦略 (96 保多 隆裕) 第5回：ビジネスモデル (103 加藤 毅) 第6回：マーケティング (112 宮坂 強) 第7回：ファイナンスとファンディング (103 加藤 毅) 第8回：海外事業戦略 (104 清峰 正志)</p>	<p>オムニバス</p>
	<p>医療機器コンセプト創造演習</p>	<p>「医療機器コンセプト創造学特論」とセット開講し、講義で学んだ知識を演習の形で模擬実践する。 学生は、事前に用意されたケーススタディを使い、疑似的に医療現場で価値のあるニーズを探索し、明確化して、コンセプトを創造し、それをビジネスにつなげるための演習を行う。演習の成果はピッチ形式（ビジネス向けのプレゼンテーション）で発表する。具体的には、ディスカッション手法、ニーズ探索、ニーズの明確化（ケースプレゼンテーション、ニーズの洗練）、ブレインストーミング（コンセプトマッピング、ラビッドプロトタイプング）、プレゼンテーション（ピッチ形式での実施、相互フィードバック）等を学修する。</p> <p>演習ファシリテーター：(98 鷹尾 俊達) 講師：(98 鷹尾 俊達, 96 保多 隆裕, 76 木内 邦彦, 87 富畑 賢司, 95 森田 圭紀, 101 原 陽介) 第1回：ディスカッションの演習 第2回：ニーズの探索 第3回：ニーズの明確化（1）：ケースプレゼンテーション 他 第4回：ニーズの明確化（2）：ニーズの洗練 他 第5回：ブレインストーミング（1）：コンセプトマッピング 他 第6回：ブレインストーミング（2）：ラビッドプロトタイプング 他 第7回：プレゼンテーション（1）：準備 第8回：プレゼンテーション（2）：ピッチ実施、相互フィードバック 他</p>	<p>共同</p>
	<p>医用材料工学</p>	<p>医療機器・体内埋植デバイスの適切な使用と研究開発のためには、その構成材料の性質、性能、安全性、劣化等を理解することが必要である。本講義では、材料科学・工学に基づいて、材料と生体組織との接触によって起こる材料の変化と生体反応、また生体適合性、生体機能性の改善について述べる。</p> <p>第1回：材料の横断的理解：化学結合と材料の性質、結晶と非結晶、欠陥、生体内劣化について講述する。(109 塙 隆夫) 第2回：材料の結晶構造及び変形と破壊 (92 向井 敏司) 第3回：材料の医療応用と評価法：医療機器に使用される材料とその評価方法について講述する。(109 塙 隆夫) 第4回：バイオメタル：医療機器に使用される金属材料について講述する。(92 向井 敏司) 第5回：バイオセラミックス：医療機器に使用されるセラミックス、高分子について講述する。(109 塙 隆夫) 第6回：材料の表面と表面処理：材料の人体内での表面反応、生体適合性・生体機能性付与のための表面処理技術について講述する。(109 塙 隆夫) 第7回：材料の適合性と毒性：硬組織適合性、軟組織接着、抗菌性、抗血栓性、毒性、承認認証について講述する。(109 塙 隆夫) 第8回：バイオマテリアルに関する課題と問題可決について議論する。(109 塙 隆夫, 92 向井 敏司)</p>	<p>オムニバス</p>

大学院特別講義	医用有機化学	<p>医用材料の最終製品となる医療機器、医薬品、再生医療等製品にはソフトマテリアルが使用されるケースが多い。ソフトマテリアル（別名：ソフトマター）とは、高分子、ゲル、コロイド、エマルジョン、生体物質等柔らかい凝縮物質の総称であり、ソフトバイオマテリアルはこれらの柔らかい物質を医用材料として応用する材料と位置づけられる。バイオマテリアルの基礎である医療材料について高分子化学の基礎とから説明する。さらに、材料物性の観点から、バルク・表面特性及びこれらの分析法について考究する。材料の特徴・解析法を踏まえた上で、これら材料と生体成分（水、タンパク質、血液、細胞等）との相互作用の物理化学及び解析法について紹介する。具体的な応用例として、メディカルデバイスとドラッグデリバリーシステムへの波及について説明する。</p>	
	AI・深層学習	<p>まず、AI研究の歴史をたどりながら、どのような機械学習方式がこれまで提案され、実用化されたのかについて簡単に述べる。その上で、深層ニューラルネットワーク（Deep Neural Network）モデルを取り上げて、その学習アルゴリズムである逆誤差伝播法を講述し、この学習方式の万能性と限界について説明する。</p> <p>人工知能（Artificial Intelligence, AI）の研究は、現在主流のノイマン型コンピュータが生まれた頃とほぼ同時期に始まり、人間らしく振る舞う機械の実現に向けて約70年もの間、様々な研究が行われてきた。その中でも機械学習は、観測データからその生成源の性質を帰納的に推測し、それを予測や診断等に利用する技術として、AI研究の中核を成してきたと言っても過言ではない。それゆえ、機械学習の理論を網羅的に理解し、それを応用することは簡単なことではない。</p> <p>まずは、その全体像の把握に注力し、機械学習がAIの実現にどのように活かされてきたかを知った上で、特定の機械学習モデルに対して、学習アルゴリズムや動作原理を理解することが望ましい。</p>	
	医療機器・システム英語特別講義	<p>先端的な医療機器やシステムの設計・開発に関連する講義を英語により提供する。</p> <p>本講義は、対象とする専門分野において著名な海外の研究者に講師を依頼して作成した講義動画と、担当教員によるフォローアップ講義からなる。講義内容は、医療分野におけるロボット技術（4回）とバイオマテリアル（4回）である。</p> <p>第1回：医療分野でのロボット技術応用の現状（99 中橋 龍） 第2回：実用化に向けた研究開発のケーススタディ（99 中橋 龍） 第3回：先端医療ロボット研究例その1（99 中橋 龍） 第4回：先端医療ロボット研究例その2（99 中橋 龍） 第5回：金属系バイオマテリアルの現状（92 向井 敏司） 第6回：金属系バイオマテリアルの研究例（92 向井 敏司） 第7回：ソフトバイオマテリアルの現状（73 大谷 亨） 第8回：ソフトマテリアルの研究例（116 LE THI HUE）</p>	オムニバス
	医療機器・システム設計概論	<p>先端的な医療機器やシステムの設計・開発の具体例をオムニバス形式で講述し、医療機器やシステム開発の概要を主に技術的側面から理解することを目的とする。主に、生体インプラントやステント等の医療デバイスを取り上げ、使用される材料の特性、3次元造形に用いられる3Dプリンタや切削加工に用いられる5軸制御工作機械、CAD/CAMについて講述する。</p> <p>第1回：イントロダクション、生体インプラントやステント等の医療デバイス（その1）（92 向井 敏司） 第2回：生体インプラントやステント等の医療デバイス（その2）（100 西田 勇） 第3回：生体インプラントやステント等の医療デバイス（その3）（100 西田 勇） 第4回：ナノマイクロセンシング技術を用いたバイオメディカルセンサ（その1）（83 菅野 公二） 第5回：ナノマイクロセンシング技術を用いたバイオメディカルセンサ（その2）（83 菅野 公二） 第6回：手術ロボット等の医療ロボット技術（その1）（99 中橋 龍） 第7回：手術ロボット等の医療ロボット技術（その2）（99 中橋 龍） 第8回：課題発表（92 向井 敏司, 100 西田 勇, 99 中橋 龍, 83 菅野 公二）</p>	オムニバス
	医療機器・システム設計演習	<p>先端的な医療機器やシステムの設計・開発の具体例をオムニバス形式で講述し、医療機器やシステム開発の概要を主に技術的側面から理解することを目的とする。具体例としては（1）生体インプラントやステント等の医療デバイス、（2）ナノセンシング技術を用いたバイオメディカルセンサ、（3）手術ロボット等の医療ロボット技術である。</p> <p>（1）生体インプラントやステント等の医療デバイスでは、医療デバイスに使用される材料の特性、3次元造形に用いられる3Dプリンタや切削加工に用いられる工作機械、CAD/CAMについて講述する。（2）ナノマイクロセンシング技術を用いたバイオメディカルセンサでは、その概要と計測原理、作製方法及び評価方法について講述する。（3）手術ロボット等の医療ロボット技術では、ロボティクスの基礎や医療ロボットの開発経緯、遠隔操縦型手術ロボットの原理について講述する。</p> <p>第1回：生体インプラント等の医療デバイスの設計・試作実習（その1）（92 向井 敏司, 73 大谷 亨, 100 西田 勇, 97 池尾 直子） 第2回：生体インプラント等の医療デバイスの設計・試作実習（その2）（92 向井 敏司, 73 大谷 亨, 100 西田 勇, 97 池尾 直子） 第3回：生体インプラント等の医療デバイスの設計・試作実習（その3）（92 向井 敏司, 73 大谷 亨, 100 西田 勇, 97 池尾 直子） 第4回：ナノマイクロセンシング技術を用いたバイオメディカルセンシング実習（その1）（83 菅野 公二, 117 上野 秀貴） 第5回：ナノマイクロセンシング技術を用いたバイオメディカルセンシング実習（その2）（83 菅野 公二, 117 上野 秀貴） 第6回：医療ロボット技術の基本となるロボットの遠隔制御実習（その1）（99 中橋 龍） 第7回：医療ロボット技術の基本となるロボットの遠隔制御実習（その2）（99 中橋 龍） 第8回：まとめ（92 向井 敏司, 73 大谷 亨, 100 西田 勇, 97 池尾 直子, 83 菅野 公二, 99 中橋 龍, 117 上野 秀貴）</p>	オムニバス
	データサイエンス演習	<p>検査・測定データの管理及び解析を行うことで、有意義なデータを引き出すためのデータサイエンスの基本を学ぶ。スマートフォンやウェアラブルデバイスから取得されるバイタルサイン等のモニタリングデータを適切に管理・解析すること、また、診断機器等から得られた画像データから特徴量を抽出し分類することを目的とする。そのためのプログラムについて、具体的な仕様の決定からプログラムの設計・作成・実装までのプログラミング技術修得を目指す。</p> <p>第1回：データサイエンスの基礎（基礎的なツールの使い方）（113 山口 智子, 99 中橋 龍） 第2回：データサイエンスの基礎（データの入出力）（113 山口 智子, 99 中橋 龍） 第3回：データサイエンスの基礎（機械学習）（113 山口 智子, 99 中橋 龍） 第4回：データ・画像解析プログラム作成（データ入出力）（113 山口 智子） 第5回：データ・画像解析プログラム作成（機械学習）（113 山口 智子） 第6回：データ・画像解析プログラム作成（データ解析）（113 山口 智子） 第7回：データ・画像解析プログラム作成（画像解析）（113 山口 智子） 第8回：まとめ（113 山口 智子, 99 中橋 龍）</p>	オムニバス

大学院特別講義	ジョブ型研究インターンシップ		インターンシップに参加することにより、自らの専門性を客観的に観ることで進路の可能性を広げるとともに、今後拡大が見込まれるジョブ型採用を見据え、国際競争に耐え得る研究力に裏打ちされた実践力を養成することを目標としている。	
	ラボ・ローテーション		研究者及び高度専門職業人に要求される基礎的な技能9項目を学ぶ。 ・組換えDNA技術実習 ・生体物質の調製と解析実習 ・薬理学実習 ・ウイルス学実習 ・免疫学実習 ・顕微鏡試料作成実習 ・ゲノム医学実習 ・共焦点レーザー顕微鏡実習 ・分析化学実習	
生理学・細胞生物学	膜動態学特別研究 I		ホルモンや神経伝達物質、サイトカイン等の種々の生理活性物質の細胞外への分泌（エキソサイトーシス）や細胞内への取り込み（エンドサイトーシス）という細胞内小胞輸送の研究の歴史と最新の成果について学習する。	
	膜動態学特別研究 II		すべての生物の構成単位は細胞であり、その細胞を取り囲んでいるのが膜である。細胞内に存在する構造物、細胞内小器官（オルガネラ）は、ほとんどが膜で包まれている。それぞれのオルガネラに局在化した膜タンパク質群の協調作用により、独自の構造が形成され、独自の機能が発揮される。オルガネラ形成の研究の歴史と最新の成果について学習する。	
	膜動態学演習		オルガネラの中で一番重要と考えられる小胞体の基本的性質である1) 小胞体のチューブ構造とシート構造の分子メカニズム、2) 小胞体における非トランスロコン型の膜タンパク質の挿入メカニズム、3) 人工膜を用いた細胞内小器官の形成に関する論文の読解やプレゼンテーションの能力を養う。	
	細胞生理学特別研究 I		発生過程における形態形成や組織・器官形成に関わる細胞極性・細胞運動制御機構ならびに遺伝子発現制御機構について学ぶとともに、これらの制御機構の破綻によるがんの増悪・進展機構について学び、培養細胞を用いた細胞運動・細胞極性の解析方法や、遺伝子発現の解析方法を修得することを目的とする。	
	細胞生理学特別研究 II		組織の形成・維持・損傷修復に関わる幹細胞等の細胞の増殖・分化・移動等を制御するメカニズムおよびそれらの破綻による様々な疾患（がんや慢性炎症病態等）の発症機構を理解することを目標とする。また、近年注目を集めている細胞機能の制御におけるエピジェネティック制御のメカニズムについての基礎を理解することを目標とする。	
	細胞生理学演習		特別研究 I（発生過程における形態形成や組織・器官形成に関わる細胞極性・細胞運動制御機構、遺伝子発現制御機構やがんの増悪・進展機構）および特別研究 II（組織の形成・維持・損傷修復に関わる幹細胞等の細胞の増殖・分化・移動等を制御するメカニズムやがんや慢性炎症病態等の発症機構）に関連する論文の読解やプレゼンテーション能力を養う。	
	生理学特別研究 I		分子から個体に至るまで様々なかつ多階層レベルでの研究手法を修得し、脳をはじめとする生体の機能を解明する能力を育成する。	
	生理学特別研究 II		「特別研究 I」で得た基本的知識と技術に基づいて、分子から個体に至るまで様々なかつ多階層レベルでの研究手法を修得し、脳をはじめとする生体の機能を解明する能力を育成する。脳をはじめとする生体の機能に関わる研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	生理学演習		脳をはじめとする生体の機能が理解できる。適切な論文より最新の知見を集積・解説し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。統合的研究アプローチの立案ができる。	
	神経情報伝達学特別研究 I		脳、小脳、感覚器（内耳、眼）等、末梢、中枢を問わず神経系の構造及び機能について学ぶ。上記の器官及び組織の機能解析方法、そこに発生する病態のモデル作製及び解析方法を習得する。	
	神経情報伝達学特別研究 II		神経系疾患の新規治療法開発を見据え、実験の仮説立案、仮説修正、実証、展開のプロセスを修得する。原則、神経系の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	神経情報伝達学演習		特別研究 I 及び 2 に関する最新の知見を論文の解説により習得する能力を養い、更に、カンファレンス等でのプレゼンテーションの訓練によりコミュニケーションスキルを修得し上達させる。	
	生体構造解剖学特別研究 I		構造生物学・分子形態学の手技・知識を育成し、様々な生命現象をその構造の解明を通して理解する能力を身につける。特に、細胞骨格ダイナミクスの制御、転写制御を切り口とし、X線結晶構造解析法、クライオ電子顕微鏡法等の構造解析法の基本的知識、手技を習得する。	
	生体構造解剖学特別研究 II		構造生物学・分子形態学の手技・知識を育成し、様々な生命現象をその構造の解明を通して理解する能力を身につける。特に、細胞骨格ダイナミクスの制御、転写制御を切り口とし、X線結晶構造解析法、クライオ電子顕微鏡法等の構造解析法の基本的知識、手技を習得する。	
	生体構造解剖学演習		構造生物学・分子形態学の手技・知識を育成し、様々な生命現象をその構造の解明を通して理解する能力を身につける。特に、細胞骨格ダイナミクスの制御、転写制御を切り口とし、X線結晶構造解析法、クライオ電子顕微鏡法等の構造解析法の基本的知識、手技を習得する。	
	神経分化・再生特別研究 I		特別研究 I（神経系の発生・機能の分子機構解明）、特別研究 II（神経系疾患の病態誘導機構解明）に関する論文読解やプレゼンテーションの能力を養う。	
	神経分化・再生特別研究 II		「特別研究 I」で得た基本的知識と技能に基づいて、神経発生や発生病理についての新規知見を論文から学び、その実践に必要な分子・細胞・個体レベルでの解析法等の技能を修得する。実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得する。研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	神経分化・再生演習		「特別研究 I」で得た基本的知識と技能に基づいて、神経発生や発生病理についての新規知見を論文から学び、その実践に必要な分子・細胞・個体レベルでの解析法等の技能を修得する。実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得する。研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	発生・再生医学特別研究 I		哺乳類培養細胞を材料に分子細胞生物学実験の基礎を学びつつ、DNA複製からゲノム高次構造に至るまで、染色体構造やエピジェネティクスに関連する基本的な実験手法を修得する。	
	発生・再生医学特別研究 II		「特別研究 I」で習得した手法に基づき、哺乳類細胞における染色体構造や発生過程におけるエピジェネティクス制御やDNA複製制御の基本原理解明に関する研究を推進しながら、仮説を立てて、その仮説を実証するような実験をデザインして遂行する。	
発生・再生医学演習		DNA複製からゲノム高次構造に至るまで、染色体構造やエピジェネティクスに関連する基本的な実験手法を用いて得られたデータについての発表と議論を行う。		

生化学・分子生物学	分子細胞生物学特別研究 I		がん遺伝子やがん抑制遺伝子等のがん関連遺伝子の異常は、がんの発症・進展のみならず、がん以外の種々の主要な疾患の発症や、個体の発生・分化等にも深く関わる。本授業科目では、種々のがんが高頻度に発症する異常がみられるp53やPTEN経路、および近年注目されているHippo経路等に特に焦点をあて、がん遺伝子やがん抑制遺伝子のがんの発症・進展および発生・分化等に果たす役割を理解するために必要な概念および基礎的実験法を学ぶ。
	分子細胞生物学特別研究 II		本授業科目では、がん遺伝子やがん抑制遺伝子が、がんの発症・進展および発生・分化等に果たす役割を解析し評価する手法について学び、実践する。そのために、「特別研究 I」で習得した知識や技術をさらに発展させ、最先端の分子生物学、細胞生物学、および発生工学の技術を学ぶ。
	分子細胞生物学演習		がん遺伝子やがん抑制遺伝子のがんの発症・進展および発生・分化等に果たす役割への理解を深めるために、関連する学術論文を提示して、その読解法や具体的な実験計画の立て方、実験結果の評価法を学ぶ。さらに、口頭発表技術の向上を図るため、当教室における抄読会の際に、学術論文の内容を定期的に発表する。
	細胞医科学特別研究 I		細胞医科学を修得する。
	細胞医科学特別研究 II		細胞医科学を修得し、学位論文を作成する。
	細胞医科学演習		細胞医科学について、研究テーマの修正や立案を行う。
	膜生物学特別研究 I		細胞の内側と外界を隔てる細胞膜の動態制御と、細胞内における物質輸送を支える膜輸送の分子メカニズムについて学び、リン脂質を用いた人工生体膜の作製とin vitro解析法、並びに細胞運動と細胞内小胞輸送の解析法等についての技能を修得する。
	膜生物学特別研究 II		「特別研究 I」で得た基本的知識と技能に基づいて、細胞膜直下の細胞骨格制御による細胞運動を支える分子機構について体系的に学び、その解析に必要な分子・細胞・個体レベルでの解析法等の技能を修得する。実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得する。研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。
	膜生物学演習		特別研究 I（細胞の内側と外界を隔てる細胞膜の動態制御と、細胞内における物質輸送を支える膜輸送の分子メカニズム）及び特別研究 II（細胞膜直下の細胞骨格制御による細胞運動の分子機構）に関連する論文の読解やプレゼンテーションの能力を養う。
	超微構造生物学特別研究 I		放射光を利用した分析技術を修得し、実際に生体試料を分析、その結果を評価検討して生命現象の理解につなげる能力を育成する。
	超微構造生物学特別研究 II		放射光を利用した分析技術を修得し、実際に生体試料を分析、その結果を評価検討して生命現象の理解につなげる能力を育成するとともに、その研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。
	超微構造生物学演習		放射光を利用した分析技術を修得し、実際に生体試料を分析、その結果を評価検討して生命現象の理解につなげる能力を育成するために、適切な論文より最新の知見を集積・解説し、これらの問題を解析するスキルを磨き、セミナーでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。また、修得した最新の知見に基づいて研究テーマの修正や立案を行う。
	薬理学	薬理学特別研究 I	
薬理学特別研究 II			「特別研究 I」で得た基本的知識と技能に基づいて、ストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法に関する研究を進める。実験結果に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得する。研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。
薬理学演習			特別研究 I と特別研究 II で取り扱うストレスによる脳や末梢臓器への影響とその生物学的基盤、ストレス関連疾患の病態や治療・予防法、ストレスに関する基礎・橋渡し研究のための実験手法に関する論文の読解やプレゼンテーションの能力を養う。
病理学	分子病理学特別研究 I		病理学総論の体系を修得する。腫瘍病理学各論を修得し、形態学的に病態解析する能力を育成する。病態相関について学習する。
	分子病理学特別研究 II		分子病理学的解析法を修得する。人体腫瘍病理学の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。
	分子病理学演習		病理診断および分子病理学的病態解析法とその理論を修得する。人体腫瘍病理学について論理展開を行い、論文としてまとめる。
	分子病理学臨床実習		病理解剖を経験する。外科病理診断、細胞診断について、実臨床を通じて実習する。
	病理診断学特別研究 I		医療において、病理診断は「確定診断」の意味を持ち、極めて重要な項目である。伝統的な純形態学的診断学に加え、免疫組織化学的診断学等様々なアプローチからの病理診断学、病態解析、実践応用等を指導する。分子生物学との関連に着目し、質量分析装置等の先端機器を用いた手法の指導も行う。
	病理診断学特別研究 II		病理診断学におけるの境界を深めるため、腫瘍、炎症性疾患、変性疾患そのほか様々な疾患に対する代表的論文の読解を進め、それにより疾患解析へのアプローチ法、研究計画立案、結果解釈等の方法を学び、さらに様々なプレゼンテーションの機会を生かし、その技術を学ぶ。
	病理診断学演習		様々な疾患に対する病理学的診断に加わり、臓器の取り扱い、固定方法、切り出し方法、標本作製過程、HE標本の読み方、解釈、診断法、特殊染色や免疫染色の応用方法とその解釈方法等を学び、幅広い疾患に対しての臨床病理学的な診断法を学ぶ。
	病理診断学臨床実習		自らが行った病理診断学を、病理診断科で行われる様々な臨床病理検診会においてプレゼンテーションを行う。これを通して、論文検索等を併用した深い症例の理解・解析力、プレゼンテーション能力、臨床医とのコミュニケーション能力、問題解決能力等を身につける。
微生物感染症学	臨床ウイルス学特別研究 I		ウイルス感染が宿主に及ぼす影響を分子および個体レベルで解析する。さらに、ワクチン学の基礎知識を学ぶ。
	臨床ウイルス学特別研究 II		「特別研究 I」で得た基本的知識と技能に基づいて宿主細胞におけるウイルス増殖機構について学び、分子・細胞・個体レベルでの解析法等の技能を修得する。ワクチンについての基礎知識を得る。実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得する。研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。

微生物感染症学	臨床ウイルス学演習		ウイルス学やワクチン学についての適切な論文より最新の知見を集積・解説し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。	
	感染制御学特別研究 I		微生物ゲノムの構造と発現制御、ならびにその産物の微生物蛋白質の構造と機能について学び、その解析法及び、微生物蛋白質と宿主細胞蛋白質との相互作用の解析法並びにウイルス増殖に及ぼす影響の解析法等についての技能を修得する。	
	感染制御学特別研究 II		「特別研究 I」で得た基本的知識と技能に基づいて、微生物病原体発現機構や新しい診断、治療、予防法について体系的に学び、その開発に必要な分子・細胞・個体レベルでの解析法等の技能を修得する。 実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正のプロセスを修得する。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	感染制御学演習		特別研究 I（微生物ゲノムの構造と発現制御、ならびにその産物の微生物蛋白質の構造と機能）及び特別研究 II（微生物病原体発現機構や新しい診断、治療、予防法）に関連する論文の読解やプレゼンテーションの能力を養う。	
	感染治療学特別研究 I		感染症の臨床診断学において、診断の認識論、症候学、検査妥当性の解釈、安全性やコストの評価、Evidenc based medicine (EBM)、重症度スコアの作成やvalidation (吟味) について学び、これらに関連した臨床研究を行う。	
	感染治療学特別研究 II		臨床感染症診療において診断および治療における新しい知見を見出す。	
	感染治療学演習		臨床感染症診療における診断、治療戦略を立てることができる。また臨床感染症診療における適切なプレゼンテーションスキルを習得する	
	感染治療学臨床実習		内科系および外科系感染症診療を主治医およびコンサルタントとして経験する。	
	感染症フィールド学特別研究 I		感染症フィールド学を修得する。	
	感染症フィールド学特別研究 II		感染症フィールド学を修得し、学位論文を作成する。	
	感染症フィールド学演習		感染症フィールド学について、研究テーマの修正や立案を行う。	
	ウイルス感染症学特別研究 I		ウイルス感染症学を修得する。	
	ウイルス感染症学特別研究 II		ウイルス感染症学を修得し、学位論文を作成する。	
	ウイルス感染症学演習		ウイルス感染症学について、研究テーマの修正や立案を行う。	
	免疫制御学特別研究 I		微生物学、免疫学に関する基本的な知識および実験技術に関して講義を行う。	
	免疫制御学特別研究 II		特別研究 I で得た基礎的な知識と技術を発展させ、微生物学、免疫学に関する専門的な知識および実験技術を習得できるように指導すると共に、関連領域での自らの研究成果を学術論文として発表できるよう論文作成を指導する。	
	免疫制御学演習		微生物学、免疫学に関する最先端の学術論文の読解し、これらをまとめ説得力のある発表ができるように指導する。	
	遺伝子医薬学特別研究 I		遺伝子医薬学を修得する。	
遺伝子医薬学特別研究 II		遺伝子医薬学を修得し、学位論文を作成する。		
遺伝子医薬学演習		遺伝子医薬学について、研究テーマの修正や立案を行う。		
地域社会医学・健康科学	医療法・倫理学特別研究 I		医療法およびその関連法規、患者情報保護、また医療制度の概要を理解した上でその課題を適切に表出できる。 データサイエンスや医療情報の実践的応用を念頭に、マクロからミクロレベルでの問題解決策の立案を可能とする。 医療情報の実用的利用とデータ科学に必要な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析スキルを育成する。	
	医療法・倫理学特別研究 II		データサイエンスや医療情報の実践的応用を念頭に、マクロからミクロレベルでの問題解決策の立案能力を習得する。 医療情報の実用的利用とデータ科学に必要な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析し論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	医療法・倫理学演習		データサイエンスや医療情報の実践的応用を念頭に、マクロからミクロレベルでの問題解決策の立案を可能とする。 医療情報の実用的利用とデータ科学に必要な知識と技術として構造データの扱いを習得し、得られた情報を科学的に分析スキルを育成する。	
	医薬食品評価科学特別研究 I		医用データの解析を行うためには、そのデータの意味、解析方法の理解が必須である。本授業では、統計解析およびAI開発でもっとも良く用いられているプログラミング言語Python(パイソン)を使い、EBM(Evidence Based Medicine)を中心とした 医用データの統計解析の基本的な技能を習得する。	
	医薬食品評価科学特別研究 II		「特別研究 I」で得た基本的な統計解析の知識と技能に加えて、テキストデータや画像データの解析のためのAI技術の基礎理論を習得する。Pythonライブラリmatplotlib(マットプロットリブ)とseaborn(シーボーン)を用いた視覚化技術、TensorFlow(テンソルフロー)を用いた機械学習/ディープラーニング/多層ニューラルネットワークの研究開発技術を習得する。 研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	医薬食品評価科学演習		特別研究 I (Pythonを用いた基本的な統計解析技術の習得) 及び特別研究 II (Pythonを用いたデータの可視、AI技術の習得) に関連する論文およびNBMの臨床研究に関する論文の読解やプレゼンテーションの能力を養う。	

地域社会医学・健康科学	法医学特別研究Ⅰ		法医病理学及び法医中毒学を中心に、法医学に関連する基礎知識及び研究技法について学び、死因診断に掛かる検査方法、死因の考察方法等の死因診断に必要不可欠な技能を修得する。	
	法医学特別研究Ⅱ		「特別研究Ⅰ」で得た基本的知識と技能に基づいて、法医病理学並びに法医中毒学について体系的に学び、死因診断手法の開発に必要な解析技能を修得する。実験成績に基づいた作業仮説の立案と実証、修正の過程を修得する。研究成果について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	法医学演習		特別研究Ⅰ及び特別研究Ⅱに関連する論文の読解と研究発表能力を修得する。	
	地域連携病理学特別研究Ⅰ		地域連携病理学を修得する。 講師：(5 伊藤 智雄, 61 上原 慶一郎)	共同
	地域連携病理学特別研究Ⅱ		地域連携病理学を修得し、学位論文を作成する。 講師：(5 伊藤 智雄, 61 上原 慶一郎)	共同
	地域連携病理学演習		地域連携病理学について、研究テーマの修正や立案を行う。 講師：(5 伊藤 智雄, 61 上原 慶一郎)	共同
	地域連携病理学臨床実習		地域連携病理学について、臨床を通じて実習する。 講師：(5 伊藤 智雄, 61 上原 慶一郎)	共同
未来医学	幹細胞医学特別研究Ⅰ		幹細胞に着目した生命現象の解明のための基礎的知識と手技について学ぶ。	
	幹細胞医学特別研究Ⅱ		種々の生理的および病的生命現象における幹細胞の制御技術の開発を目指す。	
	幹細胞医学演習		特別研究Ⅰ（幹細胞に着目した生命現象の解明）および特別研究Ⅱ（種々の生理的および病的生命現象における幹細胞の制御技術の開発）に関連する論文の読解やプレゼンテーション能力を養う。	
	免疫学特別研究Ⅰ		生体内における免疫システムの基礎的知識と免疫学研究の手技について学ぶ。	
	免疫学特別研究Ⅱ		生体内における免疫システムの制御機構と免疫疾患の病態について学ぶ。	
	免疫学演習		特別研究Ⅰおよび特別研究Ⅱに関連する論文の読解やプレゼンテーション能力を養う。	
	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学特別研究Ⅰ		慢性炎症は様々な老化関連疾患（動脈硬化やがん、認知症等）を引き起こすと考えられている。本講座では、免疫システムとしての炎症の役割について理解するとともに、これらの制御機構の破綻による老化関連疾患の病態について理解する。また、実験動物および培養細胞等を用いた解析方法の原理を理解することを目的とする。 講師：(31 中村 恵宣, 39 松岡 広)	共同
	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学特別研究Ⅱ		環境因子（食事・栄養や運動、腸内細菌等）と疾患の関連について、疾患モデル（動物モデル）を駆使した医学的エビデンスの構築と予防医学への発展について学ぶ。 講師：(31 中村 恵宣, 39 松岡 広)	共同
	バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学演習		特別研究Ⅰ（分子細胞生物学）及び特別研究Ⅱ（疾患モデルを駆使した研究）に関連した基礎研究、疫学・臨床データに関する論文等の最新知見の把握し、論文作成方法を習得する。予防医学開発を見据えた独自の仮説を展開し、プレゼンテーション等アウトブツスキルを習得する。 講師：(31 中村 恵宣, 39 松岡 広)	共同
内科学	循環器内科学特別研究Ⅰ		循環器疾患の病因・病態、診断、治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい虚血性心疾患・心不全・不整脈に対する最新の診断法、治療法について学び、理解する。	
	循環器内科学特別研究Ⅱ		循環器疾患の病因・病態、診断、治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい虚血性心疾患・心不全・不整脈に対する最新の診断法、治療法について学び、理解し、自ら研究を計画し、実践し、学会や論文に発表する。	
	循環器内科学演習		循環器疾患の病因・病態、診断、治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい虚血性心疾患・心不全・不整脈に対する最新の診断法、治療法について学び、理解する。	
	循環器内科学臨床実習		循環器疾患の病因・病態、診断、治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい虚血性心疾患・心不全・不整脈に対する最新の診断法、治療法について学び、病棟の患者さんで実践されている診療・臨床研究（実習）を通じて理解を深める。	
	不整脈先端治療学特別研究Ⅰ		循環器疾患の病因・病態、診断、治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい不整脈疾患に対する最新の診断法、治療法について学び、理解する。	
	不整脈先端治療学特別研究Ⅱ		循環器疾患の病因・病態、診断、治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい不整脈疾患に対する最新の診断法、治療法について学び、理解し、自ら研究を計画し、実践し、学会や論文に発表する。	
	不整脈先端治療学演習		循環器疾患の病因・病態、診断、治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい虚血性心疾患・心不全・不整脈に対する最新の診断法、治療法について学び、理解する。特に、心房細動や致死性不整脈に関して、重点的に学ぶ。	
	不整脈先端治療学臨床実習		循環器疾患の病因・病態、診断、治療に関する最近の知見、特に、進歩の著しい不整脈に対する最新の診断法、治療法について学び、病棟の患者さんで実践されている診療・臨床研究（実習）を通じて理解を深める。特に、心房細動や致死性不整脈に関して、重点的に学ぶ。実習にて、さらに議論とプレゼンテーションを行い、理解を深める。	
	循環器高度医療探索学特別研究Ⅰ		循環器高度医療探索学を修得する。	
	循環器高度医療探索学特別研究Ⅱ		循環器高度医療探索学を修得し、学位論文を作成する。	
	循環器高度医療探索学演習		循環器高度医療探索学について、研究テーマの修正や立案を行う。	
	循環器高度医療探索学臨床実習		循環器高度医療探索学について、臨床を通じて実習する。	

内科学	消化器内科学特別研究 I		消化管、胆・膵、肝臓における、感染症、自己免疫疾患、腫瘍についての基礎知識として、分子生物学的内容も含めた病態、診断と治療について理解する。また、臨床・基礎研究に必要な基礎的な知識と技術を理解し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。 講師：(19 児玉 裕三, 28 豊永 高史)	共同
	消化器内科学特別研究 II		消化器内科領域（消化管、胆・膵、肝臓疾患関連）の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。 講師：(19 児玉 裕三, 28 豊永 高史)	共同
	消化器内科学演習		文献や論文等から最新の知見を集積・解説し、これらの問題点を抽出する理解力と、考察力を修得する。 自らの研究で得た知見等をプレゼンテーションを通して発信し、フィードバックを得る等のコミュニケーションスキルを修得する。 講師：(19 児玉 裕三, 28 豊永 高史)	共同
	消化器内科学臨床実習		消化管、胆・膵、肝臓領域の、感染症、自己免疫疾患、腫瘍の高度先進医療を理解するとともに、実臨床、臨床試験を通じて実習する。 講師：(19 児玉 裕三, 28 豊永 高史)	共同
	新規治療探索医学特別研究 I		新規治療探索医学を修得する。	
	新規治療探索医学特別研究 II		新規治療探索医学を修得し、学位論文を作成する。	
	新規治療探索医学演習		新規治療探索医学について、研究テーマの修正や立案を行う。	
	新規治療探索医学臨床実習		新規治療探索医学について、臨床を通じて実習する。	
	呼吸器内科学特別研究 I		分子生物学的、分子遺伝学的研究手法を修得する。 新規の薬物療法や生化学的検査法を開発する能力を育成する。 呼吸器の炎症性疾患の診断と治療の現況、病態生理について学習する。 博士論文作成のための知識と技能を学ぶ	
	呼吸器内科学特別研究 II		肺がんの標準診断法、治療法を理解する。 臨床試験の立案、計画、デザイン等について学び、臨床試験を開始する。 臨床研究を立案、計画、実施し、学位論文を作成する。	
	呼吸器内科学演習		関連した研究論文の読解やそれに関するプレゼンテーションを行いコミュニケーションスキルを養う。研究成果を分野内や学内での研究会、国内外での学会・研究会でプレゼンテーションを積極的に行い、プレゼンテーションスキルの向上を図る。	
	呼吸器内科学臨床実習		気管支鏡検査を経験する。 呼吸器の解剖を理解する。 気管支鏡の臨床試験に参画する。	
	糖尿病・内分泌内科学特別研究 I		糖尿病、内分泌疾患の発症機構や病態について、基本的知識を学ぶ。また、糖尿病、内分泌疾患の発症機構や病態の解析に関しての、基本的な研究方法を学ぶ。	
	糖尿病・内分泌内科学特別研究 II		最新の分子生物学的手法を用いて明らかにされた糖尿病、内分泌疾患の発症機構や病態についての知見を、臨床へ応用する方法を学ぶ。また学んだ先進的な知識と技能を駆使し、実際に研究を行い、得られた結果を解析し、論文を作成することを学ぶ。	
	糖尿病・内分泌内科学演習		糖尿病、内分泌疾患の発症機構や病態についての、代表的論文の読解法やプレゼンテーションの仕方について学ぶ。実際に得られた研究結果や臨床的評価についてプレゼンテーションを行うことにより、コミュニケーションスキルを養う。	
	糖尿病・内分泌内科学臨床実習		糖尿病、内分泌疾患に関する高度専門職業人を目指す学生のために、臨床現場で指導を行う。具体的には、これら疾患の病態評価に関する検査法や、その評価法を学ぶ。実際の症例を通して、自ら検査、評価を行い、問題点を抽出する。その問題点解明のために研究計画を立てる方法を学ぶ。	
	総合内科学特別研究 I		動静脈血栓症の成因と臨床的意義を理解する。 生活習慣病と動脈硬化性血栓症、担当とがん関連血栓症、特に静脈血栓症の成因と臨床的意義を理解する。	
	総合内科学特別研究 II		「特別研究 I」で得た動静脈血栓症のリスク評価法を用い、①動脈硬化性血栓症に関して、そのリスク因子である生活習慣病に対する臨床的介入で各リスク評価指標の変動について臨床研究を行う。②がん関連静脈血栓症に関して、がんと非がん、がんの病期等でのリスク評価を各種パラメーターとの相関を含めて臨床研究を行う。	
	総合内科学演習		①生活習慣病と動脈硬化性血栓症、②がんと血栓症、に関係する論文を検索し、その論文の妥当性や今後の適応を評価する。 複数の論文を担当し、それぞれの論文の要点を分かり易くまとめプレゼンテーションする。	
	総合内科学臨床実習		臨床研究における CONSORT 声明を理解する。 入院や外来患者が持つ臨床的課題の抽出を行い、それに該当する既知の論文の検索を行う。 得られた情報をわかりやすく学生に教え、臨床現場での妥当性と適応をとともに理解する。	
腎臓内科学特別研究 I		腎臓内科学領域に関連する病態解明、治療法確立のための基礎および臨床的研究を行う。現在ターゲットとしている主な研究分野は、慢性腎臓病に伴う骨ミネラル代謝異常・心血管系疾患発症機序解明、糸球体腎炎の発症機序解明、腎移植拒絶反応の発症機序解明である。		
腎臓内科学特別研究 II		腎臓内科学領域に関連する病態解明、治療法確立のための基礎および臨床的研究を行う。現在ターゲットとしている主な研究分野は、慢性腎臓病に伴う骨ミネラル代謝異常・心血管系疾患発症機序解明、糸球体腎炎の発症機序解明、腎移植拒絶反応の発症機序解明である。		
腎臓内科学演習		腎臓内科学領域に関連する病態解明、治療法確立のための基礎および臨床的研究を進める上での研究手法を習得する。		
腎臓内科学臨床実習		基礎研究と臨床研究の研究計画を立案できる。 適切な論文より最新の知見を集積・解説し、研究テーマを自身で立案する。問題点の解決のための解析スキルを磨く。また、カンファレンスでプレゼンテーションすることで自身の見解を説明するコミュニケーションスキルを修得する。		
免疫内科学特別研究 I		免疫内科学分野における基本的知識と基本的実験手技や技能を身につけ、専門家となるための基礎を養う。 治療や診断における先端の情報をと入れることができるよう、論文学習を行う。 膠原病リウマチ診療の専門家としての技量を身につける。		
免疫内科学特別研究 II		免疫内科学における基礎または臨床研究を修得する。 免疫内科学の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。		

内科学	免疫内科学演習		研究テーマについて口頭で発表できる。 適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 発表内容の立案を行う。	
	免疫内科学臨床実習		膠原病リウマチ内科診療を経験する。 膠原病リウマチ内科について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。 膠原病リウマチ内科の臨床試験に参画する。	
	脳神経内科学特別研究 I		神経疾患患者の臨床上の疑問を取り上げて解明する道筋を立てる。	
	脳神経内科学特別研究 II		研究テーマの科学的検証を行う。	
	脳神経内科学演習		学術論文を精読し論理展開を理解し、具体的な研究計画の作成法を学ぶ。	
	脳神経内科学臨床実習		研究を行う視点を持った臨床能力を培う。	
	腫瘍・血液内科学特別研究 I		すべての固形癌、造血器腫瘍、良性血液疾患、およびこれらの関連疾患の病態生理を理解し、治療の基本的知識と技能を習得する。 臨床試験の方法論を理解することにより科学的情報の質を評価した上で結果を分析し、臨床応用する能力を育成する。	
	腫瘍・血液内科学特別研究 II		臨床腫瘍学、血液内科学の最新先進的知識・技能を修得し、病態生理の解明・治療法開発のための理論構築能力、問題解決能力を修得する。 臨床試験・臨床研究の方法論を理解し、臨床試験・臨床研究を展開できる能力を育成する。 臨床腫瘍学、血液内科学の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	腫瘍・血液内科学演習		臨床腫瘍学、血液内科学の臨床上の問題点を抽出し、病態生理の解明・治療法開発のための臨床試験立案能力を修得する。 臨床試験の問題点を抽出し、解決策を見出す能力を育成する。	
	腫瘍・血液内科学臨床実習		すべての固形癌、造血器腫瘍、良性血液疾患、およびこれらの関連疾患の病態生理を理解し、診療を経験する。 外科治療、放射線治療等を併用した集学的治療を経験する。 臨床試験の実際を実習する。	
内科系	放射線診断学特別研究 I		画像診断学の基礎を修得する。 講師：(44 村上 卓道, 53 祖父江 慶太郎)	
	放射線診断学特別研究 II		臓器別画像診断学の最新知見を修得する。 講師：(44 村上 卓道, 53 祖父江 慶太郎)	
	放射線診断学演習		研究成果のoutputを行う。 講師：(44 村上 卓道, 53 祖父江 慶太郎)	
	放射線診断学臨床実習		臨床画像診断の手法向上を行う。 講師：(44 村上 卓道, 53 祖父江 慶太郎)	
	IVR学特別研究 I		IVRの適応疾患について習熟し、各種基本手技を修得する。 IVR術前のプランニング、周術期の管理を行う能力を育成する。 これらを修得する上で必要な知識を身につける。	
	IVR学特別研究 II		様々な領域の疾患に対するIVRについての代表的な論文の解読や、新しい治療技術法の開発に関わり、それらの研究計画の作成方法を習得する。	
	IVR学演習		IVRに関する適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。	
	IVR学臨床実習		前期の講義で得た各種IVR手技に関する知識に基づいて、実際のIVR手技を遂行できるようになると共に、臨床研究を立案していくことができるようになる。	
	先進医用画像診断学特別研究 I		先進医用画像診断学を修得する。	
	先進医用画像診断学特別研究 II		先進医用画像診断学を修得し、学位論文を作成する。	
	先進医用画像診断学演習		先進医用画像診断学について、研究テーマの修正や立案を行う。	
	先進医用画像診断学臨床実習		先進医用画像診断学について、臨床を通じて実習する。	
	放射線医学特別研究 I		放射線医学を修得する。	
	放射線医学特別研究 II		放射線医学を修得し、学位論文を作成する。	
	放射線医学演習		放射線医学について、研究テーマの修正や立案を行う。	
	放射線医学臨床実習		放射線医学について、臨床を通じて実習する。	
	先進循環器画像診断学特別研究 I		循環器画像学の基本と応用を修得する。	
	先進循環器画像診断学特別研究 II		循環器画像学と人工知能 (AI) の進化と臨床応用を修得する。	

内科系	先進循環器画像診断学演習		循環器画像学の基本から応用に至るまでをカバーし、心臓CT、MRI、核医学と人工知能（AI）の活用を通じて臨床的、研究面双方のスキルを磨く。	
	先進循環器画像診断学臨床実習		実際の臨床環境で循環器画像学に関する実務スキルを磨く。	
	放射線腫瘍学特別研究Ⅰ		放射線治療領域の抗腫瘍効果や放射線抵抗性等について、分子生物学的側面に至る病態を理解し、診断と治療についての基本的知識と技能を修得する。また、臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。さらに、悪性腫瘍に対する放射線治療について学習する。	
	放射線腫瘍学特別研究Ⅱ		放射線腫瘍学分野におけるがんの病態、診断及び治療に対する先進的知識及び技術を修得する。放射線腫瘍学領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	放射線腫瘍学演習		悪性腫瘍に対する放射線治療について標準的な診断・治療法の問題点を抽出する。適切な論文より最新の知見を集積・解説し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。病態や診断に応じた放射線治療方法の選択の現状を理解し、実際の治療計画の立案を行う。	
	放射線腫瘍学臨床実習		強度変調放射線治療や定位照射治療、画像誘導小線源治療等の高精度放射線治療を経験する。放射線治療を中心に外科治療や抗癌剤、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害剤等の薬物療法を併用した集学的治療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。がん治療の臨床試験に参画する。	
	小児科学特別研究Ⅰ		小児科学領域のあらゆる疾患について、遺伝学的、分子生物学的側面から病因・病態を理解し、診断と治療についての基礎知識と技能を修得する。さらに、臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。	
	小児科学特別研究Ⅱ		小児科領域の疾患における病因・病態、診断および治療に関する先進的知識及び技術を修得する。小児科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	小児科学演習		小児科領域の疾患における病因・病態、診断および治療の問題点を抽出し、その問題点を解決するための研究計画の立案を行う。海外文献を紹介したり、研究経過発表を皆の前で行うことで、論文の読解やプレゼンテーションによりコミュニケーションスキルを修得する。	
	小児科学臨床実習		小児科領域の疾患の診療を経験する。小児科領域の疾患の病因・病態、診断および治療について、実臨床や臨床試験を通じて実習する。先進医療の臨床試験に参画する。	
	こども急性疾患学特別研究Ⅰ		学生が小児の急性疾患に関する基本的知識と技能を幅広く学べるように、徹底的にマンツーマンで指導する。	
	こども急性疾患学特別研究Ⅱ		学生が小児の急性疾患に関する先進的な知識と技能を集中的に学ばせ、それらを基礎とした論文を作成できるように指導する。	
	こども急性疾患学演習		学生が抄読会で海外文献を紹介したり、研究経過発表を皆の前で行うことで、論文の読解やプレゼンテーションによりコミュニケーションスキルを養えるよう指導する。小児急性疾患の診断・合併症に応じた治療・療育法の選択の現状を理解し、実際の治療計画の立案を行う。	
	こども急性疾患学臨床実習		こども初期急病センター、神戸大学医学部附属病院小児医療センター・周産母子セカ-および小児科外来や、地域の第一線の小児救急医療の現場において、患児とその家族と向き合い、一般小児医療を実践する中で、高度専門職業人になれるよう指導する。	
	小児神経学・発達行動小児科学特別研究Ⅰ		小児神経学および発達行動小児科学に基づいて、こどもの正常な精神・神経・行動発達とその異常としての発達障害に関する診断と治療についての基本的知識と技能を修得する。また、臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。さらに発達障害をもつ子どもに対する社会的資源について学習する。	
	小児神経学・発達行動小児科学特別研究Ⅱ		小児神経学および発達行動小児科学に基づく、こどもの正常な精神・神経・行動発達とその異常としての発達障害に関する診断と治療に対する先進的知識と技能を修得する。小児神経学・発達行動小児科学における発達障害領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	小児神経学・発達行動小児科学演習		発達障害、特に自閉症スペクトラム障害およびADHDについて標準的な診断・治療・療育指示を行う。適切な論文より最新の知見を集積・解説し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。発達障害の診断・合併する神経疾患に応じた治療・療育法の選択の現状を理解し、実際の治療計画の立案を行う。	
	小児神経学・発達行動小児科学臨床実習		発達障害、特に自閉症スペクトラム障害およびADHDについて診断、治療・療育の管理指示を経験する。WISCIV、PARS等の心理検査、神経学的診察、基礎疾患の検索、薬物療法、療育の指示について、実臨床を通じて実習する。	
	皮膚科学特別研究Ⅰ		皮膚科学の概念と基本的な基礎知識を習熟させ、その疑問点を明らかにする手法を概説する。	
	皮膚科学特別研究Ⅱ		皮膚科学疾患における疑問点を明らかにするための仮説のたて方、得られた結果からどのように理論的に考え、論文を構成するかを教育する。	
皮膚科学演習		抄読会を行ない、自分の得た実験の発表をさせることにより、論文の読解能力、研究発表能力を養う。		
皮膚科学臨床実習		臨床の現場で、皮膚科学の考え方、診断に至る思考経路、診断のための検査手技とその技術の習得、ならびにその解釈について教育する。		
精神医学特別研究Ⅰ		精神疾患に関する臨床的および生物学的分野における基本的知識と技能を習得することを目標とする。一般的な医師-患者関係の持ち方、患者心理、精神科患者面接技法、神経診察法等について学習する。ついで一般的な精神疾患、神経疾患に関する概念、診断および治療について学習する。		
精神医学特別研究Ⅱ		精神疾患に関する臨床的および生物学的分野における先進的な知識と技能を習得することを目標とする。最新の原著論文の抄読を通じて、その過程で論文作成に必要な知識を習得するとともに、論文作成に必要な技術的側面である構成や、統計学的方法論等の具体的な要素について学習する。		

内科系	精神医学演習		精神疾患に関する臨床および生物学的な知見を、学術論文の抄読により幅広く習得する。原著論文を読解する過程において、知識の習得のみならず、要点を的確に把握しその内容を実際にプレゼンテーションすることで、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルの習得を目指す。	
	精神医学臨床実習		大学病院の病棟及び外来において指導者のもと、診療に従事する。一般的な疾患及びまれな疾患の基本的な診療技能を修得する。本人の希望を元に連携精神医学、司法精神医学、老年精神医学、児童思春期精神医学等を学ぶために専門機関に派遣することも行う。各領域における基本的診療を学習する。関連行政機関、介護施設等でも実習を行う。	
	精神疾患高度医療探索学特別研究Ⅰ		精神疾患高度医療探索学を修得する。	
	精神疾患高度医療探索学特別研究Ⅱ		精神疾患高度医療探索学を修得し、学位論文を作成する。	
	精神疾患高度医療探索学演習		精神疾患高度医療探索学について、研究テーマの修正や立案を行う。	
	精神疾患高度医療探索学臨床実習		精神疾患高度医療探索学について、臨床を通じて実習する。	
	臨床検査医学特別研究Ⅰ		臨床検査医学、臨床免疫学、輸血学における基本的知識と基本的実験手技・技能を修得する。	
	臨床検査医学特別研究Ⅱ		臨床検査医学、臨床免疫学、輸血学における先進的な知識と技能を修得する。研究成果について論理展開を行い、学術論文を作成する。	
	臨床検査医学演習		臨床検査医学、臨床免疫学、輸血学領域の最新の論文の読解能力とプレゼンテーションスキルを修得する。	
	臨床検査医学臨床実習		習得した内容が実地臨床の場で生かせるように、検査部等の臨床現場を経験する。最先端の臨床検査を経験し、検査に関する臨床研究に参画する。	
	医療情報学特別研究Ⅰ		医療情報学を修得する。	
	医療情報学特別研究Ⅱ		医療情報学を修得し、学位論文を作成する。	
	医療情報学演習		医療情報学について、研究テーマの修正や立案を行う。	
	医療情報学臨床実習		医療情報学について、臨床を通じて実習する。	
	先端緩和医療学特別研究Ⅰ		緩和ケアの概念を正しく理解し、緩和ケアが必要となる（がんや心不全をはじめとした）生命を脅かす疾患とその苦痛のアセスメントおよびマネジメントに関する基本的な知識と技術を習得する。また、専門的緩和ケアの提供に必要なコミュニケーション、地域連携に必要な能力を身につける。その上で、緩和医療の臨床研究の方法論を理解し、その結果を臨床応用する能力を育成する。	
	先端緩和医療学特別研究Ⅱ		緩和医療分野における診断・治療・ケアに関する先進的知識及び技術を修得する。臨床研究に関する基本的知識・方法論を理解し、緩和医療領域の臨床研究を遂行し、学位論文を作成する。	
	先端緩和医療学演習		緩和ケアに関するアセスメント、治療・ケアについて現在の臨床上の問題点を抽出する。適切な論文から最新の知見を集約し、既存の臨床研究の問題点を分析し、その解決を目指した臨床研究の計画立案を行う能力を身につける。	
	先端緩和医療学臨床実習		緩和ケアコンサルテーション診療を通して、各種生命を脅かす疾患（がん、慢性心不全、集中治療領域の患者等）に対する専門的緩和ケアを経験する。身体症状（疼痛、呼吸困難等）、精神症状（不安・抑うつ、せん妄等）のマネジメントを体系的に理解する。患者家族とのコミュニケーション、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）、家族カンファレンスを経験する。	
	病態情報学特別研究Ⅰ		病態情報学を修得する。	
	病態情報学特別研究Ⅱ		病態情報学を修得し、学位論文を作成する。	
病態情報学演習		病態情報学について、研究テーマの修正や立案を行う。		
病態情報学臨床実習		病態情報学について、臨床を通じて実習する。		
薬剤学特別研究Ⅰ		有効かつ安全な投与設計を考える上で必要となる、薬物血中濃度解析や遺伝子多型診断についての基本的知識と技能を修得する。また、臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。さらに、薬剤に応じた有効かつ安全な薬物投与設計について学習する。		
薬剤学特別研究Ⅱ		個別化治療を考える上で重要な薬物代謝酵素、薬物トランスポーター等の体内動態を規定する因子と、治療効果や副作用発現に関与する各種因子との関連についての知識と技能を修得する。医薬品適正使用研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。		
薬剤学演習		患者個々に最も適した薬物治療、いわゆるテーラーメイド療法に関する基礎的な知識を修得する。適切な論文より最新の知見を集積・解読し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。テーラーメイド療法に関する研究の立案を行う。		
薬剤学臨床実習		患者検体における血中濃度や遺伝子型情報に関する実験技術や解析法を経験する。テーラーメイド治療について、実臨床、臨床研究を通じて実習する。テーラーメイド治療に関する臨床研究に参画する。		

内科系	システム病態生物学特別研究 I		システム病態生物学を修得する。	
	システム病態生物学特別研究 II		システム病態生物学を修得し、学位論文を作成する。	
	システム病態生物学演習		システム病態生物学について、研究テーマの修正や立案を行う。	
	小児先端医療学特別研究 I		小児先端医療学を修得する。	
	小児先端医療学特別研究 II		小児先端医療学を修得し、学位論文を作成する。	
	小児先端医療学演習		小児先端医療学について、研究テーマの修正や立案を行う。	
	小児先端医療学臨床実習		小児先端医療学について、臨床を通じて実習する。	
	ゲノム医療学特別研究 I		ゲノム医療学を修得する。	
	ゲノム医療学特別研究 II		ゲノム医療学を修得し、学位論文を作成する。	
	ゲノム医療学演習		ゲノム医療学について、研究テーマの修正や立案を行う。	
	ゲノム医療学臨床実習		ゲノム医療学について、臨床を通じて実習する。	
	外科学	食道胃腸外科学特別研究 I		食道胃腸外科領域の腫瘍や炎症等について、分子生物学な側面に至る病態を理解し、診断と治療についての基本的知識と技能を修得する。また、臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。さらに、消化器癌、とくに食道癌、胃癌および大腸癌の標準外科治療について学習する。
食道胃腸外科学特別研究 II			食道胃腸外科学分野における病態、診断及び治療に対する先進的知識及び技術を修得する。食道胃腸外科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
食道胃腸外科学演習			消化器癌、特に食道癌、胃癌及び大腸癌の病期診断について標準的な診断・治療法の問題点を抽出する。適切な論文より最新の知見を集積・解説し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。病態や診断に応じた外科的治療法の選択の現状を理解し、実際の治療計画の立案を行う。	
食道胃腸外科学臨床実習			消化器癌、特に食道癌、胃癌及び大腸癌に対する鏡視下手術等の低侵襲手術を経験する。外科手術を中心に放射線治療や抗癌剤、分子標的治療薬等の化学療法を併用した食道癌、胃癌及び大腸癌に対する集学的治療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。先進医療の臨床試験に参画する。	
肝胆膵外科学特別研究 I			肝胆膵領域疾患の診断学、治療学について外科的な視点での知識を習得する。特に、手術に必要な臨床解剖、病態生理については実際の手術手技と対比させ、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。さらに、肝胆膵癌の標準外科治療について学習する。 講師：(16 木戸 正浩, 52 小松 昇平)	共同
肝胆膵外科学特別研究 II			肝臓移植、膵・膵島移植、鏡視下手術、粒子線治療等の最先端治療について講義する。また、今後臨床応用が期待される再生医療、遺伝子治療等の肝胆膵領域への応用についても解説し、これらの先進的な知識を習得する。講師：(16 木戸 正浩, 52 小松 昇平)	共同
肝胆膵外科学演習			肝胆膵領域疾患の病態生理を理解することで診断、治療における未解決の問題を抽出する。適切な論文より最新の知見を集積・解説し、これらの問題点を分析・解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 講師：(16 木戸 正浩, 52 小松 昇平)	共同
肝胆膵外科学臨床実習			肝胆膵良悪性疾患に対する鏡視下手術等の低侵襲手術を経験する。外科手術を中心に放射線治療や抗癌剤、分子標的治療薬等の化学療法を併用した集学的治療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。先進医療の臨床試験に参画する。 講師：(16 木戸 正浩, 52 小松 昇平)	共同
乳腺内分泌外科学特別研究 I			乳癌の病態を理解し、乳癌の診断学、治療学についての基本的知識を習得する。特に乳癌の分子生物学を学ぶことによって、乳癌の治療を多面的なアプローチで理解することを目標とする。また臨床試験等の臨床研究を通じて、情報収集とその評価、解釈について学習する能力を習得する。	
乳腺内分泌外科学特別研究 II			乳癌画像診断の最新モダリティを理解、習得できるように、より精度の高い画像診断技術を教授する。また当科で研究を行っている乳癌早期診断の研究について、その理論を理解する。根治性と整容性を兼ねそなえた最新の乳癌手術術式を習得し、形成外科との連携も加味した術式の更なる工夫を習得する。常に個別化治療を念頭に置き、新たなバイオマーカーの開発、新規分子標的治療の作用機序を理解する。	
乳腺内分泌外科学演習			術前、術後症例検討会を通じて、個々の症例における乳癌の総合的な診断、治療法を学びながら、プレゼンテーションによりコミュニケーションスキルを養う。抄読会での論文読解、評価を通じて、論文内容の真実を見抜く力を養うとともに、論理的な思考法、論文作製法を学ぶ。また実際に臨床試験を立ち上げるシミュレーションを行う。	
乳腺内分泌外科学臨床実習			乳癌患者を総合的に診療するコミュニケーション技術の習得を常に意識しながら、診断のための各種インターベンション技術、根治性と整容性を兼ね備えた乳癌手術を習得する。各種薬物療法の適応を正確に判断し、病態に応じて適切に使用する。特にホルモン療法、化学療法、免疫チェックポイント阻害剤等の適正使用と、支持療法について習得する。再発患者の終末期医療の実践に向けて、地域連携、チーム医療の実践を習得する。	
心臓血管外科学特別研究 I		外科学総論、特に外科侵襲と生体反応を理解し習得する。また心臓血管外科学各論では弁膜症、虚血性心疾患、大動脈疾患、末梢血管疾患について学ぶ。同時に手術中の生命維持装置である人工心肺装置についての基本構造、取り扱いを理解するとともにトラブルシューティングに精通する。		

外科学	心臓血管外科学特別研究Ⅱ		心臓血管外科学における先進的な治療である、脳脊髄保護に重点をおいた大血管手術(弓部 大動脈、胸腹部大動脈疾患)、大血管ステントグラフト治療について学ぶ。脳脊髄障害の発症 機序の解明、予防策を研究し、当科でのリサーチカンファレンスでプレゼンテーションを行い、最終的に論文を作成する。	
	心臓血管外科学演習		1)大動脈解離における他施設協同研究, 2) 胸腹部大動脈瘤手術時の虚血性脊髄障害に関する研究, 3)大動脈基部手術におけるモック回路を用いた血行動態に関する研究, 4)人工心肺特に心筋保護液に関する研究等に取り組み, これらに関連する文献を収集し週3回の抄読会や週1回のレクチャーで プレゼンテーションすることで, コミュニケーションスキルを養う。	
	心臓血管外科学臨床実習		外科学における基本手術手技, 周術期管理の理論とその実際を学ぶ。心臓血管外科学では, 人工心肺の確立すること, 末梢血管外科手術, 簡単な開心術を習得することを目標とする。	
	心臓血管外科先端医療学特別研究Ⅰ		心臓血管外科先端医療学を修得する。	
	心臓血管外科先端医療学特別研究Ⅱ		心臓血管外科先端医療学を修得し, 学位論文を作成する。	
	心臓血管外科先端医療学演習		心臓血管外科先端医療学について, 研究テーマの修正や立案を行う。	
	心臓血管外科先端医療学臨床実習		心臓血管外科先端医療学について, 臨床を通じて実習する。	
	呼吸器外科学特別研究Ⅰ		呼吸器疾患に対する診断・病態ならびに治療全般について講義する。	
	呼吸器外科学特別研究Ⅱ		呼吸器悪性疾患に対して, 分子生物学的手法を用いた最新の診断と治療戦略を学んでもらう。	
	呼吸器外科学演習		臨床現場にフィードバックできる基礎研究の発想を学んでもらう。	
	呼吸器外科学臨床実習		呼吸器疾患全般にわたる診断学・治療学の実習を行う。	
	小児外科学特別研究Ⅰ		小児外科学領域のあらゆる疾患について, 発生学, 解剖学, 生理学, 病理学・免疫学・外科侵襲・医工連携の側面から病因・病態・治療を理解し, 診断と治療と医工連携についての基礎知識と技能を習得する。臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し, 情報を科学的に分析する能力を育成する。	
	小児外科学特別研究Ⅱ		小児外科領域の疾患および外科侵襲に伴う病態, 診断治療に関する先進的知識および外科技術を習得する。 小児外科領域の研究について論理展開を行い, 学位論文を作成する。	
	小児外科学演習		小児外科領域における診断治療の問題点を抽出し, その問題点を解決するための研究計画の立案を行う。 適切な論文や著書から最新の知見を集積し, これらの課題を解析して応用する能力を磨き, カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。	
	小児外科学臨床実習		小児外科疾患の疾患の診断と治療, 特に内視鏡手術等の低侵襲手術を経験し, 習得する。 先進医療の臨床試験に参画する。	
低侵襲外科学特別研究Ⅰ		消化器領域・心臓血管外科領域だけでなく, 小児外科領域も含めた様々な疾患について, 病態を理解し, 診断と治療についての基本的知識と技能を修得する。また, 臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し, 得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。さらに, 上記領域の標準外科治療および低侵襲外科治療について学習する。		
低侵襲外科学特別研究Ⅱ		消化器外科分野における病態, 診断及び治療に対する先進的知識及び技術を修得する。消化器外科領域の低侵襲外科治療研究について論理展開を行い, 学位論文を作成する。		
低侵襲外科学演習		消化器癌, 小児外科的疾患について標準的な診断・治療法の問題点を抽出する。 適切な論文より最新の知見を集積・解説し, これらの問題点を解析するスキルを磨き, カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。 病態や診断に応じた外科的治療法の選択の現状を理解し, 実際の治療計画の立案を行う。		
低侵襲外科学臨床実習		消化器外科領域・心臓血管外科領域・小児外科領域における鏡視下手術等の低侵襲手術を経験する。外科手術を中心に放射線治療や抗癌剤, 分子標的治療薬等の化学療法を併用した消化器癌に対する集学的治療や心臓血管外科手術・小児外科手術について, 実臨床, 臨床試験を通じて実習する。先進医療の臨床試験に参画する。		
国際医療連携推進学特別研究Ⅰ		国際医療連携推進学を修得する。 講師: (18 黒田 良祐, 3 浅利 貞毅)	共同	
国際医療連携推進学特別研究Ⅱ		国際医療連携推進学を修得し, 学位論文を作成する。 講師: (18 黒田 良祐, 3 浅利 貞毅)	共同	
国際医療連携推進学演習		国際医療連携推進学について, 研究テーマの修正や立案を行う。 講師: (18 黒田 良祐, 3 浅利 貞毅)	共同	
国際医療連携推進学臨床実習		国際医療連携推進学について, 臨床を通じて実習する。 講師: (18 黒田 良祐, 3 浅利 貞毅)	共同	
外科系	整形外科特別研究Ⅰ		骨, 関節, 筋肉を始めとする運動器の臨床解剖, 生理機能ならびに運動器疾患の病態を理解し, 診断と治療についての知識と技術を修得する。臨床研究実施に必要な知識と技能を修得し, 研究によって得られたデータを科学的に分析する能力を育成する。関節外科, 脊椎外科, 骨再建外科における標準的治療について学習する。	
	整形外科特別研究Ⅱ		運動器医療における病態を理解するための知識, 整形外科領域の診断と治療に関わる先進的技術を修得する。 運動器医療, 整形外科領域の研究について論理展開を行い, 学位論文を作成する。	
	整形外科演習		運動器疾患の病態を把握するための各種画像診断法を学ぶ。運動器疾患の治療に関わる最新の外科的治療技術や再生医療について学習する。適切な論文より最新の知見を集積し, これらの問題点を解析するスキルを磨き, 抄読会でプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。病態に応じた治療法を選択し, 実際の治療計画の立案を行う。	

外科系	整形外科臨床実習		整形外科領域における骨、関節、脊椎の標準的手術、鏡視下手術等の低侵襲手術を経験する。運動器疾患の集学的治療、すなわち保存的治療、手術療法およびリハビリテーション治療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。骨軟骨再生の臨床試験に参画する。	
	リハビリテーション運動機能学特別研究 I		リハビリテーション診療における、臨床的な障害像を理解し、基礎疾患の病態、運動生理学的な側面を理解し、リハビリテーション診断とリハビリテーション治療の基本的知識と技能を習得する。また、臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。	
	リハビリテーション運動機能学特別研究 II		リハビリテーション医学における障害の病態や診断、治療、機能予測等について、先進的な知識と技能を習得できるようになる。リハビリテーション医学領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	リハビリテーション運動機能学演習		リハビリテーション医学、特にロボットリハビリテーション、切断や脊髄損傷といった運動器リハビリテーション診療における標準的な診断・治療の問題点を抽出する。適切な論文より最新の知見を集積・解説し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。リハビリテーション診断に基づいた障害の抽出とゴール設定を行いリハビリテーション治療の立案を行う。	
	リハビリテーション運動機能学臨床実習		リハビリテーション診断と治療、特にロボットリハビリテーションや切断や脊髄損傷分野のリハビリテーション診療を経験する。多職種連携の中心となる、リハビリテーションカンファレンスやリハビリテーション科医として参画する。先進医療の臨床治験について、運動機能評価等、リハビリテーション医学の担当として参画する。	
	リハビリテーション機能回復学特別研究 I		リハビリテーション診療における、臨床的な障害像を理解し、基礎疾患の病態、運動生理学的な側面を理解し、リハビリテーション診断とリハビリテーション治療の基本的知識と技能を習得する。また、臨床研究に必要な基礎的な知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。	
	リハビリテーション機能回復学特別研究 II		リハビリテーション医学における障害の病態や診断、治療、機能予測等について、先進的な知識と技能を習得できるようになる。リハビリテーション医学領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	リハビリテーション機能回復学演習		リハビリテーション医学、特に脳、神経疾患やがんや集中治療分野の急性期リハビリテーション診療における標準的な診断・治療の問題点を抽出する。適切な論文より最新の知見を集積・解説し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。リハビリテーション診断に基づいた障害の抽出とゴール設定を行いリハビリテーション治療の立案を行う。	
	リハビリテーション機能回復学臨床実習		リハビリテーション診断と治療、特に脳、神経疾患やがん、集中治療分野のリハビリテーション診療を経験する。回復期リハビリテーション病棟の診療を経験する。多職種連携の中心となる、リハビリテーションカンファレンスや緩和ケアカンファレンス、カンパサーボードにリハビリテーション科医として参画する。先進医療の臨床治験について、運動機能評価等、リハビリテーション医学の担当として参画する。	
	脳神経外科学特別研究 I		脳腫瘍、脳血管障害、先天奇形、頭部外傷、脊椎脊髄疾患等の脳神経外科疾患の病態解明、診断と治療について基本的知識と技能を学ぶ。また、中枢神経外科的疾患のうち、分子生物学、あるいはゲノムレベルでの病態の解明に関する基本的知識を学ぶ。また、画像診断やバイオマーカー等について最新の技術を学ぶ。	
	脳神経外科学特別研究 II		脳腫瘍、脳血管障害、先天奇形、頭部外傷、脊椎脊髄疾患等の脳神経外科疾患の病態解明、診断と治療について先進的知識と技能を学び、脳神経外科の種々の疾患の病態、診断、治療に関して臨床例を分析し問題点を抽出し論文執筆を行う。脳腫瘍、脳血管障害等の実験的研究を行い、研究成果を学術論文にまとめる。学位論文を作成する。	
	脳神経外科学演習		脳神経外科の種々の疾患の病態、診断、治療に関して臨床例を分析し問題点を抽出する。適切な論文を読解し、カンファレンス等でのプレゼンテーションによりコミュニケーションスキルを養う。	
	脳神経外科学臨床実習		各種脳疾患の診断法の実際について症例を中心に学ぶ。また代表的な脳神経外科手術の手術適応と手術式、術後管理を学び顕微鏡手術操作、血管内治療の基本を習得する。	
	眼科学特別研究 I		眼科学分野における各種疾患病態を理解し、各種検査法・治療法の知識と技能を習得する。また、臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析し、発信する能力を育成する。	
	眼科学特別研究 II		眼科学分野の各種疾患の病態、診断および治療に対する先進的知識および技術を修得する。眼科学分野の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	眼科学演習		緑内障、加齢黄斑変性の標準的な診断・治療法の問題点を抽出する。適切な論文より最新の知見を集積・解説し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。病態や診断に応じた眼科的治療計画の立案を行う。	
	眼科学臨床実習		眼科各種疾患の標準的な診断と手術手技を経験する。眼科各種疾患の薬物治療、手術治療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。	
	難治性網膜視神経変性治療学特別研究 I		眼科学分野における各種疾患病態を理解し、各種検査法・治療法の知識と技能を習得する。また、臨床研究に必要な基礎的知識と技術を習得し、得られた情報を科学的に分析し、発信する能力を育成する。	
	難治性網膜視神経変性治療学特別研究 II		眼科学分野の各種疾患の病態、診断および治療に対する先進的知識および技術を修得する。眼科学分野の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。	
	難治性網膜視神経変性治療学演習		緑内障、加齢黄斑変性、網膜変性、ぶどう膜炎の標準的な診断・治療法の問題点を抽出する。適切な論文より最新の知見を集積・解説し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。病態や診断に応じた眼科的治療計画の立案を行う。	
難治性網膜視神経変性治療学臨床実習		眼科各種疾患の標準的な診断と手術手技を経験する。眼科各種疾患の薬物治療、手術治療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。		
耳鼻咽喉科頭頸部外科学特別研究 I		耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の代表的疾患の病態を理解し、診断能力を身につける。		
耳鼻咽喉科頭頸部外科学特別研究 II		耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の代表的な疾患の治療方針を立案できる。		
耳鼻咽喉科頭頸部外科学演習		耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の疾患に対する保存的治療を実践できる。		

外科系	耳鼻咽喉科頭頸部外科学臨床実習		耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域疾患の外科的治療を実践できる。	
	腎泌尿器科学特別研究Ⅰ		泌尿器科疾患（特に尿路悪性腫瘍、男性不妊症、腎移植および尿路感染症）の臨床病態を解明し、evidenceに基づいた新しい治療法や新薬開発に結びつくような臨床に還元できる研究を目指している。	
	腎泌尿器科学特別研究Ⅱ		泌尿器科領域における先進的治療を推進していくことを目的とし、各専門領域における先進的知識と技能を修得する。トピックスとして、各癌種における臨床病理学的因子・バイオマーカーと予後の相関、cytokine、growth factorによる精巣機能調節機構、尿路感染症における耐性化予防等を取り上げる。	
	腎泌尿器科学演習		論文作成や学術講演のためのスキルを養うことを目的とする。泌尿器科領域における最新major journalを読解し、先進的知識を得るとともに、論文作成のノウハウを学ぶ。また、自らの基礎研究の進捗状況について定期的な報告を行なうことで、プレゼンテーション力を身につける。	
	腎泌尿器科学臨床実習		泌尿器科各領域における疾患について病態を理解した上で、その診断、治療を学ぶ。外来、病棟実習はもとより、手術研修も行い、近年急速に普及しているロボット手術（特に腎癌、前立腺癌及び膀胱癌）を初めとする低侵襲手術についても学ぶ。	
	泌尿器先端医療開発学特別研究Ⅰ		泌尿器先端医療開発学を修得する。	
	泌尿器先端医療開発学特別研究Ⅱ		泌尿器先端医療開発学を修得し、学位論文を作成する。	
	泌尿器先端医療開発学演習		泌尿器先端医療開発学について、研究テーマの修正や立案を行う。	
	泌尿器先端医療開発学臨床実習		泌尿器先端医療開発学について、臨床を通じて実習する。	
	産科生殖医学特別研究Ⅰ		産科婦人科領域のなかでも周産期医学や不育症を中心とした生殖医学について、分子生物学や免疫学等の基礎医学的な視点からも病態を理解し、診断・治療について基本的知識と技能を修得する。また、臨床研究に必要な知識と思考法を修得し、得られた臨床情報を科学的・客観的に分析する能力を育成する。さらに、胎児治療等高度な周産期医療技術ならびに不育症に対する標準的ならびに先進的（研究的）治療について学習する。 講師：(27 寺井 義人, 26 出口 雅士)	共同
産科生殖医学特別研究Ⅱ		産科婦人科学分野における病態、診断および治療に対する先進的知識および技術を修得する。産科婦人科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。 講師：(27 寺井 義人, 26 出口 雅士)	共同	
産科生殖医学演習		合併症妊娠、産科異常症、胎児疾患等に対する、もしくは、不育症に対する標準的ならびに先進的な診断法・治療法について理解し、かつ、その問題点を抽出できる知識を修得する。適切な論文より最新の知見を集積・解説し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。病態や診断に応じた内科的もしくは外科的治療法の選択の現状を理解し、実際の治療計画を立案できるようにする。 講師：(27 寺井 義人, 26 出口 雅士)	共同	
産科生殖医学臨床実習		胎児治療等の先進的な周産期医療や不育症を中心とした生殖医療を経験する。産科手術や内科的治療を併用した標準的な周産期医療に加え胎児治療等の先進的な周産期医療、ならびに、不育症を中心とした生殖医療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。先進医療の臨床試験に参画する。 講師：(27 寺井 義人, 26 出口 雅士)	共同	
婦人科先端医療学特別研究Ⅰ		産科婦人科領域の婦人科疾患や婦人科腫瘍等について、分子生物学や免疫学等の基礎医学的な視点からも病態、骨盤解剖を理解し、診断・治療について基本的知識と技能を修得する。また、臨床研究に必要な知識と思考法を修得し、得られた臨床情報を科学的・客観的に分析する能力を育成する。さらに、婦人科癌に対する標準治療、低侵襲・先進的的外科治療について学習する。		
婦人科先端医療学特別研究Ⅱ		産科婦人科学分野、特に婦人科疾患や婦人科腫瘍における病態、骨盤解剖、診断および治療に対する先進的知識および技術を修得する。婦人科領域の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。		
婦人科先端医療学演習		婦人科領域である骨盤解剖を理解し、婦人科疾患や婦人科腫瘍、婦人科悪性腫瘍に対する病態、標準的ならびに先進的な診断法・治療法について理解し、かつ、その問題点を抽出できる知識を修得する。適切な論文より最新の知見を集積・解説し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。病態や診断に応じた内科的もしくは外科的治療法の選択の現状を理解し、実際の治療計画を立案できるようにする。		
婦人科先端医療学臨床実習		婦人科領域である骨盤解剖を理解し、婦人科疾患や婦人科腫瘍、婦人科悪性腫瘍に対する開腹手術、ロボット手術、腹腔鏡下手術等の低侵襲手術を経験する。外科手術を中心に放射線療法や化学療法を併用した婦人科悪性腫瘍に対する集学的治療について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。抗がん剤治療や分子標的治療、遺伝子診断等の知識と実臨床における学習と実践を行う。また新規治療に関する臨床試験に参画する。		
形成外科学特別研究Ⅰ		形成外科における創傷治療理論を修得する。加えて、急性創傷と慢性創傷の違いを修得し、治療へ導くためのする能力を育成する。外用剤と創傷被覆材について学習する。		
形成外科学特別研究Ⅱ		腫瘍学を修得する。皮膚腫瘍・軟部組織腫瘍の研究について論理展開を行い、学位論文を作成する。		
形成外科学演習		皮弁手術を説明できる。適切な論文より最新の知見を集積・解説し、これらの問題点を解析するスキルを磨き、カンファレンスでプレゼンテーションすることでコミュニケーションスキルを修得する。各種皮弁術の立案を行う。		
形成外科学臨床実習		顕微鏡下手術を経験する。マイクロサージャリーについて、実臨床、臨床試験を通じて実習する。マイクロサージャリー手術の臨床試験に参画する。		
麻酔科学特別研究Ⅰ		麻酔科学分野における臨床研究および基礎研究に関連する基礎的な知識と技術を修得し、得られた情報を科学的に分析する能力を育成する。		
麻酔科学特別研究Ⅱ		麻酔、集中治療、疼痛治療に関連した研究について、先進的知識および技術を修得し、実践する。各自の研究テーマに沿って研究を遂行し、論理的な展開をもとに学位論文を作成する。		

外科系	麻酔科学演習		麻酔科学分野の実臨床および、臨床・基礎研究において、標準的な技術や知識、もしくは解析方法を修得する。 適切な著書および論文より研究テーマに関する情報を集積・理解し、研究の遂行に役立つ。	
	麻酔科学臨床実習		麻酔科学分野の臨床において、標準的な診断および治療を実践する。 麻酔科学分野の臨床において、先進的な知識および技術を修得する。	
	口腔外科学特別研究Ⅰ		口腔外科学における基本的知識と技能を学ぶ。	
	口腔外科学特別研究Ⅱ		口腔外科学における先進的な知識と技能を学び論文を作成する。	
	口腔外科学演習		口腔外科学領域の論文を読解しその内容について討論する	
	口腔外科学臨床実習		主に全身麻酔下での手術について、実臨床、臨床試験を通じて実習する。	
	災害・救急医学特別研究Ⅰ		救急医学の概念と基本的な基礎知識を習得させ、その疑問点を明らかにする手法を概説する。 講師：(14 桂 長門, 49 山田 勇)	共同
	災害・救急医学特別研究Ⅱ		救急医学に関連した疾患における疑問点を明らかにするための仮設のたて方、得られた結果からどのように理論的に考え、論文を構成するかを教育する。 講師：(14 桂 長門, 49 山田 勇)	共同
	災害・救急医学演習		抄読会を行い、自ら得た実験の結果を発表させることにより、論文の読解力・研究発表能力を養う。 講師：(14 桂 長門, 49 山田 勇)	共同
	災害・救急医学臨床実習		臨床の現場で、救急医学の考え方、診断に至る思考回路、診断・治療のための基本手技の取得ならびにその解釈について教育する。 講師：(14 桂 長門, 49 山田 勇)	共同
	先進救命救急医学特別研究Ⅰ		救急医学の概念と基本的な基礎知識を習得させ、その疑問点を明らかにする手法を概説する。	
	先進救命救急医学特別研究Ⅱ		救急医学に関連した疾患における疑問点を明らかにするための仮設のたて方、得られた結果からどのように理論的に考え、論文を構成するかを教育する。	
	先進救命救急医学演習		抄読会を行い、自ら得た実験の結果を発表させることにより、論文の読解力・研究発表能力を養う。	
	先進救命救急医学臨床実習		臨床の現場で、救急医学の考え方、診断に至る思考回路、診断・治療のための基本手技の取得ならびにその解釈について教育する。	
	小児高度専門外科学特別研究Ⅰ		小児高度専門外科学を修得する。	
	小児高度専門外科学特別研究Ⅱ		小児高度専門外科学を修得し、学位論文を作成する。	
	小児高度専門外科学医学演習		小児高度専門外科学について、研究テーマの修正や立案を行う。	
	小児高度専門外科学臨床実習		小児高度専門外科学について、臨床を通じて実習する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(医学系研究科博士課程前期課程先進生命医学系専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合知科目	先進生命医学概論		<p>本授業では、先進生命医学系専攻を構成する4つの領域、すなわち、生命医学、医療創成工学、未来社会医学、健康科学として発展してきた専門知の全般について概論的に学ぶとともに、在学中に行う学修、研究を領域横断的な広い視野の中で位置づけ遂行することを可能にするため、本学で展開している先進生命医学系の研究・開発について俯瞰的に把握することを目指す。</p> <p>コーディネータ：(157 村上 卓道) 第1回：生命医学概論 (157 村上 卓道) 第2回：神戸大学における生命医学研究・開発 (157 村上 卓道) 第3回：医療創成工学概論 (47 村垣 善浩) 第4回：神戸大学における医療創成工学研究・開発 (47 村垣 善浩) 第5回：未来社会医学概論 (4 石田 達郎) 第6回：神戸大学における未来社会医学研究・開発 (4 石田 達郎) 第7回：健康科学概論 (2 秋末 敏宏) 第8回：神戸大学における健康科学研究・開発 (2 秋末 敏宏)</p>	オムニバス
	総合知概論		<p>本授業では、医療・ヘルスケア分野における社会的課題をテーマに、異分野の知識や視点を統合する「総合知」のプロセスを体験する。高齢化社会、地域医療、遠隔医療、健康格差等の具体的な問題を題材に、学習者はグループで問題を分析し、課題を設定して、解決策を設計・提案する。講義を通じて総合知の理論やフレームワークを学び、ワークショップ形式で実践力を養う。情報収集、発散・収束思考、プロトタイピング、フィードバックを重ねることで、総合知を活用した課題解決のスキルを体得する。</p> <p>最終的には、社会に価値を提供できるソリューションを発表し、総合知の重要性と可能性への理解を深める。理論と実践を調和させ、グループでの協働を通じて、総合知の価値を実感し、実際の問題を解決するための応用力や柔軟性を養うことを目指す。</p> <p>第1回：オリエンテーションと総合知の基礎 第2回：問題設定と異分野の視点 第3回：情報収集とステークホルダーへのインタビュー 第4回：アイデア創出と思考の発散・収束 第5回：プロトタイピングと解決策の具体化 第6回：テストと価値の検証 第7回：成果物制作と思考の共有 第8回：成果発表会と総合知の再考</p>	
	学びのデザイン		<p>個々の学生が目指す将来像に近づくために、また、修了までに修士論文としてまとめることを目指すテーマについて研究を進める十分な能力を身に付けるために、教員の指導・助言を受けながら、大学院在学中に学ぶことを主体的にデザインする。</p> <p>主に所属研究分野で行う。指導・助言は、各学生の所属分野の長である教員を中心として、複数の教員が必要に応じてこれにあたる。学生毎に、目指す将来像、想定する修士論文のテーマ、そこに向かうアプローチ、具体的な履修科目の設定等を、一定の書式によって可視化することにより、デザインの明確化と、学生-教員間での理解の共有を行う。</p> <p>コーディネータ：(1 青井 貴之)</p> <p><バイオメディカルサイエンス領域> (1 青井 貴之) 主として、幹細胞医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。 (6 伊藤 俊樹) 主として、膜生物学に係る研究テーマについての研究指導を行う。 (8 上山 健彦) 主として、神経情報伝達学に係る研究テーマについての研究指導を行う。 (12 片田 竜一) 主として、法医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。 (15 菊田 順一) 主として、免疫学に係る研究テーマについての研究指導を行う。 (23 匂坂 敏朗) 主として、膜動態学に係る研究テーマについての研究指導を行う。 (27 勝二 郁夫) 主として、感染制御学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p>	

総合知科目	学びのデザイン	<p>(32 仁田 亮) 主として、生体構造解剖学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(38 古屋敷 智之) 主として、薬理学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(40 堀江 真史) 主として、分子病理学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(42 松岡 広) 主として、バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(43 宮西 正憲) 主として、細胞医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(54 矢野 育子) 主として、薬剤学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p><医療創成工学領域></p> <p>(9 大谷 亨) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(13 木内 邦彦) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(14 祇園 景子) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(28 菅野 公二) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(29 富畑 賢司) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(46 向井 敏司) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(47 村垣 善浩) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(50 森田 圭紀) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(52 保多 隆裕) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(63 加藤 博史) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(71 鷹尾 俊達) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(78 中楯 龍) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(89 和田 則仁) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p><健康科学領域></p> <p>(2 秋末 敏宏) 主として、整形外科学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(3 石岡 俊之) 主として、疾病、傷病による知覚・認知・行動の変化が起こる神経機序の解明および介入方法の開発に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(5 和泉 比佐子) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(7 伊藤 光宏) 主として、細胞機能・構造科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(16 グライナー 智恵子) 主として、老年看護学・国際看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(20 古和 久朋) 主として、神経内科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(33 野田 和恵) 主として、身体障害作業療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(34 柱本 照) 主として、臨床免疫学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p>	
-------	---------	--	--

総合知科目	学びのデザイン	<p>(36 藤田 和佳子) 主として、母性看護学・助産学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(37 藤野 英己) 主として、骨格筋障害に対する予防や治療についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(39 法橋 尚宏) 主として、家族看護学・小児看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(45 宮脇 郁子) 主として、療養支援看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(48 毛利 健太郎) 主として、精神科リハビリテーションに係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(51 森山 英樹) 主として、基礎理学療法学・運動器理学療法学・神経理学療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(53 安田 尚史) 主として、ヒューマンヘルスに係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(55 山下 公大) 主として、分析医科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(57 井澤 和太) 主として、内部障害理学療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(65 小寺 さやか) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学・国際保健学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(67 駒井 浩一郎) 主として、細胞機能・構造科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(68 千場 直美) 主として、母性看護学・助産学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(73 田中 貴士) 主として、基礎理学療法学・神経理学療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(76 長尾 徹) 主として、基礎作業学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(79 中山 貴美子) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(80 林 敦子) 主として、脳機能低下がみられる患者、健常者を対象として、認知機能・精神症状の評価・介入に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(81 前重 伯壮) 主として、物理療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(83 三浦 靖史) 主として、リハビリテーション医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(88 四本 かやの) 主として、精神障害者に対するリハビリテーション介入・評価に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p><未来社会医学領域> (4 石田 達郎) 主として、医療健康政策学、地域医療学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(11 亀岡 正典) 主として、国際環境保健学、ウイルス学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(17 榎林 陽一) 主として、AI・デジタルヘルス科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(18 見坂 恒明) 主として、地域医療支援学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(19 小林 成美) 主として、医学教育学、地域医療学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(22 坂口 一彦) 主として、地域医療教育学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(25 真田 昌爾) 主として、臨床研究開発科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(26 篠原 正和) 主として、分子疫学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p>	
-------	---------	---	--

総合知科目	学びのデザイン		<p>(30 中澤 港) 主として、国際環境保健学、人類生態学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(31 西村 範行) 主として、社会行動科学、小児保健学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(41 松井 三明) 主として、国際環境保健学、周産期医療学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(59 入子 英幸) 主として、国際環境保健学、感染症学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(69 副島 堯史) 主として、がん看護学、小児看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(70 園田 悠馬) 主として、社会行動科学、リハビリテーションに係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(77 長尾 学) 主として、医療政策学、立証検査医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p>	
-------	---------	--	--	--

バイオメディカルサイエンス領域専門科目	バイオメディカルサイエンス基礎科目	生命科学特論	<p>生命科学の知見を疾患の病態解明や予防・治療法開発に繋げるバイオメディカルサイエンスの基礎となる生命科学に関する知識や考え方を学修する。具体的には、ヒトの体を構成する細胞の働きを支える分子の構造と働き、細胞内小器官の働きやシグナル伝達を介した制御、細胞間情報伝達、組織・臓器の構造や生理的機能、その発生・再生のメカニズムやその医学的応用について学ぶ。また、生命科学・医学研究に不可欠である動物実験や遺伝学の研究手法についても学ぶ。</p> <p>以上の講義を通じて、ヒトの生命活動を司る分子・細胞・組織・臓器・全身に亘る階層縦断的機序とその医学的意義を理解する。</p> <p>コーディネータ：(1 青井 貴之)</p> <p>第1回：細胞：生体分子システムとしての構造と機能 (87 山本 泰憲)</p> <p>第2回：リン酸化酵素を介するシグナル伝達/スフィンゴ脂質を介するシグナル伝達 (112 梶本 武利, 61 岡田 太郎)</p> <p>第3回：低分子量G蛋白質を介するシグナル伝達 (316 力武 良行)</p> <p>第4回：Hippo シグナルによる生体制御 (1 青井 貴之)</p> <p>第5回：システイン残基の翻訳後修飾が司るシグナル伝達と疾患 (102 足立 直子)</p> <p>第6回：生体膜の形状制御とシグナル伝達 (6 伊藤 俊樹)</p> <p>第7回：小胞輸送によるシグナル伝達 (324 藤田 英伸)</p> <p>第8回：細胞間情報伝達 (85 村田 陽二)</p> <p>第9回：構造学から見た生理・病理機構 (32 仁田 亮)</p> <p>第10回：幹細胞医学 (1 青井 貴之)</p> <p>第11回：神経系の発生と病態 (103 伊藤 圭祐)</p> <p>第12回：脳の発生と再生に関わるシグナル伝達 (92 遠藤 光晴)</p> <p>第13回：中枢神経解剖学とシナプス伝達 (119 玉田 紘太)</p> <p>第14回：生体の生理機能 (呼吸系・循環系・排泄系) (72 橘 吉寿)</p> <p>第15回：in vivo研究に必要な動物実験/ゲノム科学的手法を用いた疾患遺伝子の探索 (86 森岡 裕香, 166 小林 千浩)</p>	オムニバス
		疾患学特論	<p>疾患学特論では、生命科学特論で学んだ基礎医学の知識をさらに深めつつ、臨床的観点も含めてさまざまな疾患の病態について学修する。具体的には、消化器疾患、循環器疾患、内分泌・代謝疾患、血液・免疫疾患、精神・神経疾患、運動器疾患、皮膚疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患、腫瘍疾患について、各疾患の原因、発症メカニズム、治療に関する知識を学ぶ。さらに、医学・医療研究におけるビッグデータの活用法や、疾病の予防や早期診断・早期治療、再発防止を向上させる予防医学についても学修する。</p> <p>以上の講義を通じて、疾患の病態解明や新規治療法の開発に繋げるバイオメディカルサイエンス研究の重要性を理解する。</p> <p>コーディネータ：(15 菊田 順一)</p> <p>第1回：内分泌・代謝系と生体恒常性・疾患 (305 矢田 俊彦)</p> <p>第2回：血液・免疫組織の成り立ち・機能と多臓器連関における役割 (197 片山 義雄)</p> <p>第3回：腸内細菌から考える健康科学の最前線 (211 國澤 純)</p> <p>第4回：循環器疾患の病態と治療 (158 山下 智也)</p> <p>第5回：消化管：細胞、組織間のクロストーク (60 上坂 敏弘)</p> <p>第6回：骨格筋の維持機構とその破綻 (95 紙崎 孝基)</p> <p>第7回：眼科疾患の病態と治療 (210 楠原 仙太郎)</p> <p>第8回：耳鼻咽喉科疾患の病態と治療 (170 藤田 岳)</p> <p>第9回：皮膚疾患の病態と治療 (139 久保 亮治)</p> <p>第10回：精神・神経疾患の病態と治療 (35 菱本 明豊)</p> <p>第11回：がん細胞の運動とシグナル伝達 (167 辻田 和也)</p> <p>第12回：間質細胞との細胞間相互作用による腫瘍進展機構について/病理学的アプローチによるがん研究 (66 狛 雄一朗, 115 重岡 学)</p> <p>第13回：病理診断学 (267 西尾 真理)</p> <p>第14回：ビッグデータサイエンスが拓く生命医学研究の新世界 (17 樽林 陽一)</p> <p>第15回：疾患・治療バイオマーカーの探索 (42 松岡 広)</p>	オムニバス

バイオメデイカルサイエンス領域専門科目	バイオメデイカルサイエンス基礎科目	社会医学・生命倫理・安全	<p>現代社会では、人々の社会活動と医学研究・医療は密接な関係を築いている。履修生の多くが今後、医学研究・医療に関わるキャリアを選択すると予想されるなか、医学研究・医療をとりまく社会情勢を知ることが重要である。本講義では、少子高齢化社会の中で健康寿命の延伸を目指す現代医療と社会の関わり（社会医学・公衆衛生学）、医学研究・医療に関わる倫理（生命倫理）、高度専門化する医学研究・医療に関わる安全（医療安全・産業衛生）について、それぞれの領域専門の講師からオムニバス形式で講義を行い、最新の情報を理解することを目指す。</p> <p>コーディネータ：(26 篠原 正和) 第1回：公衆衛生学概論 (26 篠原 正和) 第2回：研究活動に関わる産業衛生：化学物質の安全管理 (26 篠原 正和) 第3回：医療情報 (144 高岡 裕) 第4回：輸血療法の安全性確保とインフォームドコンセントについて (290 坊池 義浩) 第5回：医療安全 (26 篠原 正和) 第6回：理系研究者のためのAI入門 (121 西森 誠) 第7回：排水管理 (326 吉村 知里) 第8回：薬害 (54 矢野 育子) 第9回：性自認と多様性社会-憲法からの視点 (182 井上 典之) 第10回：患者の自律・自己決定権をめぐる倫理的考察 (146 茶谷 直人) 第11回：研究倫理 (26 篠原 正和) 第12回：成人保健と健康増進 (26 篠原 正和) 第13回：公的統計データを活用した社会疫学研究 (113 片岡 葵) 第14回：法医鑑定1 (26 篠原 正和) 第15回：法医鑑定2 (26 篠原 正和)</p>	オムニバス
		薬物治療・創薬学特論	<p>薬物治療や創薬の基本となる薬理学・臨床薬理学に関する知識や考え方を学修する。具体的には、主な治療薬の作用機序や薬物動態に関する基本的事項等を理解し、薬物治療の実際や処方設計、特殊患者集団に対する医薬品適正使用と関連づける能力を育成する。また、疾患の分子メカニズムに基づき創薬につなげるための基本的考え方や手法について学修するとともに、ドラッグデリバリーシステムや従来の低分子薬や抗体薬に加えて、ニューモダリティと呼ばれる核酸医薬、遺伝子治療、細胞治療等について理解する。さらに、診療と研究の違い、臨床研究や医薬品開発を実施・支援する上での法的・倫理的背景について学修する。</p> <p>コーディネータ：(54 矢野 育子) 第1回：臨床薬理学総論 (54 矢野 育子) 第2回：薬理学総論 (38 古屋敷 智之) 第3回：個別化投与設計を目的とした薬物速度論 (319 糸原 光太郎) 第4回：抗菌薬のPK/PD理論と適正使用に向けた治療戦略 (189 宇田 篤史) 第5回：がん薬物療法と薬物相互作用 (255 丹田 雅明) 第6回：抗がん薬の有効性・安全性におけるゲノム薬理学 (312 山本 和宏) 第7回：高齢者薬物療法とポリファーマシー対策 (208 木村 丈司) 第8回：妊娠時における薬物治療と漢方 (322 北廣 優実) 第9回：がん化学療法時の薬物体内動態とバイオメタル (265 中村 任) 第10回：小胞体ストレスを起因とする疾患と治療戦略 (164 大村 友博) 第11回：糖鎖合成異常による疾患と治療 (207 北川 裕之) 第12回：ドラッグデリバリーシステムを用いた医薬品開発 (191 大河原 賢一) 第13回：ニューモダリティと創薬 (149 中村 恵宣) 第14回：診療と研究の違い/臨床研究のイロハ (25 真田 昌爾) 第15回：医薬品開発プロセスとCRC (82 槇本 博雄)</p>	オムニバス

バイオメディカルサイエンス領域専門科目	バイオメディカルサイエンス基盤科目	微生物感染症・免疫学特論	<p>バイオメディカルサイエンス領域に必要な微生物感染症学、免疫学（ウイルス学、細菌学、真菌学、寄生虫学、免疫学）の基礎及び知識を修得する。具体的には、病原微生物の構造や感染様式、微生物によって引き起こされる感染症及びその制御法（ワクチンや治療薬）を理解する。さらに、微生物と宿主免疫応答に関して、その生命現象や機構を理解する。これらの最先端のトピックスに触れ、生命科学における微生物感染症・免疫学の意義と展望について学修する。</p> <p>コーディネータ：(49 森 康子) 第1回：腸チフス (142 白川 利朗) 第2回：HIV (11 亀岡 正典) 第3回：人獣共通感染症 (159 有井 潤) 第4回：B型肝炎 (307 矢野 嘉彦) 第5回：感染と自然免疫応答 (177 阿部 隆之) 第6回：感染と酸化ストレス (75 鄧 琳) 第7回：麻疹及びその他のパラミクソウイルス感染症 (179 伊藤 正恵) 第8回：マラリア感染症 (59 入子 英幸) 第9回：C型肝炎ウイルス (27 勝二 郁夫) 第10回：腸内細菌と免疫応答 (49 森 康子) 第11回：免疫細胞の動態と機能 (15 菊田 順一) 第12回：ヘルペスウイルス (120 西村 光広) 第13回：ワクチン (318 石丸 華子) 第14回：薬剤耐性 (126 松井 千絵子) 第15回：バイオハザード (91 靱 千恵)</p>	オムニバス
	がんプログラム科目	腫瘍学 I 基盤講義 (医療現場・学際領域)	<p>固形がん及び造血器腫瘍に対するがん個別化薬物治療を推進し、多領域や他部門、多職種と連携し、新規治療薬や診断薬を開発するための個別化医療の臨床試験を立案・企画・遂行する方法を理解する。</p> <p>講師：(24 佐々木 良平, 21 酒井 良忠)</p>	共同
		腫瘍学 II 横断講義 (予防・研究開発)	<p>臨床研究中核拠点病院やがんゲノム医療拠点病院と連携し、がん個別化医療を推進し、地域でのがん個別化医療の実践を理解する。トランスレーショナル研究の推進を理解する。</p> <p>講師：(24 佐々木 良平, 21 酒井 良忠)</p>	共同
		放射線治療計画基本演習	<p>放射線治療計画の基本を修得したり、様々な癌種の放射線治療計画手法について学修する。</p> <p>実際の治療装置（外部照射装置・小線源治療装置）の品質管理業務に参加し、測定機器のセットアップや使用法等の実際の業務に則って学修する。また、実症例の放射線治療計画に放射線腫瘍医の指導の下、参加する。院内で行われている多科合同カンファレンスに参加し、がん患者の病期診断・治療方針の決定に関わるディスカッションを体験する。</p> <p>講師：(24 佐々木 良平, 84 宮脇 大輔, 90 石原 武明, 118 妹尾 悟史, 128 椛本 成俊)</p>	共同
		リハビリテーション医学	<p>がんリハビリテーション医学を学ぶ上で必要なリハビリテーション医学の知識を取得し、併せてリハビリテーション医学に関する研究の文献を抄読し、研究の立案、企画、遂行する手法を学ぶとともに、幅広いリハビリテーション医学の内容について理解する。</p>	
		がんリハビリテーション学	<p>がんリハビリテーション医学を学ぶ上で必要ながんリハビリテーション医学の知識を取得し、併せてがんリハビリテーション医学に関する研究の文献を抄読し、研究の立案、企画、遂行する手法を学ぶ。特に最新のがんリハビリテーション医学研究の内容について触れ、適切な研究テーマを立案する手法について学ぶ。</p>	

バイオメデイカルサイエンス領域専門科目	がんプログラム科目	がんリハビリテーション演習	がんリハビリテーション医学の研究にあたり、実際の臨床現場におけるがんリハビリテーション診療を見学し、がんリハビリテーション診療の技法を学ぶとともに、研究テーマや手法について実現可能な臨床研究が可能となるための方略について考察し、実際のがんリハビリテーション医学に対する臨床研究の実行能力を身につける。	
		基礎解剖学	人体の構造を機能と関連づけて理解するため、(1)人体の構造を機能と関連付けて理解し、頭の中で人体の三次元構造を構築できるようにするとともに、(2)中枢神経系の基本的な構造と機能、主要な神経回路について理解する。 講師：(32 仁田 亮, 64 吉川 知志, 122 仁田 英里子, 104 今崎 剛, 314 山本 正道, 190 江村 健児, 73 田中 貴士)	共同
		原子核物理学	原子の構造や原子核の大きさ、内部構造等を修得するため、原子核の発見やその大きさの測定、また、それらの内部構造と反応についての概要を理解するとともに、それらが現代科学の最前線で様々な分野にどのように応用されているかを学ぶ。	
		放射線物理学	放射線と物質の相互作用を中心に、放射線医学物理学の基礎となる領域を修得するため、放射線医学ではX線、γ線、電子線、荷電粒子線等が応用されており、その性質を理解することは重要である。 この講義では、原子及び原子核の構造から放射線の発生、性質、放射線と物質との相互作用等の放射線医学物理学の基礎となる領域を理解する。	
		統計学	種々の研究を遂行するにあたり、統計処理は大変重要である。特に医療分野に関しては、標準治療をブラッシュアップするために多くの臨床研究が行われている。臨床研究において治療効果の有意差を検定する医療統計は、不可欠なツールであると言える。 本講義では、臨床研究の専門家及び生物統計の専門家から、臨床研究の立案から治療法の比較に必要な症例数等の試験デザインの組み方等を学修する。さらに、統計解析手法の基礎を学び、研究デザインに合わせた解析手法を選択できる能力を養うことを目標とする。 講師：(25 真田 昌爾, 129 村上 冨)	共同
		保健物理学	放射線の安全管理を修得するため、放射線及び放射性同位元素を取り扱う場合には、安全かつ適正な使用を担保しなければならない。 この講義では、放射線が人体に及ぼす影響を理解し、放射線の取扱いを安全かつ適正に実施するために必要な放射線防護・管理について理解する。 第1回：序論及び歴史 (128 椋本 成俊) 第2回：防護関連組織・機関 (128 椋本 成俊) 第3回：放射線の線源と利用 (128 椋本 成俊) 第4回：放射線の生物影響・リスク (128 椋本 成俊) 第5回：放射線防護関連諸量 (128 椋本 成俊) 第6回：放射線防護関連諸量 (128 椋本 成俊) 第7回：放射線防護体系 (128 椋本 成俊) 第8回：放射線防護・管理実務 (128 椋本 成俊) 第9回：防護関連規制 (128 椋本 成俊) 第10回：医療放射線防護・管理 (128 椋本 成俊) 第11回：医療放射線防護・管理 (128 椋本 成俊) 第12回：環境の防護 (194 小澤 修一) 第13回：患者被ばく線量の低減 (194 小澤 修一) 第14回：患者被ばく線量の低減 (194 小澤 修一) 第15回：放射線の安全管理 (194 小澤 修一)	オムニバス
		放射線診断物理学	放射線診断機器の特性を修得し、各装置を管理する能力を育成するため、画像診断分野で用いられている検査装置では、放射線・放射性同位元素・核磁気共鳴・超音波等が応用されている。 本講義では、これらの基礎原理や装置の概要及び各診断もダリティの最先端の技術について学修する。	

バイオメディカルサイエンス領域専門科目	がんプログラム科目	放射線治療物理学	放射線治療機器の特性を修得し、各装置を管理する能力を育成するため、放射線治療に必要とされる物理学・治療技術学・治療機器工学・測定学について理解する。座学では不十分と思われる放射線測定、線量計算、治療計画手法については、臨床研修中に実技を含めて補足を行う。 講師：(101 赤坂 浩亮, 128 椛本 成俊)	共同
		放射線計測学	放射線の計測法及び線量計に関して学ぶため、放射線計測を正確に実施するためには対象とする放射線の性質に適した検出法を選択する必要がある。 本講義では、放射線検出の原理・検出器特性・計測法等を学修する。 第1回：線量測定 (101 赤坂 浩亮) 第2回：熱量計による線量測定 (101 赤坂 浩亮) 第3回：化学(フリッケ)線量計 (101 赤坂 浩亮) 第4回：放射線の生物影響・リスク (101 赤坂 浩亮) 第5回：空洞理論 (128 椛本 成俊) 第6回：空洞理論 (128 椛本 成俊) 第7回：電離箱線量計による光子、電子ビームの校正 (128 椛本 成俊) 第8回：電離箱線量計による光子、電子ビームの校正 (128 椛本 成俊) 第9回：電離箱線量計による光子、電子ビームの校正 (128 椛本 成俊) 第10回：相対線量測定技術 (128 椛本 成俊) 第11回：パルスモード検出器 (128 椛本 成俊) 第12回：計数と統計 (128 椛本 成俊) 第13回：計数と統計 (128 椛本 成俊) 第14回：小照射野の線量測定 (128 椛本 成俊) 第15回：小照射野の線量測定 (128 椛本 成俊)	オムニバス
		情報処理学	情報処理・画像処理の基礎知識を理解し、画像処理技術を応用するための理論について学修する。近年、コンピュータの進歩とともに、画像処理技術は大きく進歩し、その重要性についても診断・治療関わらず高まっている。 この講義では、情報処理・画像処理の基礎知識を理解し、画像処理技術を応用するための理論について学修する。	
		医療情報学	医療情報システムについて学修する。現在の医療現場で運用されている医療情報処理システムを理解するために必要な知識を習得する。また、年々重要性が高まっている医療情報に対するセキュリティに関して学修する。一部不足する放射線治療における情報については、臨床研修の中で補足を行う。	
		放射線診断学	画像診断について学修する。画像診断の基礎を学び、その後、各部位(中枢神経、心臓・大血管・主要な動静脈、尿路系・後腹膜・男性骨盤・鼠径管・陰嚢等、女性骨盤・鼠径管・会陰部等、肝臓・胆嚢・胆道系・膵臓・脾臓、消化管、頭頸部・乳腺、肺・縦隔・胸壁、脊椎・脊髄・神経・末梢神経)ごとに画像診断の方法について学ぶ。	
		放射線生物学	生物学的作用、生物学的基礎過程、人体への影響及び腫瘍・治療に関与する因子について学修することで、放射線腫瘍学・放射線生物学の考え方、基礎的知識、最近の進歩について臨床腫瘍学の立場から理解できることを目標とする。 講師：(24 佐々木 良平, 84 宮脇 大輔, 90 石原 武明, 118 妹尾 悟史, 128 椛本 成俊)	共同
		放射線関連法規及び勧告	放射線に関する法令について学修するため、医学物理学として必要な放射線関連法規及び勧告について学ぶ。また、本講義内の座学に加えて、別途看護師、医師等の多職種合同での職種横断的ケーススタディ演習及びSP(ボランティア模擬患者)を用いた職種横断的臨床課題演習にも参加する。	
		核医学物理学	放射線同位元素を用いた測定、検査の原理を理解するため、放射線同位元素を用いた装置の歴史をはじめ、放射性薬剤の体内動態に数理モデルをあてはめた定量的な機能測定法、メーキング法について学ぶ。	

バイオメディカルサイエンス領域専門科目	がんプログラム科目	核医学	<p>各種がんに関する放射線同位元素を用いた検査、治療法を学ぶため、原子核の発見やその大きさの測定、また、それらの内部構造と反応についての概要を理解するとともに、それらが現代科学の最前線で様々な分野にどのように応用されているかを学ぶ。</p> <p>第1回：核医学総論 (128 棕本 成俊) 第2回：放射性医薬品 (128 棕本 成俊) 第3回：シンチグラフィ1 (128 棕本 成俊) 第4回：シンチグラフィ2 (128 棕本 成俊) 第5回：PET (128 棕本 成俊) 第6回：試料測定 (128 棕本 成俊) 第7回：RI内用療法 (84 宮脇 大輔) 第8回：品質保証 (128 棕本 成俊)</p>	オムニバス
		放射線腫瘍学	<p>各種がんに関する放射線治療法について学ぶため、原子核の発見やその大きさの測定、また、それらの内部構造と反応についての概要を理解するとともに、それらが現代科学の最前線で様々な分野にどのように応用されているかを学ぶ。</p> <p>第1回：放射線腫瘍学総論 (24 佐々木 良平) 第2回：放射線治療技術 (128 棕本 成俊) 第3回：脳神経 (90 石原 武明) 第4回：頭頸部1 (24 佐々木 良平) 第5回：頭頸部2 (84 宮脇 大輔) 第6回：呼吸器 (90 石原 武明) 第7回：乳腺 (118 妹尾 悟史) 第8回：消化器 (84 宮脇 大輔) 第9回：泌尿器 (84 宮脇 大輔) 第10回：婦人科 (118 妹尾 悟史) 第11回：骨軟部 (24 佐々木 良平) 第12回：造血管 (24 佐々木 良平) 第13回：小児 (24 佐々木 良平) 第14回：緩和 (84 宮脇 大輔) 第15回：良性疾患 (84 宮脇 大輔)</p>	オムニバス
		医療・画像情報学演習	<p>医療・画像情報の病院内での実際の管理に触れ、医療情報の管理に関して医療情報部の教員に指導いただいた上で、HISシステムやRISシステムの運用の実際を学ぶ。</p> <p>第1回：診療情報システム (294 前田 英一) 第2回：診療情報システム (294 前田 英一) 第3回：診療情報システム (294 前田 英一) 第4回：放射線情報システム (128 棕本 成俊) 第5回：放射線情報システム (128 棕本 成俊) 第6回：放射線情報システム (128 棕本 成俊) 第7回：画像管理システム (128 棕本 成俊) 第8回：各システムの連携に関して (128 棕本 成俊)</p>	オムニバス
		核医学物理学演習	<p>核医学部門の放射線診断装置の特性を修得し、各装置を管理する能力を育成するため、本演習では、核医学検査の基礎原理や装置の概要、実際の検査や各装置の品質管理に関して、核医学部門の実際の検査や品質管理を見学することで学修する。</p>	
		放射線診断物理学演習	<p>放射線診断機器の特性を修得し、各装置を管理する能力を育成するため、画像診断分野で用いられている検査装置では、放射線・放射性同位元素・核磁気共鳴・超音波等が応用されている。 本演習では、これらの基礎原理や装置の概要、実際の検査や各装置の品質管理に関して、放射線診断装置の実際の検査や品質管理を見学することで学修する。</p>	
		保健物理学演習	<p>放射線の安全管理を修得するため、放射線及び放射性同位元素を取り扱う場合には、安全かつ適正な使用を担保しなければならない。 この演習では、リニアックの遮蔽計算に関して主眼を置き、放射線の安全管理に関して学ぶ。</p>	

バイオメデイカルサイエンス領域専門科目	がんプログラム科目	放射線計測学演習	<p>実機の治療器測定機器を用いて正しい放射線の測定法を学ぶため、実際の治療装置（外部照射装置・小線源治療装置）の品質管理業務に参加し、測定機器のセットアップや使用法等の実際の業務に則って学修する。</p>	
		科学英語	<p>研究者の基礎として英語能力は、必要不可欠なものである。研究に際し、多くの英語論文を効率よく読む手法を学ぶ。また、国際学会等で自身の研究をプレゼンし、世界に発信することも重要であり、限られた時間で重要な物事を聴衆に伝える英語プレゼンテーションを学修する。英語プレゼンテーションに関しては、ネイティブスピーカーを講師に迎え、即戦力になる英会話表現を取得する。さらに、プレゼン能力を向上させるために、小グループに分かれたプレゼンテーション実習を取り入れている。</p>	
		放射線治療計画臨床研究	<p>放射線治療計画の手法や実際について学修し、様々な疾患のCTV, PTV等のTarget volumeとCritical Organの輪郭を囲み、分割法に関しても検討し、最終的には最適の放射線治療計画法を修得する。また、IMRTやSRT等の高精度放射線治療の治療計画、QA/QCについても修得する。</p> <p>講師：（24 佐々木 良平, 84 宮脇 大輔, 90 石原 武明, 118 妹尾 悟史, 128 椋本 成俊）</p>	共同

医療創成工学領域専門科目	イノベーション科目	医療機器社会実装学特論	<p>医療機器開発の歴史及び医療機器開発の実際についての知識を実例を基に授ける。</p> <p>現在臨床現場で使用されている医療機器の歴史や実際の開発経緯を知ることで、どのようにすれば社会実装価値のある、すなわち臨床現場で使用できる製品を生み出すことができるかについて知識を深める講義とする。</p> <p>学生は、治療・診断機器の原理や臨床現場での実際、並びにその歴史について知り、様々な企業やアカデミアでの医療機器開発の実際を失敗や紆余曲折を含めて学ぶ。</p> <p>コーディネーター：(9 大谷 亨, 89 和田 則仁)</p> <p>第1回：先端治療機器開発における医工連携 (295 正宗 賢)</p> <p>第2回：医療における検体計測機器開発の歴史 (140 久保田 文雄)</p> <p>第3回：光線力学療法 (PDT) を用いた悪性腫瘍治療機器の開発 (47 村垣 善浩)</p> <p>第4回：体外循環用小型斜流式血液ポンプの開発 (176 穴井 博文)</p> <p>第5回：国産初手術支援ロボットhinotoriの開発 (156 宗藤 康治)</p> <p>第6回：“日本の医療機器産業活性化に向けた取り組み～医療機器スタートアップの創出～” (237 正林 和也)</p> <p>第7回：消化器内視鏡開発の歴史 (264 中村 一成)</p> <p>第8回：粒子線治療に用いる吸収性組織スパーサーの開発 (153 福本 巧)</p>	オムニバス
オペレーション科目		医療機器レギュラトリーサイエンス学特論	<p>医療機器のレギュラトリーサイエンス (評価科学) に関する知識を授ける。レギュラトリーサイエンスとは、「科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づいた確かな予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学」であり、学生は医療機器の有効性及び安全性を科学的知見に基づき評価・判断することの重要性を学修する。本講では規制当局等からも講師を招き、医療機器として薬機法承認・認証を経て上市するために必要な非臨床・臨床評価における、診断系医療機器、治療系医療機器の違いやAIを活用したプログラム医療機器評価の特性を概説する。</p> <p>コーディネーター：(29 富畑 賢司, 47 村垣 善浩)</p> <p>第1回：医療機器開発におけるカダバーの活用 (232 七戸 俊明)</p> <p>第2回：医療機器のレギュラトリーサイエンスとPMDAの役割 (233 芝 武志)</p> <p>第3回：臨床研究の倫理 (25 真田 昌爾)</p> <p>第4回：医療機器の臨床評価 (313 山本 晴子)</p> <p>第5回：治療系機器のレギュラトリーサイエンス (310 山根 隆志)</p> <p>第6回：医療機器の非臨床評価 (性能試験, 有効性試験) (220 小西 明英)</p> <p>第7回：医療機器の認証 (239 鈴木 孝司)</p> <p>第8回：AIの医療機器への活用 (250 多田 智裕)</p>	オムニバス
		医療機器ビジネス学特論	<p>医療機器のビジネス戦略立案に必要な知識を授ける。</p> <p>新しい医療機器が現場で普及するためには、製品の開発 (品質管理や薬事・治験を含む) と並行して、事業の開発 (早期から臨床現場ニーズを的確に捉えて設計に落とし込み、バリューチェーンを構築する) が必要であり、本講では後者を扱う。</p> <p>学生は、医療機器開発のプロセスと全体像をビジネス的側面から理解し、加えて、各専門分野 (知的財産、保険適用、ビジネスモデル、マーケティング、セールス・ディストリビューション、ファイナンスとファンディング、Exit戦略) についての基礎知識を学修する。</p> <p>コーディネーター：(71 鷹尾 俊達, 13 木内 邦彦)</p> <p>第1回：医療機器開発プロセス総論 (300 宮坂 強)</p> <p>第2回：システムレベルエンジニアリング (169 原 陽介)</p> <p>第3回：知財戦略 (279 久野 栄造)</p> <p>第4回：保険償還戦略 (52 保多 隆裕)</p> <p>第5回：ビジネスモデル (198 加藤 毅)</p> <p>第6回：マーケティング (300 宮坂 強)</p> <p>第7回：ファイナンスとファンディング (198 加藤 毅)</p> <p>第8回：海外事業戦略 (209 清峰 正志)</p>	オムニバス

医療創成工学領域専門科目	オペレーション科目	医療機器品質マネジメント学特論	<p>医療機器の品質マネジメントシステム（QMS）についての知識を授ける。</p> <p>学生は、品質マネジメントシステムのルール（QMS省令）で求められる医療機器の事業化に必要な体制を理解し、さらに医療機器の関連法規や規格を学修する。具体的には、薬機法、QMS省令、GVP省令、ISO13485、リスクマネジメント（ISO14971）、生物学的安全性（ISO10993）、その他個別規格（ISO、IEC、JIS）、医療機器関連業許可（製造販売業、製造業、販売業、貸与業、修理業）等を学ぶ。</p> <p>コーディネーター：（71 鷹尾 俊達, 29 富畑 賢司）</p> <p>第1回：医療機器に関連する法規制および規格と必要な業許可（236 清水 美雪）</p> <p>第2回：QMS省令とISO13485（236 清水 美雪）</p> <p>第3回：設計開発における品質マネジメント（236 清水 美雪）</p> <p>第4回：リスクマネジメント（ISO 14971）（236 清水 美雪）</p> <p>第5回：生物学的安全性試験（ISO 10993）（219 小島 幸一）</p> <p>第6回：電気安全性試験（IEC 60601-1）（226 榎原 正博）</p> <p>第7回：ユーザビリティエンジニアリングファイル（IEC 62366）（226 榎原 正博）</p> <p>第8回：品質マネジメントの実施状況の確認－内部監査（236 清水 美雪）</p>	オムニバス
実践創造実習		ニーズ探索臨床現場実習	<p>診察室や手術室等の臨床現場を活用したグループワーク実習として、観察と医療従事者とのコミュニケーションをベースとしたニーズ探索及びニーズ選別の手法を体験する。</p> <p>学生は、医学部附属病院及び分院の国際がん医療・研究センター（ICCRC）で行われる腹腔鏡手術、ロボット支援手術、胸腔鏡手術、消化器内視鏡治療、IVR（血管内治療）、リハビリテーション等の多様な医療の現場における実際の観察と医療従事者との対話からニーズを探索する。さらに、探索した様々なニーズから、既存の診断・治療の課題を理解し、ステークホルダー分析や市場分析を経て、最適なニーズに絞り込む。</p> <p>コーディネーター：（89 和田 則仁）</p> <p>具体的な臨床現場及び担当教員は、9 大谷 亨, 29 富畑 賢司, 78 中橋 龍, 99 山口 智子, 106 上野 秀貴, 132 LE THI HUE, 消化器内科（50 森田 圭紀, 71 鷹尾 俊達）、循環器内科（13 木内 邦彦）、脳神経外科（127 松尾 和哉）であり、各診療科の診療スケジュールに合わせて毎回2～4か所の現場を選定し、グループに分かれて実習を行う。</p>	オムニバス
		医療機器コンセプト創造実習	<p>「ニーズ探索臨床現場実習」で選別したニーズからの医療機器コンセプト創造をグループワーク実習として体験する。</p> <p>学生は、選別したニーズから、具体的な方策となる多種多様なコンセプトを創造し、医療機器としての実現可能性や、知財性、市場性、保険償還、薬機法規制等を分析して、コンセプトを選別するプロセスを実習として学ぶ。</p> <p>コーディネーター：（71 鷹尾 俊達, 89 和田 則仁）</p> <p>コンセプト創造の過程で、9 大谷 亨, 13 木内 邦彦, 29 富畑 賢司, 50 森田 圭紀, 78 中橋 龍, 99 山口 智子, 106 上野 秀貴, 132 LE THI HUE, 127 松尾 和哉が担当として、毎回必要に応じて、各診療科（心臓血管外科、食道胃腸外科、整形外科、消化器内科、リハビリテーション科、放射線腫瘍科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、小児外科、肝胆膵外科、放射線診断・IVR科、泌尿器科、循環器内科、麻酔科等）の医師にヒアリングを行い、コンセプト創造に必要な情報を収集する。</p>	オムニバス

医療創成工学領域専門科目	工学系科目	医療機器・システム設計概論	<p>先端的な医療機器やシステムの設計・開発の具体例をオムニバス形式で講述し、医療機器やシステム開発の概要を主に技術的側面から理解することを目的とする。主に、生体インプラントやステント等の医療デバイスを取り上げ、使用される材料の特性、3次元造形に用いられる3Dプリンタや切削加工に用いられる5軸制御工作機械、CAD/CAMについて講述する。</p> <p>第1回：イントロダクション、生体インプラントやステント等の医療デバイス（その1）（46 向井 敏司） 第2回：生体インプラントやステント等の医療デバイス（その2）（168 西田 勇） 第3回：生体インプラントやステント等の医療デバイス（その3）（168 西田 勇） 第4回：ナノマイクロセンシング技術を用いたバイオメディカルセンサ（その1）（28 菅野 公二） 第5回：ナノマイクロセンシング技術を用いたバイオメディカルセンサ（その2）（28 菅野 公二） 第6回：手術ロボット等の医療ロボット技術（その1）（78 中楯 龍） 第7回：手術ロボット等の医療ロボット技術（その2）（78 中楯 龍） 第8回：課題発表（46 向井 敏司, 168 西田 勇, 78 中楯 龍, 28 菅野 公二）</p>	オムニバス
		医療機器・システム設計演習	<p>先端的な医療機器やシステムの設計・開発の具体例をオムニバス形式で講述し、医療機器やシステム開発の概要を主に技術的側面から理解することを目的とする。具体例としては（1）生体インプラントやステントなどの医療デバイス、（2）ナノセンシング技術を用いたバイオメディカルセンサ、（3）手術ロボット等の医療ロボット技術である。</p> <p>（1）生体インプラントやステント等の医療デバイスでは、医療デバイスに使用される材料の特性、3次元造形に用いられる3Dプリンタや切削加工に用いられる工作機械、CAD/CAMについて講述する。（2）ナノマイクロセンシング技術を用いたバイオメディカルセンサでは、その概要と計測原理、作製方法及び評価方法について講述する。（3）手術ロボット等の医療ロボット技術では、ロボティクスの基礎や医療ロボットの開発経緯、遠隔操縦型手術ロボットの原理について講述する。</p> <p>第1回：生体インプラント等の医療デバイスの設計・試作実習（その1）（46 向井 敏司, 9 大谷 亨, 168 西田 勇, 160 池尾 直子） 第2回：生体インプラント等の医療デバイスの設計・試作実習（その2）（46 向井 敏司, 9 大谷 亨, 168 西田 勇, 160 池尾 直子） 第3回：生体インプラント等の医療デバイスの設計・試作実習（その3）（46 向井 敏司, 9 大谷 亨, 168 西田 勇, 160 池尾 直子） 第4回：ナノマイクロセンシング技術を用いたバイオメディカルセンシング実習（その1）（28 菅野 公二, 106 上野 秀貴） 第5回：ナノマイクロセンシング技術を用いたバイオメディカルセンシング実習（その2）（28 菅野 公二, 106 上野 秀貴） 第6回：医療ロボット技術の基本となるロボットの遠隔制御実習（その1）（78 中楯 龍） 第7回：医療ロボット技術の基本となるロボットの遠隔制御実習（その2）（78 中楯 龍） 第8回：まとめ（46 向井 敏司, 9 大谷 亨, 168 西田 勇, 160 池尾 直子, 28 菅野 公二, 78 中楯 龍, 106 上野 秀貴）</p>	オムニバス
	専門科目	インターンシップ	<p>医療機器メーカーの研究開発部門、設計部門、企画部門等に1～2週間滞在させ、企業の医療機器開発の現場を体験させる。学生に早い段階で企業の開発業務を体験させることで向学心の向上を図るとともに、学んだことを社会に還元する意味を理解させることを目的とする。</p> <p>コーディネーター：（9 大谷 亨, 46 向井 敏司, 47 村垣 善浩）</p>	共同

医療創成工学領域専門科目	専門科目	医用材料工学	<p>医療機器・体内埋植デバイスの適切な使用と研究開発のためには、その構成材料の性質、性能、安全性、劣化等を理解することが必要である。本講義では、材料科学・工学に基づいて、材料と生体組織との接触によって起こる材料の変化と生体反応、また生体適合性、生体機能性の改善について述べる。</p> <p>第1回：材料の横断的理解：化学結合と材料の性質、結晶と非結晶、欠陥、生体内劣化について講述する。(275 塙 隆夫) 第2回：材料の結晶構造及び変形と破壊(46 向井 敏司) 第3回：材料の医療応用と評価法：医療機器に使用される材料とその評価方法について講述する。(275 塙 隆夫) 第4回：バイオメタル：医療機器に使用される金属材料について講述する。(46 向井 敏司) 第5回：バイオセラミックス：医療機器に使用されるセラミックス、高分子について講述する。(275 塙 隆夫) 第6回：材料の表面と表面処理：材料の人体内での表面反応、生体適合性・生体機能性付与のための表面処理技術について講述する。(275 塙 隆夫) 第7回：材料の適合性と毒性：硬組織適合性、軟組織接着、抗菌性、抗血栓性、毒性、承認認証について講述する。(275 塙 隆夫) 第8回：バイオマテリアルに関する課題と問題可決について議論する。(275 塙 隆夫, 46 向井 敏司)</p>	オムニバス
		医有用機化学	<p>医用材料の最終製品となる医療機器、医薬品、再生医療等製品にはソフトマテリアルが使用されるケースが多い。ソフトマテリアル(別名：ソフトマター)とは、高分子、ゲル、コロイド、エマルジョン、生体物質等柔らかい凝縮物質の総称であり、ソフトバイオマテリアルはこれらの柔らかい物質を医用材料として応用する材料と位置づけられる。バイオマテリアルの基礎である医療材料について高分子化学の基礎とからめて説明する。さらに、材料物性の観点から、バルク・表面特性及びこれらの分析法について考究する。材料の特徴・解析法を踏まえた上で、これら材料と生体成分(水、タンパク質、血液、細胞など)との相互作用の物理化学及び解析法について紹介する。具体的な応用例として、メディカルデバイスとドラッグデリバリーシステムへの波及について説明する。</p>	
		医用センシング	<p>先端的なセンシング技術について講述し、次世代の医用センサ及びヘルスケア機器を設計・開発するために必要な基礎知識の修得を目的とする。対象とするセンサは、内視鏡やカテーテル、超音波診断等生体内情報検出物理センサ及び検体検査等のバイオ・化学センサとする。主に、微細加工技術を援用し実現される高機能・多機能なセンサ機器に着目し、その基本的なセンシング原理と要素技術を詳述するとともに、具体的な応用例と今後の方向性・可能性について解説する。</p>	
		計測技術概論	<p>一般的な物理量・化学量の計測方法と計測原理とともに、データの信頼性評価方法やデータ処理・解析方法を講述することで、計測技術の基礎と応用を修得する。応力やひずみ、圧力、力、動き、流量等の機械工学分野や電圧、電流、光等の電気電子工学分野、分光法・生化学物質・細胞・組織の計測法等、分析化学分野の計測に関する基礎的な技術について概要を述べる。また、単位、測定の不確かさとその評価、統計的処理、時系列データの処理について解説するとともに、演算回路や増幅回路等、計測に必要な電気電子回路について概説する。</p> <p>第1回：蛍光分子及び計測の基礎(9 大谷 亨) 第2回：核磁気共鳴イメージング(MRI)の基礎(9 大谷 亨) 第3回：計測工学の基礎(46 向井 敏司) 第4回：機械工学の計測技術(46 向井 敏司) 第5回：電気電子計測(28 菅野 公二) 第6回：時系列データの処理(28 菅野 公二) 第7回：生体情報計測(1)(78 中橋 龍) 第8回：生体情報計測(2)(78 中橋 龍)</p>	オムニバス

医療創成工学領域専門科目	専門科目	プログラミング演習	<p>医療用ロボットや工作機械の動作制御を行うことを対象としたプログラミング演習を通して、具体的な目的や仕様の決定からプログラムの設計・作成・実装までのプログラミング技術修得を目的とする。プログラミングの概念を理解し、工作機械やロボットに用いられるアクチュエータのフィードバック制御プログラム作成能力を身につける。</p> <p>第1回：プログラミングの基礎（78 中橋 龍, 106 上野 秀貴） 第2回：プログラミングの基礎（78 中橋 龍） 第3回：プログラミングの基礎（78 中橋 龍） 第4回：制御プログラム作成（回転角センサ等からのデータ取得）（78 中橋 龍, 106 上野 秀貴） 第5回：制御プログラム作成（アクチュエータへの駆動信号送出）（78 中橋 龍, 106 上野 秀貴） 第6回：制御プログラム作成（PID制御によるアクチュエータの位置決め）（78 中橋 龍） 第7回：制御プログラム作成（ゲインチューニングを含めた調整）（78 中橋 龍） 第8回：まとめ（78 中橋 龍, 106 上野 秀貴）</p>	オムニバス
		AI・深層学習	<p>まず、AI研究の歴史をたどりながら、どのような機械学習方式がこれまで提案され、実用化されたのかについて簡単に述べる。その上で、深層ニューラルネットワーク（Deep Neural Network）モデルを取り上げて、その学習アルゴリズムである逆誤差伝搬法を講述し、この学習方式の万能性と限界について説明する。</p> <p>人工知能（Artificial Intelligence, AI）の研究は、現在主流のノイマン型コンピュータが生まれた頃とほぼ同時期に始まり、人間らしく振る舞う機械の実現に向けて約70年もの間、様々な研究が行われてきた。その中でも機械学習は、観測データからその生成源の性質を帰納的に推測し、それを予測や診断等に利用する技術として、AI研究の中核を成してきたと言っても過言ではない。それゆえ、機械学習の理論を網羅的に理解し、それを応用することは簡単なことではない。</p> <p>まずは、その全体像の把握に注力し、機械学習がAIの実現にどのように活かされてきたかを知った上で、特定の機械学習モデルに対して、学習アルゴリズムや動作原理を理解することが望ましい。</p>	
		データサイエンス演習	<p>検査・測定データの管理及び解析を行うことで、有意義なデータを引き出すためのデータサイエンスの基本を学ぶ。スマートフォンやウェアラブルデバイスから取得されるバイタルサイン等のモニタリングデータを適切に管理・解析すること、また、診断機器等から得られた画像データから特徴量を抽出し分類することを目的とする。そのためのプログラムについて、具体的な仕様の決定からプログラムの設計・作成・実装までのプログラミング技術修得を目指す。</p> <p>第1回：データサイエンスの基礎（基礎的なツールの使い方）（99 山口 智子, 78 中橋 龍） 第2回：データサイエンスの基礎（データの入出力）（99 山口 智子, 78 中橋 龍） 第3回：データサイエンスの基礎（機械学習）（99 山口 智子, 78 中橋 龍） 第4回：データ・画像解析プログラム作成（データ入出力）（99 山口 智子） 第5回：データ・画像解析プログラム作成（機械学習）（99 山口 智子） 第6回：データ・画像解析プログラム作成（データ解析）（99 山口 智子） 第7回：データ・画像解析プログラム作成（画像解析）（99 山口 智子） 第8回：まとめ（99 山口 智子, 78 中橋 龍）</p>	オムニバス
		医療機器・システム英語特別講義	<p>先端的な医療機器やシステムの設計・開発に関連する講義を英語により提供する。</p> <p>本講義は、対象とする専門分野において著名な海外の研究者に講師を依頼して作成した講義動画と、担当教員によるフォローアップ講義からなる。講義内容は、医療分野におけるロボット技術（4回）とバイオマテリアル（4回）である。</p> <p>第1回：医療分野でのロボット技術応用の現状（78 中橋 龍） 第2回：実用化に向けた研究開発のケーススタディ（78 中橋 龍） 第3回：先端医療ロボット研究例その1（78 中橋 龍） 第4回：先端医療ロボット研究例その2（78 中橋 龍） 第5回：金属系バイオマテリアルの現状（46 向井 敏司） 第6回：金属系バイオマテリアルの研究例（46 向井 敏司） 第7回：ソフトバイオマテリアルの現状（9 大谷 亨） 第8回：ソフトマテリアルの研究例（132 LE THI HUE）</p>	オムニバス

健康科学領域専門科目	健康科学領域共通科目	健康科学研究共通特講 I	<p>健康科学研究を行う上で様々な場面で発生する倫理的課題に対応するために、適用される法令を理解する。また、健康科学研究で遭遇する可能性の高い倫理的課題に関わる具体的な事例に対して、個人や組織の対応の方法を理解し、倫理的に配慮された健康科学研究を展開できる基礎的能力を修得する。</p> <p>第1回：健康科学研究における倫理とは？（31 西村 範行） 第2回・3回：研究倫理とは？（282 福山 好典） 第4回・5回：大学発ベンチャーとは？（251 立花 太郎） 第6回・7回：医療的ケアとは？（242 高田 哲） 第8回・9回：医療における支援とは？（288 船戸 正久） 第10・11回：健康科学研究における倫理申請とは？（3 石岡 俊之） 第12・13回：利益相反とは？（306 八浪 公夫） 第14・15回：大学の知的財産とは？（252 立岡 敏雄）</p>	オムニバス
		健康科学研究共通特講 II	<p>教員による各分野の研究紹介から、1)大学院生自身が所属する専門分野の研究法だけでなく健康科学における他の分野の研究法を学び、健康科学研究の現状と動向を広く知る、2)研究法に関する知識を学ぶことで院生自身の研究の立案や実施に役立ち、それぞれの研究をより良いものにする、3)授業の中で、分野を超えて、教員及び他の学生と意見交換することによって、健康科学領域の研究者間の協働を容易にする、といった観点から、健康科学領域の研究法を学ぶことを目標とする。研究法を学ぶことにより学生への教育の方法・技術、教育法、そしてその本質・目標について考えることも目指す。</p> <p>コーディネーター：（80 林 敦子） 第1回：研究法に関するオリエンテーション（80 林 敦子） 第2回：認知症を対象とした認知機能に関する研究（80 林 敦子） 第3回：しょうがいを持つ対象者の生活活動に関する研究（107 内田 智子） 第4回：特殊環境による生体応答と健康寿命の延伸（37 藤野 英己） 第5回：組織学的検索法の基礎について（200 鴨志田 伸吾） 第6回：看護学領域における技術の可視化、定量化に関する研究（178 石井 豊恵） 第7回：小児がんのトランスレーショナルリサーチ（31 西村 範行） 第8回：運動療法に関する研究～ヒトを対象とした運動生理学的観点からの追求～（93 小野 くみ子） 第9回：認知症における血中バイオマーカーの探索（100 吉田 幸祐） 第10回：関節リウマチと日内リズム、時計遺伝子群の関与（34 柱本 照） 第11回：サブサハラ・アフリカ諸国における分娩モニタリングの質に関する研究（36 藤田 和佳子） 第12回：DPC (Diagnosis Procedure Combination) の保健学研究への応用（4 石田 達郎） 第13回：認知症予防に対する運動を中心とした多因子介入と社会実装に関する研究（111 沖 侑太郎） 第14回：心の臨床研究のための基礎知識（48 毛利 健太郎） 第15回：研究法全体のまとめ（48 毛利 健太郎）</p>	オムニバス
		IPW特講 I	<p>健康科学に関する研究における動向や最新のトピックス、また、健康科学に関する科学的な討論、英語でのコミュニケーションにおけるスキルについて教授する。</p> <p>本講義を通して、学生は、健康科学に関する最新の研究や知見を幅広く理解し、健康科学をテーマとした研究について科学的な討論を行い、また英語でのコミュニケーションにおけるスキルを向上することを学修する。</p> <p>講師：（69 副島 堯史, 230 SAMEH ALI MOHAMED SOBHY ELTAYBANI） 第1回：海外におけるヘルスケアシステム、エンド・オブ・ライフケア、医療安全（1） 第2回：海外におけるヘルスケアシステム、エンド・オブ・ライフケア、医療安全（2） 第3回：海外におけるヘルスケアシステム、エンド・オブ・ライフケア、医療安全（3） 第4回：国際共同研究、大規模言語モデル、論文撤回（1） 第5回：国際共同研究、大規模言語モデル、論文撤回（2） 第6回：国際共同研究、大規模言語モデル、論文撤回（3） 第7回：まとめ（1） 第8回：健康科学に関する最新のトピックと研究（1） 第9回：健康科学に関する最新のトピックと研究（2） 第10回：健康科学に関する最新のトピックと研究（3） 第11回：健康科学に関する最新のトピックと研究（4） 第12回：健康科学に関する最新のトピックと研究（5） 第13回：健康科学に関する最新のトピックと研究（6） 第14回：健康科学に関する最新のトピックと研究（7） 第15回：まとめ（2）</p>	共同

健康科学領域専門科目	健康科学領域共通科目	サイエンティフィック・イングリッシュ 特講 I	<p>応用言語学の最新研究から学ぶ専門言語の取得法を基に、英語による科学論文を作成する際に必要なスキルを体系的に修得することを目的としている。論文執筆の基礎から、具体的な論文構成、さらには発表の仕方を学び、学生は英語による科学論文を作成し、国際的な学術コミュニティで自分の研究成果を発表できるようになることを目指し、国際的な学術コミュニティで活躍するための素養を修得する。</p> <p>コーディネーター (33 野田 和恵)</p> <p>第1回：コーパス言語学と言語分析ツールの学修 (270 野口 Judy 津多江)</p> <p>第2回：論文執筆の基礎と学術英語 (270 野口 Judy 津多江)</p> <p>第3回：効果的な文献調査と引用 (270 野口 Judy 津多江)</p> <p>第4回：論文の構成と論理展開 (270 野口 Judy 津多江)</p> <p>第5回：各セクションの書き方 (Introduction) (270 野口 Judy 津多江)</p> <p>第6回：各セクションの書き方 (Methods) (270 野口 Judy 津多江)</p> <p>第7回：各セクションの書き方 (Results) (270 野口 Judy 津多江)</p> <p>第8回：各セクションの書き方 (Discussion) (270 野口 Judy 津多江)</p> <p>第9回：抄録の書き方、キーワードの選出 (270 野口 Judy 津多江)</p> <p>第10回：リスニングの練習 (270 野口 Judy 津多江)</p> <p>第11回：暗唱の練習 (270 野口 Judy 津多江)</p> <p>第12回：カバーレターの書き方 (270 野口 Judy 津多江)</p> <p>第13回：研究発表のスピーチ1 (270 野口 Judy 津多江, 33 野田 和恵)</p> <p>第14回：研究発表のスピーチ2 (270 野口 Judy 津多江, 33 野田 和恵)</p> <p>第15回：研究発表のスピーチ3 (270 野口 Judy 津多江, 33 野田 和恵)</p>	オムニバス、共同
		メディカルデータサイエンス特講 I	<p>近年、データサイエンスが目覚ましい発展を遂げており、今や医療・介護分野においても欠かせないものとなっている。</p> <p>本科目では、計算機科学の基礎中の基礎から医学分野における最新技術、特に脳分野における具体的な研究例及び分野融合に必要な素養まで幅広く概要を解説し、次世代の医療・介護の新たなパラダイムを展望する。</p> <p>コーディネーター (154 細田 一史, 163 大塚 明香)</p> <p>NICT (国立研究開発法人 情報通信研究機構) のCiNet (未来ICT研究所 脳情報通信融合研究センター) にも協力を依頼する。</p> <p>第1回：連携講座の紹介 (154 細田 一史, 135 上口 貴志, 163 大塚 明香)</p> <p>第2回：CiNetの紹介 (154 細田 一史)</p> <p>第3回：メディカルデータサイエンスの基礎と例 (154 細田 一史)</p> <p>第4回：計算機・便利アプリ・ネットワーク・個人情報・セキュリティの基礎 (154 細田 一史)</p> <p>第5回：医療データベース・統計・機械学習・多変量解析・時系列解析の紹介 (154 細田 一史)</p> <p>第6回：医用生体イメージング1 (135 上口 貴志)</p> <p>第7回：医用生体イメージング2 (135 上口 貴志)</p> <p>第8回：生体磁気計測：技術開発と応用研究 (163 大塚 明香)</p> <p>第9回：運動学習等1 (154 細田 一史)</p> <p>第10回：運動学習等2 (154 細田 一史)</p> <p>第11回：脳波の基礎と活用等 (154 細田 一史)</p> <p>第12回：心理物理学等 (154 細田 一史)</p> <p>第13回：知覚・認知の情報表現等1 (154 細田 一史)</p> <p>第14回：知覚・認知の情報表現等2 (154 細田 一史)</p> <p>第15回：メディカルデータサイエンスのまとめ (154 細田 一史)</p>	オムニバス

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	看護教育特講 I	<p>本科目では、学習理論や看護教育の理論、そして看護教育の実践について学び、看護教育に関する基礎的な知識を身につける。その上で、看護の質向上を目指し、学生を含む看護職への教育的役割を果たすための知識を修得する。到達目標として、教育に関連する理論の理解、看護教育の現状の把握、将来的な看護教育の在り方とその実現方法を考えることを掲げている。具体的には、基礎教育の課程やカリキュラムの検討、発表、看護継続教育の臨床及び管理的視点から看護教育等の検討を通し学修する。</p> <p>講師：(74 土谷テオリン ちひろ, 125 福重 春菜, 117 菅 彩香, 188 ウィリアムソン 彰子, 283 藤井 清孝)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回：授業オリエンテーション・導入 ・第2・3回：教育・学習に関する理論 ・第4～7回：看護基礎教育と教育課程 ・第8・9回：看護継続教育 ～臨床現場教育の立場から～ ・第9・10回：看護継続教育 ～管理的立場から～ ・第11・12回：工学的視点からの看護教育 ・第13・14回：看護教育のあり方に関する検討 ・第15回：まとめ 	共同
		看護研究特講 I	<p>看護学分野における研究の基本的な研究方法の特徴と展開のプロセスについて、実際の研究例を素材に検討し理解を深める。具体的には、研究における概念と研究デザイン、看護理論、効果的文献検索の方法と検索結果のまとめ方、研究計画書の作成プロセスと研究倫理、研究のアウトカムとその評価方法、質的研究のデザインと実施方法、量的研究のデザインと目的に応じた活用方法について学ぶ。</p> <p>第1回：調査研究・実験研究・混合研究法（1）（16 グライナー 智恵子） 第2回：調査研究・実験研究・混合研究法（2）（16 グライナー 智恵子） 第3回：調査研究・実験研究・混合研究法（3）（16 グライナー 智恵子） 第4回：看護研究と理論・モデル、概念枠組み・研究デザイン（1）（45 宮脇 郁子） 第5回：看護研究と理論・モデル、概念枠組み・研究デザイン（2）（45 宮脇 郁子） 第6回：文献検討の方法（45 宮脇 郁子） 第7回：研究プロセス・研究計画・研究倫理（1）（256 千葉 理恵） 第8回：研究プロセス・研究計画・研究倫理（2）（256 千葉 理恵） 第9回：研究論文のクリティークとその活用（256 千葉 理恵） 第10回：質的研究・グラウンデッドセオリー他（1）（206 北 素子） 第11回：質的研究・グラウンデッドセオリー他（2）（206 北 素子） 第12回：質的研究・グラウンデッドセオリー他（3）（206 北 素子） 第13回：エスノグラフィ（39 法橋 尚宏） 第14回：アクションリサーチ（1）（193 岡本 玲子） 第15回：アクションリサーチ（2）（193 岡本 玲子）</p>	オムニバス
		がん看護学特講 I	<p>小児がん・AYA（思春期・若年成人）・成人がん患者・サバイバーが抱える身体的・心理的・社会的課題とその支援、またエビデンスに立脚したがん患者・サバイバーへの支援を行うために、必要な支援について教授する。</p> <p>講義を通して、学生は、小児・AYA・成人がん患者・サバイバーが抱える身体的・心理的・社会的課題を解決するために現在行われている支援について学修する。</p> <p>講師：(45 宮脇 郁子, 69 副島 堯史, 97 福田 敦子, 116 正垣 淳子, 228 佐藤 伊織, 261 中嶋 祥平, 192 大城 怜)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回：授業の目的・目標の確認、がん患者・サバイバーへの支援の実例 第2～7回：小児がん患者・サバイバーへの健康問題と支援 第8～10回：成人がん患者への看護・ケア 第11～14回：文献抄読 第15回：まとめ 	共同
		がん看護学演習 I	<p>文献レビュー等の手法を通して、がん患者・サバイバーに関する支援のエビデンスの整理し、そのエビデンスの臨床現場での活用について教授する。</p> <p>本講義を通して、学生は、がん患者・サバイバーへの支援に関するエビデンスを整理・統合するための手法として文献レビューに関する知識を修得し、整理されたエビデンスの活用方法について学修する。</p> <p>講師：(45 宮脇 郁子, 69 副島 堯史, 97 福田 敦子)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1・2回：文献レビューの概要と事例 第3～6回：テーマ、データベース、キーワード、除外・包含基準の決定 第7～9回：文献のクリティーク／質の評価 第10～12回：文献の統合／メタアナリシス 第13回：文献レビューの発表 第14回：文献レビューの臨床活用 第15回：まとめ 	共同

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	腫瘍学Ⅰ	<p>オンデマンド教材等を活用し、がんの病態・治療と個別化医療等について教授する。</p> <p>本講義を通して、学生は、がんの病態・治療、がんの個別化医療に関する基盤について学修し、臨床実践への基礎を形成する。</p> <p>第1～9回：がんとその各種治療（薬物療法、外科治療、放射線療法等） 第10～14回：がん患者への支持療法や心理的支援 第15回：まとめ</p>	
		腫瘍学Ⅱ	<p>オンデマンド教材等を活用し、がんの臨床試験やそれに基づく新規治療、多職種によるチーム医療等について多角的に教授する。</p> <p>本講義を通して、学生は、がんの臨床試験やチーム医療の展開等について学修する。</p> <p>第1～6回：がんにおける臨床研究の基礎 第7～9回：臨床試験に基づく新規治療 第10～14回：多職種（看護師、理学・作業療法士等）によるチーム医療 第15回：まとめ</p>	
		療養支援看護学特講Ⅰ	<p>療養生活行動の支援に焦点をあて、1）慢性の病い（Chronic Illness）としての患者及び家族の療養経験について理解できる。2）諸理論の理解を基に、慢性病患者の療養行動を概説し、必要な看護実践について説明することができる。3）患者中心の医療を展開するための看護専門者の役割について説明することができることを到達目標とし、Lubkin's Chronic Illness: Impact and Intervention（11版）の論議を通じて、慢性の病い（Chronic Illness）を中心に、関連する最新の諸理論について論ずる。また、学生各自の看護実践における課題について探求する。</p> <p>講師：(45 宮脇 郁子, 97 福田 敦子, 116 正垣 淳子, 110 大岸 文美, 114 木村 裕治, 235 島田 恵, 224 齊藤 奈緒)</p> <p>第1回：Chronic Illnessと看護支援 第2回：Chronicity 第3回：The Illness Experience 第4回：Psychosocial Adjustment 第5回：Uncertainty 第6回：Quality of Life 第7回：Adherence 第8回：Self-Management 第9～11回：Impact of the System, Client and Family Education, Home Health Care, Palliative Care 他 第12・13回：HIV・AIDS患者の療養支援 第14・15回：意思決定支援 他</p>	共同
		実践看護学特講Ⅰ	<p>本科目では、超高齢社会を迎えた現代における生活習慣病の支援や看護の役割拡大について学ぶ。生活習慣病の最新エビデンスに基づき、病態生理を理解し、高血圧症や糖尿病等の病態に応じた食事、活動、睡眠支援について検討する。また、急性期医療や慢性期医療現場での看護師の役割増大に伴い、患者の予後に影響を与える看護実践やその必要性について考察する。さらに、研究の遂行に必要な競争的資金や助成金の獲得方法、産学連携に関する知識も学び、他分野との共同研究を効果的に進める基礎知識を身につける。</p> <p>これらの学びを通して、臨床現場に還元可能な看護研究の立案や実施に活かせる実践的な知識と研究スキルの修得を目指す。</p> <p>講師：(4 石田 達郎, 96 中西 泰弘, 125 福重 春菜, 117 菅 彩香)</p> <p>第1回・2回：脂質異常症、慢性腎臓病のエビデンスと看護 第3回～6回：高血圧、心不全、糖尿病のエビデンスと看護～超高齢化社会における看護師への期待～ 第7・8回：研究助成金に関する基礎知識 第9回・10回：産学連携に関する基礎知識と知的財産権の概要 第11回～15回：夢の研究計画書の製作・発表</p>	共同
		老年看護学特講Ⅰ	<p>本講義では、国内外における高齢者と高齢者を取り巻く環境について理解し、その課題と課題解決へ向けた方策について考察する。老年看護学に関連する概念・理論について探究する。具体的には、高齢者が直面する課題について理解し、日本と諸外国との課題について比較検討できる高齢者が直面する課題について、解決へ向けた取組を思考し、自己の研究課題につなげることができる老年看護学に関連する概念・理論について学修し、自己の研究課題への活用可能性について検討することができる、ことを到達目標とする。</p>	

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	精神看護学特講 I	<p>精神看護学領域で用いられる研究方法について学ぶとともに、精神看護学領域において重要な概念や理論について取り上げ、これらについての理解を深める。具体的には、サンプリングと測定方法、調査票のデザイン、精神看護学領域における横断研究・コホート研究、大規模調査、介入研究、社会不安症に対する認知療法等について学修する。また、精神疾患をもつ人への地域生活支援、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムとアウトリーチ等についても学修する。さらに、精神看護学領域において重要な概念や理論について、研究や実践への適応も踏まえながら学修する。</p> <p>講師：(16 グライナー 智恵子, 124 廣田 美里, 123 林 佑太) 第1回：オリエンテーション、リサーチクエストの立て方 第2・3回：論文の読み方、書き方 第4・5回：横断研究（サンプリング、測定方法、尺度、調査票のデザイン） 第6・7回：質的研究（理論、方法） 第8・9回：精神障害にも対応した地域包括ケアシステムとアウトリーチ 第10・11回：社交不安症患者に対する認知療法（介入研究） 第12・13回：スコーピングレビュー、システマティックレビュー 第14・15回：課題発表（自己学習、プレゼンテーション）</p>	共同
		上級病態生理学	<p>専門看護師、助産師を目指す学生が様々な疾病の病態生理に関する最新知識を修得するための講義である。各領域の代表疾患に対する病態生理を踏まえた高度で専門的な知識と技術を修得するとともに最新のガイドラインに基づく治療についても理解する。</p> <p>第1・2回：内科系疾病の病態生理；循環器疾患（4 石田 達郎） 第3・4回：内科系疾病の病態生理；小児疾患（31 西村 範行） 第5・6回：内科系疾病の病態生理；消化器・内分泌・代謝・栄養疾患（53 安田 尚史） 第7・8回：内科系疾病の病態生理；免疫疾患（34 柱本 照） 第9回：精神疾患の病態生理 I（48 毛利 健太郎） 第10回：精神疾患の病態生理 II（321 岡崎 賢志） 第11・12回：整形外科疾患の病態生理（2 秋末 敏宏） 第13～15回：まとめ・レポート発表・ディスカッション（2 秋末 敏宏）</p>	オムニバス
		上級臨床薬理学	<p>専門看護師、助産師を目指す学生が様々な疾病に投与する薬の知識を修得するための講義である。薬剤による有害事象や相乗効果を踏まえて、新生児から成人、妊産婦、高齢者といったあらゆる世代の対象者に対する薬剤使用についての薬理学的知識を修得する。様々な疾病に対するエビデンスに基づいた専門的かつ最新の薬剤治療の知識を修得する。</p> <p>第1・2回：基本原理、循環器系・呼吸器系に作用する薬剤（4 石田 達郎） 第3・4回：小児科領域に作用する薬剤（31 西村 範行） 第5・6回：整形外科領域に関する薬剤（2 秋末 敏宏） 第7・8回：免疫・アレルギーに作用する薬剤（34 柱本 照） 第9回：精神科領域に作用する薬剤 I（48 毛利 健太郎） 第10回：精神科領域に作用する薬剤 II（321 岡崎 賢志） 第11・12回：消化器・内分泌・代謝・栄養系に作用する薬剤（53 安田 尚史） 第13～15回：まとめ・レポート発表・ディスカッション（2 秋末 敏宏）</p>	オムニバス
		上級フィジカルアセスメント学	<p>専門看護師として家族全体の健康を支えるために、家族員全員の疾患に関する診断能力、判断能力を養う。新生児、小児、成人、高齢者といったあらゆる対象者の身体所見の把握・スクリーニングに必要な知識や技術を学び、解剖学及び生理学を十分に理解したフィジカルアセスメントの能力を身につける。</p> <p>第1回：新生児、小児のフィジカルアセスメントの理論（31 西村 範行） 第2～5回：新生児、小児のフィジカルアセスメントの実際（31 西村 範行） 第6回：成人、高齢者の消化器系アセスメントの理論（53 安田 尚史） 第7～10回：成人、高齢者の消化器系アセスメントの実際（53 安田 尚史） 第11回：成人、高齢者の神経・筋肉系アセスメントの理論（83 三浦 靖史） 第12～15回：成人、高齢者の神経・筋肉系アセスメントの実際（83 三浦 靖史）</p>	オムニバス

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	家族看護学特講 I	<p>家族看護学・小児看護学の国内外の研究及び実践の基盤となる基本概念・理論・モデル・方法論とその活用について理解を深める。さらに、家族員の疾病・障害・社会的問題に対する診断・治療を理解した上で、家族への治療的な支援について、事例等を通じて検討できる。講義における使用言語は英語とし、国内外の教育者・研究者とのディスカッションを通じて、幅広い視点を持ち、国際的に活躍できる能力を培う。</p> <p>第1～3回：健康認識の定量的評価方法 (39 法橋 尚宏) 第4・5回：家族の定量的評価方法 (257 CHIANG CHUNG LIM VICO) 第6回：ブラダー・ウィリー症候群児のいる家族の家族機能 (39 法橋 尚宏) 第7回：ひとり親家族の家族機能 (39 法橋 尚宏) 第8回：ピリーフ：問題の核心 (39 法橋 尚宏) 第9～10回：社会的問題行動と家族 (174 AGRINA) 第11・12回：産後の家族のメンタルヘルス (276 HAPSARI ELSI DWI) 第13～15回：心身障がい児をもつ家族への看護インターベンション (39 法橋 尚宏)</p>	オムニバス
		母性看護学特講 I	<p>本講義では、母性看護学並びに助産学分野における研究の英語文献抄読を通して、論文を批判的に吟味する方法について修得する。また、研究デザインによって、どのようなレポートガイドラインがあるかについて確認し、研究の質を保つために必要な条件について学ぶ。そのプロセスを通して、自己の研究課題を探索し、課題の背景、意義、先行研究レビュー、研究疑問、考え得る適切な方法論までを聞き手に分かりやすくプレゼンテーションし、ディスカッションができる基礎的能力を修得することを目的とする。</p> <p>第1回：コースオリエンテーション (クリティークチェックシート及びレポートガイドラインの説明) (36 藤田 和佳子) 第2～9回：論文抄読 (クリティークチェックシートを用いた批判的吟味とレポートガイドラインの確認) (36 藤田 和佳子, 105 岩崎 三佳, 130 本岡 夏子) 第10～13回：研究テーマについての学生プレゼンテーション (36 藤田 和佳子, 41 松井 三明, 68 千場 直美, 105 岩崎 三佳, 130 本岡 夏子) 第14・15回：システムティックレビューについて (289 古田 真里枝)</p>	オムニバス
		地域・公衆衛生看護学特講 I	<p>地域看護及び公衆衛生看護の基盤となる概念と理論について学ぶとともに、人々の健康と生活を支える保健医療福祉システム等の変遷を概観し、理解を深める。また、地域看護学及び公衆衛生看護学領域の先進的研究や今日的課題を中心に、国内外の優れた研究内容やその動向から諸課題を把握し、エビデンスに基づく実践的かつ学術的探究について考察する。</p> <p>講師：(5 和泉 比佐子, 79 中山 貴美子, 65 小寺 さやか, 108 内村 利恵, 131 山本 暁生) 第1～3回：地域看護及び公衆衛生看護に関わる主要な概念と理論 第4～6回：地域看護及び公衆衛生看護に関する保健医療福祉システムの変遷と課題 第7～15回：論文クリティーク・プレゼンテーション・ディスカッション</p>	共同

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	看護学演習 I	<p>文献のクリティーク等を通して、研究疑問から研究課題及び目的の設定、各研究領域における研究の方法論及びデータ分析の知識と技術について基本的な方法論を理解し、研究手法を实践できる基礎的能力を体得する。</p> <p>(5 和泉 比佐子) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学についての研究手法を体得するための演習を実施する。 (16 グライナー 智恵子) 主として、老年看護学・国際看護学についての研究手法を体得するための演習を実施する。 (36 藤田 和佳子) 主として、母性看護学・助産学についての研究手法を体得するための演習を実施する。 (39 法橋 尚宏) 主として、家族看護学・小児看護学についての研究手法を体得するための演習を実施する。 (45 宮脇 郁子) 主として、療養支援看護学についての研究手法を体得するための演習を実施する。 (65 小寺 さやか) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学・国際保健学についての研究手法を体得するための演習を実施する。 (68 千場 直美) 主として、母性看護学・助産学についての研究手法を体得するための演習を実施する。 (69 副島 堯史) 主として、がん看護学・小児看護学についての研究手法を体得するための演習を実施する。 (79 中山 貴美子) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p>	
		看護倫理特講 I	<p>本科目では、医療現場における倫理的問題について学び、資料分析やグループディスカッションを通じ、倫理的視点や考えを深めることを目指す。到達目標として、看護実践における法的・制度的問題や、家族や社会が抱える倫理的問題について理解を深め、また、看護専門職としての倫理的感性を養うことを掲げている。具体的には、倫理的問題の概要、倫理理論、看護倫理、生命・医療倫理、生と死に関する倫理、研究倫理、臨床倫理問題等検討を行い学修する。</p> <p>講師：(39 法橋 尚宏, 36 藤田 和佳子, 69 副島 堯史, 116 正垣 淳子, 105 岩崎 三佳, 185 今西 優子) 第1・2回：倫理的問題の概要 第3回：倫理理論 第4回：看護倫理 第5・6回：生命・医療倫理 第7回：生をめぐる倫理 第8回：死をめぐる倫理 第9・10回：生・死をめぐる倫理 第11回：研究倫理 第12～14回：臨床倫理問題の検討 第15回：まとめ</p>	共同
		看護管理特講 I	<p>本科目では、看護管理に必要な理論と実践過程を学び、看護管理者としての役割と責任を理解し、専門看護分野でのリーダーシップ発揮を目指す。具体的には、看護情報管理、組織行動論、ストレスマネジメント、病院運営、行政・政策等の学修を行う。その上で、看護管理者が果たすべき役割や課題について検討し、看護チームや他の保健・医療・福祉専門職と連携する知識を涵養する。</p> <p>講師：(45 宮脇 郁子, 125 福重 春菜, 277 板東 由美, 243 高谷 直美, 196 笠原 聡子, 240 鈴木 千晴) 第1回：看護管理学概説 第2・3回：看護情報管理 第4・5回：組織行動論 第6・7回：組織変革論 第8・9回：ストレスマネジメント 第9～10回：看護実践現場における看護管理 第11～12回：病院運営における看護管理 第13回：国際的観点からの看護管理 第14回：行政・政策と看護管理 第15回：まとめ</p>	共同

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	看護コンサルテーション特講Ⅰ	<p>専門家間の相互作用のプロセスである看護コンサルテーションの理論と実際について学ぶことを通して、患者の状況をより良い方向に変革していくために協働していくプロセスへの理解を深める。さらに、看護専門職者としての 広い視野を涵養し、看護実践への示唆を得る。</p> <p>第1～3回：オリエンテーション、コンサルテーション概論 (39 法橋 尚宏) 第4・5回：クリティカルケアにおけるコンサルテーション (116 正垣 淳子) 第6・7回：家族看護におけるコンサルテーション (195 小野 美雪) 第8・9回：がん看護におけるコンサルテーション (185 今西 優子) 第10～11回：緩和ケアにおけるコンサルテーション (273 橋口 周子) 第12～13回：リエゾン精神看護におけるコンサルテーション (213 倉持 裕子) 第14回：コンサルテーションにおける課題 (39 法橋 尚宏) 第15回：まとめ (39 法橋 尚宏)</p>	オムニバス
		家族環境学	<p>保健医療福祉制度を含む家族環境の中で、家族看護学が発展してきた過程と家族看護学が求められてきた時代的課題を理解し、今後の家族看護学の役割と位置づけを家族看護学研究的動向と家族支援専門看護師育成の観点から展望できる。</p> <p>第1・2回：現代家族像と家族環境 (39 法橋 尚宏) 第3・4回：家族システムユニットの捉え方と成長・発達区分 (39 法橋 尚宏) 第5回：家族看護学の軌跡と展望と時代的課題 (39 法橋 尚宏) 第6回：家族機能論 (39 法橋 尚宏) 第7回：フロネーシスとエビデンスに基づいた家族支援 (39 法橋 尚宏) 第8回：家族支援専門看護師の役割と養成 (39 法橋 尚宏) 第9～11回：家族の概念、家族のウェルビーイング、家族のセルフケア能力 (5 和泉 比佐子) 第12～13回：家族看護学の研究とトランスレーション (215 CHRISTIAN JAY S. ORTE) 第14～15回：香港における家族文化と家族支援 (291 POLLY CHAN SIU LING)</p>	オムニバス
		理論家族看護学	<p>家族看護実践及び研究における卓越した能力の基盤となる家族看護モデル・方法論、家族看護理論、家族看護過程を修得できる。代表的な家族看護モデル・方法論、家族看護理論、家族看護過程等を理解するとともに、家族のアセスメント、特に家族の健康レベル及び家族の生活をアセスメントする能力を養う。家族看護学の応用を検討し、家族看護実践及び研究の基盤を構築できる。</p> <p>第1～6回：家族看護理論の紹介 (39 法橋 尚宏, 5 和泉 比佐子, 184 今中 健二) 第7～9回：家族看護アセスメントモデル・家族支援モデルの紹介 (39 法橋 尚宏) 第10～11回：家族看護理論の紹介 (39 法橋 尚宏) 第12～13回：家族看護モデルの紹介 (39 法橋 尚宏) 第14～15回：家族看護過程の理解 (269 西元 康世)</p>	オムニバス
		家族症候学	<p>家族支援の展開において必要となる“症候別家族看護”“経過別家族看護”を2軸として概説し、それらを基盤とした家族支援について検討できる。</p> <p>第1回：症候別家族看護 (39 法橋 尚宏) 第2～3回：経過別家族看護 (39 法橋 尚宏) 第4回：標準家族看護計画 (39 法橋 尚宏) 第5～6回：家族内外の対人関係障害：育児不安を抱える家族のケース (39 法橋 尚宏) 第7～8回：家族の意思決定上の葛藤：難病患者と共に生きる家族のケース (39 法橋 尚宏) 第9回：家族の合意形成困難：終末期患者と共に生きる家族のケース (97 福田 敦子) 第10回：家族の成長にかかわる発達力不足の可能性：高年初産婦がいる家族のケース (36 藤田 和佳子) 第11～13回：家族レジリエンスの発達困難：救急医療を受ける家族員がいる危機的家族のケース (284 藤野 崇) 第14・15回：家族の社会的孤立の可能性：高齢者家族のケース (246 高見 紀子)</p>	オムニバス

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	家族インターベンション学	<p>家族支援専門看護師の役割と姿勢について、特に専門看護師に求められる6つの役割について理解した上で、事例を通して特徴的な家族の機能・構造・成長発達区分をアセスメントし、家族の潜在的・顕在的問題である家族症候を特定し、家族看護過程を展開することができる。</p> <p>第1～4回：家族看護における看護職者の役割と支援姿勢 (39 法橋 尚宏) 第5・6回：予防期家族看護支援：国外で生活する家族帯同赴任家族の事例 (39 法橋 尚宏) 第7～9回：急性期家族看護支援：超低出生体重児が加わった家族の事例、慢性期家族看護支援：育児不安を抱える家族の事例 (180 伊藤 (瀬尾) 咲季) 第10～12回：急性期家族看護支援：救急医療を受ける家族員がいる危機的家族 (234 島田 なつき) 第13回：慢性期家族看護支援：障がいをもつ子どもと共に生きる家族の事例 (39 法橋 尚宏) 第14・15回：終末期家族看護支援：ドメスティックバイオレンスを抱える家族の事例 (39 法橋 尚宏)</p>	オムニバス
		実践家族看護学	<p>家族看護過程の展開、家族教育、家族へのサポート、ケースマネジメント、家族カウンセリング、家族療法等、家族インターベンション技術を修得できる。</p> <p>第1～5回：家族同心球環境理論／モデルに基づいて開発された家族アセスメントツールを用いた家族アセスメント (39 法橋 尚宏) 第6～8回：家族カウンセリングと家族療法 (222 小林 京子) 第9～10回：災害看護における家族支援 (202 河原 (前川) 宣子) 第11～13回：家族同心球環境理論 (CSFET) に基づいた家族支援 (1) (195 小野 美雪) 第14・15回：家族同心球環境理論 (CSFET) に基づいた家族支援 (2) (195 小野 美雪)</p>	オムニバス
		実践家族看護学演習	<p>ロールプレイ等を通して、カルガリー式家族アセスメント／介入モデル、家族同心球環境理論／モデルを中心に、家族のアセスメント・支援方法を理解することができる。カルガリー式家族アセスメント／介入モデルでは、家族を「構造面」「発達面」「機能面」から理解し、家族と家族支援専門看護師の関係構築、家族支援計画の立案と展開を修得できる。家族看護の実践事例の検討では、健康障害をもつ家族員がいる家族 (各学生が1家族ずつを対象とする) への家族インタビューとフィールドワークを通して、家族員の健康レベルを査定し、健康障害に対する診断・治療を理解したうえで、家族同心球環境理論／モデルを基盤とした視点で家族アセスメントを実際に行い、家族支援を計画し、家族看護過程を実践できる能力に結びつけることができる。</p> <p>第1～6回：カルガリー式家族アセスメント／介入 (39 法橋 尚宏) 第7・8回：家族インタビュー／ミーティングの方法 (280 平谷 優子) 第9～15回：家族同心球環境理論／モデルを基盤とした家族看護の実践事例の検討 (39 法橋 尚宏)</p>	オムニバス
		トランス文化家族看護学	<p>トランス文化家族看護学とは、文化的な視点を含めて、家族に看護を提供するための新しい学問体系である。人々、家族の暮らしの在り方や健康の捉え方、治療に対する姿勢はそれぞれ文化背景により異なる。文化を広義から狭義に捉え、トランス文化看護に関する諸理論を理解したうえで、家族の健康や病に関する行動や意志決定に与える影響について理解を深める。文化的影響を受けた家族員の健康障害・治療行動、家族の療養行動に対してケアとキュアの視点を融合し、多様な家族の健康にかかわる生活を支援するために有効な看護インターベンションができる。</p> <p>第1回：文化の多様性 (39 法橋 尚宏) 第2回：看護人類学 (39 法橋 尚宏) 第3・4回：文化を理解するための看護理論 (315 LAM CHUN FUNG VINCENT) 第5・6回：文化を理解するための看護モデル (317 RAY MARILYN A) 第7回：臨地現場での文化的家族支援の実際 (39 法橋 尚宏) 第8・9回：カルチュラル・アセスメント (281 FUNG TAI CHUN JOHN) 第10回：カルチュラル・ピラー (39 法橋 尚宏) 第11～12回：日本人家族の特徴と家族支援 (39 法橋 尚宏) 第13回：多様な文化背景をもつひとり親家族への家族支援 (39 法橋 尚宏) 第14回：産後うつ家族員をもつ家族への文化的家族支援 (39 法橋 尚宏) 第15回：看護職者自身のもつ文化背景がもたらす家族支援への影響 (39 法橋 尚宏)</p>	オムニバス

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	こども保育期・教育期 家族看護学	こども・家族に関する知識、診断・治療に関する知識を活用して、主としてこども保育期・教育期家族を対象とした看護活動を展開するための能力を培う。こどもと家族を取り巻く環境に加え、健康・不健康を問わずあらゆる健康状態のこどもとその家族についての卓越した知識を修得し、家族看護の実践及び研究への応用を検討できる。	
		家族看護学基盤実習	<p>家族看護学基盤実習は「早期体験実習（アーリー・エクスポージャー実習）」と初めてターゲットファミリーへの家族支援を行う「初期実践実習」の2つの部分から構成されている。</p> <p>「早期体験実習（アーリー・エクスポージャー実習）」では、家族支援専門看護師への随行を主としており、家族支援専門看護師に求められる6つの役割のうちの5つの役割（実践、相談、調整、倫理、教育）に対するイメージ形成や学修への動機づけをし、家族支援専門看護師の役割習得の基盤とすることができる。</p> <p>「初期実践実習」においては、ターゲットファミリーへの家族支援として家族員の健康障害について、より高度で専門的な知識を用いて、家族員のアセスメントをしたうえで、家族の健康をアセスメントする能力と技術、家族・看護者関係を形成する能力と技術、家族に対して看護過程を展開する能力と技術、家族を支援する専門的な能力と技術、家族の代弁者としての能力と技術の基礎的な部分を修得することができる。</p> <p>家族をアセスメントする能力と家族支援の実践能力の基盤を修得するための場と対象を選択し、家族支援を1事例以上経験する。各実習施設において、家族支援が必要と考えられる事例を選定し、指導者（大学教員及び現場指導者）の指導のもとに対象家族をアセスメントし家族看護過程を展開して支援を行う。</p> <p>講師：(39 法橋 尚宏, 69 副島 堯史)</p>	共同
		家族看護学展開実習	<p>家族看護学基盤実習を基に、家族支援専門看護師に求められる6つの役割のうち、「実践」を中心に卓越した能力を修得する。家族員の健康障害に対する診断・治療を理解し、診断・治療に参画するとともに、それらの過程を踏まえて家族にケアとキュアを融合した看護インターベンションを実施できる能力、家族員の健康障害に関連して起こる問題、家族症候に焦点を当て、家族が家族自身で対処できるように家族機能を向上し、家族のウェルビーイングを実現するための支援を行う能力を修得する。さらに、事例によっては、多（他）職種に対する相談・教育、保健医療福祉関係者間の調整、関係者間の倫理調整を実施する。</p> <p>講師：(39 法橋 尚宏, 69 副島 堯史)</p>	共同
		家族看護学統合実習	<p>家族看護学基盤実習、家族看護学展開実習を踏まえ、家族支援専門看護師に求められる6つの役割を理解し、各事例にあった家族支援を実施するための卓越した能力を修得する。家族員の健康障害に対する診断・治療を理解し、診断・治療に参画するとともに、それらの過程を踏まえて家族にケアとキュアを融合した看護インターベンションを実施することができる能力、家族員の健康障害に関連して起こる問題、家族症候に焦点を当て、家族が家族自身で対処できるように家族機能を向上し、家族のウェルビーイングを実現するための支援を行う能力を修得する。また、多（他）職種に対する相談・教育、保健医療福祉関係者間の調整、関係者間の倫理調整においては、医療が提供される現場の組織分析を行い、「相談」「調整」「倫理」「教育」を実施することができる高度な家族看護実践能力を習得する。実習を通して、家族員の健康障害の査定、家族の査定、健康障害に対するケアとキュアを融合した看護インターベンション、チーム医療への参画と調整のための技術を修得する。</p> <p>講師：(39 法橋 尚宏, 69 副島 堯史)</p>	共同

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	家族看護学演習 I	国内外の家族看護学・小児看護学に関連する原著論文のうち、特定の健康問題を有する家族員のいる、または、特定の家族症候を呈する状況にある家族に関する文献、家族看護学研究の方法論に関する文献のクリティックを通して、研究の動向と課題を明確にし、その意義と実践への適応について検討できる。得られた知見を基盤にし、家族インタビューの計画を立案して実施する。その経過及び結果をディスカッション・ペーパーとしてまとめ、プレゼンテーションを行う。臨床で得られる豊富な経験を診断・治療に関する既存の知識、家族看護学に関する理論・支援法と融合し、エビデンスにもとづいた新しい看護インターベンション技術、治療的な支援の方略を導くと同時に、得られた知見をまとめることで専門性を高め、国内外の家族看護学の変革・発展に寄与しうる能力を培う。 なお、本科目は、小児看護学及び家族看護学の内容を包含する。	
		ハイリスク母性ケア論 特講	ハイリスク妊産褥婦・新生児のヘルスアセスメント及びケアに必要な知識と技術を取得することを学習目標としている。講義と演習を組み合わせ、神戸大学医学部附属病院の臨床スタッフと連携して教育を行う。 第1回：周産期感染症 (241 平久 進也) 第2・3回：産科ハイリスク事例 (147 出口 雅士) 第4・5回：超音波による胎児のアセスメント (145 谷村 憲司) 第6回：MFICUにおける看護実践 (186 今村 里奈) 第7回：総合周産期母子医療センターにおける安全と質管理 (272 野牧 弘子) 第8回：NICU・GCUにおける看護実践 (260 中澤 智恵) 第9回：産科ハイリスク看護 (285 藤本 佳奈) 第10～12回：NCPN演習 (152 藤岡 一路, 304 森本 紗代, 286 藤本 将史, 36 藤田 和佳子) 第13～15回：産科救急事例シミュレーション演習 (323 笹川 勇樹, 285 藤本 佳奈, 36 藤田 和佳子, 68 千場 直美, 105 岩崎 三佳, 130 本岡 夏子)	オムニバス 講義 16時間 実技演習14時間
		創造助産学概論	助産師のコア・コンピテンシーを理解し、助産師の業務に関する関連法規や諸制度の基礎知識を修得する。また、助産師の自律性やアイデンティティの形成について考えることをねらいとする。 第1・2回：助産師の定義とコア・コンピテンシー (36 藤田 和佳子) 第3・4回：助産学を支える理論 (36 藤田 和佳子) 第5～7回：助産学に必要な解剖生理 (41 松井 三明, 36 藤田 和佳子) 第8～9回：科学的根拠と出産ケア (41 松井 三明) 第10～11回：開業助産師の活動 (301 毛利 多恵子) 第12～13回：助産師と倫理 (68 千場 直美) 第14～15回：フィールドワーク (36 藤田 和佳子)	オムニバス
		生涯女性健康科学特講	思春期・成熟期・更年期・老年期の女性の健康問題や健康課題に関連した解剖・生理・性周期・内分泌・病態について理解し、生涯にわたって各ライフステージにおける女性を身体的・心理的・社会的に援助するための理論を学び理解を深める。 第1回：リプロダクションに関する解剖生理 (41 松井 三明) 第2回：性の行動と機能 (225 早乙女 智子) 第3回：リプロダクティブヘルス・アンド・ライツ (225 早乙女 智子) 第4回：周産期の遺伝疾患と遺伝医療 (241 平久 進也) 第5回：出生前診断と遺伝カウンセリング (241 平久 進也) 第6回：父性と父親役割 (248 竹原 健二) 第7回：周産期における政策及び研究 (248 竹原 健二) 第8回：生殖補助医療 (41 松井 三明) 第9回：産婦人科領域における検査・産科手術・医療処置 (41 松井 三明) 第10回：女性のライフサイクルにおける疾患 (225 早乙女 智子) 第11回：女性のライフサイクルと健康支援・思春期 (68 千場 直美) 第12回：女性のライフサイクルと健康支援・性成熟期 (68 千場 直美) 第13回：女性のライフサイクルと健康支援・更年期 (68 千場 直美) 第14回：セクシュアリティと性教育 (254 田中 祐子) 第15回：性暴力、DV被害女性の支援 (297 松本 安代)	オムニバス

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	生涯女性健康科学演習	<p>生涯にわたる女性の健康課題の視点から、各ライフステージにおける健康課題に対する健康教育と支援方法について理解を深め、女性の健康管理能力向上を目指した援助を企画、展開し、実践能力を修得する。</p> <p>第1回：オリエンテーション・女性のライフサイクルと健康（68 千場 直美） 第2・3回：母子と食事と栄養（311 山本 育子） 第4・5回：母子と運動（83 三浦 靖史） 第6・7回：リスクのある妊産婦の支援1（68 千場 直美） 第8・9回：リスクのある妊産婦の支援2（68 千場 直美） 第10～11回：リスクのある妊産婦の支援3（68 千場 直美） 第12～13回：女性のライフサイクルにおける集団教育演習（68 千場 直美） 第14～15回：女性のライフサイクルにおける集団教育演習（68 千場 直美）</p>	オムニバス
		高度実践助産技術学特講	<p>助産診断の基礎となる生殖生理・形態機能に対する理解を深め、周期期におけるハイリスク・異常の予測・アセスメントに必要な病態生理、診断、治療、予後を学び、正常経過からの逸脱を予防し、異常・緊急時への対応について学修し、実践力を修得する。</p> <p>第1回：助産過程と助産診断（68 千場 直美） 第2回：分娩の生理・診断・アセスメント（68 千場 直美） 第3回：分娩経過中の診断とケア（68 千場 直美） 第4回：正常分娩経過の逸脱とハイリスクアセスメント・診断（68 千場 直美） 第5回：正常分娩助産技術とは（68 千場 直美） 第6回：正常分娩助産技術の実際（68 千場 直美） 第7回：胎児・胎盤機能のアセスメント・診断（68 千場 直美） 第8回：妊娠期の異常と治療（308 山崎 峰夫） 第9回：分娩期の異常と治療（247 武内 享介） 第10回：産褥期の異常と治療（303 森田 宏紀） 第11回：産科医療と助産師の協同（212 倉智 治） 第12回：新生児の特徴と診断（242 高田 哲） 第13回：新生児の異常と治療（242 高田 哲） 第14回：幼児の発達と診断（242 高田 哲） 第15回：ハイリスク乳幼児の診断と支援（242 高田 哲）</p>	オムニバス
		高度実践助産技術学演習	<p>正常な分娩期の助産診断と実践に必要な高度先進的な知識・技術を修得する。また、産婦とその家族に分娩の安全と快適性を提供するために必要な助産技術と基本的姿勢や態度を獲得する。</p> <p>第1・2回：助産所における妊産婦のケア（301 毛利 多恵子） 第3・4回：フリースタイル分娩助産演習（301 毛利 多恵子，68 千場 直美） 第5・6回：分娩助産技術演習1（68 千場 直美，105 岩崎 三佳，130 本岡 夏子） 第7・8回：分娩助産技術演習2（68 千場 直美，105 岩崎 三佳，130 本岡 夏子，36 藤田 和佳子） 第9～10回：分娩助産技術演習3（68 千場 直美，105 岩崎 三佳，130 本岡 夏子） 第11～12回：分娩助産技術演習4（68 千場 直美，105 岩崎 三佳，130 本岡 夏子） 第13～14回：分娩助産技術演習5（68 千場 直美，105 岩崎 三佳，130 本岡 夏子） 第15回：演習まとめ・振り返り（68 千場 直美，105 岩崎 三佳，130 本岡 夏子）</p>	オムニバス
		高度周期期技術学特講	<p>助産学の基礎となる概念及び理論を踏まえ、妊娠期、産褥期、胎児・新生児の解剖・生理学、ケア技術を修得する。修得した知識、技術を基に、妊婦、産婦、新生児とその家族の健康状態のアセスメントを行い、助産診断、ケア計画の立案、実施及び評価の一連の助産過程を展開する能力を獲得する。</p> <p>第1・2回：健康教育とは1（36 藤田 和佳子） 第3・4回：健康教育とは2（36 藤田 和佳子） 第5・6回：妊娠期の助産診断技術（68 千場 直美） 第7・8回：産褥期の助産診断技術（68 千場 直美） 第9～10回：新生児期の助産診断技術（68 千場 直美） 第11～13回：妊娠・分娩・産褥・新生児期に必要な助産技術（68 千場 直美） 第14～15回：母乳育児支援（217 小石川 あゆみ）</p>	オムニバス

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	高度周産期技術学演習	<p>助産の実践に必要な妊娠、産褥、育児期にある母子及び家族のニーズに対応するために必要とされるヘルスアセスメント及び援助技術について学修する。さらに、妊娠・産褥・育児期に必要な健康教育の原理と技法を開発する。</p> <p>講師：(68 千場 直美, 105 岩崎 三佳, 130 本岡 夏子, 36 藤田 和佳子)</p> <p>第1～3回：妊娠・分娩・産褥期における健康教育指導案1 第4～6回：妊娠・分娩・産褥期における健康教育指導案2 第7～9回：妊娠・分娩・産褥期における健康教育指導案3 第10～12回：妊娠・分娩・産褥期における健康教育指導企画と準備 第13～15回：妊娠・分娩・産褥期における健康教育指導実践と展開</p>	共同
		助産管理学特講	<p>助産管理について、人・物・金・情報の観点から助産業務管理の方法について学修する。また、助産所開設に必要な関連法規や災害時等の危機管理、医療事故防止の安全対策についても学修する。助産管理を安全と質保証、また、経営学研究科との連携の下、経営学的視点から考察することをねらいとする。</p> <p>第1回：助産管理の基本と業務管理 (36 藤田 和佳子) 第2回：助産業務管理と関連法規 (36 藤田 和佳子) 第3～4回：周産期医療体制と安全管理 (36 藤田 和佳子) 第5～6回：医療安全と危機管理 (36 藤田 和佳子) 第7～8回：労務管理と経営管理 (36 藤田 和佳子) 第9～14回：病院の経営管理 (155 松尾 貴巳) 第15回：トップ看護マネジメント (277 板東 由美)</p>	オムニバス
		地域母子保健特講 I	<p>生活や医療圏としての地域の捉え方や地域母子保健について関連法規に基づいた行政サービス体系を理解することをねらいとする。医療機関以外の地域で活躍する助産師の活動も紹介する。</p> <p>第1・2回：地域母子保健の関連法規と行政体系 (36 藤田 和佳子) 第3回：人口動態統計と周産期の健康指標 (36 藤田 和佳子) 第4回：国際母子保健活動 (105 岩崎 三佳) 第5・6回：地域の概念、地域母子保健 (5 和泉 比佐子) 第7・8回：地域における母子保健活動の実践 (263 永原 郁子)</p>	オムニバス
		地域母子保健特講 II	<p>地域母子保健特講 I で得た基本的知識を基に、地域母子保健事業の実践について理解することをねらいとする。具体的には、兵庫県下で行われている地域母子保健事業について、講義並びに課外活動を通じて実際を理解する。</p> <p>第1回：兵庫県における母子保健事業 (199 亀山 美矢子) 第2回：児童虐待 (173 秋末 珠実) 第3・4回：市町村における母子保健事業 (287 藤原 美輪) 第5回：母子保健施策の重要課題 (36 藤田 和佳子) 第6回：在留外国人の母子保健 (36 藤田 和佳子) 第7・8回：4か月健診事業の見学 (36 藤田 和佳子)</p>	オムニバス
		助産学実習 I	<p>周産期にある母子とその家族を対象に、エビデンスに基づく知識を応用し、助産過程の展開を通して助産ケアや健康教育を実践する。正常経過の分娩介助10例程度の実践を通して助産診断技術を修得し、正常からの逸脱の診断、逸脱予防のケアを実践、展開する。また、助産師としての基本的姿勢や態度を身につける。</p> <p>講師：(68 千場 直美, 36 藤田 和佳子, 105 岩崎 三佳, 130 本岡 夏子)</p>	共同
		助産学実習 II	<p>妊娠中期から育児期までの母子とその家族を対象に、他職種と協働して継続的に個別的な助産ケアや健康教育を実践するとともに、協働チームの中で助産師の専門性を生かしたリーダーシップ能力を養い、実践展開する。</p> <p>講師：(68 千場 直美, 36 藤田 和佳子, 105 岩崎 三佳, 130 本岡 夏子)</p>	共同
		助産学実習 III	<p>総合周産期母子医療センターにて、ハイリスク妊産褥婦及び新生児を受け持ち、病態の理解並びに異常の早期発見と予防、必要な助産ケアを提供するための知識と実践能力を修得することをねらいとする。産科病棟並びにNICU/GCUにて各1週間の臨地実習を行う。</p> <p>講師：(36 藤田 和佳子, 68 千場 直美, 105 岩崎 三佳, 130 本岡 夏子)</p>	共同

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	助産学実習Ⅳ	<p>助産管理学特講で学んだ助産管理の基礎知識を生かして、自らが深めたい助産管理のテーマを設定し、その方法を考え、助産管理の視点を持って主体的に計画した臨地実習を行う。実習場所は、総合周産期母子医療センターが1週間、助産所が1週間とする。</p> <p>講師：(36 藤田 和佳子, 68 千場 直美, 105 岩崎 三佳, 130 本岡 夏子)</p>	共同
		疫学特講	<p>公衆衛生看護活動を展開する上で基盤となる疫学概念、疾病頻度の測定と指標、記述疫学、分析疫学、疫学研究のデザイン（横断研究、縦断研究、コホート研究、介入研究等）、偏りと交絡、因果関係、スクリーニング、疫学調査計画、感染症の疫学、疫学倫理、疫学の保健活動への応用に関する知識を修得する。</p> <p>これらを通して、公衆衛生看護活動の科学的根拠を明確にするための疫学研究能力の修得を目指す。</p> <p>第1回：疫学総論1（136 小野 玲） 第2回：疫学総論2（136 小野 玲） 第3回：疫学における各種指標（136 小野 玲） 第4回：診断とスクリーニング（136 小野 玲） 第5回：疫学的研究法1（136 小野 玲） 第6回：疫学的研究法2（136 小野 玲） 第7回：主な疾患の疫学（疾病の危険因子、予防因子、疾病登録）（5 和泉 比佐子） 第8回：公衆衛生看護に関連する疫学、アウトブレイク時の疫学調査（65 小寺 さやか）</p>	オムニバス
		公衆衛生学特講	<p>臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対し、公衆衛生学は集団の健康を対象とするものである。現代の公衆衛生学としてキーワードとなる、予防医学・環境の改善・生活水準の保障・健康教育の推進・産業保健・医療倫理等を授業のテーマとする。</p> <p>コーディネーター：(79 中山 貴美子)</p> <p>第1回：公衆衛生学概論（26 篠原 正和） 第2回：有機溶剤を安全に使用する（26 篠原 正和） 第3回：医療情報（144 高岡 裕） 第4回：輸血療法の安全性確保とインフォームドコンセントについて（290 坊池 義浩） 第5回：医療安全（221 小林 和幸） 第6回：理系研究者のためのAI入門（121 西森 誠） 第7回：排水管理（326 吉村 知里） 第8回：薬害（54 矢野 育子） 第9回：性自認と多様性社会—憲法からの視点（182 井上 典之） 第10回：患者の自律・自己決定権をめぐる倫理的考察（146 茶谷 直人） 第11回：研究倫理（26 篠原 正和） 第12回：成人保健と健康増進（26 篠原 正和） 第13回：公的統計データを活用した社会疫学研究（113 片岡 葵） 第14回：法医鑑定1（12 片田 竜一） 第15回：法医鑑定2（12 片田 竜一）</p>	オムニバス

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	保健統計学特講	<p>集団における健康現象の観察や根拠に基づく医療・看護・保健活動に必要な統計学の主要概念、基礎理論、統計解析に関する知識及び技術を修得する。講義の他に、既存の資料を素材にして、各種データの処理方法や解析手法の演習を行う。また、情報社会における保健医療情報の取扱いの基本的な考え方を理解し、倫理的能力や情報活用能力の修得を目指す。</p> <p>第1回：ガイダンス、医療・看護・保健活動における保健統計の意義（5 和泉 比佐子） 第2回：人口・保健統計、保健指標、疫学の効果指標（79 中山 貴美子） 第3回：演習①：モデル地域における死因・疾病統計の分析（108 内村 利恵） 第4回：演習②：モデル地域における死因・疾病統計の分析（108 内村 利恵） 第5回：統計の基礎（基本的な用語とデータ、記述統計と推測統計）（131 山本 暁生） 第6回：演習③：SPSSによるデータの入力・加工・集計（131 山本 暁生） 第7回：演習④：SPSSによる単変量データの解析（65 小寺 さやか） 第8回：演習⑤：SPSSによる単変量データの解析（65 小寺 さやか） 第9回：演習⑥：SPSSによる多変量データの解析（5 和泉 比佐子） 第10回：演習⑦：SPSSによる多変量データの解析（5 和泉 比佐子） 第11回：交絡と回帰モデル、症例数とパワー計算、多重検定（30 中澤 港） 第12回：インターアクション、感度・特異度、同等性・非劣性の解析、生存分析（30 中澤 港） 第13回：文献クリティーク（65 小寺 さやか） 第14回：演習⑧：情報と倫理 グループワーク（情報収集）（79 中山 貴美子） 第15回：演習⑨：情報と倫理 グループワーク（プレゼンテーション）（79 中山 貴美子）</p>	オムニバス
		保健医療福祉論特講	<p>保健医療福祉行政の理念と目的、保健医療福祉システム、保健医療福祉行政の仕組みや制度の変遷とその内容、保健医療福祉計画の策定から評価のプロセスを理解し、保健医療福祉行政においてケアシステムの構築及び政策化する能力を身につける。また、実際に保健医療福祉行政を担当している多様な講師との討議を通して、保健医療福祉行政の現状と課題について考える。</p> <p>第1回：保健医療福祉行政の変遷と仕組み、保健師活動の課題（5 和泉 比佐子） 第2・3回：海外からみた日本の社会保障制度の特徴とその課題（143 関根 由紀） 第4回：現代社会と社会保障・福祉制度（161 井口 克郎） 第5・6回：地域保健行政と保健所の役割・機能（253 田所 昌也） 第7回：保健医療福祉計画の策定・評価と行政保健師の役割（181 稲岡 由美子） 第8回：DPC制度と医療計画（4 石田 達郎）</p>	オムニバス
		地域公共政策論特講	<p>本授業では、個人レベルや民間部門だけでは処理できない公共的な課題を解決するために打ち出される公共政策に関する基礎的知識（公共性、現代日本の地域公共政策の特性、公共政策の形成過程、その展開のためのアプローチ）を修得する。特に、集団討議等を通して、地域公共政策の課題と効果を多角的に分析する能力を身につける。</p> <p>第1回：地域公共政策と保健師活動（65 小寺 さやか） 第2回：政策形成をめぐる理論（296 松岡 京美） 第3回：政策形成の事案－災害対応策における社会的な弱者支援の政策展開（296 松岡 京美） 第4回：地域公共政策をめぐる背景理解（183 今井 良広） 第5回：地域公共政策の形成過程－課題設定、政策立案、実施、評価－（183 今井 良広） 第6回：地域公共政策とガバナンス（共治）－地域社会の変化と市民セクターの役－（183 今井 良広） 第7回：地域公共政策の課題と展開－地域保健行政の実際－（183 今井 良広） 第8回：公共政策と倫理：ディベート（65 小寺 さやか）</p>	オムニバス

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	医療経済論特講	<p>本授業では、社会保障制度の根幹をなす医療保険制度と国民医療費、医療サービスの経済的評価、医療費適正化等医療に関わる諸問題について、社会情勢と経済学的観点から深く理解する。特に、医療や介護等の医療政策の在り方を多角的・批判的視点で検討し、健康格差是正のために必要な施策を形成する能力の基盤を培う。</p> <p>第1回：医療経済と公衆衛生看護（79 中山 貴美子） 第2回：医療経済学の基礎（161 井口 克郎） 第3回：医療サービスの需要と供給、公共性（223 小林 大介） 第4回：医療政策（保健医療計画と地域医療構想）（223 小林 大介） 第5回：医療の効率性と医療経済評価（223 小林 大介） 第6回：医療経済と医療経営（223 小林 大介） 第7回：医療経済と看護職（216 小池 智子） 第8回：医療格差の現状と課題（216 小池 智子）</p>	オムニバス
		保健医療福祉論演習	<p>保健医療福祉行政の仕組み、保健医療福祉計画の策定から評価のPDCAサイクルを理解し、社会的変化を継続的に把握しながら、地域住民や関係機関の多職種と協働し、地域の健康課題解決のために、円滑で効率的・効果的な運営を行うシステム構築、施策化の必要性を考える。自治体のデータヘルス計画を事例として、地域の特性に応じた社会資源、システム、施策等の必要性を明確にし、施策及び保健事業を企画立案することで政策形成能力の基盤を培う。</p> <p>講師：（5 和泉 比佐子） 演習ファシリテーター：（5 和泉 比佐子、79 中山 貴美子、65 小寺 さやか）</p> <p>第1回：公衆衛生看護活動におけるPDCAサイクル 第2回：ケアシステム開発及び施策化のプロセス 第3回：データヘルス計画を事例とした演習1：課題分析と施策の立案① 第4回：データヘルス計画を事例とした演習1：課題分析と施策の立案② 第5回：データヘルス計画を事例とした演習2：事業の企画① 第6回：データヘルス計画を事例とした演習3：事業の企画② 第7回：データヘルス計画を事例とした演習4：評価計画 第8回：データヘルス計画を事例とした演習5：事業計画のプレゼンテーション、まとめ</p>	共同
		公衆衛生看護学特講	<p>公衆衛生看護学の理念、目的、歴史、対象別の活動方法（特に集団・地域）、基盤となる概念（ヘルスプロモーション、ソーシャルキャピタル他）等の地域や対象の特性に応じた健康課題を解決するために必要な知識と実践能力を修得する。</p> <p>対象とする活動領域は、母子、成人、高齢者、難病、障害者（児）、精神、感染症、歯科口腔保健とする。また、公衆衛生看護学に関わる国内外の文献クリティークを通して、研究成果とその活用について理解を深める。さらに、多様な対象を支援する際に保健師が直面する倫理的課題や対処法について考え、公衆衛生看護専門職に必要な態度・規範を身につける。</p> <p>第1回：公衆衛生看護活動（理念・歴史・基盤となる概念）（5 和泉 比佐子） 第2回：公衆衛生看護活動の展開（対象のアセスメントと健康課題解決のための支援の実践）（65 小寺 さやか） 第3・4回：対象別公衆衛生看護活動：母子保健（131 山本 暁生） 第5・6回：対象別公衆衛生看護活動：成人保健（5 和泉 比佐子） 第7・8回：対象別公衆衛生看護活動：高齢者保健（5 和泉 比佐子） 第9回：対象別公衆衛生看護活動：難病保健（79 中山 貴美子） 第10回：対象別公衆衛生看護活動：障害者（児）保健（108 内村 利恵） 第11・12回：対象別公衆衛生看護活動：精神保健（65 小寺 さやか） 第13回：対象別公衆衛生看護活動：感染症保健（65 小寺 さやか） 第14回：対象別公衆衛生看護活動：歯科口腔保健（131 山本 暁生） 第15回：公衆衛生看護活動と倫理（79 中山 貴美子）</p>	オムニバス

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	社会健康論特講	<p>社会構造と文化的背景の変化と健康課題、健康の社会的決定要因 (Social determinants of health) と健康格差について考える。また、ディスカッションを通して、健康格差の背景要因と是正するための方略 (エンパワメント、ソーシャルキャピタル等) を探究する。さらに、在留外国人等の多様な文化的背景を持つ人々への支援と公衆衛生看護の役割を考えるとともに、保健師活動の基本理念である社会的公正への理解を深め、必要な態度を身に付ける。</p> <p>第1回：健康の社会的決定要因 (201 川畑 摩紀枝) 第2回：健康格差の生じるプロセス (201 川畑 摩紀枝) 第3回：結果の平等と機会の平等 (201 川畑 摩紀枝) 第4回：健康と社会的公正 (201 川畑 摩紀枝) 第5回：エンパワメント (201 川畑 摩紀枝) 第6回：プレゼンテーション (201 川畑 摩紀枝) 第7回：社会疫学とソーシャル・キャピタル (65 小寺 さやか) 第8回：健康の社会的要因に関する海外文献検討 (65 小寺 さやか)</p>	オムニバス
		個別支援論特講	<p>公衆衛生看護における援助方法の総体としての保健指導の目的と構成技術を理解した上で、既存の研究成果や研究手法を用いた個人・家族の健康課題を解決するための家族システムと家族環境アセスメント、個人・家族への介入方法、個別支援に必要な援助技術 (相談・面接技術、ケアマネジメント、連携・調整等)、家族看護や保健行動を理解するための緒理論等に関する卓越した知識を修得する。</p> <p>第1回：公衆衛生看護活動における個人・家族への支援 (65 小寺 さやか) 第2回：個別支援における相談支援技術 (131 山本 暁生) 第3回：家族の概念、家族の構造と機能、家族の発達段階 (108 内村 利恵) 第4回：家族看護の諸理論 (65 小寺 さやか) 第5回：個人・家族の健康課題と支援 (65 小寺 さやか) 第6回：個人の保健行動と行動変容 (65 小寺 さやか) 第7回：個別支援に活用できる理論・モデル (65 小寺 さやか) 第8回：保健指導の実践—生活習慣病予防のための保健指導の展開 (271 野口 緑)</p>	オムニバス
		組織活動論特講	<p>本科目では、地域におけるグループと地区組織活動への支援に焦点を当てる。グループ支援では、グループの特性と理論 (グループ・ダイナミクス等)、グループのアセスメント、支援計画、技術 (発展過程と支援者の役割、グループの育成と自主化への支援)、セルフヘルプグループの特徴と支援方法について理解し、グループを育成する能力を養う。</p> <p>地区組織活動では、地区組織活動の定義と理論 (コミュニティ・オーガニゼーション等)、アセスメントと支援計画、技術について理解し、地区組織が主体的に活動できるための支援方法を修得する。</p> <p>第1回：グループ活動に活用可能な理論とグループのアセスメント、グループ支援計画と技術 (5 和泉 比佐子) 第2回：セルフヘルプグループの特徴と支援 (65 小寺 さやか) 第3回：地区組織活動に活用可能な理論と地区組織のアセスメント (79 中山 貴美子) 第4回：地区組織活動の支援計画と技術 地区組織活動の紹介 (79 中山 貴美子) 第5・6回：精神障害者のセルフヘルプグループの実践 (79 中山 貴美子) 第7・8回：地区組織活動の実践 (79 中山 貴美子)</p>	オムニバス
		地域看護診断論特講	<p>地域全体の健康課題が生じている背景や原因及び対処力を把握し、優先的に取り組むべき健康課題を明らかにするために必要となる地域看護診断の概念と目的、プロセス、理論と方法、活動・事業計画と保健師の役割、地域保健活動計画について理解する。地域の健康水準を高めるために、地域を多角的にアセスメントし、地域特性に応じた保健活動の展開について考える。</p> <p>第1回：ガイダンス、地域を単位とする看護の特性 (5 和泉 比佐子) 第2回：地域看護診断の目的、地域看護診断の概要 (5 和泉 比佐子) 第3回：地域看護診断と理論、コミュニティ・アズ・パートナーモデル (5 和泉 比佐子) 第4回：地区踏査・社会踏査の方法、エスノグラフィック的接近 (65 小寺 さやか) 第5回：対象地域の基本構造のアセスメント (5 和泉 比佐子) 第6回：人々の健康と生活のアセスメント (108 内村 利恵) 第7回：健康課題の特定、健康課題の構造化、健康課題の優先性の判断、保健活動計画と保健師の役割 (5 和泉 比佐子) 第8回：特定した健康課題に対する事業計画と評価指標 (5 和泉 比佐子)</p>	オムニバス

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	健康教育論特講	<p>健康教育のパラダイムの変化、ヘルスプロモーションとの関連、健康教育の目的と展開方法について知る。集団健康教育に必要な諸理論（グループワーク理論、健康学習理論、行動変容理論等）を用いながら、健康教育の看護過程に関する基本的知識を修得する。</p> <p>第1回：健康教育のパラダイムシフトとヘルスプロモーション（5 和泉 比佐子） 第2回：健康教育の目的と技術、ヘルスリテラシー（108 内村 利恵） 第3回：集団健康教育に活用できる諸理論（グループワーク、健康学習、成人学習、ソーシャルマーケティング等）（5 和泉 比佐子） 第4回：健康教育の展開過程：対象集団のアセスメント（5 和泉 比佐子） 第5・6回：健康教育の展開過程：計画立案及び評価計画（5 和泉 比佐子） 第7・8回：健康教育の展開過程：実施・評価（5 和泉 比佐子）</p>	オムニバス
		産業保健特講	<p>労働条件と労働環境に関連する健康障害の予防、労働者の健康保持増進及び福祉の向上を目的として展開される産業保健活動の理念と目的、関連の諸制度等を知り、労働者の健康に関連する諸問題や産業保健の課題を明らかにする。</p> <p>産業医による講義や労働と健康をテーマとしたディスカッションを通して、職場環境や条件が労働者の安全と健康に及ぼす影響と労働と健康の調和について理解を深め、労働衛生管理体制における産業保健師の役割と機能を考える。</p> <p>第1回：産業保健の目的と意義、産業医の役割（262 中田 博文，65 小寺 さやか） 第2回：労働環境を改善し、労働者の健康を維持するために「ポリヴェーガル理論」を学ぶ（231 塩谷 英之） 第3回：産業保健の目的と現状・体制（214 栗岡 住子） 第4回：健康教育（214 栗岡 住子） 第5回：健康診断と事後措置（214 栗岡 住子） 第6回：課題のプレゼンテーション（214 栗岡 住子） 第7回：メンタルヘルス・過重労働対策・両立支援（214 栗岡 住子） 第8回：職業性疾病と予防（214 栗岡 住子）</p>	オムニバス
		学校保健特講	<p>学校保健の理念及び制度と仕組み、対象の健康課題とそれらを解決するための対策、特別な支援を必要とする子どもの支援、学校を場とした公衆衛生看護活動の展開、特に養護教諭の職務と役割について理解する。また、学校保健におけるフィールドワークを通して、健康課題の把握と支援方法を体験的に学び、学校保健の推進に必要な基礎的能力を修得する。さらに、養護教諭の機能と求められる能力、学校保健と地域保健の連携・協働について考える。</p> <p>第1回：学校保健の意義と公衆衛生看護、学校保健のしくみ（65 小寺 さやか） 第2回：学校における公衆衛生看護の展開（108 内村 利恵） 第3回：健康上のリスクを持つ子どもの支援（65 小寺 さやか） 第4回：子ども心身の発達と健康（254 田中 祐子） 第5回：子どもにかかわる社会問題と学校保健の役割（254 田中 祐子） 第6回：学校保健活動フィールドワーク（65 小寺 さやか，108 内村 利恵） 第7回：学校保健活動フィールドワーク（65 小寺 さやか，108 内村 利恵） 第8回：学校における公衆衛生看護活動の特性と地域保健との連携（65 小寺 さやか，108 内村 利恵）</p>	オムニバス
		公衆衛生看護管理特講	<p>公衆衛生看護管理の理念と目的、保健師に求められる事業管理、地区管理の機能並びに管理的立場の保健師に求められる管理機能について深く理解した上で、これら諸機能を発揮するために必要なパートナーシップやリーダーシップ、マネジメント等の能力の獲得を目指す。また、事例を通して、地域の特性に応じた社会資源、システム、施策等を明確にし、改善策を提案・実施するために必要なケアコーディネーション能力及び政策形成能力の基盤を培う。</p> <p>第1回：公衆衛生看護管理の理念と目的、事例管理と地区管理（5 和泉 比佐子） 第2回：事業・業務管理、情報管理（5 和泉 比佐子） 第3回：組織運営管理と予算管理（5 和泉 比佐子） 第4回：人材育成・人材管理（5 和泉 比佐子） 第5・6回：ケースメソッドによる公衆衛生看護管理（216 小池 智子） 第7回：兵庫県における公衆衛生看護管理の実例（181 稲岡 由美子） 第8回：神戸市における公衆衛生看護管理の実例（302 森井 文恵）</p>	オムニバス

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	健康危機管理特講	<p>多様化する健康危機（感染症集団発生、大規模災害等）、地域におけるリスクマネジメントとリスクコミュニケーションの在り方、保健所等における平常時を含めた健康危機管理の実際と保健師の役割等について、根拠法を含めて理解する。また、シミュレーションやケースメソッド等の演習を通して、行政機関・医療機関・民間企業・住民組織等と協働した地域における健康危機管理体制の整備、健康危機管理の各段階における支援策を検討し、健康危機の発生時から発生後の健康課題を早期に発見し迅速かつ組織的に対応できるための能力を修得する。</p> <p>第1回：健康危機管理システムと保健師活動（65 小寺 さやか） 第2回：感染症の動向と今日的課題（134 岩田 健太郎） 第3回：海外渡航前の危機管理（162 大路 剛） 第4回：健康危機管理における保健師活動の実際：感染症対応を中心に（204 菅 澄子） 第5回：健康危機管理演習：感染症（65 小寺 さやか） 第6回：災害保健活動と保健師の機能（65 小寺 さやか） 第7回：災害各期の保健師活動の実際（181 福岡 由美子） 第8回：健康危機管理演習：自然災害（65 小寺 さやか）</p>	オムニバス
		公衆衛生看護展開演習 I	<p>公衆衛生看護学特講や個別支援論特講での学修を基盤に、個人・家族を対象とした健康の保持増進・疾病予防を支援するための基礎的技術を修得する。具体的には、深い病態理解とエビデンス、人々の健康行動に関する諸理論を活用しながら、家庭訪問、健康相談、特定保健指導等のロールプレイを実施し、個人・家族の行動変容を促し、健康増進能力を高め、意思決定を支えるための保健指導技術を修得する。また、複雑困難事例を用いて、フォーマル・インフォーマルな社会資源の活用、多職種協働と支援ネットワークの構築における保健師のケアマネジメント機能を理解する。</p> <p>講師：（65 小寺 さやか, 108 内村 利恵, 131 山本 暁生, 271 野口 緑）</p> <p>第1回：ガイダンス、対人支援技術とケースマネジメント 第2回：乳幼児健康診査：アセスメントと問診のロールプレイ（1） 第3回：乳幼児健康診査：アセスメントと問診のロールプレイ（2） 第4回：複児童虐待事例：ケースメソッド 第5回：特定保健指導：アセスメントとロールプレイ（1） 第6回：特定保健指導：アセスメントとロールプレイ（2） 第7回：複雑困難事例のケアマネジメント：社会資源の活用と支援ネットワークの構築（1） 第8回：複雑困難事例のケアマネジメント：社会資源の活用と支援ネットワークの構築（2）</p>	共同
		公衆衛生看護展開演習 II	<p>公衆衛生看護学特講や個別支援論特講、地域看護診断論特講での学修を基盤に、実際の地域を対象に情報収集とアセスメントをするとともに、地域の健康課題を抽出する。また、地域の健康課題を抽出した上で、健康課題を有する対象への家庭訪問を行い、家庭訪問の目的と対象、技術、プロセス（計画立案・実施・評価）を理解する。地域の特徴と健康課題を踏まえ、地域の事例への継続的な家庭訪問をすることにより、個人・家族の健康課題を明らかにし、社会資源を活用しながら、健康課題を解決する能力を育成する。さらに、家庭訪問を含めた保健指導を通して、地域の健康課題とその解決のためのプロセスを理解する。教員のファシリテートの下、リフレクションを行い、学生個々の課題とビジョンを明確にし、演習での経験をクリティカルに意味づけるための思考力を身につける。</p> <p>講師：（5 和泉 比佐子, 79 中山 貴美子, 65 小寺 さやか, 108 内村 利恵, 131 山本 暁生）</p> <p>第1回：家庭訪問 第2回：キーインフォーマントへのインタビュー 第3回：地区の人々の健康と生活のアセスメント 第4回：情報収集と同意確認のための訪問 第5回：初回訪問計画の立案 第6・7回：母子の家庭訪問演習 第8回：家庭訪問の実際・リフレクション① 第9・10回：受け持ち事例の事例検討 第11回：家庭訪問の実際・リフレクション② 第12回：家庭訪問の実際・リフレクション③ 第13回：家庭訪問の実際・リフレクション④ 第14・15回：まとめ</p>	共同

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	公衆衛生看護展開演習Ⅲ	<p>公衆衛生看護活動の基盤となる地区活動は住民の生活に密着している。地区活動の対象となる集団・地域について、地域看護診断論特講での学修を基盤に、理論や疫学的手法を活用しながら地区踏査やキーインフォーマントへのインタビュー、保健統計データの分析等に基づきアセスメントし、健康課題を抽出する。健康課題解決のためのアプローチとしての健康教育を、既存の研究成果や健康教育論特講の学修を生かして企画・実施・評価を行う。また、地域特性を尊重しながら、集団・地域の健康水準を向上させるためのアプローチを探求する能力を養う。</p> <p>講師：(5 和泉 比佐子, 108 内村 利恵, 131 山本 暁生, 79 中山 貴美子, 65 小寺 さやか)</p> <p>第1・2回：地区の概要の把握, 地区踏査及びキーインフォーマントへのインタビューの計画立案 第3回：地区踏査の実施 第4回：キーインフォーマントへのインタビュー実施 第5回：地区の基本構造のアセスメント 第6回：地区の人々の健康と生活の実態のアセスメント 第7回：地区の健康課題の特定と対策立案及び具体策の検討 第8・9回：集団への健康教育の実際1：対象ニーズ把握 第10回：集団への健康教育の実際2：計画立案 第11・12回：集団への健康教育の実際3：指導案作成・準備 第13回：集団への健康教育の実際4：実施 第14・15回：集団への健康教育の実際5：評価</p>	共同
		公衆衛生看護展開演習Ⅳ	<p>地域看護診断論特講、公衆衛生看護展開演習Ⅱ・Ⅲでの学修を基盤に、公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政）を実施する地域の看護診断を実施する。コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いて、人口動態や保健統計データ等の二次資料を包括的に収集し、データベースアセスメントを通して地域の顕在的・潜在的な健康課題を推定する。また、公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政）に向けて、重点課題とフォーカスアセスメントのために必要な情報を特定し、健康課題の構造化と対策立案のための準備を行う。</p> <p>講師：(65 小寺 さやか, 5 和泉 比佐子, 79 中山 貴美子, 108 内村 利恵, 131 山本 暁生)</p> <p>第1回：地域看護診断の展開と対象地域に関するガイダンス 第2回：対象地域のコア（人口集団）のアセスメント 第3回：対象地域のサブシステムのアセスメント 第4回：基本構造の全体像の発表 第5回：地区踏査の実施 第6回：人々の健康と生活のアセスメント① 第7回：人々の健康と生活のアセスメント② 第8回：人々の健康と生活の全体像の発表（健康課題の特定と優先性の判断）</p>	共同
		国際公衆衛生看護活動演習	<p>グローバルな視点とコミュニケーション能力を駆使しながら、人間の生活や文化、価値観へのより深い理解に立った看護アプローチを探求する能力を修得する。国内外においてフィールドワークを実施し、保健統計データを含む2次資料の分析、文化の異なる人々（コミュニティ）の観察及びインタビュー等を通して、健康問題の背景要因を捉え、主要課題の解決策を提案・実践する。これらを通して、異文化理解や国際性を涵養し、国際社会へ貢献するための基礎的能力を培う。</p> <p>講師：(65 小寺 さやか, 131 山本 暁生)</p> <p>国内又は海外でフィールドワークを行う。 第1回：国際保健における公衆衛生看護職の役割、ガイダンス 第2回：対象国の概要、保健医療システム、文化・習慣、健康課題等に関する分析 第3回：分析の発表、（渡航する場合は）渡航直前オリエンテーション 第4～7回：フィールドワーク 第8回：解決策の提案・演習のまとめ</p>	共同

健康科学領域専門科目	看護学分野専門科目	公衆衛生看護学実習Ⅰ (行政)	<p>地域住民個々の健康課題だけでなく、地域社会あるいは地域全体の健康水準の向上を目指し、リフレクションを重視し、自立及び自律して実践できる高度な公衆衛生看護の実践能力を獲得する。</p> <p>保健所及び市町村保健センターにおいて、継続的な家庭訪問、健康教育、保健指導等の実践を通して、個人・家族・集団にかかわる支援方法を修得する。また、地域診断、家庭訪問等を通して、地域の健康課題を抽出し、健康課題の社会的諸条件について理解を深め、地域の特性に応じた解決策・改善策を企画立案する。さらに、事業管理や予算管理、情報管理等の公衆衛生看護管理について理解する。</p> <p>講師：(5 和泉 比佐子, 79 中山 貴美子, 65 小寺 さやか, 108 内村 利恵, 131 山本 暁生)</p> <p>保健所及び市町村保健センター等において実習を行う。実習指導者と学生は概ねマンツーマン体制で実習を展開し、家庭訪問を通してケアマネジメントや関係機関との調整、事例検討等を経験する。また、実習期間中に開催される保健事業等において保健指導や集団を対象とした健康教育、個別健康相談等を実施する。さらに、実習前に実施した2次資料によるデータベースアセスメントを踏まえ、実習期間中に新たに得た情報や地区踏査、研究的手法を用いて、実習地域の地域診断を実施する。</p>	共同
		公衆衛生看護学実習Ⅱ (産業)	<p>労働環境を健康との関連で理解し、労働者のヘルスニーズを明らかにするとともに、健康課題を組織的に解決するため方策を考える。また、労働者を対象とした保健指導等を実践し、労働者の健康と安全を保持増進するための支援技術を修得する。さらに、産業保健分野における多職種連携・協働並びに産業保健と地域保健等との連携を学び、産業保健師の役割や機能、求められる能力について考える。リフレクションを通して、自己の課題とビジョンを明確にし、経験をクリティカルに意味づけるための思考力を身につける。</p> <p>講師：(65 小寺 さやか, 5 和泉 比佐子, 79 中山 貴美子, 108 内村 利恵, 131 山本 暁生)</p> <p>実習施設と調整の上決定するが、健康管理部門等において実習を行う。学生は、実習事業所の安全衛生組織・機構についての説明を受ける。また、実習事業所における労働安全衛生法に基づく衛生管理や安全衛生活動と看護職の職務を体験あるいは見学する。具体的には、実習期間中に実施される個人又は集団を対象とした健康診断、保健指導、健康教育等を実践する。また、実習指導者等への随行や臨地での講義を通して、産業保健活動におけるPDCAサイクルの展開や関連部署との連携等の管理業務の実際を学ぶ。学生個々の課題とビジョンを明確にし、実習経験をクリティカルに意味づけるための思考力を身につけるため、リフレクションを行う。</p>	共同
		公衆衛生看護管理実習	<p>地域保健関連政策・施策にかかわるマネジメントサイクルの実際、統括部門における保健師に求められる人材育成・人事管理、組織運営管理、予算管理、情報管理、健康危機管理等の高度な実践的管理機能を修得し、保健サービスの質保証について考える。また、それらを通して、行政組織における保健師の役割に対する理解を深め、リーダーシップやマネジメント、行政職種とのパートナーシップ等の管理能力を涵養する。</p> <p>講師：(5 和泉 比佐子, 79 中山 貴美子, 65 小寺 さやか, 108 内村 利恵, 131 山本 暁生)</p> <p>保健所又は保健行政統括部門において実習を行う。実習指導者へのシャドウイングを含め、実習期間中に開催される企画調整会議や予算編成、政策評価、人材育成等の場面に参加する。実習指導者と学生は原則マンツーマン体制で実習を展開する。</p>	共同

健康科学領域専門科目	病態解析学分野専門科目	分析医科学特講 I	<p>医学・生命科学領域における生体成分に関連する情報の新規測定法や機能評価法について学び、病態解析や臨床検査への応用を探究する。最新の研究トピックスを交えながら、各教員による専門的講義を行い、議論を通じて実践的な知識を修得し、各自の研究活動に活用することを目指す。</p> <p>第1～3回：がん治療の現状とその問題点 (55 山下 公大) 第4～8回：腫瘍の病態解析研究とその方法 (55 山下 公大, 292 堀 裕一) 第9回：病理・細胞学的検査の基礎知識 (55 山下 公大) 第10回：病理・細胞学的検査の現状と研究への展開 (55 山下 公大) 第11・12回：病態に応じた栄養管理の基礎知識とその応用 (98 三好 真琴, 244 高橋 路子) 第13・14回：がん研究の臨床検査への応用 (55 山下 公大) 第15回：まとめ、総括 (55 山下 公大)</p>	オムニバス
		細胞機能構造科学特講 I	<p>正常の細胞・組織の機能や構造と様々な疾患・病態におけるこれらの変化について、レビューやトピックス、研究手法等を紹介する。また、それらが疾患や病態の診断・治療等にいかに応用できるか、あるいは適用される見通しなのかについて解説する。本特講を通して、細胞機能や構造科学の該当分野における研究の考え方を理解することを目標とする。各教員が専門や得意とする分野について講義を行う (血液学・転写：伊藤, 病理学・免疫組織化学：伊藤, 生命情報発現科学・免疫疾患と翻訳：駒井)。</p> <p>第1～3回：細胞機能・構造科学に関する基礎知識 (第1～2回：7 伊藤 光宏, 第3回：67 駒井 浩一郎) 第4～7回：細胞機能・構造科学の研究手法 (第4～5回：7 伊藤 光宏, 第6回：67 駒井 浩一郎, 第7回：7 伊藤 光宏) 第8～10回：細胞機能・構造科学に関するトピックス (第8～9回：7 伊藤 光宏, 第10回：67 駒井 浩一郎) 第11～14回：細胞機能・構造科学の診断・治療への応用 (第11～12回：7 伊藤 光宏, 第13～14回：67 駒井 浩一郎) 第15回：まとめ、総括 (7 伊藤 光宏, 67 駒井 浩一郎)</p>	オムニバス
		臨床免疫学特講 I	<p>臨床免疫学の基礎知識を踏まえて、最先端の臨床と研究を網羅的に理解できるようにする。臨床免疫学の基礎から臨床現場に必要な最新知識を獲得することを目的としている。</p> <p>第1回：関節リウマチの細胞生物学 第2回：リウマチ膠原病領域の免疫抑制療法 第3回：TNF阻害剤 第4回：IL6阻害剤 第5回：CTLA4 第6回：IgIL17A阻害剤 第7回：MTX 第8回：JAK阻害剤 第9回：その他の分子標的薬 第10回：生体の概日リズムと関節炎 第11～14回：研究計画発表 第15回：まとめ</p>	

健康科学領域専門科目	病態解析学分野専門科目	ヒューマンヘルス特講 I	<p>現在、我が国の医療の最も重要な課題の一つは、生活習慣病の予防・治療の実践と将来のフレイル及び認知症の予防である。生活習慣病の予防・治療とフレイル及び認知症の予防を実践するためには、単なる医学知識のみの理解だけでなく、臨床検査学、リハビリテーション医学、看護学等の各分野の知識を総合的に学ぶ必要がある。</p> <p>本講義では、代謝等の病態面と実践面を中心に、高血圧症、糖尿病、メタボリックシンドローム等の生活習慣病やフレイル及び認知症、それらと関連するリハビリテーション医学・医療の最新内容を、可能な限り取り入れようとしている。同時に、その予防・治療の基礎となる食事・運動に関する基本的及び最新の知見、並びに生活習慣病改善とフレイル及び認知症予防のために最も必要な効果的な動機付け、行動変容等を学ぶことにより、ヒューマンヘルスに関する代謝等の病態面を含む知識と実践を兼ね備えた医療者や研究者の育成を目指す。</p> <p>第1回：超高齢社会における生活習慣病 (53 安田 尚史) 第2回：糖尿病と慢性炎症 (53 安田 尚史) 第3回：糖尿病と運動1 (93 小野 くみ子) 第4回：生活習慣病予防・改善のための療養行動支援 (45 宮脇 郁子) 第5回：こどもの発達とその障害 (1) (31 西村 範行) 第6回：こどもの発達とその障害 (2) (31 西村 範行) 第7回：生活習慣病・脂質異常症・高血圧等 (1) (4 石田 達郎) 第8回：生活習慣病・脂質異常症・高血圧等 (2) (4 石田 達郎) 第9回：タバコによる生活習慣病 (133 石川 朗) 第10回：糖尿病と運動2 (93 小野 くみ子) 第11回：認知症、フレイル (111 沖 侑太郎) 第12回：認知症の臨床研究 (111 沖 侑太郎) 第13回：慢性炎症性疾患と臨床検査 (100 吉田 幸祐) 第14回：糖尿病と認知症 (53 安田 尚史) 第15回：まとめ (53 安田 尚史)</p>	オムニバス
		病態解析学演習 I	<p>各担当教員が、専門である「細胞機能・構造科学」、「臨床免疫学」、「分析医科学」、「ヒューマンヘルス」の研究課題、将来展望を見据えた演習計画を作成し、それを共有する履修生が、将来、研究者あるいは教育者として自立できるよう、個々人の長所を延ばせる演習指導を行う。</p> <p>(7 伊藤 光宏) 主として、細胞機能・構造科学についての研究課題を探索し、将来展望を見据えた演習計画を作成、遂行する。 (34 柱本 照) 主として、臨床免疫学についての研究課題を探索し、将来展望を見据えた演習計画を作成、遂行する。 (53 安田 尚史) 主として、ヒューマンヘルスについての研究課題を探索し、将来展望を見据えた演習計画を作成、遂行する。 (55 山下 公大) 主として、分析医科学についての研究課題を探索し、将来展望を見据えた演習計画を作成、遂行する。 (67 駒井 浩一郎) 主として、細胞機能・構造科学についての研究課題を探索し、将来展望を見据えた演習計画を作成、遂行する。 (98 三好 真琴) 主として、分析医科学についての研究課題を探索し、将来展望を見据えた演習計画を作成、遂行する。 (100 吉田 幸祐) 主として、ヒューマンヘルスについての研究課題を探索し、将来展望を見据えた演習計画を作成、遂行する。</p>	

健康科学領域専門科目	リハビリテーション科学分野専門科目	リハビリテーション管理学 I	<p>リハビリテーションの実践と教育の現場で活用できるようになることを目標として管理システム構築、先進的な管理とリハビリテーション教育の実践まで、リハビリテーションの管理と後進の育成に必要とされる様々な内容を修得する。</p> <p>コーディネーター：(83 三浦 靖史, 2 秋末 敏宏)</p> <p>第1～3回：管理的思考の必要性-社会人大学院生を指導する立場から思うこと-(245 高畑 進一)</p> <p>第4～6回：義肢装具のマネジメント(203 川村 慶)</p> <p>第7～9回：災害時にリハ専門職がすること、できること-最近の事例を通じて-(259 富岡 正雄)</p> <p>第10～12回：高齢化社会における国際リハビリテーションの展望と課題(175 浅井 剛)</p> <p>第13～15回：専門職としてのICUリハビリテーション医療(218 幸田 剣)</p> <p>第16～18回：マネジメント・リーダーシップ論から考えるセラピスト教育について(238 庄本 康治)</p>	オムニバス
		リハビリテーション科学研究法 I	<p>リハビリテーション科学に関する研究テーマでの研究を実践する能力を涵養するために、研究テーマの決定、先行研究のレビュー、計画立案、倫理審査書類作成、実験・調査の実施、データ解析等の研究の一連の過程を体験する。</p> <p>第1回：研究テーマの選び方1</p> <p>第2回：研究テーマの選び方2</p> <p>第3回：参考文献の選び方1</p> <p>第4回：参考文献の選び方2</p> <p>第5回：参考文献の読み方1</p> <p>第6回：参考文献の読み方2</p> <p>第7回：参考文献の読み方3</p> <p>第8回：研究計画の立て方1</p> <p>第9回：研究計画の立て方2</p> <p>第10回：適切な統計の選び方1</p> <p>第11回：適切な統計の選び方2</p> <p>第12回：研究結果のまとめ方1</p> <p>第13回：研究結果のまとめ方2</p> <p>第14回：研究成果の発表方法1</p> <p>第15回：研究成果の発表方法2</p>	
		基礎リハビリテーション科学特講 I	<p>基礎医学等の基礎科学を用いたリハビリテーション研究に関するテーマでの研究を実践する能力を涵養するために、先行研究のレビュー、計画立案、倫理審査書類作成、実験の実施、データ解析等の研究の一連の過程を体験する。</p> <p>コーディネーター：(37 藤野 英己)</p> <p>第1回：基礎科学を用いたリハビリテーション研究(37 藤野 英己)</p> <p>第2回：組織染色を用いたリハビリテーション研究(37 藤野 英己)</p> <p>第3回：生化学を用いたリハビリテーション研究(37 藤野 英己)</p> <p>第4回：培養細胞を用いたリハビリテーション研究(37 藤野 英己)</p> <p>第5回：運動学とリハビリテーション研究(37 藤野 英己)</p> <p>第6回：創傷治癒とリハビリテーション研究(81 前重 伯壮)</p> <p>第7回：物理療法を用いたリハビリテーション研究(81 前重 伯壮)</p> <p>第8回：細胞外小胞とリハビリテーション研究(81 前重 伯壮)</p> <p>第9回：免疫とリハビリテーション研究(81 前重 伯壮)</p> <p>第10回：日常生活とリハビリテーション研究(81 前重 伯壮)</p> <p>第11回：解剖学を用いたリハビリテーション研究1(73 田中 貴士)</p> <p>第12回：解剖学を用いたリハビリテーション研究2(73 田中 貴士)</p> <p>第13回：解剖学を用いたリハビリテーション研究3(73 田中 貴士)</p> <p>第14回：解剖学を用いたリハビリテーション研究4(73 田中 貴士)</p> <p>第15回：解剖学を用いたリハビリテーション研究5(73 田中 貴士)</p>	オムニバス

健康科学領域専門科目	リハビリテーション科学分野専門科目	運動器リハビリテーション科学特講 I	<p>リハビリテーション医療では、運動器疾患に起因する様々な運動機能障害や姿勢・運動異常を扱う。これを踏まえ、この講義では、様々な運動機能障害の障害構造解析並びに的確なリハビリテーション機能診断に基づいた効果的リハビリテーション医療の在り方について講義する。</p> <p>コーディネーター：(2 秋末 敏宏)</p> <p>第1回：運動器リハビリテーションにおける筋機能と関連疾患・総論 (37 藤野 英己)</p> <p>第2回：運動器リハビリテーションにおける筋機能と関連疾患・各論及び研究法 (37 藤野 英己)</p> <p>第3回：運動器リハビリテーションに関連する再生医療・総論 (2 秋末 敏宏)</p> <p>第4回：運動器リハビリテーションに関連する再生医療・各論 (2 秋末 敏宏)</p> <p>第5回：運動器リハビリテーションに関連するトランスレーショナルリサーチ・総論 (2 秋末 敏宏)</p> <p>第6回：運動器リハビリテーションに関連するトランスレーショナルリサーチ・各論 (2 秋末 敏宏)</p> <p>第7回：創傷治癒とリハビリテーション・総論 (81 前重 伯壮)</p> <p>第8回：創傷治癒とリハビリテーション・各論 (81 前重 伯壮)</p> <p>第9回：糖尿病性足病変とリハビリテーション・総論 (81 前重 伯壮)</p> <p>第10回：糖尿病性足病変とリハビリテーション・各論 (81 前重 伯壮)</p> <p>第11回：運動器リハビリテーションに関連する変形性関節症の生物学・総論 (51 森山 英樹)</p> <p>第12回：運動器リハビリテーションに関連する変形性関節症の生物学・各論及び研究法 (51 森山 英樹)</p> <p>第13回：人工関節の進歩とリハビリテーション・総論 (83 三浦 靖史)</p> <p>第14回：人工関節の進歩とリハビリテーション・各論 (83 三浦 靖史)</p> <p>第15回：運動器リハビリテーション科学・まとめとプレゼンテーション (2 秋末 敏宏)</p>	オムニバス
		神経リハビリテーション科学特講 I	<p>脳血管障害・パーキンソン病・脊髄損傷等の神経疾患は、様々な起因疾患により引き起こされるのみならず、高齢化の進展も相俟って、運動器障害や内部障害が絡む多疾患併存状態が当然のこととなり、全体的な障害像の把握を難しくしている。そこで、神経疾患の障害像を十分に学んだ上で、神経疾患と運動器障害や内部障害との関連、そしてリハビリテーションについて、エビデンスに基づき学修する。</p> <p>コーディネーター：(51 森山 英樹)</p> <p>第1回：脳血管障害の障害像 (57 井澤 和大)</p> <p>第2回：パーキンソン病の障害像 (51 森山 英樹)</p> <p>第3回：脊髄損傷の障害像 (51 森山 英樹)</p> <p>第4回：脳血管障害と運動器障害 (51 森山 英樹)</p> <p>第5回：パーキンソン病と運動器障害 (51 森山 英樹)</p> <p>第6回：脊髄損傷と運動器障害 (51 森山 英樹)</p> <p>第7回：脳血管障害と内部障害 (57 井澤 和大)</p> <p>第8回：パーキンソン病と内部障害 (57 井澤 和大)</p> <p>第9回：脊髄損傷と内部障害 (57 井澤 和大)</p> <p>第10回：脳血管障害のリハビリテーション (57 井澤 和大)</p> <p>第11回：脳血管障害のリハビリテーションのエビデンス (73 田中 貴士)</p> <p>第12回：パーキンソン病のリハビリテーション (57 井澤 和大)</p> <p>第13回：パーキンソン病のリハビリテーションのエビデンス (73 田中 貴士)</p> <p>第14回：脊髄損傷のリハビリテーション (57 井澤 和大)</p> <p>第15回：脊髄損傷のリハビリテーションのエビデンス (73 田中 貴士)</p>	オムニバス

健康科学領域専門科目	リハビリテーション科学分野専門科目	内部リハビリテーション科学特講 I	<p>本講義では、近年における内部リハビリテーション科学に関する内容を概説し、内部リハビリテーション科学の原理と実際、その有効性について知見を得ることを目的とする。具体的には、生体構造と機能及びそれらの障害や疾病、特に循環器・代謝性疾患や併存・重複疾患に関する最新の知見や課題を評価・分析する研究課題について学修する。また、本講義では、主に機能評価、運動処方、循環・代謝機能障害に関する内容等も含まれる。</p> <p>コーディネーター：(57 井澤 和大)</p> <p>第1回：循環器病対策推進基本計画（現状と課題・政策の背景と目的・対策）(57 井澤 和大)</p> <p>第2回：循環器疾患の病態生理・診断方法と治療法・治療技術とその応用（57 井澤 和大）</p> <p>第3回：身体機能の評価方法・身体活動の重要性とその促進方法（57 井澤 和大）</p> <p>第4回：Sedentary behavior（座位行動の影響と改善策）(57 井澤 和大)</p> <p>第5回：急性期の循環器疾患管理・リハビリテーションの役割（57 井澤 和大）</p> <p>第6回：急性期から回復期への移行（57 井澤 和大）</p> <p>第7回：回復期におけるリハビリテーションの目標とプログラム（57 井澤 和大）</p> <p>第8回：維持期・地域におけるリハビリテーションの重要性（57 井澤 和大）</p> <p>第9回：エネルギー代謝（93 小野 くみ子）</p> <p>第10回：糖尿病の病態と検査（93 小野 くみ子）</p> <p>第11回：糖尿病の治療（食事療法、薬物療法、運動療法）（93 小野 くみ子）</p> <p>第12回：糖尿病の合併症（93 小野 くみ子）</p> <p>第13回：糖尿病のリハビリテーション（93 小野 くみ子）</p> <p>第14回：肥満症のリハビリテーション（93 小野 くみ子）</p> <p>第15回：慢性腎臓病のリハビリテーション（93 小野 くみ子）</p>	オムニバス
		脳機能リハビリテーション科学特講 I	<p>神経変性疾患は、正常に発達した脳内に様々な異常蛋白が蓄積し、神経細胞が選択的に障害され細胞死にいたり、様々な機能障害が出現する疾患である。本講座では、脳神経内科で扱う変性疾患の治療介入を考える上で、その病態生理がどこまで判明して治療が可能となったのか、リハビリテーションのエビデンスを踏まえて概説する。</p> <p>コーディネーター：(20 古和 久朋)</p> <p>第1回：アルツハイマー病の病態生理と薬物治療（20 古和 久朋）</p> <p>第2回：アルツハイマー病のリハビリテーション（70 園田 悠馬）</p> <p>第3回：レビー小体型認知症の病態生理と薬物治療（20 古和 久朋）</p> <p>第4回：レビー小体型認知症のリハビリテーション（70 園田 悠馬）</p> <p>第5回：パーキンソン病の病態生理と薬物治療（20 古和 久朋）</p> <p>第6回：パーキンソン病のリハビリテーション（70 園田 悠馬）</p> <p>第7回：進行性核上性麻痺・ハンチントン病の病態生理と薬物治療（20 古和 久朋）</p> <p>第8回：進行性核上性麻痺・ハンチントン病のリハビリテーション（70 園田 悠馬）</p> <p>第9回：多系統萎縮症の病態生理と薬物治療（20 古和 久朋）</p> <p>第10回：多系統萎縮症のリハビリテーション（70 園田 悠馬）</p> <p>第11回：脊髄小脳変性症の病態生理と薬物治療（20 古和 久朋）</p> <p>第12回：脊髄小脳変性症のリハビリテーション（70 園田 悠馬）</p> <p>第13回：筋萎縮性側索硬化症の病態生理と薬物治療（20 古和 久朋）</p> <p>第14回：筋萎縮性側索硬化症のリハビリテーション（70 園田 悠馬）</p> <p>第15回：多因子介入による認知症の予防（20 古和 久朋）</p>	オムニバス

健康科学領域専門科目	リハビリテーション科学分野専門科目	精神科リハビリテーション科学特講Ⅰ	<p>精神科リハビリテーションの現状及び最新の知見について講義する。精神科リハビリテーションは、医療・保健・福祉の中で提供されているが、精神科疾患の種類は多く複雑であるため、その科学的根拠は十分とは言えない。これを踏まえて、現在の精神科医療を含めた精神科リハビリテーションについて講義する。身体障害領域のリハビリテーションとは歴史的・構造的に異なる精神科リハビリテーションについて学び、精神科疾患に起因する様々な精神症状や生活障害に対して効果的なリハビリテーション手法を紹介、講義する。</p> <p>コーディネーター：(48 毛利 健太郎)</p> <p>第1回：精神科治療とリハビリテーション (48 毛利 健太郎)</p> <p>第2回：精神科疾患と生物学的治療 (48 毛利 健太郎)</p> <p>第3回：精神科疾患と生物学的治療 (48 毛利 健太郎)</p> <p>第4回：薬物療法 (48 毛利 健太郎)</p> <p>第5回：心理社会療法 (48 毛利 健太郎)</p> <p>第6回：心理社会療法 (48 毛利 健太郎)</p> <p>第7回：精神科医療システムとその現状 1 (88 四本 かやの)</p> <p>第8回：精神科医療システムとその現状 2 (88 四本 かやの)</p> <p>第9回：精神科リハビリテーション：精神科作業療法 (88 四本 かやの)</p> <p>第10回：精神科リハビリテーション：精神科デイケア (88 四本 かやの)</p> <p>第11回：精神科リハビリテーション：就労支援 (88 四本 かやの)</p> <p>第12回：精神科リハビリテーション：再発防止・入院予防 (88 四本 かやの)</p> <p>第13回：精神科リハビリテーション：長期入院 (109 胡 友恵)</p> <p>第14回：精神科リハビリテーション：保健・福祉分野 (109 胡 友恵)</p> <p>第15回：精神科リハビリテーションの最新のトピック (48 毛利 健太郎)</p>	オムニバス
		作業生活リハビリテーション科学特講Ⅰ	<p>運動機能や作業能力、生活機能、補完学に対して作業療法の観点から事例を学び、考察し、発表する体験を通して、リハビリテーション科学の専門性を高めることを目的としている。一般の作業療法に関する文献を探索したり、自らのテーマに沿ってデータを解析して研究計画に生かす、解析結果を他者に適確に伝える、研究を進める過程での準備や検討事項について考え、実践する。</p> <p>コーディネーター：(33 野田 和恵)</p> <p>第1回：作業療法における先行研究の批判的解釈 1 (76 長尾 徹)</p> <p>第2回：作業療法における先行研究の批判的解釈 2 (76 長尾 徹)</p> <p>第3回：作業療法における研究論文の校正 1 (76 長尾 徹)</p> <p>第4回：作業療法における研究論文の校正 2 (76 長尾 徹)</p> <p>第5回：作業分析と作業能力評価 1 (76 長尾 徹)</p> <p>第6回：運動機能障害と食生活 1 (33 野田 和恵)</p> <p>第7回：運動機能障害と食生活 2 (33 野田 和恵)</p> <p>第8回：研究結果の解析と報告 1 (33 野田 和恵)</p> <p>第9回：研究結果の解析と報告 2 (33 野田 和恵)</p> <p>第10回：関連領域との連携・協同 1 (33 野田 和恵)</p> <p>第11回：作業療法研究に必要な準備と検討事項 1 (107 内田 智子)</p> <p>第12回：作業療法研究に必要な準備と検討事項 2 (107 内田 智子)</p> <p>第13回：運動機能障害、高次脳機能障害と関連活動(育児等) 1 (107 内田 智子)</p> <p>第14回：運動機能障害、高次脳機能障害と関連活動(育児等) 2 (107 内田 智子)</p> <p>第15回：文献検索と整理・管理 1 (107 内田 智子)</p>	オムニバス
		デジタル重層支援特論	<p>高齢者の生活阻害因子に対応できる高い問題解決力、数理・データサイエンスの知識に基づく介護現場のリアルデータを活用できる力を身に付けるために、最新のフォーメーション、インフォーマルケアを学び、介入成果を検証するためのDX及び数理サイエンス的手法について学修する。</p> <p>コーディネーター：(81 前重 伯壮)</p> <p>第1回：重曹支援総論 (81 前重 伯壮)</p> <p>第2回：認知症 (20 古和 久朋)</p> <p>第3回：薬剤管理 (53 安田 尚史)</p> <p>第4回：生理学 (4 石田 達郎)</p> <p>第5回：うつ・痛み (70 園田 悠馬)</p> <p>第6回：認知症・うつ・痛みの評価 (70 園田 悠馬)</p> <p>第7回：フレイル① (81 前重 伯壮)</p> <p>第8回：フレイル② (81 前重 伯壮)</p> <p>第9回：就労支援 (70 園田 悠馬)</p> <p>第10回：旅行支援 (81 前重 伯壮)</p> <p>第11回：ロボティクスケア (81 前重 伯壮)</p> <p>第12回：VR・メタバースケア① (70 園田 悠馬)</p> <p>第13回：VR・メタバースケア② (70 園田 悠馬)</p> <p>第14回：IoT・ICT総論 (70 園田 悠馬)</p> <p>第15回：IoT・ICT各論 (81 前重 伯壮)</p>	オムニバス

健康科学領域専門科目	リハビリテーション科学分野専門科目	デジタル重層支援演習	<p>重層支援Dxに関する研究目的の設定、研究の方法論及びデータ分析の知識と技術について基本的な方法論を理解でき、研究発表や論文作成（英文）が実践できる能力を体得する。</p> <p>(4 石田 達郎) 主として、循環器疾患、医学的治療についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(70 園田 悠馬) 主として、日常生活活動、社会活動、精神・心理学的障害についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(81 前重 伯壮) 主として、骨格筋、創傷、物理療法についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p>	
		行動神経リハビリテーション科学特講 I	<p>認知、運動機能、社会性のある行動と関連するの神経機序を解明する健常脳による脳画像研究や損傷脳による神経心理学的研究の最新知見を学修する。また、その知見をリハビリテーション科学のうち作業療法学への応用方法を学び、検証する研究方法を体験する。</p> <p>コーディネーター：(3 石岡 俊之) 第1回：脳画像を用いた神経解剖と脳領域の同定の仕方 (3 石岡 俊之) 第2回：行動神経学や脳科学研究の目的と手法 (3 石岡 俊之) 第3回：脳の損傷領域と疾患の徴候との関係性の検証するCase studyの方法 (3 石岡 俊之) 第4回：脳の損傷領域と疾患の徴候との関係性の検証するMass studyの方法 (3 石岡 俊之) 第5回：左大脳半球と関連した認知機能と神経心理学検査 (80 林 敦子) 第6回：右大脳半球と関連した認知機能と神経心理学検査 (80 林 敦子) 第7回：前頭葉機能と関連した認知機能と神経心理学検査 (80 林 敦子) 第8回：注意機能と記憶と関連した神経心理学検査 (80 林 敦子) 第9回：新たな認知機能評価の開発研究1 (80 林 敦子) 第10回：新たな認知機能評価の開発研究2 (80 林 敦子) 第11回：認知機能に対する作業療法学研究への応用1 (3 石岡 俊之) 第12回：認知機能に対する作業療法学研究への応用2 (3 石岡 俊之) 第13回：運動機能に対する作業療法学研究への応用1 (3 石岡 俊之) 第14回：運動機能に対する作業療法学研究への応用2 (3 石岡 俊之) 第15回：徴候の神経機序を根拠とした介入効果検証研究手法 (3 石岡 俊之)</p>	オムニバス
		生命情報融合論 I	<p>情報科学は、あらゆる場面で必須となっており、それは生命研究分野や医療現場でも同様である。現代または次世代の医療者になるために、生命システムや情報科学の基礎を理解し、簡単なレベルで自らの研究や業務等に活かせるようになる。</p> <p>本科目では、受講生の業務や研究活動のサポートにつながるような演習等を設定して知識と技術の涵養を行う。</p>	
		医用画像情報科学 I	<p>画像診断に用いられる様々な医用画像について、その撮像原理や画像特性、画像の生成や解析のための情報処理技術、画像コントラストとその背景にある病態生理との関係について概要を学ぶ。</p>	

健康科学領域専門科目	リハビリテーション科学分野専門科目	人間情報科学 I	<p>現代または次世代の医療において、人間情報や人工知能は欠かせないものとなっている。脳をはじめとした人間情報の計測、それを解析する情報技術や脳を模倣した人工知能について学び、簡単なレベルで自らの研究や業務等に活かせるようになる。</p> <p>本科目では受講生の業務や研究活動のサポートにつながるような演習等を設定して知識と技術の涵養を行う。</p> <p>講師：(154 細田 一史, 163 大塚 明香)</p> <p>第1回：各受講生の状況や修得度のすり合わせ 第2回：受講生に關係するCaseを通して人間情報の基礎を学ぶ1 第3回：受講生に關係するCaseを通して人間情報の基礎を学ぶ2 第4回：受講生に關係するCaseを通して人間情報の基礎を学ぶ3 第5回：受講生に關係するCaseを通してプログラミングを学ぶ1 第6回：受講生に關係するCaseを通してプログラミングを学ぶ2 第7回：受講生に關係するCaseを通してプログラミングを学ぶ3 第8回：受講生に關係するCaseを通してプログラミングを学ぶ4 第9回：受講生に關係するCaseを通してプログラミングを学ぶ5 第10回：受講生に關係するCaseを通して人工知能を学ぶ1 第11回：受講生に關係するCaseを通して人工知能を学ぶ2 第12回：受講生に關係するCaseを通して人工知能を学ぶ3 第13回：受講生に關係するCaseを通して人工知能を学ぶ4 第14回：受講生に關係するCaseを通して人工知能を学ぶ5 第15回：人間情報科学のまとめ</p>	共同
		リハビリテーション科学演習 I	<p>研究に関する研究目的の設定、研究の方法論及びデータ分析の知識と技術について基本的な方法論を理解でき、研究発表や論文作成(英文)が実践できる能力を体得する。</p> <p>(2 秋末 敏宏) 主として、整形外科学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(3 石岡 俊之) 主として、疾病、傷病による知覚・認知・行動の変化が起こる神経機序の解明及び介入方法の開発についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(20 古和 久朋) 主として、神経内科学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(33 野田 和恵) 主として、身体障害作業療法学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(37 藤野 英己) 主として、骨格筋障害に対する予防や治療についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(48 毛利 健太郎) 主として、精神科リハビリテーションについての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(51 森山 英樹) 主として、基礎理学療法学・運動器理学療法学・神経学療法学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(57 井澤 和大) 主として、内部障害理学療法学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(70 園田 悠馬) 主として、認知作業療法学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(73 田中 貴士) 主として、基礎理学療法学・神経学療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(76 長尾 徹) 主として、基礎作業学における研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(80 林 敦子) 主として、脳機能低下がみられる患者、健常者を対象として、認知機能・精神症状の評価・介入についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(81 前重 伯壮) 主として、物理療法学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(83 三浦 靖史) 主として、リハビリテーション医学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(88 四本 かやの) 主として、精神障害者に対するリハビリテーション介入・評価についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(135 上口 貴志) 主として、医用画像解析学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(154 細田 一史) 主として、健康情報科学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p>	

未来社会医学領域専門科目	コア科目群1	公衆衛生学・疫学 I	<p>臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対し、公衆衛生学は集団の健康を対象とするものである。現代の公衆衛生学としてキーワードとなる、予防医学・環境の改善・生活水準の保障・健康教育の推進等を授業のテーマとする。</p> <p>第1回：公衆衛生概論(26 篠原 正和) 第2回：衛生統計と疫学 (113 片岡 葵) 第3回：我が国の保健行政 (26 篠原 正和) 第4回：兵庫県における保健医療行政 (253 田所 昌也) 第5回：医療の医療費と医療経済 (227 佐方 信夫) 第6回：包括地域ケアと在宅医療 (187 岩本 喜嵩) 第7回：疾病と社会構造の関係 (268 西岡 大輔) 第8回：医療の倫理と安全 (26 篠原 正和)</p>	オムニバス
		予防医学と保健の実践と評価 I	<p>職域・地域等をフィールドとして、健診結果や疫学研究成果を成員にフィードバックすることにより予防保健につなげる実践活動について、主に事例研究(ケーススタディ)を通じて学ぶ。</p> <p>主な内容は以下のとおり：健康目標の設定とその評価、実施組織の構築と役割・費用分担、成員の合意形成と情報のフィードバック・コミュニケーション、プライバシーと個人情報保護、職域保健活動の事例(産業医の役割)、地域保健活動の事例(保健師の役割)等。</p> <p>第1回：予防医学概論 (26 篠原 正和) 第2回：がんの予防対策 (26 篠原 正和) 第3回：心疾患の予防対策 (26 篠原 正和) 第4回：脳血管疾患の予防対策 (26 篠原 正和) 第5回：感染症の予防対策 (44 宮良 高維) 第6回：母子保健 (266 西尾 久英) 第7回：労働災害の予防対策 (26 篠原 正和) 第8回：災害医療 (299 水谷 和郎)</p>	オムニバス
		臨床疫学 I	<p>疫学研究並びに公衆衛生活動を実際に行いたいと考えている学生にとって必須の「疫学的な考え方」と知識、基本的な技術を提供する講義である。地域・職域等、社会(生活環境下)で実施する疫学研究の理論と方法についての基本を理解することを目的とする。</p> <p>この種の疫学研究を実施・実践する際や利用する際に考慮すべき点を理解し、その具体的な方法と技術について学ぶ。学修内容として、予防保健と疫学の関連、疫学的思考法、疫学研究論文の読み方、疫学研究のデザイン、測定誤差の種類と対策、疾患からみた疫学研究、生活要因からみた疫学研究、保健業務における疫学研究の考え方と方法、保健業務や疾病予防活動への研究成果の利用方法等が含まれる。</p> <p>第1回：疫学の歴史 (136 小野 玲) 第2回：記述疫学の目的と方法 (172 門間 陽樹) 第3回：生態学的研究の目的と方法 (113 片岡 葵) 第4回：横断研究の目的と方法 (26 篠原 正和) 第5回：症例対照研究の目的と方法 (26 篠原 正和) 第6回：コホート研究の目的と方法 (26 篠原 正和) 第7回：介入研究の目的と方法 (26 篠原 正和) 第8回：疫学研究の医学への活用 (26 篠原 正和)</p>	オムニバス

未来 社会 医学 領域 専門 科目	コア 科目 群 2	臨床研究開発の実際	<p>臨床研究開発は、生命科学研究成果の実用化につなげ、新しい技術や製品として評価を加えつつその活用を広げるためのまさに要となるプロセスであり、アカデミアのイニシアティブが益々問われている。その実践のためには、学問的な有効性と安全性、製品開発にかかる知財や権利関係、臨床研究開発の正当な方法論や評価手法、さらに医療上・薬事上の規制も理解し、それらの手法にのっとり一連の研究活動を実施することが必要である。また、医療技術の最適化を広く人民の利益として還元するには医療システムや医療保険システムの基本的理解も必要である。</p> <p>本講義では、臨床研究開発を行う上でのこれら基本的なルールと考え方、実際のな方法論の基礎を修得すること及びアカデミアの重要な使命である臨床研究開発に必要なコンピテンシーの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>第1回：臨床研究とは－原理と実践－ (25 真田 昌爾) 第2回：臨床研究開発のプロセス (82 横本 博雄) 第3回：臨床研究開発における国際的課題 (41 松井 三明) 第4回：臨床研究開発における産学連携と知財の意義 (320 大塚 詩乃) 第5回：研究倫理について－診療と研究の境界線－ (25 真田 昌爾) 第6回：医薬品開発の実際と臨床試験 (94 寛 康正) 第7回：医療機器の研究開発の考え方 (62 小畑 大輔) 第8回：薬事と保険制度－薬事承認と保険収載の違い－ (25 真田 昌爾)</p>	オムニバス
		生物統計学 I	<p>臨床研究を行う際に必要となる生物統計学の意義を伝え、その基本事項を授ける。</p> <p>学生は、講義の前半にて、臨床研究で登場する基本的なデータの型との要約方法及びデータ間の関係性の記述方法を体系的に整理し、各種の臨床研究デザインとの繋がりを学修する。各研究目的に応じた適切な要約指標について理解を深める。講義後半では、前半で得た知識をベースに、各要約指標についての基本的な推定及び仮説検定の枠組みを学修し、データから得られた統計指標の適切な解釈について理解を深める。</p> <p>第1回：医学と統計学の関係 第2回：状態データ・状態変化データの記述 第3回：データ間の関係の記述と研究デザイン 第4回：診断研究・予後予測研究の基礎 第5回：因果推論研究の基礎 第6回：統計学の基本的な枠組み 第7回：推定論・検定論の初歩 第8回：生物統計学に関する最近の話題</p>	
		生物統計学 I 演習	<p>臨床研究に適用される生物統計学的方法の基本的な実用的技術を授ける。特に統計解析ソフトウェアの扱い方を中心に演習を行う。</p> <p>学生は、講義の前半にて、基本的なデータハンドリング技術を学び、臨床研究における解析用データセットの作成要件を整理し、その作成・編集のスキルを修得する。講義後半では、実際の臨床研究を想定したデータを使用し、基本的なデータ記述・データ可視化を実践する。実用的なスキルの修と生物統計学的方法のより深い理解を目指す。</p> <p>第1回：演習環境の構築 第2回：基本的なデータ記述演習 第3回：データ間の関係の記述演習 第4回：データセットの作成・編集実習 第5回：研究を想定した記述統計演習1 第6回：研究を想定した記述統計演習2 第7回：推定・検定演習1 第8回：推定・検定演習2</p>	

未来 社会 医学 領域 専門 科目	コア 科目 群 3	環境保健学 I	<p>本講義では、物理的、化学的、生物学的な環境条件と公衆衛生の相互関係を深く理解し、環境要因が個人及び集団の健康や生存に与える影響を評価できる能力を養う。また、感染症の原因となる微生物の性状や公衆衛生に与えるリスク、感染症発生メカニズムや予防対策等の知識を深めて、実践的な感染症対策を提案できる能力を養う。</p> <p>第1回：生態学と環境衛生 (30 中澤 港) 第2回：毒物学 (30 中澤 港) 第3回：環境及び産業疫学、曝露評価、環境心理学 (30 中澤 港) 第4回：リスク評価、管理、コミュニケーション (30 中澤 港) 第5回：新興・再興感染症 (11 亀岡 正典) 第6回：国際的に問題となる寄生虫感染症 (59 入子 英幸) 第7回：国際的に問題となるウイルス感染症 (11 亀岡 正典) 第8回：細菌感染症 (249 田代 裕己)</p>	オムニバス
		産業環境保健学 I	<p>産業保健について最近の動向と国際的視点についてのアップデートな情報を講義すると同時に、演習を通じて産業保健を職場で遂行するための理論的背景の理解及び実践的技術の基礎を修得することを目的とする。</p> <p>特に、演習では、産業保健の計画と評価、事例分析及び参加型職場改善手法と取り上げており実践的な技術を取得することができる。また、課題を提示し、課題に対する企画立案を行う演習を行い、その結果のプレゼンテーションまでを行うことでプロジェクト遂行のために必要な技術を修得する。</p> <p>第1回：産業保健関連法制度・産業保健総論 第2回：産業保健の動向と国際的広がり 第3回：産業保健と健康リスク管理 第4回：有害作業のリスク管理 第5回：産業保健のマネジメント 第6回：演習：産業保健の事例分析 第7回：演習：職場環境改善 第8回：演習：課題発表</p>	オムニバス
		人類生態学 I	<p>人類の生存を理解するためには、ヒト個体群と諸環境条件との間の言語、社会組織、技術を介した相互作用を総体として理解する必要がある。</p> <p>本講義では、物理化学的環境と人類の相互作用について社会組織や技術が介在することの影響に加え、生物学的環境との相互作用としての疾病や医療について、文化的多様性を踏まえた理解をするための医療人類学の基礎と、人類の生存の究極的な評価指標としての人口の静態及び動態を分析するための人口学の基礎について理解できるようにすることを目指す。</p> <p>第1回：人間化された生態系における人類の生存 (30 中澤 港) 第2回：大気汚染の原因と対策の多様性 (30 中澤 港) 第3回：野生生物の家畜化、作物化と食糧生産の持続可能性 (30 中澤 港) 第4回：人口構造と人口動態の分析 (30 中澤 港) 第5回：人口モデルと人口予測 (30 中澤 港) 第6回：医療人類学における健康の捉え方 (30 中澤 港) 第7回：保健医療の文化的側面 (74 土谷テオリン ちひろ) 第8回：死生観と生命倫理 (30 中澤 港)</p>	オムニバス

未来社会医学領域専門科目	コア科目群4	保健医療政策学 I	<p>疾病の予防・診断・治療, 健康増進, 健康保険, 保健医療サービス等, 保健医療政策の策定, 実施, 評価について, その理論的背景と実際を学修する。</p> <p>コーディネーター: (4 石田 達郎)</p> <p>第1回: 保健医療政策総論 (309 山下 輝夫)</p> <p>第2回: 保健医療制度を司る法律, 行政 (70 園田 悠馬)</p> <p>第3回: 地域包括ケアシステム, 保健・医療・福祉の融合 (4 石田 達郎)</p> <p>第4回: 医療費と保健医療制度の国際比較 (18 見坂 恒明)</p> <p>第5回: 健康増進とヘルスプロモーション (22 坂口 一彦)</p> <p>第6回: 医療従事者の育成と配置 (10 岡山 雅信)</p> <p>第7回: 根拠に基づく臨床検査の開発と実用化 (77 長尾 学)</p> <p>第8回: 医薬品の開発と承認 (137 陰山 卓哉)</p>	オムニバス
		保健医療経済学 I	<p>保健医療サービス提供及び保健医療政策策定の基礎となる経済学的な事項を学修する。</p> <p>コーディネーター: (56 姉崎 久敬)</p> <p>第1回: 保健医療を取り巻く経済学的事項 (70 園田 悠馬)</p> <p>第2回: 保健医療分野におけるQOLと医療経済評価 (1) (69 副島 堯史)</p> <p>第3回: 保健医療分野におけるQOLと医療経済評価 (2) (69 副島 堯史)</p> <p>第4回: 病院経営と医療経済 (229 佐藤 二郎)</p> <p>第5回: 予防医学の医療費 (70 園田 悠馬)</p> <p>第6回: 保健医療情報の利用と応用 (17 樽林 陽一)</p> <p>第7回: 病院医療費の設定とDPC (56 姉崎 久敬)</p> <p>第8回: DPCを用いた保健医療サービス分析 (56 姉崎 久敬)</p>	オムニバス
		グローバルヘルス I	<p>世界で発生している様々な健康格差の主な課題について理解するとともに, その格差を生む要因, さらに人々の健康増進につながる保健指導やヘルスサービス等の支援の在り方を学修することを目的とする。</p> <p>その際には, 特に低中所得国, また高所得国の中でも格差が発生しやすい個人及び集団に焦点をあて, 格差の発生要因と影響について講義する。</p> <p>コーディネーター: (41 松井 三明)</p> <p>第1回: 公衆衛生学, グローバルヘルスの基礎概念 (41 松井 三明)</p> <p>第2回: 保健システムと保健プログラム (41 松井 三明)</p> <p>第3回: 保健プログラムの実施評価 (41 松井 三明)</p> <p>第4回: 人口学の基礎と集団の把握法 (30 中澤 港)</p> <p>第5回: 地域集団の生態学的多様性 (30 中澤 港)</p> <p>第6回: 南太平洋におけるフィールドワーク (74 土谷テオリン ちひろ)</p> <p>第7回: 感染症対策と新興・再興感染症 (11 亀岡 正典)</p> <p>第8回: 移民の健康 (41 松井 三明)</p>	オムニバス

未来社会医学領域専門科目	コア科目群5	社会行動科学 I	<p>健康と病気の行動に関連する社会的・心理的・文化的要因を理解し、公衆衛生上の問題を解決するための戦略を提案するために必要な理論とアプローチ方法を受ける。</p> <p>公衆衛生分野における、健康や医療に関連する人間の行動や心理に関する知見、並びに行動科学の概念が健康や健康関連行動の評価にどのように役立つかを概説する。その上で、行動科学理論に基づいた生活習慣の変容、健康増進活動を導くための知識を修得する。また、心理社会的ストレスや社会文化的環境が健康や行動に及ぼす影響について理解し、行動科学的な地検から、様々な公衆衛生上の問題に対する解決策の提示が行える人材育成を目指す講義とする。</p> <p>第1回：健康行動科学とは (113 片岡 葵) 第2回：個人の行動に着目した理論やモデル(113 片岡 葵) 第3回：集団の行動に着目した理論やモデル (113 片岡 葵) 第4回：健康と貧困 (268 西岡 大輔) 第5回：ジェンダーと医療 (293 本庄 かおり) 第6回：ストレスと健康 (205 菊池 宏幸) 第7回：ナッジ・行動経済学入門 (113 片岡 葵) 第8回：ヘルスリテラシー (113 片岡 葵)</p>	オムニバス
		健康教育・健康心理学 I	<p>健康教育の転換とヘルスプロモーションの展開、健康教育の目的と方法について知る。また、健康教育・ヘルスプロモーションの基礎となる行動科学や健康心理学等の理論とモデルを学び、個人・集団・社会を対象として効果的な健康教育・ヘルスプロモーション実践への適用を理解する。諸理論（グループワーク理論、健康学習理論、行動変容理論、プリシード・プロシードモデル等）を用いながら、健康教育の展開過程に関する基本的知識と技術を修得する。</p> <p>第1回：健康教育の転換とヘルスプロモーションの展開 (5 和泉 比佐子) 第2回：健康教育の目的と技術、ヘルスリテラシー (113 片岡 葵) 第3回：健康教育に活用できる諸理論1 (行動科学等) (5 和泉 比佐子) 第4回：健康教育に活用できる諸理論1 (健康心理学等) (80 林 敦子) 第5回：健康教育の展開過程：対象集団のアセスメント (5 和泉 比佐子) 第6回：健康教育の展開過程：計画立案及び評価計画 (5 和泉 比佐子) 第7回：健康教育の展開過程：実施・評価 (5 和泉 比佐子) 第8回：ライフスキル教育を取り入れた健康教育 (5 和泉 比佐子)</p>	オムニバス
	発展科目	医療情報システム	<p>本講義は、医療情報学の基礎から最新の応用技術、将来的な展望までを学ぶことを目的とする。医療情報学は、医療データの管理、分析、活用を通じて医療の質向上や効率化を図る学問である。</p> <p>本講義では、医療情報学の基礎理論、データ管理・分析、AIの応用、データセキュリティと倫理的課題、政策・制度との関係といったテーマを包括的に扱う。オムニバス形式で、各回に異なるテーマを取り上げ、医療情報学の多様な側面について深い理解を促す。</p> <p>第1回：医療情報学の概要と歴史的発展 (56 姉崎 久敬) 第2回：医療データの管理と標準化 (151 平松 治彦) 第3回：医療データ解析とエビデンス創出 (56 姉崎 久敬) 第4回：AIと機械学習の医療応用 (56 姉崎 久敬) 第5回：医療データのセキュリティと倫理 (165 川井 享代) 第6回：医療政策と制度、医療情報学の役割 (17 榎林 陽一) 第7回：新たなテクノロジーと未来の医療情報学 (150 西村 邦宏) 第8回：医療情報学研究の最新事例と今後の展望 (56 姉崎 久敬)</p>	オムニバス

未来社会医学領域専門科目	発展科目	医療情報解析学	<p>本講義では、医療情報解析の基礎から応用までを全8回にわたり学修する。医療現場で日々生成される多種多様な医療情報データ、特にレセプト情報を中心に、その特性や解析手法を理解することを目的とする。データの収集方法や管理、前処理、統計解析、統計的機械学習といった高度な解析手法、そして、解析結果をどのように医療現場や政策立案に活用するかまでの一連のプロセスを総合的に学ぶ。また、医療データの取り扱いにおける倫理的・法的側面も詳しく取り上げ、データの安全かつ効果的な利用方法を探求する。最終的には、データ駆動型医療の未来展望を考察し、医療情報解析の分野での活用を議論する。</p> <p>第1回：医療情報の概要とレセプト情報の基礎（56 姉崎 久敬） 第2回：医療データの標準化とフォーマット（56 姉崎 久敬） 第3回：医療データの収集、管理と倫理・法的側面（165 川井 享代） 第4回：データ前処理とクレンジング（325 藤原 彩子） 第5回：医療データの統計解析（56 姉崎 久敬） 第6回：機械学習とAIによる医療情報解析（56 姉崎 久敬） 第7回：データ可視化と結果の解釈（325 藤原 彩子） 第8回：医療情報解析の応用事例と未来展望（56 姉崎 久敬）</p>	オムニバス
		健康危機管理	<p>人々の生命、健康を脅かす健康危機（感染症集団発生、大規模災害等）に対する未然防止、発生時に備えた準備、発生時の対応及び健康危機による被害の回復を含めた健康危機管理の実際と地域保健従事者の役割等について、根拠法を含めて理解する。また、リスクコミュニケーションの在り方、行政機関・医療機関・民間企業・住民組織等と協働した地域における健康危機管理体制の整備、健康危機管理の各段階における支援策を検討し、健康危機の発生時から発生後の健康課題を早期に発見し迅速かつ組織的に対応できるための能力を修得する。</p> <p>第1回：健康危機管理システムと保健活動（309 山下 輝夫） 第2回：感染症の動向と今日的課題（134 岩田 健太郎） 第3回：海外渡航前の危機管理（162 大路 剛） 第4回：健康危機管理における保健活動の実際：感染症対応を中心に（302 森井 文恵） 第5回：災害保健活動と保健師の機能（65 小寺 さやか） 第6回：災害各期の保健師活動の実際（181 福岡 由美子） 第7回：健康危機管理のための人材育成と人材管理（181 福岡 由美子） 第8回：健康危機時のリスクコミュニケーション（171 村山 留美子）</p>	オムニバス
		災害保健学特講	<p>災害保健学について、国際防災や防災技術、災害時の救急医療まで視野に入れた包括的な講義を行う。 講義で扱うトピックは以下のとおりである。</p> <p>第1回：災害保健学の枠組み（30 中澤 港） 第2回：国際防災（141 桜井 愛子） 第3回：災害対策サイクル（30 中澤 港） 第4回：防災と減災の技術（30 中澤 港） 第5回：復興支援論（30 中澤 港） 第6回：災害救急医療（30 中澤 港） 第7回：災害と公衆衛生（30 中澤 港） 第8回：被災者の生活（30 中澤 港）</p>	オムニバス

未来 社会 医学 領域 専門 科目	発 展 科 目	感染症モデリング	<p>本科目は、感染症に関する疫学データ分析方法に関する基礎的知識を概説した上で、COVID-19や新たなパンデミックについての現状・課題・分析方法について、具体的事例を挙げて概説する。さらに、COVID-19をはじめとする市中や施設内で感染が拡大する感染性疾患をどのようにコントロール（管理）するか、社会や施設への影響をどのように最小化するか、についてモデルを考案し、提示する。</p> <p>第1回：感染症モデリング概論（138 國谷 紀良） 第2回：感染症疫学と感染症発生動向調査（44 宮良 高維） 第3回：基本再生産数と集団免疫（44 宮良 高維） 第4回：アウトブレイク発生時のパラメータ解析（44 宮良 高維） 第5回：感染症モデルのデザイン（44 宮良 高維） 第6回：感染症蔓延予防（30 中澤 港） 第7回：緊急事態対応と政策関連疾患モデル（30 中澤 港） 第8回：まとめ（30 中澤 港）</p>	オムニバス
		EBPM	<p>EBPM (Evidence-based policy making: 証拠に基づく政策立案) とは、その場限りの状況に対応して政策を企画するのではなく、政策目的を明確化したうえで合理的エビデンスに基づいて政策を立案することである。</p> <p>本科目は、社会的諸問題に対して公衆衛生的な分析と対策を考え、解決法を見出し政策立案の根拠となる成果を情報発信することを目標に講義形式で実施する。</p> <p>第1回：EBPMとは（22 坂口 一彦） 第2回：社会問題と根拠に基づく政策立案手法（22 坂口 一彦） 第3回：データサイエンスの活用と政策立案（121 西森 誠） 第4回：データ利用の方法とその応用（121 西森 誠） 第5回：AIの活用と政策立案（121 西森 誠） 第6回：地域医療政策課題の分析（18 見坂 恒明） 第7回：医療人材の育成と配置（19 小林 成美） 第8回：プレゼンテーションと総合討論（22 坂口 一彦）</p>	オムニバス

未来 社会 医学 領域 専門 科目	発 展 科 目	社会疫学・行動経済学	<p>疫学は、一般に健康事象の頻度と分布を把握し、健康事象発生の原因についての因果推論を行う学問であるが、古典的な疫学は、健康事象として疾病、原因としてコントロール可能な環境要因に注目してきた。それを、予防や健康増進を含む健康事象一般に対する社会的決定因子全般に拡大した枠組みが、社会疫学であるといえる。</p> <p>社会格差、貧困、ジェンダー、民族、ソーシャル・キャピタルといった社会的決定因子は、コントロールが難しいことが多いが、ハーバード大学を中心に発展した社会疫学の研究では、コミュニティへの介入によって、健康増進や健康状態の改善が可能かという実証研究がなされ、多くのことがわかってきた。</p> <p>しかし、社会への介入には、政治的決定と多額の経費が必要となり、合理的な算出根拠が求められる。ヒトは、健康や医療に関しては合理的行動をしないことがほぼ自明であるため、合理的経済人を前提とする古典的経済学の枠組みでは、社会的介入のコスト・ベネフィット分析ができない。そこで、求められるのが、カーネマンらが大成し、近年のノーベル経済学賞の受賞対象の多くを占める行動経済学の方法論である。</p> <p>本講義ではこれら2つの比較的新しい学問分野を関連付けながら教授する。</p> <p>第1回：社会疫学概論 (30 中澤 港) 第2回：貧困、社会格差、社会的排除と健康 (30 中澤 港) 第3回：ソーシャル・キャピタルと健康 (26 篠原 正和) 第4回：コミュニティ介入研究 (30 中澤 港) 第5回：行動経済学概論 (30 中澤 港) 第6回：ゲーム理論 (30 中澤 港) 第7回：仮想評価法 (30 中澤 港) 第8回：ナッジ理論とプロスペクト理論 (30 中澤 港)</p>	オムニバス
		ヘルスサービスの評価	<p>疾病予防対策、医療保険制度、医療提供体制、医療評価等、種々の健康・医療に関わる制度・政策の背景並びに立案・実施、報道、社会への影響について、様々なステークホルダーの立場、関連の法令、費用負担のあり方等を学修するとともに、実際の事例を通して理解を深める。</p> <p>第1回：健康医療政策学序論・我が国の医療提供体制の特徴 (26 篠原 正和) 第2回：日本の社会保障・健康医療政策の歴史 (26 篠原 正和) 第3回：政策評価の理論と現実 (26 篠原 正和) 第4回：医療の質評価 (26 篠原 正和) 第5回：診療報酬の決定過程と課題 (227 佐方 信夫) 第6回：医療と介護のヘルスサービス (26 篠原 正和) 第7回：疾病対策の動き (26 篠原 正和) 第8回：医療の需給と地域医療構想 (10 岡山 雅信)</p>	オムニバス
		地域医療システム特講	<p>地域保健・医療の実践を円滑に進めるために、地域医療システムの概要と重要性の理解及び活用事例を学修する。本科目は、地域医療システムに係る各要素を理解した上で、各要素による保健、医療、福祉、介護への影響、また、地域保健、医療の制度等への影響を説明でき、地域医療システムを理解して上での実際の活動計画を立てることができることを目標に講義形式で実施する。</p> <p>第1回：地域医療システムと地域社会（構成要素・人的要素とその役割） (10 岡山 雅信) 第2回：地域医療資源の分布と健康指標・受療行動 (22 坂口 一彦) 第3回 地域医療及び地域人材の育成・地域力 (10 岡山 雅信) 第4回：地域の子どもの健康管理・子育て支援 (298 三品 浩基) 第5回：障害児の支援システム (258 常石 秀市) 第6回：小児の在宅医療 (274 橋本 直樹) 第7回：小児の虐待 (148 永瀬 裕朗) 第8回：人々のライフサイクルと地域医療システムの実践例 (18 見坂 恒明)</p>	オムニバス

<p>総合知・専門知結合科目</p>	<p>先進生命医科学プロジェクト研究A</p>	<p>博士課程前期課程2年間を通して、生命科学に関する研究テーマを決定し、先行研究レビュー、研究計画立案、倫理審査書類作成、実験の実施、データ解析等を行い、解釈と考察を基にして修士論文を執筆する。</p> <p><バイオメディカルサイエンス領域></p> <p>(1 青井 貴之) 主として、幹細胞医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(6 伊藤 俊樹) 主として、膜生物学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(8 上山 健彦) 主として、神経情報伝達学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(12 片田 竜一) 主として、法医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(15 菊田 順一) 主として、免疫学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(21 酒井 良忠) 主として、がんリハビリテーションに係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(23 匂坂 敏朗) 主として、膜動態学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(24 佐々木 良平) 主として、放射線腫瘍学・医学物理学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(27 勝二 郁夫) 主として、感染制御学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(32 仁田 亮) 主として、生体構造解剖学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(38 古屋敷 智之) 主として、薬理学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(40 堀江 真史) 主として、分子病理学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(42 松岡 広) 主として、バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(43 宮西 正憲) 主として、細胞医科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(54 矢野 育子) 主として、薬剤学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p>	
--------------------	-------------------------	---	--

<p>総合知・専門知結合科目</p>	<p>先進生命医科学プロジェクト研究B</p>	<p>博士課程前期課程2年間を通して、医療機器または医療機器開発に関する研究テーマを決定し、先行研究レビュー、研究計画立案、倫理審査書類作成、実験の実施、データ解析等を行い、解釈と考察を基にして修士論文を執筆する。</p> <p><医療創成工学領域> (9 大谷 亨) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。 (13 木内 邦彦) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。 (14 祇園 景子) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。 (28 菅野 公二) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。 (29 富畑 賢司) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。 (46 向井 敏司) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。 (47 村垣 善浩) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。 (50 森田 圭紀) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。 (52 保多 隆裕) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。 (63 加藤 博史) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。 (71 鷹尾 俊達) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。 (78 中楯 龍) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。 (89 和田 則仁) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p>	
--------------------	-------------------------	--	--

<p>総合知・専門知結合科目</p>	<p>先進生命医科学プロジェクト研究C</p>	<p>博士課程前期課程2年間を通して、健康科学に関するに関する研究テーマを決定し、先行研究レビュー、研究計画立案、倫理審査書類作成、実験の実施、データ解析等を行い、解釈と考察を基にして修士論文を執筆する。</p> <p><健康科学領域></p> <p>(2 秋末 敏宏) 主として、整形外科学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(3 石岡 俊之) 主として、疾病、傷病による知覚・認知・行動の変化が起こる神経機序の解明および介入方法の開発に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(5 和泉 比佐子) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(7 伊藤 光宏) 主として、細胞機能・構造科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(16 グライナー 智恵子) 主として、老年看護学・国際看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(20 古和 久朋) 主として、神経内科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(33 野田 和恵) 主として、身体障害作業療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(34 柱本 照) 主として、臨床免疫学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(36 藤田 和佳子) 主として、母性看護学・助産学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(37 藤野 英己) 主として、骨格筋障害に対する予防や治療についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(39 法橋 尚宏) 主として、家族看護学・小児看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(45 宮脇 郁子) 主として、療養支援看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(48 毛利 健太郎) 主として、精神科リハビリテーションに係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(51 森山 英樹) 主として、基礎理学療法学・運動器理学療法学・神経理学療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(53 安田 尚史) 主として、ヒューマンヘルスに係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(55 山下 公大) 主として、分析医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(57 井澤 和大) 主として、内部障害理学療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(65 小寺 さやか) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学・国際保健学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(67 駒井 浩一郎) 主として、細胞機能・構造科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(68 千場 直美) 主として、母性看護学・助産学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(73 田中 貴士) 主として、基礎理学療法学・神経理学療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(76 長尾 徹) 主として、基礎作業学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(79 中山 貴美子) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(80 林 敦子) 主として、脳機能低下がみられる患者、健常者を対象として、認知機能・精神症状の評価・介入に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p>
--------------------	-------------------------	--

総合知・専門知結合科目	先進生命医科学プロジェクト研究C	<p>(81 前重 伯壮) 主として、物理療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(83 三浦 靖史) 主として、リハビリテーション医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(88 四本 かやの) 主として、精神障害者に対するリハビリテーション介入・評価に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p>	
	先進生命医科学プロジェクト研究D	<p>博士課程前期課程2年間を通して、公衆衛生学に関する研究テーマを決定し、先行研究レビュー、研究計画立案、倫理審査書類作成、実験の実施、データ解析等を行い、解釈と考察を基にして修士論文を執筆する。</p> <p><未来社会医学領域> (4 石田 達郎) 主として、医療健康政策学、地域医療学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(11 亀岡 正典) 主として、国際環境保健学、ウイルス学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(17 樽林 陽一) 主として、AI・デジタルヘルス科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(18 見坂 恒明) 主として、地域医療支援学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(19 小林 成美) 主として、医学教育学、地域医療学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(22 坂口 一彦) 主として、地域医療教育学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(25 真田 昌爾) 主として、臨床研究開発科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(26 篠原 正和) 主として、分子疫学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(30 中澤 港) 主として、国際環境保健学、人類生態学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(31 西村 範行) 主として、社会行動科学、小児保健学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(41 松井 三明) 主として、国際環境保健学、周産期医療学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(59 入子 英幸) 主として、国際環境保健学、感染症学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(69 副島 堯史) 主として、がん看護学、小児看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(70 園田 悠馬) 主として、社会行動科学、リハビリテーションに係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(77 長尾 学) 主として、医療政策学、立証検査医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p>	

<p>総合知・専門知結合科目</p>	<p>プレゼンテーション演習</p>	<p>科学技術者には、研究・開発内容に関するプレゼンテーションを効果的に行うスキルが要求される。本演習では、魅力的なプレゼンテーションの達成に向けて、発表を行いたい内容をより明確に聴衆に伝える能力を身につけさせる。</p> <p>具体的には、関連文献の内容を紹介する発表、学会等での各自の研究成果の発表等において、論理的な発表校正の組み立てや、聴衆に理解されやすいプレゼンテーションの実行が可能となるように指導を行う。また、質疑応答においては、科学的な説明を行い、学問の次の展開につながるような指導を行う。</p> <p><バイオメディカルサイエンス領域></p> <p>(1 青井 貴之) 主として、幹細胞医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(6 伊藤 俊樹) 主として、膜生物学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(8 上山 健彦) 主として、神経情報伝達学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(12 片田 竜一) 主として、法医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(15 菊田 順一) 主として、免疫学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(21 酒井 良忠) 主として、がんリハビリテーションに係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(23 匂坂 敏朗) 主として、膜動態学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(24 佐々木 良平) 主として、放射線腫瘍学・医学物理学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(27 勝二 郁夫) 主として、感染制御学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(32 仁田 亮) 主として、生体構造解剖学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(38 古屋敷 智之) 主として、薬理学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(40 堀江 真史) 主として、分子病理学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(42 松岡 広) 主として、バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(43 宮西 正憲) 主として、細胞医科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(54 矢野 育子) 主として、薬剤学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p><医療創成工学領域></p> <p>(9 大谷 亨) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(13 木内 邦彦) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(14 祇園 景子) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(28 菅野 公二) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(29 富畑 賢司) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(46 向井 敏司) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(47 村垣 善浩) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(50 森田 圭紀) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(52 保多 隆裕) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。</p>
--------------------	--------------------	--

<p>総合知・専門知結合科目</p>	<p>プレゼンテーション演習</p>	<p>(63 加藤 博史) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(71 鷹尾 俊達) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(78 中橋 龍) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(89 和田 則仁) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p><健康科学領域> (2 秋末 敏宏) 主として、整形外科学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(3 石岡 俊之) 主として、疾病、傷病による知覚・認知・行動の変化が起こる神経機序の解明および介入方法の開発に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(5 和泉 比佐子) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(7 伊藤 光宏) 主として、細胞機能・構造科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(16 グライナー 智恵子) 主として、老年看護学・国際看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(20 古和 久朋) 主として、神経内科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(33 野田 和恵) 主として、身体障害作業療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(34 柱本 照) 主として、臨床免疫学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(36 藤田 和佳子) 主として、母性看護学・助産学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(37 藤野 英己) 主として、骨格筋障害に対する予防や治療についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(39 法橋 尚宏) 主として、家族看護学・小児看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(45 宮脇 郁子) 主として、療養支援看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(48 毛利 健太郎) 主として、精神科リハビリテーションに係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(51 森山 英樹) 主として、基礎理学療法学・運動器理学療法学・神経理学療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(53 安田 尚史) 主として、ヒューマンヘルスに係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(55 山下 公大) 主として、分析医科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(57 井澤 和大) 主として、内部障害理学療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(65 小寺 さやか) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学・国際保健学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(67 駒井 浩一郎) 主として、細胞機能・構造科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(68 千場 直美) 主として、母性看護学・助産学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(73 田中 貴土) 主として、基礎理学療法学・神経理学療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(76 長尾 徹) 主として、基礎作業学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p>	
--------------------	--------------------	--	--

<p>総合知・専門知結合科目</p>	<p>プレゼンテーション演習</p>	<p>(79 中山 貴美子) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(80 林 敦子) 主として、脳機能低下がみられる患者、健常者を対象として、認知機能・精神症状の評価・介入に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(81 前重 伯壮) 主として、物理療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(83 三浦 靖史) 主として、リハビリテーション医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(88 四本 かやの) 主として、精神障害者に対するリハビリテーション介入・評価に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p><未来社会医学領域></p> <p>(4 石田 達郎) 主として、医療健康政策学、地域医療学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(11 亀岡 正典) 主として、国際環境保健学、ウイルス学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(17 樽林 陽一) 主として、AI・デジタルヘルス科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(18 見坂 恒明) 主として、地域医療支援学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(19 小林 成美) 主として、医学教育学、地域医療学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(22 坂口 一彦) 主として、地域医療教育学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(25 真田 昌爾) 主として、臨床研究開発科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(26 篠原 正和) 主として、分子疫学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(30 中澤 港) 主として、国際環境保健学、人類生態学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(31 西村 範行) 主として、社会行動科学、小児保健学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(41 松井 三明) 主として、国際環境保健学、周産期医療学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(59 入子 英幸) 主として、国際環境保健学、感染症学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(69 副島 堯史) 主として、がん看護学、小児看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(70 園田 悠馬) 主として、社会行動科学、リハビリテーションに係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(77 長尾 学) 主として、医療政策学、立証検査医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p>	
--------------------	--------------------	--	--

授 業 科 目 の 概 要				
(医学研究科博士課程後期課程医療創成工学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
マネジメント科目	プロジェクトマネジメント学特論		<p>全学生を対象に、プロジェクトマネジメントに必要な知識やスキルを授ける。</p> <p>初期の医療機器開発プロジェクトを自ら先導できるようにするために、また、適切にプロジェクトの資金を運用するために、多職種から構成されるチームを効率的に管理する方法を理解することが重要である。</p> <p>学生は、プロジェクトとは何か、通常業務との違い、プロジェクトマネジメントの概要、計画立案、プロジェクトマネジメントのツール（マイルストーン、WBS、ガントチャートによるプロジェクト管理、リスクログ分析等）の学修を通して、効果的なプロジェクトの管理方法の概要を学ぶ。</p> <p>講義に加えて、「医療機器コンセプト創造演習」で作成した課題をベースにワークを行う。</p> <p>コーディネーター：(2 木内 邦彦, 14 山口 智子)</p> <p>第1～3回：プロジェクトの実例 (30 波多 伸彦)</p> <p>第2～4回：プロジェクトマネジメント総論 (18 原 陽介)</p> <p>第5・6回：プロジェクトマネジメント・ワークショップ (医療機器コンセプト創造演習よりテーマを継続) (18 原 陽介)</p> <p>第7・8回：医療機器開発ケースメソッド (9 保多 隆裕)</p>	オムニバス
	ビジネスプランニング学特論		<p>全学生を対象に、医療機器ビジネスの経営に必要なビジネスプランニングの知識やスキルを授ける。</p> <p>医療機器を開発・上市して事業を継続するには、技術開発や検証のプランニングだけではなく、医療機器ビジネスのプランニングも重要となる。</p> <p>学生は、医療機器ビジネスの全体像を理解した上で各関係者と連携を取るスキルを身に付けるため、操業計画、財務モデル、資金調達計画、出口(Exit)戦略について理解を深める。経営に関する一般的知識の理解・習得だけでなくとどまらず、投資家(ベンチャーキャピタル等)の視点から事業計画の立て方、進め方や実例の紹介(ゲスト講師を交えての討論)といったトピックで講義を行い、より実践的な知識を付けることを特徴とする。</p> <p>コーディネーター：(9 保多 隆裕, 10 加藤 博史)</p> <p>第1回：事業創造のためのアントレプレナーシップとイノベーション (26 新藤 晴臣)</p> <p>第2回：ターゲット顧客の特定と製品・サービスの設計 (26 新藤 晴臣)</p> <p>第3回：事業環境と競合企業の分析 (26 新藤 晴臣)</p> <p>第4回：利益を生み出す構造の理解とリスクの分析 (26 新藤 晴臣)</p> <p>第5回：成長ステージ別の資金調達手段の選択とマイルストーンの設定 (26 新藤 晴臣)</p> <p>第6回：資金調達計画 (26 新藤 晴臣)</p> <p>第7回：ベンチャーキャピタル投資の実践：海外VC (24 清峰 正志)</p> <p>第8回：エグジット戦略、成長戦略としてのIPOとM&A (26 新藤 晴臣)</p>	オムニバス
	アントレプレナー・リーダーシップ学特論		<p>全学生を対象に、起業や新規事業の推進に必要なマネジメント能力及リーダーシップ力を授ける。</p> <p>医療機器開発において全く新しい製品を開発して世に出すためには、既存事業の継続に必要な経営や技術に関する知識だけでなく、強いリーダーシップとアントレプレナーシップ(起業家精神)が必要とされる。学生は、特に新規事業で重要なマネジメント能力、リーダーシップ力、ポジティブ思考、ネットワーク力を身に付けるために、プレゼンテーションスキル、チームングスキル、リーダーとしての行動・判断、アントレプレナー/イントレプレナーとは、キャリアデザインについて学修し、さらには実際の起業家(米国)の生の声を聞いて学びを深める。</p> <p>コーディネーター：(5 富畑 賢司, 7 村垣 善浩)</p> <p>第1回：プレゼンテーションスキル(ピッチスキル、文章スキル) (18 原 陽介)</p> <p>第2回：チームング(多様な人材、学習するチーム、チームビルディングの重要性) (29 永元 哲治)</p> <p>第3・4回：キャリアデザイン(アントレプレナー、イントレプレナー他の判断) (23 加藤 毅)</p> <p>第5回：エフェクチュエーション (19 吉田 満梨)</p> <p>第6回：リーダーシップ論(医療機器関係の企業、アントレプレナー起業家による経験紹介) (15 熊野 正樹)</p> <p>第7回：リーダーシップ論(医療機器関係の企業、アントレプレナー起業家による経験紹介) (20 青山 裕紀)</p> <p>第8回：リーダーシップ論(医療機器関係の企業、アントレプレナー起業家による経験紹介) (25 塩村 仁)</p>	オムニバス

マネジメント科目	医療機器国際開発特論		<p>全学生を対象に、医療機器の海外での開発や販売に必要な知識やスキルを授ける。</p> <p>医療機器事業は、国内と比べて需要が伸びているグローバル市場を視野に開発を行うことが重要であるが、海外の医療機器市場の状況を元に適切な戦略を決定するだけの知識・情報が不足している。本講では、米国、欧州市場に加えて、アジアを中心とした新興国市場について、それぞれに精通した講師から最新情報を提供する。</p> <p>学生は、医療機器開発プロジェクトの国際展開について、方針を立てて適切な情報収集・連携活動を行えるようになることを目標に、医療機器のグローバル市場についての理解を深める。海外の政治・経済事情、医療制度や病院・クリニックの状況、ヘルスケア市場、規制や保険の仕組み、製造販売と流通の仕組みについて学び、広い視野でのグローバルな医療機器開発戦略を学修する。</p> <p>コーディネーター：(11 鷹尾 俊達, 4 菅野 公二)</p> <p>第1回：アジアの医療機器開発① (31 Meng-Huang Wu)</p> <p>第2回：アジアの医療機器開発② (22 大谷 英輝)</p> <p>第3回：欧州の医療機器開発及びビジネスディベロプメント (28 中西 徹弥)</p> <p>第4回：米国の医療機器開発① (27 多田 智裕)</p> <p>第5回：米国の医療機器開発② (21 池野 文昭)</p> <p>第6回：革新的医療機器に必要な海外を見据えた戦略と考え方 (32 大下 創)</p> <p>第7回：世界の医療機器開発① (34 内田 毅彦)</p> <p>第8回：世界の医療機器開発② (35 松本 亨)</p>	オムニバス
講義学研究先端	先端医学シリーズ		<p>各種疾患領域における腫瘍、自己免疫疾患、炎症性疾患と免疫システムの関与について最新の学術的知識を学び、将来的問題点や新規治療への応用の可能性について考える。</p>	
別大講義院特	大学院特別英語		<p>口頭及び視覚的プレゼンテーションの能力を修得する。</p> <p>第二言語での人前での会話に自信を持つ。</p> <p>説得力のある言語を使用する能力を修得する。</p>	
インターンシップ	ジョブ型研究インターンシップ		<p>ジョブ型研究インターンシップ推進協議会が実施する長期間（2ヶ月以上）のジョブ型研究インターンシップに参加することにより、自らの専門性を客観的に観ることで進路の可能性を広げるとともに、今後拡大が見込まれるジョブ型採用を見据え、国際競争に耐え得る研究力に裏打ちされた実践力を養成する。</p> <p>(講師:1 大谷 亨, 2 木内 邦彦, 3 祇園 景子, 4 菅野 公二, 5 富畑 賢司, 6 向井 敏司, 7 村垣 善浩, 8 森田 圭紀, 9 保多 隆裕, 10 加藤 博史, 11 鷹尾 俊達, 12 中楯 龍, 13 和田 則仁)</p>	共同

特別研究	特別研究	<p>博士課程後期課程3年間を通して実施する特別研究では医療機器または医療機器開発に関する研究テーマを学生は自ら決定し、研究プロジェクトを立案、企画、推進することで、独創的な成果を得ることが期待される。研究成果は博士論文として執筆する。</p> <p>(1 大谷 亨) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(2 木内 邦彦) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(3 祇園 景子) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(4 菅野 公二) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(5 富畑 賢司) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(6 向井 敏司) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(7 村垣 善浩) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(8 森田 圭紀) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(9 保多 隆裕) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(10 加藤 博史) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(11 鷹尾 俊達) 主として、治療・診断機器を適切に動作させるためのシステムや治療パッケージ全般に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(12 中楯 龍) 主として、体外からアプローチして精密に治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(13 和田 則仁) 主として、体内に留置して治療・診断する機器に係るテーマについて研究指導を行う。</p>	
------	------	--	--

授 業 科 目 の 概 要				
(医学系研究科博士課程後期課程健康科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
健康科学専攻共通科目	健康科学研究共通特講 III		<p>健康科学研究を行う上で様々な場面で発生する倫理的課題に対応するために、適用される法令を理解する。また、健康科学研究で遭遇する可能性の高い倫理的課題に関わる具体的な事例に対して、個人や組織の対応の方法を理解し、倫理的に配慮された健康科学研究を展開できる実践的能力を修得する。</p> <p>第1回：健康科学研究の倫理的な実践（43 西村 範行） 第2・3回：研究倫理と規範（63 福山 好典） 第4・5回：大学発ベンチャーの実践と展望（59 立花 太郎） 第6・7回：医療的ケアの実践と課題（57 高田 哲） 第8・9回：QOL支援とQOD支援（64 船戸 正久） 第10・11回：倫理的な健康科学研究計画書の書き方（2 石岡 俊之） 第12・13回：利益相反とそのマネジメント（66 八浪 公夫） 第14・15回：大学における知的財産権の獲得とその活用（60 立岡 敏雄）</p>	オムニバス
	健康科学研究共通特講 IV		<p>教員による各領域の研究紹介から、1) 大学院生自身が所属する専門領域の研究法だけでなく健康科学における他の領域の研究法を学び、研究の現状と動向を広く深く知る、2) 前期課程よりも発展的な研究法に関する知識を学ぶことで院生自身の研究の立案や実施に役立ち、博士論文に向けたそれぞれの研究をより深め、良いものにする、3) 健康科学領域の研究者間の協働を容易にし、領域間、他分野との共同研究や学際的な研究をも視野に入れる、といった観点から、健康科学領域の研究法を学ぶことを目標とする。研究法を学ぶことにより学生への教育の方法・技術、教育法、そしてその本質・目標について考えることも目指す。</p> <p>コーディネーター：（23 林 敦子） 第1回：研究法に関するオリエンテーション2（23 林 敦子） 第2回：認知症を対象とした認知機能に関する研究2（23 林 敦子） 第3回：しょうがいを持つ対象者の生活活動に関する研究2（32 内田 智子） 第4回：特殊環境による生体応答と健康寿命の延伸2（10 藤野 英己） 第5回：組織学的検索法の基礎について2（50 鴨志田 伸吾） 第6回：看護学領域における技術の可視化、定量化に関する研究2（49 石井 豊恵） 第7回：小児がんのトランスレーショナルリサーチ2（43 西村 範行） 第8回：運動療法に関する研究～ヒトを対象とした運動生理学的観点からの追求～2（27 小野 くみ子） 第9回：認知症における血中バイオマーカーの探索（30 吉田 幸祐） 第10回：関節リウマチと日内リズム、時計遺伝子群の関与1（8 柱本 照） 第11回：サブサハラ・アフリカ諸国における分娩モニタリングの質に関する研究2（9 藤田 和佳子） 第12回：DPC (Diagnosis Procedure Combination) の保健学研究への応用2（41 石田 達郎） 第13回：認知症予防に対する運動を中心とした多因子介入と社会実装に関する研究2（34 沖 侑太郎） 第14回：心の臨床研究のための基礎知識2（13 毛利 健太郎） 第15回：研究法全体のまとめ2（13 毛利 健太郎）</p>	オムニバス

健康科学専攻共通科目	サイエンティフィック・イングリッシュ特講Ⅱ	<p>応用言語学の最新研究から学ぶ専門言語の取得法を基に、英語による科学論文を作成する際に必要なスキルを体系的に習得することを目的としている。論文執筆の基礎から、具体的な論文構成、さらには発表の仕方を学び、学生は英語による科学論文を作成し、国際的な学術コミュニティで自分の研究成果を発表できるようになることを目指し、国際的な学術コミュニティで活躍するための素養を修得する。</p> <p>コーディネーター：(7 野田 和恵) 第1回：コーパス言語学と言語分析ツールの学習 (62 野口 Judy 津多江) 第2回：論文執筆の基礎と学術英語 (62 野口 Judy 津多江) 第3回：効果的な文献調査と引用 (62 野口 Judy 津多江) 第4回：論文の構成と論理展開 (62 野口 Judy 津多江) 第5回：各セクションの書き方 (Introduction) (62 野口 Judy 津多江) 第6回：各セクションの書き方 (Methods) (62 野口 Judy 津多江) 第7回：各セクションの書き方 (Results) (62 野口 Judy 津多江) 第8回：各セクションの書き方 (Discussion) (62 野口 Judy 津多江) 第9回：抄録の書き方、キーワードの選出 (62 野口 Judy 津多江) 第10回：リスニングの練習 (62 野口 Judy 津多江) 第11回：暗唱の練習 (62 野口 Judy 津多江) 第12回：カバーレターの書き方 (62 野口 Judy 津多江) 第13回：研究発表のスピーチ 1 (62 野口 Judy 津多江, 7 野田 和恵) 第14回：研究発表のスピーチ 2 (62 野口 Judy 津多江, 7 野田 和恵) 第15回：研究発表のスピーチ 3 (62 野口 Judy 津多江, 7 野田 和恵)</p>	オムニバス、共同
	メディカルデータサイエンス特講Ⅱ	<p>近年、データサイエンスが目覚ましい発展を遂げており、今や医療・介護分野においても欠かせないものとなっている。よって現代または次世代の医療における博士人材として、これらの修得は欠かせない。本科目では、計算機科学の基礎中の基礎から医学分野における最新技術、特に脳分野における具体的な研究例及び分野融合に必要な素養まで幅広く概要を解説し、次世代の医療・介護の博士人材に有益な新たなパラダイムを展望する。</p> <p>コーディネーター：(44 細田 一史, 45 大塚 明香) NICT (国立研究開発法人 情報通信研究機構) のCiNet (未来ICT研究所 脳情報通信融合研究センター) にも協力を依頼する。</p> <p>第1回：連携講座の紹介 (44 細田 一史, 42 上口 貴志, 45 大塚 明香) 第2回：CiNetの紹介 (44 細田 一史) 第3回：メディカルデータサイエンスの基礎と例：博士後期課程の水準で (44 細田 一史) 第4回：計算機・便利アプリ・ネットワーク・個人情報・セキュリティの基礎：博士後期課程の水準で (44 細田 一史) 第5回：医療データベース・統計・機械学習・多変量解析・時系列解析の紹介 (44 細田 一史) 第6回：医用生体イメージング 1 (42 上口 貴志) 第7回：医用生体イメージング 2 (42 上口 貴志) 第8回：生体磁気計測：技術開発と応用研究 (45 大塚 明香) 第9回：運動学習等 1 (44 細田 一史) 第10回：運動学習等 2 (44 細田 一史) 第11回：脳波の基礎と活用等 (44 細田 一史) 第12回：心理物理学等 (44 細田 一史) 第13回：知覚・認知の情報表現等 1 (44 細田 一史) 第14回：知覚・認知の情報表現等 2 (44 細田 一史) 第15回：メディカルデータサイエンスのまとめ：博士後期課程の水準で (44 細田 一史)</p>	オムニバス

看護学分野専門科目	がん看護学特講Ⅱ	<p>小児がん・AYA（思春期・若年成人）・成人がん患者・サバイバーが抱える身体的・心理的・社会的課題を解決するエビデンスを創出するための研究方法について教授する。</p> <p>本講義を通して、学生は、小児・AYA・成人がん患者・サバイバーが抱える身体的・心理的・社会的課題を解決するために実施された既存の研究と新たな知見を創出する研究について学修する。</p> <p>講師：（12 宮脇 郁子, 46 副島 堯史, 28 福田 敦子, 35 正垣 淳子, 54 佐藤 伊織, 67 中嶋 祥平, 68 大城 怜）</p> <p>第1回：授業の目的・目標の確認，がん患者・サバイバーへの研究の実例</p> <p>第2～7回：小児がん患者・サバイバーの実態調査や介入研究</p> <p>第8～10回：成人がん患者・サバイバーへの実態調査や介入研究</p> <p>第11～14回：文献抄読</p> <p>第15回：まとめ</p>	共同
	がん看護学演習Ⅱ	<p>がん患者・サバイバーに関する支援のエビデンスに関するシステムティックレビュー・メタアナリシス及びその論文執筆について教授する。</p> <p>本講義を通して、学生は、システムティックレビュー・メタアナリシスを用いてがん患者・サバイバーへの支援に関するエビデンスを実際に整理・統合し、論文を執筆するプロセスについて学修する。</p> <p>講師：（12 宮脇 郁子, 46 副島 堯史, 28 福田 敦子）</p> <p>第1～2回：システムティックレビューの実例と文献抄読</p> <p>第3～8回：システムティックレビューのプロトコル作成・登録</p> <p>第9～11回：システムティックレビュー・メタアナリシスの実施</p> <p>第12・13回：システムティックレビュー・メタアナリシスの報告ガイドライン</p> <p>第14回：システムティックレビュー・メタアナリシスの発表</p> <p>第15回：まとめ</p>	共同
	腫瘍学Ⅲ	<p>オンデマンド教材等を活用し、がんやその治療に関する基礎的な知識に加え、がん患者に対するチーム医療、緩和ケアなど、がん患者・サバイバーへの学際的な支援に教授する。</p> <p>本講義を通して、学生は、看護師という立場から、チーム医療、緩和ケア等の様々なフェーズの支援について学修する。</p> <p>第1～9回：がんとその学際的な医療</p> <p>第10～14回：医療者のコミュニケーションスキルとカウンセリング</p> <p>第15回：まとめ</p>	
	腫瘍学Ⅳ	<p>オンデマンド教材等を活用し、がんにおける最新の研究やイン電子変位に応じた治療戦略、がん患者・サバイバーへの学際的支援について多角的に教授する。</p> <p>本講義を通して、学生は、がん患者・サバイバーへの最新のケアを医学、看護学、リハビリテーション学、社会学、心理学の視点から学修する。</p> <p>第1～7回：がんにおける最新の研究手法</p> <p>第8～9回：遺伝子変異に応じたがんの治療戦略</p> <p>第10～14回：ソーシャルワーク、ピアサポート、看護、リハビリテーション等による学際的支援</p> <p>第15回：まとめ</p>	
	療養支援看護学特講Ⅱ	<p>療養支援が必要な健康課題や健康障害をもつ個人・家族を対象に、健康維持及び健康回復、並びにQOLの向上を目指した療養継続に必要な看護支援や研究課題について、看護や関連学問分野の理論や概念及び国内外の文献検討を通じて探求する。学生の関心領域における看護課題について、現状の看護支援や様々な背景（医療や社会政策等も含む）について、多角的に探求し、課題解決のために必要な方策について論じることができることを到達目標とし、我が国における療養支援看護学の発展に向けて、個人・家族への支援の基盤となる保健医療制度等を含めた療養支援システムの構築についても論じる。</p> <p>講師：（12 宮脇 郁子, 28 福田 敦子, 35 正垣 淳子, 55 島田 恵, 53 齊藤 奈緒）</p> <p>第1回：関心領域における中心的な概念や理論について</p> <p>第2～5回：Lubkin's Chronic Illness: Impact and Intervention (11版) のpart 2（システムと政策）等の輪読を行う</p> <p>第6・7回：HIV患者への療養支援と政策的課題</p> <p>第8・9回：医療看護ケアにおける意思決定支援</p> <p>第10～14回：個人・家族への支援の基盤となる保健医療制度などを含めた療養支援システムの構築</p> <p>第15回：まとめ</p>	共同

実践看護学特講Ⅱ		<p>本科目では、実践看護学分野における研究能力を高めるため、理論や方法論の探究を行い、科学的思考力を養うことを目的とする。各自の研究課題に関連する主要概念や理論を理解し、系統的な文献検討や論文の抄読、クリティークを通じて基礎的な研究能力を身につける。また、実践看護学に関連するの理論や数理モデルを学び、先進的な研究の動向を把握することで、エビデンスに基づいた実践的・学術的探究力を涵養する。これにより、適切な研究疑問を立て、応用力のある研究を実施する力を高めることを目指す。</p> <p>講師：(41 石田 達郎, 39 福重 春菜, 36 菅 彩香)</p> <p>第1回：オリエンテーションと研究の基礎概念 第2回：研究倫理と倫理審査 第3回：実践看護学における主要概念の理解 第4回：系統的文献検討の方法 第5回：理論モデルの学習と活用 第6回：研究デザインと方法論の選択 第7回：データ収集と測定の方法 第8回：データ解析の基礎（定量的研究編） 第9回：データ解析の基礎（定性的研究編） 第10回：論文抄読とクリティークの方法 第11回：先進的研究の動向とトピック 第12回：研究プロポーザル作成ワークショップ 第13回：数理モデルの活用と応用 第14回：研究発表の準備とプレゼンテーション技術 第15回：総合討論と振り返り</p>	共同
老年看護学特講Ⅱ		<p>本講義では、老年看護学に関する研究を行う上で有用な理論や方法論の探求を行う。自己の研究に関する主要概念及び主要理論の分析、系統的文献検討を通して科学的思考力を高める。具体的には、自己の研究課題に関連する概念や理論について理解を深めることができる論文の抄読や研究のクリティークにより研究に関する基礎的能力を高めることができる高度な研究手法を理解し、自己の研究課題へ応用できることを到達目標とする。</p>	共同
精神看護学特講Ⅱ		<p>これまでに学修した精神看護学領域で用いられる研究方法についての理解を深めるとともに、精神看護学領域において重要な概念や理論の探求とその活用を行う。精神看護学領域における現象学的アプローチ、横断研究・コホート研究、大規模調査、介入研究、社会不安症に対する認知療法などについて修得する。精神疾患をもつ人への地域生活支援や精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を探求する。</p> <p>講師：(5 グライナー 智恵子, 38 廣田 美里, 37 林 佑太)</p> <p>第1回～3回：研究倫理、研究デザインと方法論の理解 第4回～6回：精神看護学領域における重要な概念や理論の学習と活用 第7回～10回：現象学的アプローチ、横断研究・コホート研究、大規模調査、介入研究、社会不安症に対する認知療法 第11回～14回：スコアレビュー・システマティックレビュー・メタアナリシスの理解と応用 第15回：精神疾患をもつ人への地域生活支援、まとめ</p>	共同
家族看護学特講Ⅱ		<p>こども看護学・家族看護学の内容を包含する。家族員の健康問題が家族員、家族システムユニット、家族外部環境におよぼす影響と家族看護の課題について、小児・家族アセスメント（家族機能を含む）と小児・家族インターベンションに焦点を当て、最新の知見と研究の動向、看護における研究上の課題を理解できる。</p>	共同
母性看護学特講Ⅱ		<p>論文の抄読や研究のクリティークを通して、研究に関する基礎的能力を高めることをねらいとする。また、母性看護学に関する研究を行う上で有用な理論や方法論の探求を行う。自己の研究課題に関連する背景や先行研究の探索に基づき、適切な研究疑問を立て、様々な研究手法を通して自己の研究課題へ応用できることを到達目標とする。</p> <p>第1～9回：論文クリティーク（9 藤田 和佳子） 第10～13回：研究プレゼンテーション・ディスカッション（9 藤田 和佳子） 第14・15回：システマティック・レビュー（65 古田 真里枝）</p>	オムニバス

看護学分野専門科目	地域・公衆衛生看護学特講 II	<p>地域看護学及び公衆衛生看護学に関する諸理論やモデルについて理解を深める。また、地域看護学及び公衆衛生看護学領域の先進的研究や今日的課題を中心に、国内外の優れた研究内容やその動向から諸課題を把握し、エビデンスに基づく実践的かつ学術的探究について考察する。</p> <p>講師：(3 和泉 比佐子, 22 中山 貴美子, 18 小寺 さやか) 第1～5回：地域看護学及び公衆衛生看護学に関する諸理論・モデル 第6～15回：論文クリティーク・プレゼンテーション・ディスカッション</p>	共同
	看護学演習 II	<p>文献レビューを通して、国内外の研究の動向をまとめ、各研究領域における研究の方法論及びデータ分析の知識と技術、エビデンスに基づいた実装研究などの研究手法等について体得する。</p> <p>(3 和泉 比佐子) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学についての多様な研究手法を体得するための演習を実施する。 (5 グライナー 智恵子) 主として、老年看護学・国際看護学についての多様な研究手法を体得するための演習を実施する。 (9 藤田 和佳子) 主として、母性看護学・助産学についての多様な研究手法を体得するための演習を実施する。 (11 法橋 尚宏) 主として、家族看護学・小児看護学についての多様な研究手法を体得するための演習を実施する。 (12 宮脇 郁子) 主として、療養支援看護学についての多様な研究手法を体得するための演習を実施する。 (18 小寺 さやか) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学・国際保健学についての多様な研究手法を体得するための演習を実施する。 (22 中山 貴美子) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学についての多様な研究手法を体得するための演習を実施する。 (46 副島 堯史) 主として、がん看護学・小児看護学についての多様な研究手法を体得するための演習を実施する。</p>	

病態解析学分野専門科目	分析医科学特講Ⅱ	<p>各テーマで最新の研究手法と技術を詳細に解説し、実践的なデータ解析演習の導入を図る。研究計画発表での徹底的なディスカッションを行ったうえで、臨床応用を見据えた統合的アプローチの習得を行う。これらの構成により、より体系的かつ実践的な学修を行い、研究者としての総合的なスキル向上を目指す。</p> <p>第1～4回：がん治療の最新研究動向（16 山下 公大, 69 堀 裕一） 第5～8回：腫瘍病態解析の先端研究（16 山下 公大） 第9・10回：栄養管理の最新エビデンス（29 三好 真琴, 70 高橋 路子） 第11～14回：研究計画発表・ディスカッション（16 山下 公大） 第15回：総括・まとめ（16 山下 公大）</p>	オムニバス
	細胞機能構造科学特講Ⅱ	<p>前期課程の講義内容を掘り下げてさらに発展的に展開する。すなわち、正常の細胞・組織の機能や構造と様々な疾患・病態におけるそれらの変化について、最新のトピックスや高度の研究手法等を紹介する。また、それらが疾患や病態の診断・治療などにいかに適用される可能性があるのか、について解説する。</p> <p>本特講を通して、該当テーマの最先端研究の現状と展望を理解し、自らの研究に生かすことを目標とする。</p> <p>各教員が専門や得意とする分野について講義を行う（血液学・転写：伊藤、病理学・免疫組織化学：伊藤、生命情報発現科学・免疫疾患と翻訳：駒井）。</p> <p>第1・2回：細胞機能・構造科学の学問的基礎と理論（4 伊藤 光宏） 第3回：細胞機能・構造科学の学問的基礎と理論（19 駒井 浩一郎） 第4・5回：細胞機能・構造科学の応用的・発展的研究手法（4 伊藤 光宏） 第6・7回：細胞機能・構造科学の応用的・発展的研究手法（19 駒井 浩一郎） 第8・9回：細胞機能・構造科学に関するトップジャーナルからの最新の重要トピックス（4 伊藤 光宏） 第10回：細胞機能・構造科学に関するトップジャーナルからの最新の重要トピックス（19 駒井 浩一郎） 第11・12回：細胞機能・構造科学の診断・治療への適用と将来の展望（4 伊藤 光宏） 第13・14回：細胞機能・構造科学の診断・治療への適用と将来の展望（19 駒井 浩一郎） 第15回：まとめと総括（4 伊藤 光宏, 19 駒井 浩一郎）</p>	オムニバス
	臨床免疫学特講Ⅱ	<p>臨床免疫学特講Ⅰの基礎知識を踏まえて、免疫学研究の具体的な方法論を学び、自ら研究計画を立案、実行できる能力の獲得を目指す。</p> <p>第1～3回：現代免疫学研究の潮流を学ぶ 第4～6回：免疫学的実験法の歴史的な推移を踏まえ現状を学ぶ 第7～9回：現代免疫学のトピックスから研究テーマ選択の方法を考える 第10～14回：個々の研究計画発表 第15回：まとめ</p>	

<p>病態解析学分野専門科目</p>	<p>ヒューマンヘルステ講Ⅱ</p>	<p>本講義は、博士課程後期課程の学生を対象に、健康寿命の延伸に向けてのヒューマンヘルスについて、代謝等の病態面や実践面から考えてもらうことを目的としている。現在、我が国の医療において最も重要な課題は、生活習慣病の予防・治療であり、引き続いて生じるフレイル、サルコペニア及び認知症の予防である。生活習慣病の予防・治療を実践しフレイル、サルコペニア及び認知症を予防するためには、代謝等病態の医学知識に加えて、臨床検査学、リハビリテーション医学、看護学等の各分野の実臨床を総合的に学ぶ必要がある。</p> <p>本講義では、高血圧症、糖尿病、メタボリックシンドローム等の生活習慣病やフレイル、サルコペニア及び認知症、それらと関連するリハビリテーション医学・医療の最新内容を可能な限り取り入れる。また、その予防・治療の基礎となる食事・運動に関する基本的及び最新の知見並びに生活習慣病改善とフレイル、サルコペニア及び認知症予防のために最も必要な効果的な動機付け、行動変容等を学ぶことにより、健康寿命の延伸に向けてのヒューマンヘルスの研究に生かすことができるようにする。</p> <p>第1回：超高齢社会と生活習慣病update (15 安田 尚史) 第2回：慢性炎症と1型糖尿病研究 (15 安田 尚史) 第3回：糖尿病と運動療法トピック (27 小野 くみ子) 第4回：生活習慣病予防・改善のための療養行動支援update (12 宮脇 郁子) 第5回：こどもの発達とその障害トピック (43 西村 範行) 第6回：小児がん研究 (43 西村 範行) 第7回：生活習慣病・脂質異常症・高血圧のトピックス (41 石田 達郎) 第8回：脂質異常症研究update (41 石田 達郎) 第9回：タバコによる生活習慣病update (40 石川 朗) 第10回：運動療法研究update (27 小野 くみ子) 第11回：認知症とフレイル研究 (34 沖 侑太郎) 第12回：認知症の臨床研究update (34 沖 侑太郎) 第13回：慢性炎症性疾患と臨床検査 (30 吉田 幸祐) 第14回：高齢者糖尿病と認知症研究トピック (15 安田 尚史) 第15回：総括 (15 安田 尚史)</p>	<p>オムニバス</p>
	<p>病態解析学演習Ⅱ</p>	<p>各担当教員が、専門である「細胞機能・構造科学」、「臨床免疫学」、「分析医科学」、「ヒューマンヘルス」の研究課題、将来展望を見据えた演習計画を作成し、それを共有する履修生が、将来、研究者あるいは教育者として自立できるよう、個々人の長所を伸ばせる演習指導を行う。</p> <p>(4 伊藤 光宏) 主として、細胞機能・構造科学についての自身の研究課題を題材にして方法的に高度な演習計画を作成し遂行することにより、高度な研究能力を滋養する。 (8 柱本 照) 主として、臨床免疫学についての自身の研究課題を題材にして方法的に高度な演習計画を作成し遂行することにより、高度な研究能力を滋養する。 (15 安田 尚史) 主として、ヒューマンヘルスについての自身の研究課題を題材にして方法的に高度な演習計画を作成し遂行することにより、高度な研究能力を滋養する。 (16 山下 公大) 主として、分析医科学についての自身の研究課題を題材にして方法的に高度な演習計画を作成し遂行することにより、高度な研究能力を滋養する。 (19 駒井 浩一郎) 主として、細胞機能・構造科学についての自身の研究課題を題材にして方法的に高度な演習計画を作成し遂行することにより、高度な研究能力を滋養する。 (29 三好 真琴) 主として、分析医科学についての自身の研究課題を題材にして方法的に高度な演習計画を作成し遂行することにより、高度な研究能力を滋養する。 (30 吉田 幸祐) 主として、ヒューマンヘルスについての自身の研究課題を題材にして方法的に高度な演習計画を作成し遂行することにより、高度な研究能力を滋養する。</p>	

リハビリテーション科学分野専門科目	リハビリテーション管理学Ⅱ	<p>博士後期課程学生を対象に、リハビリテーション管理学特講Ⅰの学習の深達度を深めて、リハビリテーションの実践と教育の現場で、より実践的な立場で活用できるようになることを目標として、詳細な管理システム構築、最先端の先進的な管理と、学習要項のアップデートに対応したセラピストに対するリハビリテーション教育の実践まで、リハビリテーションの総合的な管理と後進の育成に必要とされる様々、かつ高度に実践的な内容を修得する。</p> <p>コーディネーター：(25 三浦 靖史, 1 秋末 敏宏) 第1～3回：管理的思考の必要性-社会人大学院生を指導する立場から思うこと-：博士後期課程の視点からの学び(58 高畑 進一) 第4～6回：義肢装具のマネジメント：博士後期課程の視点からの学び(51 川村 慶) 第7～9回：災害時にリハ専門職がすること、できること-最近の事例を通じて-：博士後期課程の視点からの学び(61 富岡 正雄) 第10～12回：高齢化社会における国際リハビリテーションの展望と課題(48 浅井 剛) 第13～15回：専門職としてのICUリハビリテーション医療：博士後期課程の視点からの学び(52 幸田 剣) 第16～18回：マネジメント・リーダーシップ論から考えるセラピスト教育について：博士後期課程の視点からの学び(56 庄本 康治)</p>	オムニバス
	リハビリテーション科学研究法Ⅱ	<p>リハビリテーション科学に関する研究テーマでの研究を実践する能力を涵養するために、博士課程前期課程での経験値をさらに高め、より発展的な研究テーマの決定、先行研究のレビュー、計画立案、倫理審査書類作成、実験・調査の実施、データ解析などの研究の一連の過程をAIの活用も含めて体験する。</p> <p>第1回：研究の背景を深掘りするための情報収集1 第2回：研究の背景を深掘りするための情報収集2 第3回：参考文献選択時のAIの使い方1 第4回：参考文献選択時のAIの使い方2 第5回：参考文献通読時のAIの使い方1 第6回：参考文献通読時のAIの使い方2 第7回：参考文献通読時のAIの使い方3 第8回：研究計画の立て方1 第9回：研究計画の立て方2 第10回：適切な統計の選び方1 第11回：適切な統計の選び方2 第12回：研究結果のまとめ方 第13回：研究論文における考察のまとめ方 第14回：研究成果の発表方法1 第15回：研究成果の発表方法2</p>	
	基礎リハビリテーション科学特講Ⅱ	<p>基礎医学等の基礎科学を用いたリハビリテーション研究に関するテーマでの研究を実践する能力を涵養するために、先行研究のレビュー、計画立案、倫理審査書類作成、実験の実施、データ解析等の研究の一連の過程を体験する。</p> <p>コーディネーター：(10 藤野 英己) 第1回：基礎科学を用いたリハビリテーション研究への応用(10 藤野 英己) 第2回：環境制御とリハビリテーション研究(10 藤野 英己) 第3回：アスリートサポートとリハビリテーション研究(10 藤野 英己) 第4回：機能的栄養食品とリハビリテーション研究(10 藤野 英己) 第5回：国際共同研究とリハビリテーション科学(10 藤野 英己) 第6回：創傷治癒とトランスレーショナルリサーチ(24 前重 伯壮) 第7回：物理療法とトランスレーショナルリサーチ(24 前重 伯壮) 第8回：細胞外小胞とトランスレーショナルリサーチ(24 前重 伯壮) 第9回：免疫とトランスレーショナルリサーチ(24 前重 伯壮) 第10回：日常生活とトランスレーショナルリサーチ(24 前重 伯壮) 第11回：遺体を使用する際の研究倫理とリハビリテーション研究(20 田中 貴士) 第12回：遺体科学とリハビリテーション研究(20 田中 貴士) 第13回 形態学的研究手法のリハビリテーション研究への応用(20 田中 貴士) 第14回 肉眼レベルの形態学とリハビリテーション研究(20 田中 貴士) 第15回 組織学的的手法とリハビリテーション研究(20 田中 貴士)</p>	オムニバス

リハビリテーション科学分野専門科目	運動器リハビリテーション科学特講Ⅱ	<p>リハビリテーション医療では、運動器疾患に起因する様々な運動機能障害や姿勢・運動異常を扱う。</p> <p>これを踏まえ、本講義では様々な運動機能障害の発症機序や障害構造の分析及びそれらに対するリハビリテーション機能診断・評価、リハビリテーション治療アプローチに関する最新の動向と知見を講義し、自ら研究課題に最新知見を取り入れ、最新かつ高度な運動器リハビリテーション研究の開拓に資することを旨とする。</p> <p>コーディネーター：(1 秋末 敏宏)</p> <p>第1回：免疫及び修復とリハビリテーション・総論 (24 前重 伯壮)</p> <p>第2回：免疫及び修復とリハビリテーション・各論 (24 前重 伯壮)</p> <p>第3回：運動器リハビリテーションとスポーツ医療・総論 (1 秋末 敏宏, 31 上田 雄也)</p> <p>第4回：運動器リハビリテーションとスポーツ医療・各論 (1 秋末 敏宏, 31 上田 雄也)</p> <p>第5回：運動器リハビリテーションと疫学/データサイエンス・総論 (1 秋末 敏宏, 31 上田 雄也)</p> <p>第6回：運動器リハビリテーションと疫学/データサイエンス・各論 (1 秋末 敏宏, 31 上田 雄也)</p> <p>第7回：運動器リハビリテーションと再生医療・総論 (1 秋末 敏宏)</p> <p>第8回：運動器リハビリテーションと再生医療・基礎研究各論 (1 秋末 敏宏)</p> <p>第9回：運動器リハビリテーションと再生医療・臨床研究各論 (1 秋末 敏宏)</p> <p>第10回：関節疾患のリハビリテーションにおけるエビデンス・総論 (14 森山 英樹)</p> <p>第11回：関節疾患のリハビリテーションにおけるエビデンス・各論 (14 森山 英樹)</p> <p>第12回：がんリハビリテーションのエビデンス・総論 (25 三浦 靖史)</p> <p>第13回：がんリハビリテーションのエビデンス・各論 (25 三浦 靖史)</p> <p>第14回：筋疾患のリハビリテーションにおけるエビデンス・総論 (10 藤野 英己)</p> <p>第15回：筋疾患のリハビリテーションにおけるエビデンス・各論 (10 藤野 英己)</p>	オムニバス
	神経リハビリテーション科学特講Ⅱ	<p>脳血管障害・パーキンソン病・脊髄損傷等の神経疾患に対する予防・治療・リハビリテーションは、ニューロモデュレーションに代表されるように、近年飛躍的な進歩を遂げている。そこで、神経疾患に対する標準的な予防・治療・リハビリテーションを十分に学んだ上で、それらの最新の予防・治療・リハビリテーションを知り、さらに今後のリハビリテーションの発展につながる可能性のある最新の研究成果について学修する。</p> <p>コーディネーター：(14 森山 英樹)</p> <p>第1回：脳血管障害の標準的な予防・治療法 (14 森山 英樹)</p> <p>第2回：脳血管障害の標準的なリハビリテーション (17 井澤 和大)</p> <p>第3回：パーキンソン病の標準的な予防・治療法 (14 森山 英樹)</p> <p>第4回：パーキンソン病の標準的なリハビリテーション (17 井澤 和大)</p> <p>第5回：脊髄損傷の標準的な予防・治療法 (14 森山 英樹)</p> <p>第6回：脊髄損傷の標準的なリハビリテーション (17 井澤 和大)</p> <p>第7回：脳血管障害の最新の予防・治療法 (20 田中 貴士)</p> <p>第8回：脳血管障害の最新のリハビリテーション (20 田中 貴士)</p> <p>第9回：パーキンソン病の最新の予防・治療法 (14 森山 英樹)</p> <p>第10回：パーキンソン病の最新のリハビリテーション (17 井澤 和大)</p> <p>第11回：脊髄損傷の最新の予防・治療法 (14 森山 英樹)</p> <p>第12回：脊髄損傷の最新のリハビリテーション (17 井澤 和大)</p> <p>第13回：脳血管障害のリハビリテーションに関する最新研究 (20 田中 貴士)</p> <p>第14回：パーキンソン病のリハビリテーションに関する最新研究 (20 田中 貴士)</p> <p>第15回：脊髄損傷のリハビリテーションに関する最新研究 (20 田中 貴士)</p>	オムニバス

リハビリテーション科学分野専門科目	内部リハビリテーション科学特講Ⅱ	<p>本講義では、循環器・代謝性疾患に起因する併存・重複疾患に関する課題を評価・分析する研究課題について学修する。 これを踏まえ、主に循環器・代謝性疾患の発症機序や障害構造の分析及びそれらに対するリハビリテーション機能診断・評価、リハビリテーション治療アプローチに関する最新の動向と知見を講義し、自身の研究課題に最新知見を取り入れ、最新かつ高度な内部リハビリテーション研究の開拓に着手することを目標とする。</p> <p>コーディネーター：(17 井澤 和夫)</p> <p>第1回：循環器病対策推進基本計画（現状と課題・政策の背景と目的・対策）(17 井澤 和夫)</p> <p>第2回：循環器疾患の病態生理・診断方法と治療法・治療技術とその応用(17 井澤 和夫)</p> <p>第3回：身体機能の評価方法・身体活動の重要性とその促進方法(17 井澤 和夫)</p> <p>第4回：Sedentary behavior（座位行動の影響と改善策）(17 井澤 和夫)</p> <p>第5回：急性期の循環器疾患管理・リハビリテーションの役割(17 井澤 和夫)</p> <p>第6回：急性期から回復期への移行(17 井澤 和夫)</p> <p>第7回：回復期におけるリハビリテーションの目標とプログラム(17 井澤 和夫)</p> <p>第8回：維持期・地域におけるリハビリテーションの重要性(17 井澤 和夫)</p> <p>第9回：エネルギー代謝(27 小野 くみ子)</p> <p>第10回：糖尿病の病態と検査(27 小野 くみ子)</p> <p>第11回：糖尿病の治療（食事療法，薬物療法，運動療法）(27 小野 くみ子)</p> <p>第12回：糖尿病の合併症(27 小野 くみ子)</p> <p>第13回：糖尿病のリハビリテーション(27 小野 くみ子)</p> <p>第14回：肥満症のリハビリテーション(27 小野 くみ子)</p> <p>第15回：慢性腎臓病のリハビリテーション(27 小野 くみ子)</p>	オムニバス
	脳機能リハビリテーション科学特講Ⅱ	<p>神経変性疾患は、正常に発達した脳内に様々な異常蛋白が蓄積し、神経細胞が選択的に障害され細胞死にいたり、様々な機能障害が出現する疾患である。</p> <p>本講座では、脳神経内科で扱う変性疾患に加えて免疫性疾患の治療介入を考える上で、その病態生理がどこまで判明して治療が可能となったのか、リハビリテーションのエビデンスを踏まえて概説する。</p> <p>コーディネーター：(6 古和 久朋)</p> <p>第1回：アルツハイマー病の病態生理と薬物治療(6 古和 久朋)</p> <p>第2回：アルツハイマー病のリハビリテーション(47 園田 悠馬)</p> <p>第3回：パーキンソン病の病態生理と薬物治療(6 古和 久朋)</p> <p>第4回：パーキンソン病のリハビリテーション(47 園田 悠馬)</p> <p>第5回：多発性硬化症の病態生理と薬物治療(6 古和 久朋)</p> <p>第6回：多発性硬化症のリハビリテーション(47 園田 悠馬)</p> <p>第7回：神経菌接合部疾患の病態生理と薬物治療(6 古和 久朋)</p> <p>第8回：神経菌接合部疾患のリハビリテーション(47 園田 悠馬)</p> <p>第9回：免疫性末梢神経障害の病態生理と薬物治療(6 古和 久朋)</p> <p>第10回：免疫性末梢神経障害のリハビリテーション(47 園田 悠馬)</p> <p>第11回：筋疾患の病態生理と薬物治療(6 古和 久朋)</p> <p>第12回：筋疾患のリハビリテーション(47 園田 悠馬)</p> <p>第13回：筋萎縮性側索硬化症の病態生理と薬物治療(6 古和 久朋)</p> <p>第14回：筋萎縮性側索硬化症のリハビリテーション(47 園田 悠馬)</p> <p>第15回：多因子介入による認知症の予防(6 古和 久朋)</p>	オムニバス

リハビリテーション科学分野専門科目	精神科リハビリテーション科学特講Ⅱ	<p>精神科リハビリテーションの現状及び最新の知見について講義する。精神科リハビリテーションは、医療・保健・福祉の中で提供されているが、精神科疾患の種類は多く複雑であるため、その科学的根拠は十分とは言えない。</p> <p>これを踏まえて、現在の精神科医療を含めた精神科リハビリテーション、精神科疾患に起因する様々な精神症状や生活障害に対して効果的なリハビリテーション手法の最新の動向と知見を紹介、講義する。これにより、受講者自らの研究課題に最新知見を取り入れること、そして、科学的思考による精神科リハビリテーション研究の発展に資することを目標とする。</p> <p>コーディネーター：(13 毛利 健太郎)</p> <p>第1回：精神科治療とリハビリテーション (13 毛利 健太郎)</p> <p>第2回：精神科疾患と生物学的治療 (13 毛利 健太郎)</p> <p>第3回：精神科疾患と生物学的治療 (13 毛利 健太郎)</p> <p>第4回：薬物療法 (13 毛利 健太郎)</p> <p>第5回：心理社会療法 (13 毛利 健太郎)</p> <p>第6回：心理社会療法 (13 毛利 健太郎)</p> <p>第7回：精神科医療システムとその現状 1 (26 四本 かやの)</p> <p>第8回：精神科医療システムとその現状 2 (26 四本 かやの)</p> <p>第9回：精神科リハビリテーション：精神科作業療法 (26 四本 かやの)</p> <p>第10回：精神科リハビリテーション：精神科デイケア (26 四本 かやの)</p> <p>第11回：精神科リハビリテーション：就労支援 (26 四本 かやの)</p> <p>第12回：精神科リハビリテーション：再発防止・入院予防 (26 四本 かやの)</p> <p>第13回：精神科リハビリテーション：長期入院 (33 胡 友恵)</p> <p>第14回：精神科リハビリテーション：保健・福祉分野 (33 胡 友恵)</p> <p>第15回：精神科リハビリテーションの最新のトピック (13 毛利 健太郎)</p>	オムニバス
	作業生活リハビリテーション科学特講Ⅱ	<p>作業生活リハビリテーション科学特講Ⅰでは、運動機能や作業能力、生活機能、補完学に対して作業療法の観点から事例を学び、考察し、発表する体験を通して、リハビリテーション科学の専門性を高めることを目的とした。特講Ⅱでは、より作業療法における専門的な文献探索、データ解析、研究計画、プレゼンテーション、研究準備や検討事項に取り組む。</p> <p>コーディネーター：(7 野田 和恵)</p> <p>第1回：作業療法における先行研究の批判的解釈 3 (21 長尾 徹)</p> <p>第2回：作業療法における先行研究の批判的解釈 4 (21 長尾 徹)</p> <p>第3回：作業療法における研究論文の校正 3 (21 長尾 徹)</p> <p>第4回：作業療法における研究論文の校正 4 (21 長尾 徹)</p> <p>第5回：作業分析と作業能力評価 2 (21 長尾 徹)</p> <p>第6回：運動機能障害と食生活 3 (7 野田 和恵)</p> <p>第7回：運動機能障害と食生活 4 (7 野田 和恵)</p> <p>第8回：研究結果の解析と報告 3 (7 野田 和恵)</p> <p>第9回：研究結果の解析と報告 4 (7 野田 和恵)</p> <p>第10回：関連領域との連携・協同 2 (7 野田 和恵)</p> <p>第11回：作業療法研究に必要な準備と検討事項 3 (32 内田 智子)</p> <p>第12回：作業療法研究に必要な準備と検討事項 4 (32 内田 智子)</p> <p>第13回：運動機能障害、高次脳機能障害と関連活動 (育児など) 3 (32 内田 智子)</p> <p>第14回：運動機能障害、高次脳機能障害と関連活動 (育児など) 4 (32 内田 智子)</p> <p>第15回：文献検索と整理・管理 2 (32 内田 智子)</p>	オムニバス

リハビリテーション科学分野専門科目	行動神経リハビリテーション科学特講Ⅱ	<p>認知、運動機能、社会性のある行動と関連するの神経機序を解明する健康脳による脳画像研究や損傷脳による神経心理学的研究をリハビリテーションに応用した最新の研究の手法や解析方法を学ぶ。そして、その知見を応用した新たなリハビリテーション評価及び治療方法の開発に向けた論理的思考とKnowledge Gapの考え方を学修する。また、地域住民への健康増進に向けた疫学的研究手法についても修得を目指す。</p> <p>コーディネーター：(2 石岡 俊之)</p> <p>第1回：脳画像を用いた神経解剖と脳領域の同定の仕方 (2 石岡 俊之)</p> <p>第2回：論理的思考とKnowledge Gap (2 石岡 俊之)</p> <p>第3回：N of 1研究による脳の損傷領域と疾患の徴候との関係性の最新知見 (2 石岡 俊之)</p> <p>第4回：N of 1研究による認知機能に対するリハビリテーション介入研究 (2 石岡 俊之)</p> <p>第5回：左大脳半球と関連した認知機能と神経心理学検査と解釈 (23 林 敦子)</p> <p>第6回：右大脳半球と関連した認知機能とその神経心理学検査と解釈 (23 林 敦子)</p> <p>第7回：前頭葉機能と関連した認知機能とその神経心理学検査と解釈 (23 林 敦子)</p> <p>第8回：注意機能と記憶と関連した神経心理学検査と解釈 (23 林 敦子)</p> <p>第9回：新たな認知機能評価の開発研究 (信頼性・妥当性) (23 林 敦子)</p> <p>第10回：新たな認知機能評価の学際的開発研究 (23 林 敦子)</p> <p>第11回：機械学習研究による脳の損傷領域と疾患の徴候との関係性の最新知見 (2 石岡 俊之)</p> <p>第12回：機械学習研究によるリハビリテーション介入研究1 (2 石岡 俊之)</p> <p>第13回：機械学習研究によるリハビリテーション介入研究1 (2 石岡 俊之)</p> <p>第14回：疫学的研究による地域の健康調査方法 (横断研究) (2 石岡 俊之)</p> <p>第15回：疫学的研究による地域の健康調査方法 (縦断研究) (2 石岡 俊之)</p>	オムニバス
	生命情報融合論Ⅱ	<p>情報科学はあらゆる場面で必須となっており、それは生命研究分野や医療現場でも同様である。現代または次世代の医療における博士人材として、これらの修得は欠かせない。よって生命システムや情報科学の基礎を理解し、自らの博士研究や業務等に生かせるようになる。</p> <p>本科目では各博士課程後期課程の受講生の業務や研究活動のサポートにつながるような演習等を設定して知識と技術の涵養を行う。</p>	

リハビリテーション科学分野専門科目	医用画像情報科学Ⅱ	画像診断をより深く理解し、新たなリハビリテーション科学研究の創出と高度チーム医療の実践につなげるため、さまざまな医用画像の撮像原理や画像特性、画像コントラストとその背景にある病態生理との関係について学ぶ。また画像の生成や処理、解析、評価のための理論と方法を概観することで画像情報科学の基礎を習得し、自身の研究課題への応用法を考察する。	
	人間情報科学Ⅱ	<p>現代または次世代の医療における博士人材として、人間情報や人工知能の修得は欠かせないものとなっている。脳をはじめとした人間情報の計測、それを解析する情報技術や脳を模倣した人工知能について学び、自らの博士研究や業務などに活かせるようになる。</p> <p>本科目では各博士後期の受講生の業務や研究活動のサポートにつながるような演習などを設定して知識と技術の涵養を行う。</p> <p>講師：(44 細田 一史, 45 大塚 明香)</p> <p>第1回：各博士後期受講生の状況や修得度のすり合わせ 第2回：博士後期受講生に關係するCaseを通して人間情報の基礎を学ぶ 1 第3回：博士後期受講生に關係するCaseを通して人間情報の基礎を学ぶ 2 第4回：博士後期受講生に關係するCaseを通して人間情報の基礎を学ぶ 3 第5回：博士後期受講生に關係するCaseを通してプログラミングを学ぶ 1 第6回：博士後期受講生に關係するCaseを通してプログラミングを学ぶ 2 第7回：博士後期受講生に關係するCaseを通してプログラミングを学ぶ 3 第8回：博士後期受講生に關係するCaseを通してプログラミングを学ぶ 4 第9回：博士後期受講生に關係するCaseを通してプログラミングを学ぶ 5 第10回：博士後期受講生に關係するCaseを通して人工知能を学ぶ 1 第11回：博士後期受講生に關係するCaseを通して人工知能を学ぶ 2 第12回：博士後期受講生に關係するCaseを通して人工知能を学ぶ 3 第13回：博士後期受講生に關係するCaseを通して人工知能を学ぶ 4 第14回：博士後期受講生に關係するCaseを通して人工知能を学ぶ 5 第15回：人間情報科学のまとめ</p>	共同

リハビリテーション科学分野専門科目	リハビリテーション科学演習Ⅱ	<p>研究に関する研究目的の設定，研究の方法論及びデータ分析の知識と技術について基本的な方法論を理解でき，研究発表や論文作成（英文）が実践できる能力を体得する。</p> <p>(1 秋末 敏宏) 主として，整形外科学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(2 石岡 俊之) 主として，疾病，傷病による知覚・認知・行動の変化が起こる神経機序の解明及び介入方法の開発についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(6 古和 久朋) 主として，神経内科学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(7 野田 和恵) 主として，身体障害作業療法学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(10 藤野 英己) 主として，骨格筋障害に対する予防や治療についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(13 毛利 健太郎) 主として，精神科リハビリテーションについての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(14 森山 英樹) 主として，基礎理学療法学・運動器理学療法学・神経理学療法学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(17 井澤 和大) 主として，内部障害理学療法学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(20 田中 貴士) 主として，基礎理学療法学・神経理学療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(21 長尾 徹) 主として，基礎作業学における研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(23 林 敦子) 主として，脳機能低下がみられる患者，健常者を対象として，認知機能・精神症状の評価・介入についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(24 前重 伯壮) 主として，物理療法学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(25 三浦 靖史) 主として，リハビリテーション医学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(26 四本 かやの) 主として，精神障害者に対するリハビリテーション介入・評価についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(42 上口 貴志) 主として，医用画像解析学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(44 細田 一史) 主として，健康情報科学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(47 園田 悠馬) 主として，認知作業療法学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p>	
-------------------	----------------	--	--

特別研究	特別研究	<p>博士課程後期課程の3年間を通して実施する特別研究では健康科学に関する研究テーマを学生自ら決定し、研究計画の立案、実験や調査の実施、データの解釈や分析といった一連の研究過程を実践することで、独創的な成果を得る。研究成果は博士論文として執筆する。</p> <p>(1 秋末 敏宏) 主として、整形外科学についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(2 石岡 俊之) 主として、疾病、傷病による知覚・認知・行動の変化が起こる神経機序の解明及び介入方法の開発に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(5 グライナー 智恵子) 主として、老年看護学・国際看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(6 古和 久朋) 主として、神経内科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(7 野田 和恵) 主として、身体障害作業療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(9 藤田 和佳子) 主として、母性看護学・助産学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(10 藤野 英己) 主として、骨格筋障害に対する予防や治療についての研究手法を体得するための演習を実施する。</p> <p>(11 法橋 尚宏) 主として、家族看護学・小児看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(12 宮脇 郁子) 主として、療養支援看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(13 毛利 健太郎) 主として、精神科リハビリテーションに係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(14 森山 英樹) 主として、基礎理学療法学・運動器理学療法学・神経理学療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(15 安田 尚史) 主として、ヒューマンヘルスに係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(16 山下 公大) 主として、分析医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(17 井澤 和太) 主として、内部障害理学療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(18 小寺 さやか) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学・国際保健学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(19 駒井 浩一郎) 主として、細胞機能・構造科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(20 田中 貴士) 主として、基礎理学療法学・神経理学療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(22 中山 貴美子) 主として、地域看護学・公衆衛生看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(23 林 敦子) 主として、脳機能低下がみられる患者、健常者を対象として、認知機能・精神症状の評価・介入に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(24 前重 伯壮) 主として、物理療法学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(25 三浦 靖史) 主として、リハビリテーション医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(26 四本 かやの) 主として、精神障害者に対するリハビリテーション介入・評価に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p>	
認その他の科目要と	ジョブ型研究インターンシップ	インターンシップに参加することにより、自らの専門性を客観的に観ることで進路の可能性を広げるとともに、今後拡大が見込まれるジョブ型採用を見据え、国際競争に耐え得る研究力に裏打ちされた実践力を養成することを目標としている。	

授 業 科 目 の 概 要				
(医学系研究科博士課程後期課程未来社会医学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合 知基 盤科 目	アントレプレナー・リーダーシップ学特論		<p>起業や新規事業の推進に必要なマネジメント能力及びリーダーシップ力を授ける。</p> <p>医療機器開発において全く新しい製品を開発して世に出すためには、既存事業の継続に必要な経営や技術に関する知識だけでなく、強いリーダーシップとアントレプレナーシップ（起業家精神）が必要とされる。学生は、特に新規事業で重要なマネジメント能力、リーダーシップ力、ポジティブ思考、ネットワーク力を身に付けるために、プレゼンテーションスキル、チームングスキル、リーダーとしての行動・判断、アントレプレナー/イントレプレナーとは、キャリアデザインについて学修し、さらには実際の起業家（米国）の生の声を聞いて学びを深める。</p> <p>コーディネーター：(36 富畑 賢司, 34 村垣 善浩) 第1回：プレゼンテーションスキル（ピッチスキル, 文章スキル）(39 原 陽介) 第2回：チームング（多様な人材, 学習するチーム, チームビルディングの重要性）(51 永元 哲治) 第3・4回：キャリアデザイン（アントレプレナー, イントレプレナー他の判断）(43 加藤 毅) 第5回：エフェクチュエーション(40 吉田 満梨) 第6回：リーダーシップ論（医療機器関係の企業, アントレプレナー起業家による経験紹介）(31 熊野 正樹) 第7回：リーダーシップ論（医療機器関係の企業, アントレプレナー起業家による経験紹介）(41 青山 裕紀) 第8回：リーダーシップ論（医療機器関係の企業, アントレプレナー起業家による経験紹介）(47 塩村 仁)</p>	オムニバス
	プロジェクトマネジメント学特論		<p>プロジェクトマネジメントに必要な知識やスキルを授ける。</p> <p>初期の医療機器開発プロジェクトを自ら先導できるようにするために、また、適切にプロジェクトの資金を運用するために、多職種から構成されるチームを効率的に管理する方法を理解することが重要である。</p> <p>学生は、プロジェクトとは何か、通常業務との違い、プロジェクトマネジメントの概要、計画立案、プロジェクトマネジメントのツール（マイルストーン, WBS, ガントチャートによるプロジェクト管理, リスクログ分析等）の学修を通して、効果的なプロジェクトの管理方法の概要を学ぶ。</p> <p>講義に加えて、「医療機器コンセプト創造演習」で作成した課題をベースにワークを行う。</p> <p>コーディネーター：(30 木内 邦彦, 59 山口 智子) 第1～3回：プロジェクトの実例(55 波多 伸彦) 第2～4回：プロジェクトマネジメント総論(39 原 陽介) 第5・6回：プロジェクトマネジメント・ワークショップ（医療機器コンセプト創造演習よりテーマを継続）(39 原 陽介) 第7・8回：医療機器開発ケースメソッド(35 保多 隆裕)</p>	オムニバス

総合知基盤科目	サイエンティフィック・イングリッシュ特講Ⅱ	<p>応用言語学の最新研究から学ぶ専門言語の取得法を基に、英語による科学論文を作成する際に必要なスキルを体系的に習得することを目的としている。論文執筆の基礎から、具体的な論文構成、さらには発表の仕方を学び、学生は英語による科学論文を作成し、国際的な学術コミュニティで自分の研究成果を発表できるようになることを目指し、国際的な学術コミュニティで活躍するための素養を修得する。</p> <p>コーディネーター：(32 野田 和恵)</p> <p>第1回：コーパス言語学と言語分析ツールの学習 (54 野口 Judy 津多江)</p> <p>第2回：論文執筆の基礎と学術英語 (54 野口 Judy 津多江)</p> <p>第3回：効果的な文献調査と引用 (54 野口 Judy 津多江)</p> <p>第4回：論文の構成と論理展開 (54 野口 Judy 津多江)</p> <p>第5回：各セクションの書き方 (Introduction) (54 野口 Judy 津多江)</p> <p>第6回：各セクションの書き方 (Methods) (54 野口 Judy 津多江)</p> <p>第7回：各セクションの書き方 (Results) (54 野口 Judy 津多江)</p> <p>第8回：各セクションの書き方 (Discussion) (54 野口 Judy 津多江)</p> <p>第9回：抄録の書き方、キーワードの選出 (54 野口 Judy 津多江)</p> <p>第10回：リスニングの練習 (54 野口 Judy 津多江)</p> <p>第11回：暗唱の練習 (54 野口 Judy 津多江)</p> <p>第12回：カバーレターの書き方 (54 野口 Judy 津多江)</p> <p>第13回：研究発表のスピーチ1 (54 野口 Judy 津多江, 32 野田和恵)</p> <p>第14回：研究発表のスピーチ2 (54 野口 Judy 津多江, 32 野田和恵)</p> <p>第15回：研究発表のスピーチ3 (54 野口 Judy 津多江, 32 野田和恵)</p>	オムニバス、共同
コア科目群1	公衆衛生学・疫学Ⅱ	<p>臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対し、公衆衛生学は集団の健康を対象とするものである。現代の公衆衛生学としてキーワードとなる、予防医学・環境の改善・生活水準の保障・健康教育の推進等を授業のテーマとする。各学修項目に対する学生プレゼンテーション・ディスカッションを取り入れ、理解を深める。</p> <p>第1回：公衆衛生概論 (9 篠原 正和)</p> <p>第2回：衛生統計と疫学 (26 片岡 葵)</p> <p>第3回：我が国の保健行政 (9 篠原 正和)</p> <p>第4回：兵庫県における保健医療行政 (50 田所 昌也)</p> <p>第5回：医療の医療費と医療経済 (45 佐方 信夫)</p> <p>第6回：包括地域ケアと在宅医療 (42 岩本 喜嵩)</p> <p>第7回：疾病と社会構造の関係 (53 西岡 大輔)</p> <p>第8回：医療の倫理と安全 (9 篠原 正和)</p>	オムニバス
	予防医学と保健の実践と評価Ⅱ	<p>職域・地域等をフィールドとして、健診結果や疫学研究の成果を成員にフィードバックすることにより、予防保健につなげる実践活動について、主に事例研究(ケーススタディ)を通じて学ぶ。</p> <p>主な内容は以下のとおり：健康目標の設定とその評価、実施組織の構築と役割・費用分担、成員の合意形成と情報のフィードバック・コミュニケーション、プライバシーと個人情報保護、職域保健活動の事例(産業医の役割)、地域保健活動の事例(保健師の役割)等、各学修項目に対する学生プレゼンテーション・ディスカッションを取り入れ、理解を深める。</p> <p>第1回：予防医学概論 (9 篠原 正和)</p> <p>第2回：がんの予防対策 (9 篠原 正和)</p> <p>第3回：心疾患の予防対策 (5 小林 成美)</p> <p>第4回：脳血管疾患の予防対策 (9 篠原 正和)</p> <p>第5回：感染症の予防対策 (13 宮良 高維)</p> <p>第6回：母子保健 (52 西尾 久英)</p> <p>第7回：労働災害の予防対策 (9 篠原 正和)</p> <p>第8回：災害医療 (58 水谷 和郎)</p>	オムニバス

<p>コア科目群 1</p>	<p>臨床疫学Ⅱ</p>	<p>疫学研究並びに公衆衛生活動を実際に行いたいと考えている学生にとって必須の「疫学的な考え方」と知識、基本的な技術を提供する講義である。地域・職域等、社会（生活環境下）で実施する疫学研究の理論と方法についての基本を理解することを目的とする。この種の疫学研究を実施・実践する際や利用する際に考慮すべき点を理解し、その具体的な方法と技術について学ぶ。学修内容として、予防保健と疫学の関連、疫学的思考法、疫学研究論文の読み方、疫学研究のデザイン、測定誤差の種類と対策、疾患からみた疫学研究、生活要因からみた疫学研究、保健業務における疫学研究の考え方と方法、保健業務や疾病予防活動への研究成果の利用方法等が含まれる。各学修項目に対する学生プレゼンテーション・ディスカッションを取り入れ、理解を深める。</p> <p>第1回：疫学の歴史（27 小野 玲） 第2回：記述疫学の目的と方法（37 門間 陽樹） 第3回：生態学的研究の目的と方法（26 片岡 葵） 第4回：横断研究の目的と方法（9 篠原 正和） 第5回：症例対照研究の目的と方法（9 篠原 正和） 第6回：コホート研究の目的と方法（9 篠原 正和） 第7回：介入研究の目的と方法（9 篠原 正和） 第8回：疫学研究の医学への活用（9 篠原 正和）</p>	<p>オムニバス</p>
<p>コア科目群 2</p>	<p>臨床研究開発の実践</p>	<p>生命科学研究の成果を実用化につなげる医療研究開発では、新しい技術や製品を実際の臨床医療現場において診療を実践しつつ同時に評価する必要がある。そのために行われる臨床研究・臨床試験は、医療技術開発の最終段階にあつて最大の要であり、その実践のためには、学問的な有効性と安全性、製品開発にかかる知財や権利関係、臨床研究の正当な方法論や評価方法、さらに様々な技術や製品の特性に沿った医療・薬事規制の相違についても理解が必要である。また、近年益々国際化、高度化、複雑化する臨床試験の立案・計画・実施に対し、専門的に支援する各種支援専門職の職能と効用を理解することも有用である。</p> <p>本講義では、これら臨床研究開発に関する実践的な知識とともに、多数のステークホルダーや支援職種と協働して、より安全かつ効率的に臨床研究開発を完遂するために必要な方法論やコンピテンシーの実践を理解することを目標とする。</p> <p>第1回：臨床研究を始めるにあたっての考え方（8 真田 昌爾） 第2回：臨床研究デザイン（15 今井 匠） 第3回：臨床研究にかかる法法規（8 真田 昌爾） 第4回：医療機器の承認審査の実際（ケーススタディ等）（17 小畑 大輔） 第5回：再生医療臨床試験の現状と課題（18 角山 弘嘉） 第6回：臨床研究業務と臨床研究支援専門職（23 楨本 博雄） 第7回：臨床研究の計画と運営の実際（24 寛 康正） 第8回：橋渡し研究から臨床試験へー疾病制圧のパラダイムー（8 真田 昌爾）</p>	<p>オムニバス</p>
	<p>生物統計学Ⅱ</p>	<p>臨床研究を行う際に特に重要となる生物統計学の基本事項について、生物統計学Ⅰの内容を発展させた知識を授ける。</p> <p>学生は、講義の前半にて、臨床研究で問題となる各種のバイアス、回帰分析・多変量回帰分析の枠組み等、統計学の基本事項について整理する。講義後半では、前半で得た統計学の基本事項を臨床研究の中で適用する場面を想定し、その効用や問題について再考する。幅広い研究デザインを扱い、臨床研究と生物統計学の間の関係について、体系的な理解を醸成する。</p> <p>第1回：臨床研究における様々なバイアス 第2回：回帰分析の枠組み 第3回：多変量回帰分析 第4回：診断研究・予後予測研究 第5回：介入研究 第6回：メタアナリシス概論 第7回：コホート研究 第8回：生物統計学に関する発展的な話題</p>	

<p>コア 科目 群 2</p>	<p>生物統計学Ⅱ演習</p>		<p>臨床研究に適用される生物統計学的方法の発展的な実用的技術を授ける。統計解析ソフトウェアの扱い方を中心とし、英語論文読解の演習を適宜織り交ぜる。 学生は、講義の前半にて、基本的な回帰分析・多変量回帰分析の実施方法を学び、解析用データセットの作成、結果の読み取り方法・報告方法を修得する。講義後半では、実際の臨床研究を想定したデータを使用し、回帰分析・多変量回帰分析を含む統計解析を実践する。実用的なスキルの修得と生物統計学的方法のより深い理解を目指す。</p> <p>第1回：演習環境の構築 第2回：回帰分析演習 第3回：多変量回帰分析演習 第4回：診断研究・予後予測研究の実践実習 第5回：介入研究の実践演習1 第6回：介入研究の実践演習2 第7回：コホート研究の実践演習1 第8回：コホート研究の実践演習2</p>	
<p>コア 科目 群 3</p>	<p>環境保健学Ⅱ</p>		<p>本講義では、様々な環境条件と公衆衛生の相互関係を深く理解し、環境要因が個人及び集団の健康や生存に与える影響を評価できる能力を養う。また、病原微生物の性状や公衆衛生に与えるリスク、感染症発生メカニズムや予防対策などの知識を深めて、実践的な感染症対策を提案できる能力を養う。講義全般を通じて、環境保健学や感染症対策学に関する実践的かつ深い理解を目指す。</p> <p>第1回：人口圧力 (10 中澤 港) 第2回：気候変動、環境災害 (10 中澤 港) 第3回：水と健康 (10 中澤 港) 第4回：固形廃棄物と有害廃棄物 (10 中澤 港) 第5回：食品安全 (25 韮 千恵) 第6回：騒音と放射線 (10 中澤 港) 第7回：顧みられない熱帯病 (16 入子 英幸) 第8回：薬剤耐性菌 (49 田代 裕己)</p>	<p>オムニバス</p>
	<p>産業環境保健学Ⅱ</p>		<p>産業保健について、最近の動向と国際的視点についてのアップデートな情報を講義すると同時に、演習を通じて、産業保健を職場で遂行するための理論的背景の理解及び実践的技術の基礎を修得することを目的とする。 特に、演習では、産業保健の計画と評価、事例分析及び参加型職場改善手法と取り上げており、実践的な技術を修得することができる。また、課題を提示し、課題に対する企画立案を行う演習を行い、その結果のプレゼンテーションまでを行うことでプロジェクト遂行のために必要な技術を修得する。各学修項目に関して他講座の学生・教員を招いて学生プレゼンテーションと活発なディスカッションを行い、より一層の議論を深める。</p>	
	<p>人類生態学Ⅱ</p>		<p>人類の生存を理解するためには、ヒト個体群と諸環境条件との間の言語、社会組織、技術を介した相互作用を総体として理解する必要がある。 本講義では、物理化学的環境と人類の相互作用について、社会組織や技術が介在することの影響に加え、生物学的環境との相互作用としての疾病や医療について、文化的多様性を踏まえた理解をするための医療人類学、人類の生存の究極的な評価指標としての人口の静態及び動態を分析するための人口学について、発展的なレベルまで学修することを目的とする。</p> <p>第1回：人類生態学のフレームワーク (10 中澤 港) 第2回：物理化学的環境と人類の相互作用への社会的影響 (10 中澤 港) 第3回：生物的環境と人類の相互作用への社会的影響 (10 中澤 港) 第4回：社会規範文脈における環境倫理学と環境正義論 (10 中澤 港) 第5回：健康と疾病の社会文化的多様性 (21 土谷テオリン ちひろ) 第6回：食料生産とエネルギーのモデル (10 中澤 港) 第7回：人間＝生態系の統合システムモデル (10 中澤 港) 第8回：システムモデルとCRA, CVM (10 中澤 港)</p>	<p>オムニバス</p>

<p>コア科目群 4</p>	<p>保健医療政策学Ⅱ</p>	<p>保健医療政策の策定、実施、評価について、理論及び分析評価手法を具体的事例を基に学修する。</p> <p>コーディネーター：(1 石田 達郎)</p> <p>第1回：保健医療政策評価における分析手法 (20 園田 悠馬)</p> <p>第2回：医療資源の配分と医療提供体制の確保 (57 圓尾 文子)</p> <p>第3回：臨床研究におけるQOL評価と政策への還元 (19 副島 堯史)</p> <p>第4回：病院内医療の質の評価と担保, 医療安全 (1 石田 達郎)</p> <p>第5回：災害時・緊急時に求められる保健医療政策 (6 見坂 恒明)</p> <p>第6回：地域創成まちづくりと地域医療教育 (2 岡山 雅信)</p> <p>第7回：新薬の開発と薬価, 保健医療制度との関連 (29 陰山 卓哉)</p> <p>第8回：経済協力と保健医療政策 (11 西村 範行)</p>	<p>オムニバス</p>
	<p>保健医療経済学Ⅱ</p>	<p>保健医療サービスの提供における費用対効果及び費用対便益分析を実施するために必要なデータ要件, 関連する前提条件, フレームワーク, 分析の実際を学修する。諸分析の結果は, 保健医療政策の計画策定及び実施結果再検討を通じて, 対象集団のQOLに対する介入効果測定にもつながる。</p> <p>コーディネーター：(14 姉崎 久敬)</p> <p>第1回：医療経済の概要と考え方 (1 石田 達郎)</p> <p>第2回：経済学的分析に必要な統計学的手法 (14 姉崎 久敬)</p> <p>第3回：医療の効果測定と費用対効果分析手法 (7 坂口 一彦)</p> <p>第4回：医療の便益測定と費用便益分析手法 (7 坂口 一彦)</p> <p>第5回：保健財政と健康保険, その他の費用負担システム (1 石田 達郎)</p> <p>第6回：医療費の無料化とHealth Equity Fund (46 佐藤 二郎)</p> <p>第7回：健康保険組合レセプトデータを使った医療費の分析と政策応用 (20 園田 悠馬)</p> <p>第8回：低所得国における保健医療費用の実際 (12 松井 三明)</p>	<p>オムニバス</p>
	<p>医療経営学</p>	<p>本科目は, 医療に関する経済理論やデータ分析方法に関する基礎的知識を概説した上で, 医療経済や病院経営の現状・課題・分析方法について, 具体的事例を挙げて概説する。</p> <p>コーディネーター：(1 石田 達郎)</p> <p>第1回：社会医学における統計の基礎知識 (19 副島 堯史)</p> <p>第2回：経済理論とデータ解析 (20 園田 悠馬)</p> <p>第3回：日本の医療制度とその問題点 (57 圓尾 文子)</p> <p>第4回：地域包括ケア (20 園田 悠馬)</p> <p>第5回：医療経済の動向と分析 (46 佐藤 二郎)</p> <p>第6回：病院経営 (46 佐藤 二郎)</p> <p>第7回：保健医療分野における患者経験の評価と活用 (19 副島 堯史)</p> <p>第8回：産学連携のあり方 (22 長尾 学)</p>	<p>オムニバス</p>
	<p>グローバルヘルスⅡ</p>	<p>低所得国及び社会経済的に脆弱な個人・集団に対して実施される保健医療プログラムの計画, 実施, 評価の方法と理論的背景, またその実際について学修する。</p> <p>コーディネーター：(12 松井 三明)</p> <p>第1回：保健システムの概念と設計 (12 松井 三明)</p> <p>第2回：保健医療サービスの組織化 (12 松井 三明)</p> <p>第3回：保健財政と健康保険, その他の費用負担システム (12 松井 三明)</p> <p>第4回：プライオリティ設定とその実際 (12 松井 三明)</p> <p>第5回：保健システム強化の実際 (12 松井 三明)</p> <p>第6回：フィールドワークの多面的アプローチ (10 中澤 港)</p> <p>第7回：生活習慣病対策に基づくフィールドワーク (21 土谷テオリン ちひろ)</p> <p>第8回：感染症対策に基づくフィールドワーク (3 亀岡 正典)</p>	<p>オムニバス</p>

<p>発展科目</p>	<p>基礎医学・臨床医学特論</p>	<p>公衆衛生学は社会医学の一分野であるが、その実践と発展には基礎医学と臨床医学の知識と経験が欠かせない。そこで、公衆衛生学的研究や社会実装を円滑に進めるために、公衆衛生的諸問題との関連が深い基礎医学・臨床医学テーマの概要と重要性の理解及び研究事例を学修する。</p> <p>本科目は、医学の基礎知識を理解した上で、各分野における社会的問題に対して公衆衛生学的な分析と対策を考え、解決法を見出し、社会実装できることを目標に講義形式で実施する。</p> <p>第1回：生活習慣病の公衆衛生学的課題（7 坂口 一彦） 第2回：循環器疾患の公衆衛生学的課題（6 見坂 恒明） 第3回：産科医療の公衆衛生学的課題（12 松井 三明） 第4回：精神疾患の公衆衛生学的課題（33 毛利 健太郎） 第5回：小児の発達とその障害（11 西村 範行） 第6回：医療的ケア（48 高田 哲） 第7回：保健活動における評価（28 和泉 比佐子） 第8回：ヘルスプロモーションの実践（38 中山 貴美子）</p>	<p>オムニバス</p>
	<p>社会行動科学Ⅱ</p>	<p>健康と病気の行動に関連する社会的・心理的・文化的要因を理解し、公衆衛生上の問題を解決するための戦略を提案するために、必要な理論とアプローチ方法を受ける。</p> <p>公衆衛生分野における健康や医療に関連する人間の行動や心理に関する知見、並びに行動科学の概念が健康や健康関連行動の評価にどのように役立つかを概説する。その上で、行動科学理論に基づいた生活習慣の変容、健康増進活動を導くための知識を修得する。また、心理社会的ストレスや社会文化的環境が健康や行動に及ぼす影響について理解し、行動科学的な知見から、様々な公衆衛生上の問題に対する解決策の提示が行える人材育成を目指す講義とする。</p> <p>第1回：健康行動科学とは（26 片岡 葵） 第2回：個人の行動に着目した理論やモデル（26 片岡 葵） 第3回：集団の行動に着目した理論やモデル（26 片岡 葵） 第4回：健康と貧困（53 西岡 大輔） 第5回：ジェンダーと医療（56 本庄 かおり） 第6回：ストレスと健康（44 菊池 宏幸） 第7回：ナッジ・行動経済学入門（26 片岡 葵） 第8回：ヘルスリテラシー（26 片岡 葵）</p>	<p>オムニバス</p>
	<p>ジョブ型研究インターンシップ</p>	<p>インターンシップに参加することにより、自らの専門性を客観的に観ることで進路の可能性を広げるとともに、今後拡大が見込まれるジョブ型採用を見据え、国際競争に耐え得る研究力に裏打ちされた実践力を養成することを目標としている。</p>	

特別研究	特別研究	<p>博士課程後期課程の3年間を通して実施する特別研究では、公衆衛生学に関する研究テーマを学生自ら決定し、研究計画の立案、実験や調査の実施、データの解釈や分析といった一連の研究過程を実践することで、独創的な成果を得る。研究成果は博士論文として執筆する。</p> <p>(1 石田 達郎) 主として、医療健康政策学、地域医療学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(3 亀岡 正典) 主として、国際環境保健学、ウイルス学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(4 樽林 陽一) 主として、AI・デジタルヘルス科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(5 小林 成美) 主として、医学教育学、地域医療学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(6 見坂 恒明) 主として、地域医療支援学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(7 坂口 一彦) 主として、地域医療教育学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(8 真田 昌爾) 主として、臨床研究開発科学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(9 篠原 正和) 主として、分子疫学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(10 中澤 港) 主として、国際環境保健学、人類生態学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(11 西村 範行) 主として、社会行動科学、小児保健学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(12 松井 三明) 主として、国際環境保健学、周産期医療学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(16 入子 英幸) 主として、国際環境保健学、感染症学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(19 副島 堯史) 主として、がん看護学、小児看護学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(20 園田 悠馬) 主として、社会行動科学、リハビリテーションに係る研究テーマについての研究指導を行う。</p> <p>(22 長尾 学) 主として、医療政策学、立証検査医学に係る研究テーマについての研究指導を行う。</p>	
------	------	--	--